

博士学位論文

「韓流」をめぐる女性たちの文化実践

—日本女性ファンのオーディエンス・エスノグラフィーを用いて

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
国際多元文化専攻

金 懋智

平成 29 年 6 月

目次

第1章 序論	4
1.1 問題提起及び研究目的	4
1.2 「韓流」関連の先行研究	5
1.3 研究課題及び研究方法	11
1.4 研究構成	13
第2章 理論的背景	15
2.1 カルチュラル・スタディーズとオーディエンス研究	15
2.1.1 オーディエンス研究への取り組み	15
2.1.2 能動的オーディエンス論の視角	17
2.1.3 日常生活における意味生成の文化実践	18
2.1.4 文化実践から得られる「快樂」の意味	19
2.1.5 能動的オーディエンス論の拡張：ファンダム研究	21
2.2 ジェンダーとトランスナショナルな文化の消費	24
2.2.1 ジェンダーと文化消費	25
2.2.2 トランスナショナルな文化消費と女性	27
第3章 研究方法	30
3.1 エスノグラフィー(ethnography)研究法	30
3.1.1 エスノグラフィー研究法の視角	30
3.1.2 オーディエンス・エスノグラフィー研究法の展開	32
3.1.3 オーディエンス・エスノグラフィー研究法の有効性	33
3.1.4 半構造化インタビュー調査	34
3.1.5 調査概要及び質問内容	35
3.2 韓流女性ファンのストーリー	37

第4章「韓流」を通じた快樂の文化実践	47
4.1 トランスナショナル文化の「差異」を楽しむ	47
4.2 消えて去った「男性性」に対する快樂的追求	49
4.3 「私との関連性」から感じる快樂	51
4.4 親しみやすい異文化を通じた共感	54
4.5 インターネットを通じた文化資本の習得	56
4.6 ファンダム文化の生産：完コピ	59
第5章 韓流女性ファンのせめぎ合い	62
5.1 日韓のナショナリズムの狭間で葛藤する韓流女性ファン	62
5.2 「嫌韓」との衝突	65
5.3 ジェンダー的まなざしを受ける韓流女性ファン	69
5.4 日本社会を生きる韓流女性ファンとしての不安	73
5.5 「私事化」する：韓流女性ファンダムの連帯感の強化	74
5.6 韓流ファン文化を差別化する	77
第6章 結論	80
6.1 研究要約	80
6.2 研究成果及び反省点	84
引用文献	87
APPENDIX	96

【表】

表 1-1	日本における韓流オーディエンス研究	7
表 1-2	日本における「韓流」の時代的区分	10
表 1-3	補助データの概要(2007/2013)	13
表 3-1	インタビュー調査の概要	36
表 3-2	事前調査及びインタビュー調査の質問内容	36
表 3-3	12名の韓流女性ファンの特徴	38
表 5-1	2000年以降の日韓関係の動向	65
表 5-2	嫌韓感情及び政治的論争に対する政治的性向(ジェンダー)	71

【図】

図 5-1	内閣府「外交に関する世論調査」＜韓国への親しみ＞経年調査結果	66
図 5-2	嫌韓感情の推移(2007/2013)	67
図 5-3	政治的論争に対する政治性向の推移(2007/2013)	67
図 5-4	ジェンダー：嫌韓感情の推移(2007/2013)	70
図 5-5	ジェンダー：政治的論争に対する政治性向の推移(2007/2013)	71

第1章 序論

1.1 問題提起及び研究目的

本研究は、まず、トランスナショナルな文化を消費する韓流女性ファンの能動的な文化実践¹の諸相をインタビュー調査により明らかにする。その上で、彼女らの文化実践に国家や民族、システム、ジェンダーなどを重視する支配コードによってネガティブなイメージが付与されること、また、その際に生じる支配コードとのせめぎ合いを批判的に検討することを目的とする。

「韓流 (Korean Wave)」は、韓国発のドラマや歌謡のようなポピュラー文化の流行を指す。1990年代後半から中国や日本を含むアジアを始めとする世界各地に広まり、女性を中心に人気を得ている。「韓流」は消費国によって様々な様相を見せているが、本研究では「韓流」の発信国である韓国と、その近隣国として歴史的・政治的な葛藤を抱える日本の文脈における女性ファンに注目する。

日本での「韓流」は、2003年にNHKで放映された韓国ドラマ『冬のソナタ』が中高年女性に大ヒットすることで、その名を轟かせたと言われている(三矢, 2004; 林, 2005; 平田, 2005; 岩渕, 2007)。中高年女性ファンが「韓流」を好意的に消費することにより、日韓友好の「架け橋」の可能性が見出されることもあれば、一部メディアによる「ミーハー的」まなざしが生じる(平田, 2005:35)こともあった。

本研究は、後者のように「韓流」に対するネガティブなまなざしが一部のメディアにより世論化されたり、政治的論争と絡み合い、「嫌韓(「韓国嫌い」の略語)」という排他的ナショナリズムが高まったりする社会構造を研究背景にしている。特に、林(2005, 2006)、平田(2005)、イ(2008)らの研究における「韓流女性ファンが社会からネガティブな反応を受けている」という指摘を参考にし、韓流女性ファンを「イタイ女」のように見なすまなざしに、女性文化に対するジェンダー的イデオロギー²と、異文化に対する国家イデオロギーがあるという考えに基づいている³。つまり、長い間、政治・経済・文化などさまざまな領

¹本研究において、「文化実践」は重要な概念として上げられているが、オーディエンスがメディア・テキストのメッセージに対し、「新たな意味や価値を生み出すこと」を「文化実践 (Cultural practice) (Kim, Ji-Oon, 2011:276) とみなし、議論を進めていきたい。

²田中(2012)は、女性たちがしばしば消費文化の被害者として、受動的でネガティブな意味が付けられた消費対象としてのポジションにおかれていたことを指摘した。例えば、文化の主体として可視化されるのは男性で、女性が主体として扱われることはほとんどなかったと述べている(田中, 2012:47-48)。

³林(2005)が自身の著書で取り上げた週刊誌のタイトルをいくつか提示しよう。

① <「土下座外交」したのに「ヨン様」にバカにされたNHK (『週刊新潮』2004/12/12号)>
ここでいう「土下座外交」というのは、韓国から過去の歴史に対する賠償要求を突きつけられた日本が無条件に「平謝り」する姿勢を指した言葉であり、対韓国感情において日本のナショナリズムが表われた典型的な言葉であると言える。

域で葛藤や対立を醸し出してきた東アジアの、その一部である韓国発信の文化が「韓流」なのである。そのため、トランスナショナルな「韓流」の消費が排他的ナショナリズムを惹起する道具として利用されることの可能性と、その「韓流」を積極的に消費する女性ファンの文化に対する偏見が生じることが予想できよう。石田(2007)は、日本で人気を得ている「韓流」が、「朝鮮半島」や「東アジア」の文化であるために「他者現象⁴」と関係することを指摘しており(石田, 2007:13-18)、このことから、政治と無関係に「韓流」を積極的に受け入れる女性たちに対して批判があがることが想定できる。

グローバリゼーションの進行により、「韓流」のような異文化と自国文化が衝突し、対立や葛藤が生じることは珍しいことではないだろう。特に、近隣諸国である東アジア地域では、「韓流」の消費が最も多い⁵一方、その反動現象として「嫌韓」や「抗韓」⁶のようなナショナリスティックな雰囲気が高まっている。そのなかでも、女性たちの「韓流」との出会いは、彼女たちの日常生活に多様な変化を起こしながら世間の注目を浴びている。いま、彼女たちの「韓流」の消費が、国民国家、民族、システム、ジェンダーなどの支配的構造(以下、支配コード)と衝突しながら複雑多様な様相を生み出しているのである。

1.2 「韓流」関連の先行研究

1990 年後半、アジア諸国(中国をはじめ、台湾、香港、ベトナム、そして日本)で人気を巻き起こす「韓流」という文化現象が誕生した。「韓流(Korean Wave)」という言葉は、1990 年代後半に映画・ドラマ・歌を中心とした韓国のポピュラー文化が日本や中国、東南アジアで大きな人気を得ている状況(小倉, 2005)を指して生まれた。その大きな人気は、しばし

②<ヨン様記事 小誌に浴びせられた「熱烈おばさんファン」大罵声(『週刊文春』2004/12/16 号)> 林は週刊誌の分析を通して、良く売れている週刊誌ほどジェンダーに関連する見出しが多いことを指摘している。また、週刊文春と週刊朝潮の見出しにおいて、「ナショナリズム」に分類されるものと、女性、特に中高年の女性を侮辱したものが多いこと、そして、こういった週刊誌の報道の仕方が一般市民に与えるインパクトが非常に強かったであろうことを主張している。

⁴本研究では以降、「他者化」という言葉を用いているが、これは石田(2007)の説明に基づいて使用している。彼女によれば、「他者化」は学問的には「他者現象」概念で用いられており、「他者表象(Representation of the Other)」とは、ある社会が、他者性(Otherness)を持つ者・異文化、他の社会などについて持つ、イメージやパターン化された理解を分析するために用いられる用語である。「他者化」は、サイードによると「権力と支配のための装置」として、また、支配的文化の担い手側から見る自己の「投影作業」として解読され、批判的再読の対象となってきた(石田 2007:6-7)。石田は、他者現象を、オキシデントに対するオリエント、異性愛に対する反異性愛、男性表象に対する女性表象、アメリカ人表象に対する日本人表象、というように、支配的文化に属する「私たち」の「まなざし」と、それに対する「彼ら=他者」、つまり、常に多数派の表象の対となる物事に留意しなければならないと主張する(石田, 2007:7)。

⁵文化体育観光部(2012)によれば、韓国の文化コンテンツの地域別輸出比率は、日本が約 30%、中国が 27.6%であり、合わせて全体の半分以上を占めている。

⁶中国においても「韓流」の人気に反対するナショナリスティックな雰囲気が形成されていることが指摘されている。『中央日報』(2005/10/21)によると、中国の「抗韓」は、テレビプログラム制作者や俳優が煽る傾向があるという。そして、政府機関による制度的装置を通して韓流コンテンツの流通を押さえていることが報道されている。

ば「ブーム」という社会現象として言及される(安, 2008; 齊藤ら, 2010; 鄭, 2014)が、その発生当時から今日に至るまで「韓流」の定義範囲は拡大しており⁷、一過性という意味の「ブーム」では説明し切れないと考えられる。そのため、本研究では「韓流」を韓国発信のドラマや歌謡のような「ポピュラー文化ジャンル」として見なしている。

昨今「韓流」はアジアのみならず、欧米を含む世界各地で消費されており、トランスナショナルな文化として、その名を馳せている。その余波は学問的領域にも及び、社会学、社会科学、経済学、政治学、歴史学、文化人類学など、様々な分野に広がっている。しかし、これまで報告された韓国における「韓流」関連の学術論文に相当するものは、政策的提言を含む、観光・経営・経済分野に留まっている(Sohn, Seung-hye, 2009; Park, Sung-Hyun, 2014)。「韓流」の影響力がソフト・パワー的であるあまり、「韓流」関連研究が自国文化の発展や、継続性を保つための政策的言及に偏っていることは、自民族中心主義的観点から理解しようとする意図が伺えるため、注意すべき問題であろう。Kim, Su-jeong(2012)は、「韓流」関連研究の多くが経済や政策部門に偏重しており、具体的対象国家及び地域に対する考察や海外オーディエンス研究などは少数に過ぎないと指摘している。今日、世界中の様々なオーディエンスに消費される「韓流」は、各地域で様々な文化実践を生み出している。この現象に、学問的関心が寄せられるべきであると考えられる。

本研究は「韓流」が日本という特定地域の女性たちに消費されることで現れる文化実践を、それぞれの社会関係から考察して行きたい。日本は、韓国における韓流コンテンツの輸出額の60%以上、K-Popの輸出額の約80%以上を占めている⁸核心的地域である。消費の中心となっている日本の女性ファンに関して、過去10余年間に報告されたいくつかの先行研究を通して、いかなる論議が進められ、「韓流」と彼女たちを位置づけているかを確認する。

以下の表 1-1 は、日本における韓流オーディエンス研究を取り上げ、整理したものである。日本の場合、中高年女性が「韓流」を通して文化、ひいては国際関係の新たな担い手として浮上したことが特徴的である。そのため、量的研究においては、彼女たちの「韓流」消費が韓国や韓国人に対するイメージの再考にいかに関係しているのかを明らかにし、日韓関係を再証明したものが多い。一方、質的研究においては、「韓流」消費や国際関係の新たな担い手として浮上した中高年女性の日常生活にいかなる変化が起き、それが社会文化的に何を意味するのかを考察したものが多い。

本研究では後者の質的研究に関心を寄せ、その代表的な例を取り上げて考察する(以下の

⁷「韓流」に含まれる領域が、ドラマ・音楽・映画など、ポピュラー文化だけではなく、ファッション、食べ物、製品、観光などにまで広がっていることで、その定義も様々に変化している(韓, 2013)。

⁸⁸韓国コンテンツ振興院、「日本コンテンツ産業動向」2013年24号

表 1-1 に示している毛利(2004)・林(2005)・平田(2005)などの研究)。

表 1-1 日本における韓流オーディエンス研究

分類	韓流オーディエンス研究
量的研究	<p>金相美(2004).「日本における『冬のソナタ』視聴と効用－韓国に対するイメージ・関心・評価向上を中心に」2003年12月4日ソウル大学言論情報研究所主催 ソウル大学・東京大学合同シンポジウム・プレゼンテーション.</p> <p>三矢恵子(2004).「世論調査からみた「冬ソナ」現象－「冬のソナタ」に関する世論調査から」『放送研究と調査』12, 12-25.</p> <p>長谷川典子(2005).「テレビドラマ「冬のソナタ」の受容研究－日韓コミュニケーションの視点から」『多文化関係学』2, 15-30.</p> <p>長谷川典子(2007).「韓国製テレビドラマ視聴による態度変容の研究－異文化間教育の視点から」『異文化間教育』25, 58-73.</p> <p>纓坂英子・奥山洋子・泉千春(2007).「日本人の韓国イメージと韓流ブーム」『日本学報』70, 335-345.</p> <p>渡辺聡・石井健一・小針進 (2004).「日本の若年層における韓国大衆文化の受容とアジア意識－首都圏および静岡県の大学生と高校生を対象にした調査から」『国際関係・比較文化研究』3(1), 73-94.</p> <p>石井健一(2005).「韓流の源流－アジア志向の経時的比較」Institute of Socio-Economic Planning discussion paper series.</p> <p>石井健一(2011).「韓国ドラマ視聴の要因分析－対外意識とコンテンツ利用の関連」 Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series.</p>
質的研究	<p>毛利嘉孝(2004).「『冬のソナタ』と能動的ファンの実戦」,14-50,毛利嘉孝(編著)(2004).『日式韓流－「冬のソナタ」と日韓大衆文化の存在』せりか書房.</p> <p>林香里 (2005).『「冬ソナ」にハマった私たち 純愛、涙、マスコミ……そして韓国』文藝春秋.</p> <p>長谷川典子(2007).「対韓イメージの質的研究Ⅱ－ドラマ視聴が生む心理的変化の経時的調査」『異文化コミュニケーション』10, 63-82.</p> <p>平田由紀江(2005).『韓国を消費する日本－韓流、女性、ドラマ』チェックセサン.</p> <p>平田由紀江(2007).「韓流とその「愛のあと」－韓国を消費する女性とその表象をめぐって」, 33-54, 石田佐恵子・木村幹他.『ポスト韓流のメディア社会学(現代社会のフロンティア)』ミネルヴァ書房.</p> <p>岩渕功一(2007).「韓流が「在日韓国人」と出会うとき－トランスナショナル・メディア交通とローカル多文化政治の交錯」, 岩渕功一.『文化の対話力－ソフト・パワーとブランド・ナショナリズムを越えて』日本経済新聞出版社.</p> <p>イ・ヒャンジン(2008).『韓流の社会学－ファンダム、家族、異文化交流』岩波書店.</p>

まず、毛利(2004)は、『冬のソナタ』のファン20人を対象にグループ・インタビュー調査を行った結果、彼女たちが『冬のソナタ』視聴によりハンサムで優しい韓国人の男性像、美しい自然にあふれる風景、進んだテクノロジー、日本が失いつつある儒教的な礼儀や伝統などの新しいイメージを得て、個人の私的な記憶や歴史の認識を新しく再構築させていると述べている。

また林(2005)は、『冬のソナタ』の中高年女性ファンを対象に行ったアンケート調査と、彼女たちから受け取った手紙を元に分析を行い、彼女たちが語る『冬のソナタ』の魅力を明らかにした。それは、ストーリーが視聴者に癒しを与えていること、自然な感情をスト

レートに表現していること、主人公の男性が女性らの共感を引き起こしていること、恋愛だけではなく、親子、友達、師弟といった関係の愛が描かれており、普遍的なモラル・トークとして受け取られることにあるという。そして、彼女たちが『冬のソナタ』との出会いによってこれまで無知であった隣国、韓国の存在に気付き理解しはじめ、東アジアにおける文化的主体として浮上したことを示した。

上記の研究が明らかにしているのは、中高年女性がハマった韓国ドラマ『冬のソナタ』の魅力と、彼女たちの韓国に対する意識の変容である。前者の場合、「韓流」が近代化過程において日本社会が失いつつある価値観や家族関係など、中高年女性の過去を連想させる「ノスタルジア」を刺激していたという分析が多数を占めていた。後者の場合、『冬のソナタ』というドラマ・テキストが韓国そのものを表していないとしても、それを韓国の文化と認知し受け入れることで、彼女らの関心が文化全般にまで拡大され、韓国と韓国人に対し好感を持つようになったという分析である。特に、過去の歴史的問題によってしばしば政治的に対立する日韓関係であるため、「韓流」消費が韓国へのポジティブなイメージをもたらすことと、その消費の中心にいる中高年女性の政治性が核心的論争として浮かび上がったのであろう。

その中で、主な消費の中心に「中高年女性」がいることは、次の2つの側面で興味深い。1つは、保守的傾向の強い日本の中高年女性に「韓流」が消費され、韓国に対し良いイメージをもたらした点である。中高年女性の保守的性向はしばしば指摘されている⁹ために、保守派の攻撃の標的になる韓国発の文化に彼女たちの共感を得られたことはアイロニカルな現象である。しかし、その理由を考えると「韓流」が政治的特色に染まっていない、文化領域に当たることが上げられるだろう。彼女たちが「韓流」を通して知っていく、発展した国、純愛や家族を含む人間関係の絆が強い国などのイメージには、政治的、またはネガティブなものがない。このことに関してイ（2008）は、韓国のイメージは、今日、ポピュラー文化を通して韓国を知る女性たちと、過去、韓国の歴史、経済などを通して韓国を知る男性たちとは異なることを指摘する。過去韓国の風俗店に出入りしていた男たちによって煽られた、「不潔で騒々しく、危険な後進国のイメージ」は、韓流ファンの彼女たちが持つ現代の韓国に対するイメージ、特にドラマが与える純粋で完璧なファンタジーを

⁹儒教的かつ伝統的な家父長制イデオロギーの価値観は、若い女性より中高年女性に強く見られることがたびたび指摘されている。植木（1981）は、結婚を女の「幸福」とみなし、結婚を当然とする安定思考が、中高年女性に支持されていることを示した。そのような傾向は、量的調査で明らかにされており、吉川（1998）は、20～69歳の女性の「夫は外、妻は家庭」という性別役割分業意識について、年齢、夫妻の学歴、妻の家計参入度、権威主義態度との相関が有意であると示している。また、小山（2008）も福岡市と徳島市で実施した調査の30～49歳の女性のデータに基づき、若い女性より、中高年女性において伝統的な性別役割分業意識が支持されていることを示した。

夢見るものとはまったく異なるという(イ, 2008: 235-236)。そのため、彼女たちはノスタルジアを享受しながら自身の保守的価値観を満足させる手段として「韓流」を受け入れ、楽しんでいたのであろう。

もう 1 つは、中高年女性たちがトランスナショナルな文化の主体として社会的に浮上した点である。高度成長期を経て伝統的な家族関係が解体し、女性たちのアイデンティティにも変化が起きているが、結婚後の女性の活動空間は未だ家庭に縛られる傾向にある¹⁰。しかし、韓流ファンの女性は、メディアを通して韓国ドラマを見たり、情報収集活動及び韓国語の学習を行い、ファン同士でネットワークを拡大させたり、韓国旅行をするなど、能動的な文化実践を行いながら自身の活動領域を拡大していた。ファンになった中高年女性たちは母親や妻など、自身の社会的ポジションに縛られることなく、文化の主体として浮上したのである。

一方で、彼女たちの「韓流」消費をめぐる、ネガティブな反響が起きていることが多くの研究から指摘されている(林, 2004; 平田, 2005; 小倉, 2007; 小針, 2007; イ, 2008)。前例のない「韓流」¹¹とその中心にいる中高年女性のイメージは、歓声や叫び声、大勢で走るシーン、旺盛な消費力などのイメージで主流メディアにより表象化されていた。林(2005)は、『冬のソナタ』に対する報道を最も多く扱った日本の保守的週刊誌を分析し、そのほとんどが、ファンを中高年女性に固定し、「おばさん」と称していることを明らかにした。また、それらの週刊誌が彼女たちを「騒動」を引き起こす「愚衆」と見なす男性中心主義的言説により、「韓流」全体の価値と意味の評価を矮小化する結果をもたらしたと述べている(林, 2005: 64)。そういった報道傾向には国家間の外交における政治問題が関連していることも指摘されている(石田, 2007: 13-18)。つまるところ、自国を愛し、自国文化を守るなどの愛国主義やナショナリズムを主張する政治が、女性文化を下位的に位置づける男性中心の言説と結びつけられているようである。これに関して平田(2005)は自身の著書において、主流メディアの韓流ファンに対する報道が、中高年女性を「おばさん」、若い女性たちを「韓国の男性にはまった女」として取り上げることで、彼女たちを貶めていることを指摘している(2005: 113-115)。

¹⁰厚生労働省(2014/8/7)の『第145回労働政策審議会雇用均等分科会の議事録』によれば、2013年の女性雇用者率は、雇用者総数に対し、43.3%となっている(女性公用車数は2,406万人)。「正規の職員・従業員」の場合、25~29歳がピークであり、雇用者率は35~39歳を底に再び上昇していくが、パート・アルバイト等の非正規雇用が主となる。つまり、女性の多くが30歳半を目処に育児や家事動労から自由にならない生活を余儀なくされており、社会進出の制限を受けていることが現状である。出典: 厚生労働省(2014年8月7日)第145回労働政策審議会雇用均等分科会の議事録について(資料4): 「女性の活躍推進が求められる日本社会の背景」参照

¹¹イ(2008)は、日本における「韓流」の中高年女性ファンダムを、「身近なスターに憧れたり、社会的ネットワークを形成したり……韓流が日本の中高年女性の遊び文化にもたらした変化、世界のポピュラー文化研究において、初の事例(2008: 180-191)」として評価している。

さらに、近年、日韓の政治的対立の深化により、韓流女性ファンに対する批判が激しくなっているように思われる。北原(2013)は、2012 年領土問題をめぐるトラブルにより日韓関係に赤信号が灯った時、ラジオ局のパーソナリティーや元外交官が韓流女性ファンに対し警告を発したメディア報道を取り上げ、男性たちの「政治という名を借りた女叩き・韓流叩き」であると批判した(2013:181-182)。これらの議論から韓流女性ファンが、支配コードと衝突していることが予想できよう。

今日、「韓流」はそのジャンルをドラマから歌謡にまで広げ、若い女性たちにも好まれている。その「韓流」の展開を、以下の表 1-2 のように、大きく 2 つの時期に分けることができる(Jung, Soo-Young, 2011)。

表 1-2 日本における「韓流」の時代的区分

	テレビドラマによる韓流 韓流 1.0	K-Pop による韓流 韓流 2.0
登場時期	2003	2009
消費層	中高年女性	10～20 代女性
内容	ノスタルジア	文化的完成度に対する熱狂と憧れ
特徴	意図していない自然的発生 韓流=Korean への関心拡大	所属事務所及び関連業界による企画・マーケティングによる結果 ダンスと歌を通してファッション、ヘアスタイル、メイクなど流行を主導

出典：Jung, Soo-Young (2011)から引用、再作成

まず、2003 年から 2000 年代後半までを指す「韓流 1.0」期は、韓国ドラマが中高年女性を中心に人気を集めていた時期である。一方で、2009 年前後からを指す「韓流 2.0」期は、所属事務所の徹底的なマネジメントによって企画されたアイドルグループが日本の若い女性の人気を集め、彼女らのファッションやスタイルにも影響を及ぼしていた時期であると分析されている(Jung, Soo-Young, 2011:213)。

トランスナショナルな文化は、その領域を拡大すればするほど、それに対する反発も大きくなっていくのだろうか。実際に近年、「韓流」の反動現象として「嫌韓」の風潮が相対的に高まっており、日本で韓流コンテンツ及び韓国の製品が多く普及されることに対する中止や不買運動が各地で行われている¹²。

このように多方面における日韓関係の対立が高まっている中で、韓流女性ファンの日常生活における韓流関連の経験の検討を通して、彼女たちを取り巻く社会文化的関係における意味合いを考察することが重要であると考えられる。これまで報告された日本における

¹² 『中央新聞』2012/08/23 記事、『京郷新聞』2012/08/26 記事

「韓流」のオーディエンス研究は、「韓流」と女性ファンが社会現象として話題となっていた 2003 年～2000 年代半ば、つまり、ドラマを中心に中高年女性に消費されていた「韓流 1.0」期の研究が多い。「韓流」が政治的論争と絡み合い複雑多様な様相を表す 2012-13 年以降のオーディエンス研究は論議の発展も少なくまれである。

上記を踏まえた上で、本研究では韓流女性ファンの文化をめぐって生じるさまざまな現象を考慮しつつ、「韓流」が形成されてから約 10 年が経った現時点における彼女たちの文化実践を再考察する。今日のように対立構図が緊迫状態にある日韓関係、そして東アジアの関係を考える際、それと反対側にある「韓流」という文化実践を通じた交流と協力の活性化は新たな国際関係を築いていくための重要な意味を持つものであると考える。

1.3 研究課題及び研究方法

本研究の目的は、トランスナショナルな文化を消費する韓流女性ファンの能動的な文化実践に、国家や民族、システム、ジェンダーなどを重視する支配コードによってネガティブなイメージが付与されることを批判的に検討し、彼女たちの文化実践とそのなかに潜んでいる支配コードとのせめぎ合いを明らかにすることである。そのために、次の2つの研究課題を設定する。

1. 韓流女性ファンの文化実践の特徴は何か。

日本人女性が日常生活の中で、「韓流」を通していかなる文化実践を行っているか検討する。

2. 日韓関係が悪化する現時点において、韓流女性ファンがいかなるせめぎ合いを通して「韓流」を消費しているのか。近年、「韓流」とそのファンの文化実践が、日韓関係の政治的問題と絡み合い、一層ネガティブなまなざしを受けていると想定している。その社会における韓流女性ファンのせめぎ合いを考察する。

本研究は、「韓流」を消費する女性たちの文化実践が、支配コードによってネガティブなイメージを帯びて他者化されることを問題として提起している。そのため、国家や民族、ジェンダーイデオロギーの枠組みに封じ込まれ、彼女たちの文化実践の価値を矮小化するような支配コードを批判的に検討し、彼女たちの文化実践と、その意味(狭義では彼女たちの日常生活における意味、広義では国際関係における意味)を再考察することを目指している。

研究方法論として、本研究では対象者の「経験」を重視するエスノグラフィー

(Ethnography) 研究法を用いる。エスノグラフィー研究法は、ある現象が関連した人々の日常生活にいかにか埋め込まれているのかについて理解することを目的とする研究方法である(フォンセカ 酒井, 2006:193)。これは、社会や文化に巻き込まれた「私」を出発点にした、社会批判や文化批判をテーマにするカルチュラル・スタディーズともつながっていると見える(伊藤, 2000:83)。カルチュラル・スタディーズは、主としてオーディエンスに注目しつつ、日常的なメディア文化の中で展開される不可視の権力闘争、すなわち「政治」を発見し、批判的な研究を積み重ねてきた。つまり、マス・コミュニケーションを「意味付けをめぐる政治」と見なし、その「意味付けをめぐる政治」過程に能動的に参加する主体としてオーディエンスを見ることで、オーディエンスの日常生活や文化の領域で展開する多様な闘争の形態を論じてきたのである(山腰, 2014:41)。

カルチュラル・スタディーズではこのような「政治性」を明らかにするために、これまで参与観察、インタビュー調査、日記、感想文などの分析を通して対象者の日常生活で展開される文化実践に注目し、そこから描き出される支配コードとの矛盾、抵抗、妥協を含んだせめぎ合いを明らかにしてきた。本研究においても韓流女性ファンの文化実践が、彼女たちを取り巻く社会文化的関係の規定を受けていると見ているため、カルチュラル・スタディーズのエスノグラフィー研究法を用いて、彼女たちの日常生活に注目し、いかなる文化実践とせめぎ合いがあるのかを分析することにした。

一方、本研究では「韓流」と韓流ファンをめぐる社会的言説がネガティブな側面に終始することについての問題意識に基づき、問いかけを行っている。「韓流」をめぐる支配的言説は、政治的対立による世論(相手の国についてどのように感じるか、という点について)の動向に大きく影響を受けているようである。もちろん、1.2「韓流関連の先行研究」で言及したように、「韓流」によって韓国のイメージの変化及び意識の好転などが起きたことは事実だが、一部の人々に好まれる「韓流」が社会における世論を全体的にひっくり返すには限界がある。さらに、韓国との政治的対立や、「嫌韓」の風潮の高まりにより、韓流コンテンツ流通の中断及び禁止を求める意見がインターネット上に書き込まれたりする。このような状況を踏まえると、日韓関係の政治的問題と「韓流」が絡み合い形成されるナショナリスティックな風潮が「韓流」の流通とそのファンたちにまで影響を及ぼすことが予想できよう。

この社会的情勢を裏付けるには、社会科学的な調査結果を取り上げる必要があるだろう。本研究の補助データとして、過去2回の参議院選挙(2007/2013)直後に実施されたウェブベース調査結果の一部を用いる¹³。その補助データの具体的な概要については以下の表 1-3 に

¹³2 度の参院選直後に行われたウェブベース調査は、名古屋大学の金相美准教授の調査データである。日本

示す。このデータは、嫌韓感情や、韓国との政治的論争に関する世論の動向を示すものである(詳細は、第5章「韓流女性ファンのせめぎ合い」で提示した)。

表 1-3 補助データの概要(2007/2013)

	2007	2013
母集団	満 20～49 歳以下有権者男女	満 20～49 歳以下有権者男女
標本数	930	930
抽出法	性別×年齢層(20代、30代、40代)による6セルに対して155標本ずつ割り付けを行い、当該標本を確保するために必要と推定される人数をモニターから無作為抽出	同様
調査実施日	参院選直後、2007年7月29日(日)～7月30日(月)	参院選直後、2013年7月22日(月)～7月23日(火)
本研究で用いる質問項目	嫌韓感情	韓国は嫌いである
	政治的論争	日本政府は従軍慰安婦問題の責任を認めて謝罪すべきである。
		首相は靖国神社に参拝するべきではない
		中国・韓国政府が主張する歴史的事実には多くの誤りが含まれている。

金相美(2015)から引用・再作成

本研究では、そのデータを各時代別の政治文化的出来事、ならびにインタビューデータと並行して分析することで、世論が韓流女性ファンにいかなる影響を及ぼしているのかを明らかにし、その関連性を検討していく。具体的には、「韓流」がジャンルや消費者層を広げながら人気を高めていった2007年と、韓国と日本の二国間、または中国も含めた三国間の政治的対立の深化によって反動的な動きが激しい2013年のデータを用いて、世論の動向を把握していく。

1.4 研究構成

本論は、次のような構成とする。

第1章「序論」では、本研究の背景を、日本におけるトランスナショナルな「韓流」消費をめぐる支配コードに対する問題意識から考察し、本研究の目的とそれを明らかにするための研究方法を提示する。

第2章「理論的背景」では、オーディエンスをめぐる議論がいかに展開したかを確認する。2.1「カルチュラル・スタディーズとオーディエンス研究」では、カルチュラル・スタディーズが能動的オーディエンス論を取り上げ始めた背景とその発展を確認する。メディア

社会における嫌韓感情・韓国との論争に対する認識の経年推移を韓流の変遷過程と重ね合わせて検討する重要なデータが含まれているため、その中でいくつかのデータを取り出し、考察した。

ア利用とその解説に関するアプローチが、従来のテキスト中心からオーディエンス中心に移り変わる過程において、カルチュラル・スタディーズに属する一連の研究がいかに関動的オーディエンス論とファン研究を展開したのかを確認する。2.2「ジェンダー的観点から見るメディア文化消費とグローバル化」では、女性文化と女性の文化消費に関する既存の論議がいかに関展開されたのか、そして、近年グローバルに拡散していくポピュラー文化の消費形態のなかで、トランスナショナルな文化を消費する女性がいかに関論題として浮上してきているかを確認する。

第3章「研究方法」では、本研究の研究方法を提示する。3.1「エスノグラフィー研究法」では、伝統的エスノグラフィーが、カルチュラル・スタディーズにおいていかに関用いられてきたかを確認する。そして、カルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンス・エスノグラフィー研究法の問題点を踏まえた上で、本研究でこの方法論を用いることの有効性を述べる。3.2「韓流女性ファンのストーリー」では、12名の「韓流女性ファン」とのインタビュー調査を通して描出された「韓流」消費に関する日常的・経験的ストーリーを提示する。

第4章「「韓流」を通じた快樂の文化実践」では、本研究の「研究課題1」に沿う分析結果を提示する。12名の韓流女性ファンの「文化実践の特徴」を大きく6つに分けて明らかにする。トランスナショナルな「韓流」を追い求める彼女たちの文化的欲求と、それを満たすための消費が、いかなる社会関係とのなかで経験されていくのか、そしてそれがいかなる特徴を示しているのかを、彼女たちの「能動性」に注目しながらまとめる。

第5章「韓流女性ファンのせめぎ合い」では、本研究の「研究課題2」に沿う分析結果を提示する。ここでは、韓国や政治的論争に対する国民意識の結果を補助データとして加え、インタビュー調査と並行させて分析を行う。この支配コードに対する検討を踏まえつつ、そのなかで韓流女性ファンが感じる矛盾や葛藤、妥協、抵抗などのせめぎ合いを具体的に明らかにする。

第6章「結論」では、第4章と第5章で明らかにした分析結果を要約し、トランスナショナルな文化を消費する韓流女性ファンの文化実践の意味を考察した後、本研究の学術的・社会的意義を提示する。

第2章 理論的背景

本章では、本研究が理論的背景にしているカルチュラル・スタディーズにおける能動的オーディエンス研究 (Active Audience Theory) ¹⁴及びファン研究についてレビューする。2.1 では、従属的で下位的に文脈付けられたオーディエンスとファンを対象とした研究が、いかに彼/彼女たちの文化実践を考察しているのかを確認する。具体的には従来のテキストを重視する観点から、オーディエンスのテキスト解釈や生産的文化実践を重視する観点に移動しつつ、彼/彼女たちの能動性を社会文化的関係のなかでいかに定義しているのかを確認する。2.2 では、女性の文化消費に関する論議がいかになされてきたのかを確認する。さらに、海外発信のポピュラー文化を消費する女性たちの文化実践がいかに議論されたのかを、女性たちの能動性に注目しながらレビューしていく。

2.1 カルチュラル・スタディーズとオーディエンス研究

ここでは、カルチュラル・スタディーズが注目する文化の行為者、つまり、オーディエンス、ひいては、ファン集団を称する「ファンダム(Fandom)」研究がいかに展開されたのかを考察する。オーディエンス研究が、テキストの有するメッセージを多様に解釈することを重視する観点であるとしたら、ファンダム研究は、既存文化に基づき新たな文化を創造する生産を重視する観点である (Kim, Su-Jeong・Kim, Soo-Ah, 2015:36-38)。カルチュラル・スタディーズにおける一連のファンダム研究は、オーディエンス研究の論理的体系を保ちつつ、文化の主体となる人々の「能動性」を明らかにしてきた。その過程を理解するために、まず 20 世紀後半のイギリスでのカルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンス研究の論点を整理しておく。

2.1.1 オーディエンス研究への取り組み

カルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンスに対する関心は、イギリスのバーミンガム大学のカルチュラル・スタディーズ・センターを中心に始まった。カルチュラル・スタディーズが展開したメディア研究の目的の 1 つは、階級、エスニシティ、ジェンダーなどに関わるイデオロギーの作用を分析することであった (伊藤, 2001; 吉見, 2001; フォンセカ酒井, 2006)。最も特徴的な点は、イデオロギーの作用をオーディエンスの文脈から理

¹⁴この「オーディエンスの能動性」について、カルチュラル・スタディーズとコミュニケーション研究における利用と満足研究のアプローチが異なることを指摘する。利用と満足研究が個人を原理的には多様な解釈に開かれた「自由な主体」と見なすのに対し、カルチュラル・スタディーズはオーディエンスを「自由」な能動的主体ではなく、社会的権力の重層的な影響を受けつつも自身の個性に合った意味を能動的に解釈する主体と見なしている (吉見, 2001:83-84)。

解することに専念した点である。

そもそもこの分野の伝統は、ホガート、ウィリアムズ、トムソンなどによって触発された文化主義¹⁵から始まる。Kim, Chang-Nam(1998)は、カルチュラル・スタディーズが構造主義的視角と文化主義的視角を批判しつつも受け入れながら、統合学問として発展していたことを主張する。つまり、文化は支配構造の産物でも、労働者階級の純粋な表現でもない。文化はその2つの力、つまり支配構造の力と人間の実践の力が出会い、競争、闘争、妥協、葛藤する領域なのだ(Kim, Chang-Nam, 1998:74)。このような考え方は、文化を、従属的な立場に置かれた様々な集団が生活し、自らの置かれた立場に抵抗する手段でもあると捉えることから発する(大石, 2010:84)。要するに、ポスト構造主義を背景に、階級やジェンダー、エスニシティなどをめぐる社会的権力の不均等な配分のなかで構造化されているものとして文化的主体を考えるのが、カルチュラル・スタディーズの観点なのだ(吉見, 2011:83)。

カルチュラル・スタディーズの観点は、従来のコミュニケーション研究に批判的な立場を取ることを可能にした。伝統的なコミュニケーション研究において批判的社会学の影響が広がりつつあった1960年代までは、従来の総合モデルが支配的地位を維持し続け、論議は、マス・メディアが大衆の行動を容易に変化させると見なす皮下注射的(Hypodermic needle model)な強化効果モデルを用いたものが支配的であった(吉見 2001:70-71)。これらの研究は、メッセージ伝達プロセスの両端を送り手と受け手として区別し配置することで、主に送り手中心主義の立場からの議論を行い、受け手は送り手のメッセージをそのまま受け入れる受動的存在であると見なしていた。

このように、オーディエンスを受動的/能動的という二分法的構図に閉じ込めて考察する既存研究を批判し、オーディエンスをめぐる多様なイデオロギー的作用のなかで彼/彼女らの行為を分析することが、カルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンス研究の始まりであったと考えられる。そして、様々な社会権力の不均等な配分のなかで、オーディエンスがメディア・テキストを消費し、意味を生み出していく過程を「せめぎ合いの過程」と見なし、主体の能動性概念を発展させてきたのが、カルチュラル・スタディーズの営みと言えよう。

¹⁵Kim, Chang-Nam(1998)は、文化主義を次の4つの視点を持つとして説明する。1つ目は、エリート主義文化概念を批判し、非支配階級の「生きている文化」に注目していること。2つ目は、物質的土台によって上下関係を決めつけるマルクス主義を批判し、文化の相対的自律性を強調していること。3つ目は、構造主義を批判すると同時に、構造より人間を、イデオロギーより人間の経験を重視していること。4つ目は、非支配階級である「大衆」が文化実践を通して自身の階級的領域を構築していく能動的な行為に注目していることである(Kim, Chang-Nam, 1998:70-71)。

2. 1. 2 能動的オーディエンス論の視角

カルチュラル・スタディーズが提示する「能動的オーディエンス論」の主な目的は、従来の受動的な役割を担ってきた文化の行為者を、自律的かつ積極的な生産者として変化させることだ(Kim, Hyun-Mi, 1997)。能動的オーディエンス研究は、1980年代イギリスのカルチュラル・スタディーズ・センターを中心に展開されていくが、その理論的基盤を築いた研究者の一人として、S.Hall(スチュアート・ホール)が挙げられる。

Hall(1980)は、自身の論文『エンコーディング・デコーディング(Encoding/Decoding)』において、従来のコミュニケーション研究が提示したメッセージの一方向的な伝達モデルを批判し、コミュニケーションの生産と消費の概念を新たに構築した。エンコーディングにおいては、歴史的に定義された技術スキル、従来のメディア側のイデオロギー、制度化された知識、オーディエンスがそうであろうと想定することなどによって、意味が構造化される(Hall, 1980:129)。一方、デコーディングにおいては、エンコーディングされたメッセージの意味をオーディエンスによって構造化される。このプロセスにおいてコミュニケーション交換による「understanding」と「misunderstanding」が生じるため、エンコーディングコードとデコーディングコードが同じものであるとは限らないことが指摘される(Hall, 1980:131)。つまり、Hallは、メディア・テキストが単一ではなく、「多義的(polysemy)」意味を持っており、オーディエンスは、階層的に組織化された意味を自身の社会的ポジションによって様々な形(抵抗と変容)で解釈するということを強調している¹⁶。そのなかで起こる順応、妥協、抵抗的コードが、オーディエンスの社会的ポジションによってそれぞれ異なるという点において、オーディエンスの文脈が重視されるのである。

こうして、オーディエンスを受動的な存在としてみなしてきた従来の見解に新たな観点を吹き込む「能動性」概念を浮上させたのだ。Hallの研究に触発され、そのモデルを検証し、オーディエンスの文化実践をより具体化させる研究が続々現れた。代表的な研究として、Morley(1980)のテレビ番組『ネーション・ワイド(Nationwide)』の視聴者に関する研究、Hobson(1982)の『クロスローズ(Crossroads)』の視聴者に関する研究、Ang(1985)の『ダラ

¹⁶ホールのいう能動的オーディエンス論には、テキストを解釈するオーディエンスの様々なポジションや文脈が重視される。そのため、decoding がなされるポジションを3つに区分している。まず、1つ目は、支配的-ヘゲモニックなポジション(dominant-hegemonic position)である。これは支配的イデオロギーをそのまま解釈することを指す。2つ目は、折衝的ポジション(negotiated code or position)である。支配的なテレビのコードを採用したりそれに抵抗したりできる潜在力を持つ解釈行為を取ることを指す。最後に、ホールにとって「最も重要な政治的契機の一つ」である、対抗的ポジション(oppositional code)だ。この読みにおいて視聴者は支配コードに対し抵抗していることを指す(Hall, 1980:136-138)。ホールは、オーディエンスをいずれかの解釈に分離される停滞的なものとしてではなく、それを横断して移動する連続体の一部として見ており、抵抗的ポジションを、「通常折衝的に意味づけられ解釈される出来事が抵抗的な解釈を与えられ始まる」契機と考えていたのである(1980:138; ジェームス・プロクター, 2006:116-117を参考にしながら再引用)。

ス(Dallas)』の視聴者に関する研究、Radway(1984)の恋愛小説の読者に関する研究などが挙げられる(Cho, Young-Han, 2012:104)。これらの研究は、オーディエンスが自身の社会関係が現われる日常生活と関連付け、いかなる文化実践を行っているのかを示している。

2.1.3 日常生活における意味生成の文化実践

カルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンス研究は、オーディエンスの権力関係の構造や、テキスト消費の現場となる日常生活の「文化実践」に焦点を当てている。主に、オーディエンスがテキストの持つイデオロギーの構造を一方的に受け入れるのではなく、階級、ジェンダー、エスニシティなどの文化コードとの葛藤を含む複合的な文化実践を日常生活の中で行うことに注目している(Cho, Young-Han, 2012:104)。ここでは、文化実践を具体的に解釈するため、カルチュラル・スタディーズのオーディエンス研究の例として、Ang(1985)とRadway(1984)の研究を紹介する。

まず I. Ang(イエン・アング)の『ダラスを見ること(Watching Dallas)』(1985)から見ていく。Ang(1985)は、家父長制の矛盾を描いているソープオペラ(Soap Opera)、『ダラス(Dallas)』に「なぜ人々が熱狂し、はまっているのか」という問題意識を持ち、オランダの女性オーディエンスを対象にドラマの感想文を集め、彼女たちの『ダラス』の解読過程を分析した。その結果、女性オーディエンスが『ダラス』を自身の日常生活と比較しつつ映し見ることでリアリズムを感じ、快楽を得ていたことを明らかにした。

もちろん、彼女たちは『ダラス』というメロドラマが展開する荒唐無稽な構造(大金持ちの奢侈さや男性に女性たちが利用され、その運命が決められていく)による虚構性を理解していた。しかし、Ang(1985)は、女性オーディエンスがドラマ・テキストを虚構の世界であると理解しつつも、リアルなものとして感じた理由を、「情緒的リアリズム(emotional realism)」の概念を用いて説明する。登場人物が抱いている問題は劇的で誇張されたものではあるが、女性オーディエンスはそれを自身の日常生活と関連付けて見ることで、自分にも起こり得る日常的なものとして情緒的に共感しており、そこからリアリズムが生まれていたのである(Ang, 1985:41-46)。Ang(1985)の議論を踏まえると、女性オーディエンスの文化実践を論じる際、テキストのイデオロギーを重視する観点より、それが行われる個々の日常生活(文脈)における解読の能動性を重視する観点の方が妥当であるかも知れない。

次に、J. Radway(ジャニス・ラドウェイ)の『恋愛小説を読むこと(Reading the Romance)』(1984)を取り上げる。Radway(1984)は、主婦という特定の消費層の「恋愛小説を読む行為」に注目し、70年代以降女性に人気を集めていた恋愛小説を分析すると同時に、中流階層の主婦が恋愛小説を読む心理を参与観察とアンケート調査及びインタビュー調査で追究した。

その結果、母親として、専業主婦として定められた日常生活を送る主婦たちが恋愛小説を読むことで、自身を抑圧する日常生活から解放される快楽を得ていることを明らかにした。Radway は、恋愛小説を読むことで得られる快楽が、彼女たちの日常生活により良い影響、つまり、厳しい現実に向き合っていて、それを肯定的に生きるための力となっていたと主張している(1984:86-118)。これを通して、オーディエンスの能動的文化実践は、彼女たちが自らの社会関係を認知しながらも、それを受け入れ肯定的に生きるようにするための意味生成過程を示すことであると解釈できる。

上記の 2 つの研究からドラマを見ることや恋愛小説を読むことは、女性たちが自身の日常生活から新たな意味を生成していく能動的な文化実践であることが示された。本研究において韓流女性ファンの文化実践が行われる過程を、それぞれの日常生活における文脈に沿って考察することが重要になる。

2. 1. 4 文化実践から得られる「快楽」の意味

快楽はポピュラー文化を通して情緒的経験をする上で重要な概念となる (Yeon, Hye-Kyung, 2009:16)。ポピュラー文化を通じた快楽が、われわれの日常生活のなかで快楽的要素として作用する (フィスク, 1987a=1996:348) ため、それぞれの社会関係と関連付けて、ポピュラー文化の文化実践を理解する際、快楽の意味を把握することが重要な課題となるのだ。

ここでは、カルチュラル・スタディーズのオーディエンス研究において、オーディエンスの文化実践との関係でしばしば取り上げられる快楽に対する論議を確認する。この分野の研究は、文化実践過程の政治性に注目していることから、オーディエンスがテキストを解読する過程で得られる快楽を、支配イデオロギーに対するせめぎ合いの結果として解釈する。その代表としてあげられるのが、ジョン・フィスク (J. Fiske) の「抵抗的快楽」である。

フィスク (1987a=1996) は自身の快楽理論をバルト (Barthes) の快楽論に基づいて展開する。バルトの快楽は、本質的に文化的起源をもった快楽を指すプレジール (plaisir) と、性的オーガズムのような身体に関わる意味合いをもった肉体的快楽を指すジュイサンス (jouissance) に分けられる (1987a=1996:353-358)。特に、ジュイサンスは社会的規範や秩序に対する抵抗によって得ることができるが、現実的には得難いものであり、テキストを通して創造的読者になることで得られるものであるという (フィスク, 1987a=1996:358)。

さらに、フィスクはジュイサンスの概念をより発展させたカーニバル¹⁷的快樂を提示する。彼は、ジュイサンスと既存の価値を否定するカーニバル的快樂の類似性を指摘する。テレビ番組に見られる攻撃性、規則違反、誇張された表現などを通して得られるジュイサンスをカーニバル的快樂で説明し、その例としてロックンレスリングというプロレス番組を挙げている。ロックンレスリングでは攻撃的で誇張された表現¹⁸が劇的に現れるが、その劇的な表現は権力や権威など支配コードに対する抵抗であり、カーニバル的快樂をもたらすという。ここでの快樂は、イデオロギーによって規定された主観性が構成されることを結果として回避し、自ら統制し、権限を付与することで得られるものである(フィスク, 1987a=1996:380-391)。ジュイサンスとカーニバル的快樂は、どちらも権力と抗うという文脈で得られる快樂なのだ。

上記の快樂論を、前述した Ang(1985)と Radway(1984)の女性オーディエンスの文化実践と快樂の関係から見てみよう。女性たちが現実的な日常生活のなかで自身を抑圧する家父長制イデオロギーなどの支配コードに直接立ち向かうことは難しいかも知れない。しかし、女性たちはポピュラー文化を通して想像の世界に自身の日常生活を紐づけて見たり、読むことで、支配権力に挑戦する快樂を得たり、自身の社会関係から解放される快樂を得たりすることは可能であるのだ。

これらの研究は、従属的オーディエンスが自身を取り巻く権力関係から逃れる快樂を得るせめぎ合いの場としてポピュラー文化を理解している。もちろん、フィスクのような「消費＝抵抗」または、快樂を抵抗と政治に結びつけて論じる観点は批判されてもいる。その例として、Ang(1985)は、自身の研究において快樂を政治と結びつけることに注意を促していた。さらに、彼女はフィスクの快樂と抵抗の概念に批判的な立場を取りつつも、抵抗の概念を、「課された構造を変えたりひっくりかえしたりする力ではなく、転覆されることのできないそれらの諸構造、それらがしのがざるをえない諸構造の潜在的に圧制的な諸効果と折衝するための力」(Ang, 1996:8)の範囲に限定している(田中, 2012:109 から再引用)¹⁹。つまり、オーディエンスの快樂に起因する政治性を、すべての支配コードに抵抗的なものとして、大きく解釈することに注意する必要があるだろう。フィスクは、支配コードを同

¹⁷バフチン(1968)によれば、カーニバルとは、笑い、過剰さ(特に肉体や身体的機能の過剰さ)、悪趣味、攻撃性、死して格下げ、といった事柄から特徴づけられる(フィスク, 1987a=1996:377)。

¹⁸ロックンレスリングの場では、レスラー同士の「悪口の言い合い」や、レフリーに対しても観客に対しても「悪口」を言うような、屈辱を与えることなどが熱狂的に行われるという(フィスク, 1987a=1996:369-413)。

¹⁹田中は、セルトーの言葉を用いて、「抵抗」は、日常生活の場で、支配的な力や人々に少しでも都合の良いものではない所与の諸条件と折りあいをつけ、折衝し、少しでも自分たちに有利に動くように、そのたびごとに一瞬だけ場を再構成し「何とかやっていく(Faire-avec)」ための臨機応変な戦術であるに過ぎないと述べる(Certeau, 1980:50=1987:89; 田中, 2012:110 から再引用)。

一化または同質化の価値体系として示すなか、異質的で多様化した意味を生産するオーディエンスの行為を抵抗とみている(1987a=1996:489)。しかし、そこで得られる快楽は、抵抗的でも破壊的でもないものかも知れないと語っている。そして、快楽を、少なくとも抵抗や転覆が可能であるという自尊心や自信を生み出す範囲のものとして見ている(フィスク, 1987a=1996:361)。

要するに、オーディエンスの文化実践から得られる快楽を、自身を規定する階級やジェンダー、エスニシティなどの社会関係のなかで彼/彼女たちが実際に逃れるという意味で解釈してはいけないのだろう。それは、オーディエンスが自身の日常生活を生きる小さな力として作用したり、そうなる可能性を含意したりするものなのだ。本研究も、快楽を抵抗的な意味として捉えるよりは、韓流女性ファンの日常生活にいかなる力として現れるのかを考察することを重視していきたい。

2. 1. 5 能動的オーディエンス論の拡張：ファンダム研究

次に、オーディエンス論の解釈範囲を拡張させたサブカルチャーのファンダムに対する理論的背景を確認する。「ファンダム(Fandom)」とは、狂信者を意味するラテン語の「fanaticus」から由来した「Fan」に、集団を称する「dom」が結合され作られた言葉で、歓声をあげながら、スターを追いかける熱狂的なファンの姿は社会病理的存在として扱われてきた(Bae, Hyen-Ju, 2013:11-12)。1990年代以降、ファンダムを他者化する主流文化や支配的価値に批判的立場から論じる研究が続々と登場する(Jeon, Gyong-Ran, 2008)。

ファンダム研究は、能動的オーディエンス論とその起源をともしする。ただ、能動的オーディエンス論がメディア・テキストの解釈を重視する立場であるならば、ファン研究は具体的な文化を生産することを重視する立場であるといえよう(Kim, Su-Jeong・Kim, Soo-Ah, 2015:36-38)。つまり、前者では、テキストの意味づけに人々の自律性を見出していたが、後者では、ファンによる読みや解釈を経て作られたコンテンツ、いわゆる二次テキストや創作の生産が論点となる(平井, 2014:69)²⁰。

ここでは、能動的オーディエンス論がファンダム研究へと、どのように拡張したのか、Fiske(1992)とJenkins(1996, 2008)の研究を取り上げて考察していく。まず、J.Fiske(ジョン・フィスク, 1992)はファンダムを次のように定義している。

²⁰「オーディエンス」と「ファンダム」の用語は異なっており、特定のメディアを利用するだけでは「ファン」と称しない。ファンは、一般的なオーディエンスと区別される存在であり、「ファンダム」はサブカルチャーの一種として独特なスタイルを持つ集団であるため、異なる観点からの考察が行われることは当然かも知れない。

ファンダムを、産業社会のポピュラー文化において普遍的に現れる特徴であり、自発的に集まった人々が、大量に生産され、分配された娯楽のなかで、特定のジャンルや人を選び、自分たちの文化のなかで消費する現象としてみている。選ばれたものはより強烈な快楽と意味を生成するポピュラー文化として再形成される。それは平凡なオーディエンスのポピュラー文化と似ていながらもとても異なる特徴を持つ。ファンダムは、支配的価値体系で見下される文化ジャンル、たとえば、ポップス、恋愛小説、漫画、ハリウッドスターらと結びついている。特に性別や年齢、階級、人衆において弱い階層の人々において著しい。

(Fiske, 1992:30)

彼は、ファンダムを社会的な不平等な関係における文化的弱者、つまり従属的存在の主體的な文化世界と見なし、ファンダムが営む文化実践から政治性を見出している。彼は、「ファンダムの文化経済学(The Cultural Economy of Fandom)」(1992)という論文において、オーディエンスの生産性(audience productivity)を次の3つの概念から説明している。記号学的生産性(semiotic productivity)と言述学的生産性(enunciative productivity)、そして、テクスト的生产性(textual productivity)である²¹。このように、従属的ポジションにいるファンが能動的に生産する意味生成を、「ポピュラー文化資本(popular culture capital)」として見ているのだ。フィスクは(1987a=1996)、ポピュラー文化資本を以下のように説明する。

全く権力を持たない社会集団など従属を強いられ、力関係では劣勢な人たち、あるいは職を失った人たちの関心に応える意味や娯楽の蓄積場所であり、社会的服従の意味や、それに対して人々が応じる際の戦術(適応であったり、抵抗であったり、反対であったり、あるいは回避といった戦略)の意味から成立しているもの

²¹記号学的生産性(semiotic productivity)とは、大衆文化の記号学的な特徴から社会的アイデンティティと経験の意味を生み出すことである。たとえば、マドンナが男性の欲望の対象であるよう商品化されていることに對し、10代の少女ファンが、家父長制のセクシュアリティではなく、性的魅力を用いて男性を支配するという女性的価値を正当化する意味(女性のパワー)を読み出すことである。言述学的生産性(enunciative productivity)とは、ファンが生み出した意味が、ヘアスタイルや、メイクアップ、ファッション、アクセサリーなどを通して社会的アイデンティティを構築していくことやファン・コミュニティの参加者であることを示すことである。サッカーファンが自分たちのファンダムと同じカラーの服を着て情熱的な応援活動を共有し表出することは、ファンとの集団における言述的な行為を通じた結果である。そして、テクスト的生产性(textual productivity)とは、ファンが既存のテクストを変形させたり、新たなテクストを作り出したりすることを称する。ファンは、自分たちを区別するため、よく公式文化資本(official culture)のような作品価値を持つテクストを生産し、コミュニティに流通させている。つまり、記号学的生産性と言述学的生産性は、ファンダムの社会的アイデンティティと文化実践の意味が生成される過程を意味しており、テクスト的生产性を通して、ファンは差別化された自分たちの文化資本を生産し、独特な快楽を創出するということである(Fiske, 1992:37-39)。

(フィスク, 1987a=1996:30)

ファンのせめぎ合いは、支配コードを拒否することだけを意味するのではない。ましてや、ファンが意図的に反規範的意志を持ってファンダムに参加していることを意味するものでもない。つまり、ファンが自身の日常生活のなかから生じる様々な悩みや葛藤、矛盾、楽しみの欲求を反映し、生み出した文化的生産物として見ているのだろう。そして、生産的实践を行うファンダムこそが、公式文化への参加を実現させると見なしているのだ。

一方、H. Jenkins(ヘンリー・ジェンキンス)²²は、ファンを文化の消費者であると同時に生産者であり、読者であると同時に作家であり、観察者であると同時に参加者であるとする(Jenkins, 1992: 23)。彼は、『テキストの密猟者(TEXTUAL POACHERS)』(1992)において、ファンダムの生産的文化実践を強調している。彼は、テレビ番組を通してファンが構築するサブカルチャーの特徴として次の5つを挙げている。1つ目は、独特なテキストの消費様式である。ファンは一般オーディエンスとは異なり、集中的かつ中毒的に視聴し、テキストに感情的にはまる一方、一定の距離を維持しながら批判的に解釈する。また、他のファンと相互に作用することで、テキストの意味を共有し、討論し合うのである。2つ目は、独特な批判かつ解読的实践を行うことである。ファンダムには独特な解読の仕組みがあるという。3つ目は、消費者行為主義のためのベースを構成していることである。ファンは番組に対する意見を表明し、制作者とフィードバックを行いながら生産にも積極的に関わっている。4つ目は、独特な美学を生かし、新たな文化的生産物を創造することである。ファンがアーティストや作家、ビデオ製作者となって作品を創造するのである。最後は、代案的社会のコミュニティとして機能していることである(Jenkins, 1992:277-283)。Jenkinsはファンダムの特別な文化実践を文化の生産と消費の境界線を越えたプロフェッショナルなものに見なし、ファンを変貌するメディア文化時代の新たな担い手として位置付けているのだ。

また Jenkins(2006=2008)は、様々なメディア・システムや競争構図に直面したメディア・エコノミー、越境するメディア・コンテンツの循環などが、消費者の積極的な参加を促していると主張する。彼は、『コンバージェンス・カルチャー (Convergence Culture)』において、現在をオールド・メディアとニュー・メディアが衝突すると同時に、grass-roots メディアや企業メディアが交差し、メディア生産者の力と消費者の力が相互作用する「コン

²²ファンダム研究分野において「最も大きな影響力を果たした研究者は誰か」を全世界の65名のファンダム研究者に聞いた結果、Henry Jenkinsが1位となった。また、ファンダムをテーマにした国際学術誌である『*Journal of Fandom Studies*』(2014)において、Henry Jenkinsの著書『TEXTUAL POACHERS』の20周年を記念する特集号が作られたことなどを見ても、ファンダム研究におけるJenkinsの業績の偉大さが伺える(Kim, Su-Jeong・Kim, Soo-Ah, 2015:40)。

バージェンス・カルチャー時代」であると述べている。コンバージェンス・カルチャー時代においては、「メディア・コンバージェンス」、「参加文化」、「集団知性」が相まって実現される。彼がいう「コンバージェンス」は、オーディエンスが生産者や他の人々と相互作用を活発に行う場である。その場にオーディエンスが参加することで「参加文化」が形成され、集団の討論や交渉、発展のための「集団知性」が生み出されるという(Jenkins, 2006=2008:51-52)。Jenkins は、ファンが生み出す「集団知性」を政治的権利として活用される重要な能力として見なしている(2006=2008:378)。

以上の研究を通して、ファンダム研究がオーディエンス研究における文化実践をめぐる領域を拡張したものであることが明らかとなった。確かに、解説を重視するオーディエンス研究と文化生産を重視するファンダム研究は、それぞれが明らかにする領域が異なるかも知れない。しかし、両研究が、次の 2 つの観点によって同じ根底を持っていることは明らかであろう。1 つは、両研究が、従属的あるいは下位的な文脈を強いられた存在の主体的かつ能動的な文化実践に注目していること、もう 1 つは、文化的主体が支配コードとの関係の中で意味や固有な文化を生成するものと見ているということである。Kim, Su-Jeong・Kim, Soo-Ah (2015)によると、Fiske の生産性概念の最も大きな寄与がオーディエンスの能動性をイデオロギーに抵抗する解説から見つけようとした狭少な認識から離れ、オーディエンスの行為全般を含む実践として認識させたことであると述べている(2015:37-38)。したがって、ファンダム研究は、能動的オーディエンス論が主張していた文化実践概念がテキストの意味の解説重視から、それを含む行為全般を重視することへと拡張された議論であるとみなすことができるのだ。

上記の議論を踏まえ、本研究の韓流女性ファンダムの研究においても、彼女たちを取り巻く社会関係のなかで行為全般を含む文化実践がいかに行われているのかを重視していきたい。

2.2 ジェンダーとトランスナショナルな文化消費

今日、ポピュラー文化は特定の生産国家に限定された消費ではなく、トランスナショナルな消費形態を見せている。これは、情報通信技術の発展により、人々が自由に国境を越えて文化を消費することが可能になったためであろう。このようなグローバル化に応じて、カルチュラル・スタディーズも、英国という国民国家/帝国の枠組みをあまりにも所与するものとして受け入れてきたことから、ローカルな諸々の場の特異性に応じて現象するようになってきた(吉見, 2001:89)。

特に、本研究は、トランスナショナルな「韓流」を消費する女性たちの文化実践に注目

している。日本の韓流女性ファンの能動的文化実践が、日韓関係、そして東アジア地域の長期に渡る国家、民族、歴史的な衝突による国家イデオロギーと、「韓流」が女性に受け入れられ易いということで、ジェンダー的コードも加わった支配コードとのせめぎ合いを行いながら新たな可能性と知見を生み出していると考えている。

したがって、女性文化に対する支配コードの表象と、それがトランスナショナルなものとして浮上することでいかなる様相が現れるのかを、ジェンダー的アプローチを中心とした考察を通して確認する。

2.2.1 ジェンダーとメディア文化消費

ここでは、従属的に文脈付けられた「女性」というポジションに注目し、女性たちの文化実践がいかに見られてきたのかを確認する。

田中(2011)は、伝統的に女性は生物学的差異であるセックスを根拠に、男性に従属される存在としてのカテゴリーでくくられ、様々な政治的・経済的・法的関係において差別を課される対象となってきたことを指摘している。さらに、田中はジュディス・バトラーが語った女性というジェンダー性を取り上げている(田中, 2011:87)。

女性が意味しているものはあまりにも長いあいだ自明のものとされてきたし、その語の「指示対象」として固定されてきたものは従属的位置に「固定され」、規定され、不動のものとされ、麻痺させられてきた。実際、そのシニフィエは指示対象と混ぜ合わされてきたし、それによってひとそろえの意味が女性それ自体の本当の性質に内在するものとして受け取られてきた。

(Butler, 1992:16:田中, 2011:87 から再引用)。

バトラーは、女性と男性という二項対立的な過ちにより、女性の従属的ポジションと、階級、エスニシティなどを無視したまま「女性アイデンティティ」という 1 つのアイデンティティに帰結されてしまう支配コードの圧力を指摘している。女性が男性と同等な主体として認められず、差別化の対象として客体化されるため、女性は主体性を剥奪され、他者表象の対象として再現されていく。そのような傾向が、社会のあらゆるところで問題視されているというのである。

それでは、女性がポピュラー文化を消費し形成する女性文化をめぐる議論において、他者表象はどのように現れているのだろうか。まず、文化領域から見ると、主に公的な領域は男性の領域で、私的な領域は女性の領域として区別される。例えば、ロックやヒップホ

ップなど、抵抗的かつ急進的なものであると意味化される音楽は男性的なものとして、ポップやダンスミュージックなど、消費志向的かつ体制順応的な音楽は女性的なものとして、カテゴリー化される傾向にある(Oh, Ja-Young, 2007:17)。さらに、女性たちを対象にした文化は、しばしば低俗なものとみなされる。例えば、1930 年代の「家庭小説」というジャンルの場合、登場初期まで文学的価値が低いジャンルではなかったものの、それが女性の読み物という扱いを受けるようになることで「通俗化(trivialization)」したという(林, 2006:87-88)。

本研究は、このように男女を区分し、女性文化に対し価値を矮小化することやそれを許している支配コードに批判的観点を持ち、女性文化の形成とその意味を明らかにする。女性を従属的文脈にいる存在として見るフィスクは、女性文化について次のように語る。

それはおそらく、絶え間ない闘いの中にあるものであり、少なくとも、絶えず女性を従属させる家父長制の権力をそいでおり、うすくすれば、直接的な挑戦が開始されてもよい男性から自由な領域(*masculine-free zone*)と、そうした挑戦が要求する自尊心をともに提供している。

(フィスク, 1987a=1996:307)

フィスクのいう女性文化は従属性を強いられたポジションにいる女性たちが、自身を抑圧する支配コードから離れ、自由に活動できる領域である。そして、女性たちは実際の日常生活では不可能であるかも知れないが、文化実践を通して支配コードに挑戦を試みる。フィスクのマドンナファン研究(Fiske:1987b)によれば、マドンナが自身のセクシュアリティを強調する姿に対し、10 代の少女ファンたちは性的魅力を用いて男性を支配する女性のパワーを読み取り、マドンナに熱狂していたという(1987b:Kim, Su-Jeong, 2010:14 から再引用)。女性のエンパワーメントを促す意味生成の場となるマドンナの少女ファンダムは、結果的に女性たちが支配コードに抗う場になっていたのである。

同様の例をもう 1 つ挙げよう。田中(2011)は、女性のサブカルチャーとして、1990 年半ば以降に登場したコスプレイヤーと呼ばれる女性集団を取り上げている。田中は、コスプレイヤーの 8 割ほどを女性が占めることを指摘し、コスプレイヤーたちは週末や祝日になると遊園地や公園やストリートに出て、集団で異装することを楽しんでいたという。なかでも注目するのは、彼女たちの多くが、化粧をすることや着飾ることという女性的だとされる実践を通して、「男装」をしていることである。田中はこの現象を、「ストリートでの女性による文化実践の様式のなかには、社会秩序からの逸脱という側面と、規範的な女

性をパロディ的に過剰に引用することを通じた逸脱などが含まれている」と分析している(2011:52)。

女性たちは自身の文化に対する支配コードの他者現象のなかでも、自身の固有な文化を通して逸脱的で抵抗的な行為を見せたり、そうでない従順的な行為を見せたりする。また、その領域が私的領域に限定されることもあれば、ストリートにまで広がることもある。このように、千差万別なせめぎ合いが見られる女性たちの文化実践を、単に抵抗的か順応的かを判断するより、それぞれの社会関係のなかで生まれる文化実践とせめぎ合いの多様性を詳細に把握し、彼女たちの文化実践を理解することが重要であろう。

2.2.2 トランスナショナルな文化消費と女性

今日、私たちは文化や人、資本などが、国境を越えるグローバル時代を生きている。異文化の交差によって生じる葛藤は、国や階級、ジェンダーなどの違いに起因するだけでなく、様々なレベルの抵抗、または妥協や和解を呼び起こし、複雑多様な様相を生み出している。

ところが、文化を国家に従属したものとみなす視線は依然として優勢であり、文化を閉じた、国民国家の枠組みに封じ込めることで、排他的ナショナリズムに荷担するかたちで、文化が表舞台に上げられることも多い(吉見, 2001; 石井, 2003; 大石, 2010)。国という枠組みに封じ込められて文化を見る代表例として、文化帝国主義を取り上げることができよう。1970年代 H. I. シラーなどは、アメリカのような強大国の文化が諸国の民衆文化を侵蝕したり、弱体化とナショナルな文化の自律的な発展を阻害したりする文化帝国主義を主張していた(吉見, 2001:96-98)。

しかし、本研究はトランスナショナルな文化による力を狭い範囲で単純化し、支配コードから派生された一方向的で垂直的なものと見なす議論に批判的な立場をとる。当然ながら文化帝国主義は、文化を画一的なもので見なす支配コードを反映しているため、多くの研究者から批判を浴びている。批判の論拠は、世界は中心と周辺、支配と被支配という二文法的な構造で決め付けることができないため、文化とコミュニケーションの領域においても、一方的なフローは存在しないということである(Choi, Eun-Kyoung, 2014:15)。

文化はグローバルな資本と権力の流動の中で、様々なダイナミズムを生み出している(吉見, 2001:91-92)。各国の文化が世界中の様々な地域に伝播され、その地域の消費者の文脈や特異性と絡み合い、複合的で創造的な現象と可能性を生み出している²³。様々な文化が出

²³岩渕(2007)は、「文化には人をつなぐ力がある。多様な意味を混成化して、新たな表現を生成する力がある。現状を批判的に捉えて、「いまここ」で見えていないものを「想像＝創造」する力がある。差異を尊

会、変容と翻訳の過程を経て多面的なアイデンティティが作られているとするなら、本研究で取り上げる「韓流」というトランスナショナルなポピュラー文化の消費においても、国民国家の文脈から離れ、各地域におけるファンの政治、社会、文化的関係に注目する必要があると考える。

このような議論を、海外発信のポピュラー文化の消費者として女性オーディエンスを研究対象にした、カルチュラル・スタディーズの論者たちの問題提起と重ねて考えることができよう。それはAng(1985)の研究に代表される。前述のように、彼女の研究はアメリカ・ドラマを視聴するオランダ人女性の文化実践を解釈したものである。Ang(1985)は、彼女たちが『ダラス』の文化帝国主義的なイデオロギーに左右されるよりは、自身の日常生活に基づく想像力を自律的に生かし、テキストからリアルな意味を生み出しながら楽しんでいることを明らかにした。

また、アメリカの人気ドラマ『セックス・アンド・ザ・シティ(Sex and the City)』を視聴する日本人女性オーディエンスに注目した河津の研究(2008, 2009)は、日本の30代ホワイトカラーの女性たちが、『同上』をいかに解釈し、彼女たちの日常生活にどのような影響を及ぼしているのかを考察した。その結果、彼女たちが自身の日常生活をドラマの主人公に照らし合わせながら見ることで、共感的リアリズムを感じると同時に、自身のライフスタイルとアイデンティティを新たに構築していたことを明らかにした。

この2つの研究から、トランスナショナルな文化を消費するオーディエンスは文化が示すイデオロギーをそのまま受け入れる受動的な存在ではないことが分かる。トランスナショナルな文化とその消費地域における消費を論じる際、オーディエンスの能動性を看過してはいけないと考える。河津(2009)は、稀少性の高い海外文化の実践が女性オーディエンスの自己構築戦略と合致していたことを主張する。彼は、海外文化が持つ希少性について、海外文化(英語圏)のヘゲモニーが自身の卓越性上昇のきっかけとして作用することと、国内コンテンツに内在する既存の価値観から離れ、自由に自身の日常生活を映し、「私らしい私」を見出す自律的な文化実践を可能にするものとして論じている(河津, 2009: 237-258)。そこに、海外文化を消費する女性オーディエンスの高度な文化的趣向と能動性が伺える。

重して、市民の十全な社会への参加を促す力がある。自己と他者の関係性について自省的な理解・認識をもたらして、境界を超えた人々の対話を活性化する力がある」という。岩渕(2001)は、トランスナショナルな時代の文化を理解する概念として、「ハイブリディティー(hybridity)」を提示している。「ハイブリディティー」という概念は、「文化混淆化がもたらすアイデンティティの二重性、境界性、中間性を重んじ、排他的な「想像の共同体」や文化の純粋性、真正性を強調する資本主義、民族絶対主義などへの対抗概念として、ポストコロニアル理論において発展してきた」という。つまり、ハイブリディティーは、文化が国民国家の壁を超えて、常に文化変容と文化翻訳の過程をともにしていることを示す、文化帝国主義及び文化相対主義などの従来の概念の反動的議論の1つとして認識されている。

このような議論を踏まえた上で、本研究が注目するトランスナショナルな「韓流」を消費する日本人女性の文化実践に戻ってみよう。前述した先行研究において「韓流 1.0」期に主なファンであった中高年女性は「韓流」を通して様々な文化実践を行うことで、自身の日常生活が変化し、その領域が拡大されることを経験していた。そして、隣国韓国を知った。そのイメージは、葛藤や対立的なネガティブなものではなく、親密で、発展されたポジティブなものであった。そのような中高年女性の文化実践について、毛利(2004)は次のように述べている。

ファン文化を扱うのは難しい。ファンは、しばしば自分勝手に、気まぐれで、分析されたり、定義されたり、決めつけられたりするのを好まない。ファンはファンであり、ファンでしかない。ファンは、なにか別の目的のためにファンになるのではない。ましてや特定の政治的イデオロギーに奉仕することなどありえない。しかし、このことはファンが政治と無関係であることを意味しているのではない。『冬ソナ』のファンの分析をみればわかるとおり、ファンは伝統的な意味では政治的ではないかもしれないが、日常生活のレベルではいろいろ政治の可能性をはらんでいる。

(毛利, 2004:48)

毛利は、中高年女性ファンが経験した変化を通して、日常生活のレベルにおける政治の可能性を語っている。確かに、彼女たちが「韓流」を通して他者への想像力を発揮しながら、アイデンティティや日常生活に様々な変化を呼び起こすという点において政治的だとも言えるかも知れない。前述したように、それは何か大きな変化を呼び起こす伝統的な意味の政治ではないが、少しでも自分に有利になるようにするための個人的で、日常的レベルにおける政治性を帯びるだろう。

そして、他者への想像力を発揮していく彼女たちの文化実践を通して、日韓関係の友好的な発展のための新たな可能性の発見という政治性を見通すこともできよう。当然ながら、彼女たちの他者への想像力の発揮が、即戦力となる効果を生むことはないだろうが、ファンダムを拡大していく過程のなかで、他者化される国々との友好的な発展を期待することもできると考える。現在、日本で「韓流」は約 10 年を超える歴史を持ち、女性を中心に消費層を拡大しながら消費されている。今日のような、複雑多様な文化現象が現れるグローバルな時代において、「韓流」を消費し新たな意味を生成する女性たちの想像力豊かな文化実践がいかなるものであるかを、次章では、日本という地域的特色と女性という文脈を重視しながら分析していく。

第3章 研究方法

本章では、研究方法について述べる。本研究では、主に質的アプローチにより「韓流女性ファン」を取り巻く社会関係のなかで、彼女たちがいかなる文化実践を行っているのかを考察する。そのため、主な方法論として「エスノグラフィー(ethnography)」を用いる。3.1では、エスノグラフィー方法論について確認する。従来のエスノグラフィーとオーディエンス・エスノグラフィーの差異を示した後、後者の有効性を述べる。3.2では、本研究で抽出した12名の韓流女性ファンの日常生活におけるストーリーを記述する。彼女たちの「韓流」を通したストーリーが、それぞれの社会関係によっていかに現れているのかを提示する。

3.1 エスノグラフィー(ethnography)研究法

本研究では「韓流」を消費する「女性ファン」に注目し、なかでも彼女たちの「韓流」消費が行われる日常生活の経験に注目する。そこで、質的アプローチが妥当であると考えられる。一般的に質的研究とは、人々の質的データを用いて日常的な社会現象をできる限り加工せずに記述するものである(盛山, 2004:247)。本研究では、質的研究のなかでも、生きた経験が抽出されるエスノグラフィー研究法を用いて目的を明らかにしていく。

次に、エスノグラフィー研究法は何か、また、カルチュラル・スタディーズがオーディエンス研究で用いるオーディエンス・エスノグラフィー研究法とは何かを確認する。

3.1.1 エスノグラフィー研究法の視角

ここでは、エスノグラフィーとは何を意味するのか、そして、エスノグラフィーが質的研究においていかに用いられてきたのかを確認する。

英語の「ethnography」という語は、「ethno(民族)」と「graphy(書くこと)」という2つの要素で構成されていて、「民族に関する記述」という意味がある(藤田・北村, 2013:18-19)²⁴。エスノグラフィー研究法は、「学者と異文化との間でなされる長大な社会的相互作用」を記したものであり、主に「他者」や「異文化」を研究対象とする人類学に由来する(ターナー, 1999:203)。研究者が異文化を理解するためには、実際その文化の場に入り込み、近くで見たり、聞いたり、体験したりすることが最も理想的な方法であろう。そこで、対象となるフィールド(コミュニティ、民族、部族、社会)に立ち入り、参与観察、インフォーマ

²⁴エスノグラフィーという語は、主に、調査方法、調査に基づき書かれた研究成果、という2つの側面で用いられている(藤田・北村, 2013:18-19)。

ントへの聞き取り、その場所の行事・習慣・人間関係などの記録を通して、その文化的体系を解釈することを目的としている(フォンセカ酒井, 2006:193)。要するに、エスノグラフィー研究法は、異文化の中で生活する集団について、自らその日常生活を何らかのかたちで経験しながらフィールドワークを行い、そこでの直接的な観察やインタビューなどで得た資料を基にしてその日常生活と文化を細部にわたって記述したものである(盛山, 2004:247)。そのエスノグラフィーは、人類学や民俗学の領域を超え、社会学、歴史学、地理学、フェミニズム、教育学、社会福祉学など、幅広い分野で用いられている(Lee, Kee-hyeung, 2009:41-42)。

英語圏における質的研究に関する方法論的議論は、一般的に、エスノグラフィーの戦略と議論に強い影響を受けている。規則性のある特定の方法の適用ということから、ポストモダンの調査姿勢へと質的研究が展開していく上で、エスノグラフィーが最も大きな影響を及ぼしたのである(ウヴェェ, 1995=2003:186-187)。

その古典的な研究を2つ挙げて見よう²⁵。まず、人類学領域における代表的研究は、ブロニスラフ・マリノフスキーの『西太平洋の遠洋航海者』(1922)である。マリノフスキーは、ニューギニア島東沖にあるトロブリアンド諸島に計2年間滞在し、現地の人々の生活を観察しながら、「クラ」と呼ばれる腕輪や首飾りの儀礼的交換システムについて研究した。また、社会学のシカゴ学派におけるウィリアム・F・ホワイトの『ストリート・コーナー・ソサエティ』(1943)も著名である。ホワイトは、イタリア系移民が集住するボストンのスラム地域に30年半の間暮らし、現地の若者たちと行動をともしながら参与観察を行った。そして、無法地帯といわれたイタリア系スラムのギャングやコミュニティが、実は独自の秩序を維持していることを明らかにした。

上記の研究から分かるように、エスノグラフィー研究法は、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、国籍、地域、言語、階級、職業などによって社会から文脈付けられた特定集団の文化を理解する研究方法であると言えよう。そして、彼/彼女らの文化を理解するため、長期間にわたり、その日常生活に参加し、観察することで発見する生きた経験をもとにエスノグラフィーを作成していたことが分かる。このような作業によって研究者が記述したエスノグラフィーは、断片的な成果物ではない。それは、研究者と他者となる対象者が長時間にわたる相互行為により生み出した構築物であり、様々な社会関係と絡み合った文脈が詳細に埋め込まれた「厚い記述(thick description)」²⁶である。要する

²⁵藤田・北村(2013)の21-22ページから2人の研究(ブロニスラフ・マリノフスキー、ウィリアム・F・ホワイト)を取り上げた。

²⁶これは、20世紀を代表する人類学者ギアーツが自身の著書、『文化の解釈学』で提唱した概念であり、文化を「歴史的に継承される意味のパターン」として見ている彼の見解のように、その記述は、表面的な行

に、エスノグラフィー研究法は、他者の文化を認め合い、理解することを目的に、文化の中で様々な意味を生み出す文脈を厚く記述することに集中する、長い時間と手間のかかるプロセスを要する研究方法であることが分かる。

3.1.2 オーディエンス・エスノグラフィー研究法の展開

本研究では、主な研究方法としてオーディエンス・エスノグラフィー研究法を用いている。オーディエンス・エスノグラフィーは、「オーディエンス」を研究対象とし、人々がメディアを利用している日常生活の現場に入って、参与観察やインタビュー調査などを行う研究方法である。その目的は、人々がどのようにメディアを利用し、その内容を解釈し、そこから意味を生み出しているのか(本研究でいう文化実践)を明らかにすることである(藤田・北村, 2013:112)。

カルチュラル・スタディーズが、このようなオーディエンス・エスノグラフィーを用いるようになった理由は、メディア消費行為を主にテキスト分析を通じた結果から解釈しようとしていた従来の研究に対する批判的検討に起因する(ターナー, 1999; フォンセカ酒井, 2006; 藤田・北村, 2013)。オーディエンス・エスノグラフィーの特徴は、メディアを利用する人々の背景にある社会関係を重視することである。なぜなら、私たちは社会関係から切り離された個人としてテレビを視聴するわけではなく、その社会にある様々なカテゴリー(階級やジェンダー、人種、エスニシティなど)に基づき、権力が不平等に配分されているなかでテレビを視聴するためである(藤田・北村, 2013:114)。要するに、カルチュラル・スタディーズは、オーディエンス・エスノグラフィーを用いて支配イデオロギーとオーディエンスが垂直関係にあると論ずる従来の研究に反論しつつ、オーディエンスの日常生活のなかで行われる様々な文化実践の意味と可能性を提起している。

このようなオーディエンス研究として主に、前述した Morley(1980)、Radway(1984)、Ang(1985)などが挙げられる。ただし、上記の研究は自身の研究をエスノグラフィーとして見ることに注意を払っている。フォンセカ酒井(2006)によると、これらの研究が、オーディエンス・エスノグラフィーという同じ「学派」として括られたのも、実は事後的なことであるという。例えば Ang は、自分の手法をエスノグラフィーと呼ぶことなく、Radway は、逆に前半の時点ではまだカルチュラル・スタディーズにおける研究蓄積の存在を知らなかったという。他方、Morley は、バーミンガム大学のカルチュラル・スタディーズ・センターで、エスノグラフィーを取り入れた新しいメディア調査法を 70 年から模索したが、受容研究の名称の方を好んでいるようだという(フォンセカ酒井, 2006:194-195)。いずれにせよ、

為のみならず、社会文化的文脈を多角度で把握したものという意味を含んでいる。

これらの研究はメディア・ポピュラー文化をいかに消費し、いかなる社会関係のなかで解読するのかという 2 つ側面を持つ研究目的を、その経験が行われるオーディエンスの日常生活から把握するエスノグラフィー的アプローチを用いて明らかにしているのである。

3.1.3 オーディエンス・エスノグラフィー研究法の有効性

オーディエンス研究にエスノグラフィー研究法が用いられることで、オーディエンスの文化実践をめぐる社会関係が具体化される。この分野に属する一連の研究では、オーディエンスを取り巻く社会関係を確かめ、その中で生み出される文化実践の抵抗的、政治的な意味を明らかにすることを目的とするため、文化的主体の日常生活の経験を理解するエスノグラフィー研究法を用いた取り組みを必要とするのである(Cho, Young-Han, 2012)。

しかし、オーディエンス・エスノグラフィー研究法は、伝統的エスノグラフィーとの相違点において、厳しい批判を受けている。例えば、ナイチンゲール(1989)は、メディア・オーディエンスとカルチュラル・スタディーズとの関連について「エスノグラフィー的」という用語を用いるのが無意味であると述べている。その理由は、2 つに分けて説明できよう(Nightingale, 1989:ターナー, 1999:205 から再引用)。1 つは、エスノグラフィー的研究とは批判的というよりもむしろ記述的なものであり、カルチュラル・スタディーズの政治的目的にそのまま適合するものではないということである。もう 1 つは、カルチュラル・スタディーズで行う他者文化との接触は、制限されたエスノグラフィー的アプローチを用いているということである。それには、家庭内で一時間半のインタビュー一度きりという場合もあり、対象者たちの日常生活の構造について複合的な理解(厚い記述)を提供するのに十分な時間とは言えないという。

このような批判は、人類学における社会集団の分析からメディア・オーディエンスの分析へと縮約されることによる方法論的妥当性や、知見の有効性に対する疑問からなる(ターナー, 1999:203; 竹内・児島・橋元, 2005:359)。この通り、オーディエンス・エスノグラフィー研究法からは、従来のような大量なデータの収集が難しいため、オーディエンスの日常生活全般や社会関係が詳細に示される「厚い記述」は困難である。しかし、本研究では伝統的エスノグラフィー研究法が、時代的变化や用いられる学問が拡大されることで、新しいアプローチが登用されていることを指摘し、その目的を共にするオーディエンス・エスノグラフィー研究法の有効性を検討したい。

近年のエスノグラフィー研究法は、「オーディエンス・エスノグラフィー」を始め、「アクティブ・インタビュー」、「フェミニスト・エスノグラフィー」、「ネイティヴ・エスノグラフィー」、「ライフストーリー」、「マルチサイテッド・エスノグラフィー」など、数々の

新しいアプローチが用いられている(藤田・北村, 2013)。多様な環境の変化のなかで、そこに存在する複雑な社会関係を記述し、理解するこのようなエスノグラフィー研究法が、方法論的限界を乗り越え、いかなる可能性や知見を発見していくのかを考察することが重要だと考えられる。

オーディエンス・エスノグラフィー研究法は、対象を「オーディエンス」という概念化された主体に限定し、文化実践に関わる経験のみを取り上げることで、方法論的問題と深い考察の不足という問題を抱えている。しかし、その目的が主体の生きた経験を記述し、理解することであることは、伝統的エスノグラフィー研究法と変わらない。理由はどうであれ、オーディエンス研究におけるエスノグラフィー的なアプローチがもたらしたひとつの帰結は、テキストにそれほど基盤をおかないポピュラー文化研究、そして日常生活の実践への関心の復権であった(ターナー, 1999:207)。この分野の一連の研究からオーディエンスの日常生活の社会関係と文化実践との矛盾や葛藤、妥協や抵抗の意味合いが明らかにされてきたのである。本研究もその延長線上に位置づけられるであろう。

3.1.4 半構造化インタビュー調査

本研究は、韓流女性ファンの文化実践とそのせめぎ合いを明らかにするために、オーディエンス・エスノグラフィー研究法を用いる。調査方法としては、研究者と対象者との相互行為によって対象者の日常生活における経験が再現される半構造化インタビューを用いる。

インタビューとは、文字通り、複数の人間の間での視点・見解のやり取り(inter views)であり、それを通して特定の知識が生み出される過程である(伊藤, 2008:4)。つまり、研究者と対象者のやり取り(相互行為)によって、特定の研究目的に沿った知識を表出することができる調査方法なのだ。インタビューは、エスノグラフィーにおいて参与観察などの付加的次元の調査方法であった(ウヴェ, 1995=2003)。それが、オーディエンス・エスノグラフィー研究においては主要調査法として用いられるほど、重要な位置を占める。

前述のように、オーディエンス・エスノグラフィーは、文化実践がいかに行われるのかを、オーディエンスの日常生活における経験に注目し、記述・解釈する方法である。そこでインタビューは、対象者の様々な経験を直接本人に尋ねることで、対象者の社会関係による文化実践が把握できる調査法として用いられてきた²⁷。このようなインタビュー調査は

²⁷インタビュー調査が用いられる理由は、対象者が自ら語る日常的データを社会的構築物としてみているため、それを通して彼/彼女たちが支配され、抑圧され、妥協していく社会構造との関係が暴きだされることが考えられているためであろう。インタビュー調査を主な調査方法として用いてきたMorley(1992)は、次のように主張している。「私の研究では、インタビューの場以外の有意義な参与観察的な調査を行わなかったため、

多くの質的研究の調査法として盛んに用いられ、研究成果を生み出している。その大きな特長を以下の2つにまとめよう。1つは、インタビュー調査で生み出されるデータは、対象者の日常的・経験的データとなることだ。それは研究者と対象者の相互行為により産出された構築物である(桜井, 2002:28; 伊藤, 2008:12)。また、研究者の質問に対象者がただ答えるような一方的な調査法ではなく、両者が情報を協力して作り出すダイナミックな過程(藤田・北村, 2013:56)から生み出されたものであるという点も意味深い。要するに、インタビュー調査においては、対象者の行為とその意味を理解するために反復的な追究過程を交わすことで、対象者の日常的・経験的データが特定の言語で整えられ、産出されるのである。もう1つは、意味の当事者性を重視し、それに応じた探求方針を持つ相互行為論の特長を生かした方法論であり、質的インタビューの焦点と方針を明確化した利点が大い研究法であることだ(伊藤, 2008:24)。なかでも、特定の文化実践における対象者本人が感じる情緒の変化などは、参与観察などでは見えにくく、対象者が直接、発話として再現するインタビュー調査を通して明確に見えてくるだろう。

このようにインタビュー調査は、「人や文化について記述する」方法であるため、「エスノグラフィックな」方法と称されるようになってきている(藤田・北村, 2013:20)。伝統的エスノグラフィー研究法からすればインタビュー調査は限定的であるかも知れないが、その目的と方向性においてエスノグラフィックなアプローチを支持していることは確かであろう。

上記のことを踏まえた上で、本研究ではオーディエンス・エスノグラフィー研究法を主な研究方法として用い、その調査法を用いて12名の韓流女性ファンのインタビュー調査を行う。インタビュー調査において、執筆者と対象者の能動的相互行為と多様な知見の発見を極大化させるため、回答の自由度が高い半構造化インタビュー調査²⁸を行った。そこで得られた彼女たちの発話を主要データにし、分析を進めていく。

3.1.5 調査概要及び質問内容

本研究では、主な調査方法としてインタビュー調査を採択している。分析に用いられる調査データは、メイン・インタビュー調査と、サブ・インタビュー調査の2回の調査デー

対象者が私に語ろうと選んだストーリーしか手がかりがないことを認めよう。しかし、これらのストーリーは限定された文化的・言語的枠組の指標であり、それを通じて対象者は回答を分節化するのである」(Morley, 1992: フォンセカ酒井, 2006:195から再引用)

²⁸ ウヴェ (2003)によると、もっとも最近の英語圏でもこのオープンなインタビュー調査により大きな関心が寄せられるようになってきているという。その背景には標準化されたインタビューや質問紙を用いたときよりも、比較的オープンに組み立てられた(=回答の自由度が高い)インタビュー状況の中で、インタビューイのものの見方がより明らかになるのではないかという期待である(Kohli, 1978: ウヴェ, 2003:94から再引用)。

タである(表 3-1 を参照)。

表 3-1 インタビュー調査の概要

調査	メイン・インタビュー調査	サブ・インタビュー調査
期間&地域	2015 年 5 月～2015 年 12 月 中部地域	2014 年 11 月中部地域
サンプル	韓国のポピュラー文化(ドラマ、音楽)が好きな人	韓国ドラマ、『私の名前はキム・サムスン』が好きな人
所要時間	一人当たり 1 時間～1 時間半程度	左に同じ
年齢	満 18 歳～24 歳	43 歳/44 歳
インタビュー方式	事前調査の結果に基づく半構造化インタビュー調査	左に同じ

メイン・インタビュー調査は、2015 年 5 月から同年 12 月にかけて中部地域在住の 10 名の韓流女性ファンを対象に行った。サンプリングは、執筆者の知り合いと、執筆者が直接韓国関連ショップや大学の第 2 外国語(韓国語)教室に出向き、「韓国のポピュラー文化(韓流)が好き」である人を抽出する形式をとった。また、抽出した対象者の知り合いを辿るスノボリーング(snowballing: インフォーマットの輪を広げていく方法)方式を加え、計 10 名のインタビュー調査対象者を選別した。調査に用いられた主な質問内容を、以下の表 3-2 にまとめた。

表 3-2 事前調査及びインタビュー調査の質問内容

項目	詳細項目	内容
韓流について	韓流消費	時期・きっかけ
		ジャンル(対象)・頻度・時間・受容手段
		受容理由、関連エピソード
		周囲、メディアの反応
嫌韓について	嫌韓認知	時期・手段・原因・自分の認識
	嫌韓	周囲の反応、関連エピソード
韓国人や韓国社会について	韓国・韓国人のイメージ	イメージ、関心度、好感度、旅行経験、韓国人友人、メディア・周囲からの印象
	韓国と日本との関係	日本との関係、政治的関係
歴史について	過去の歴史問題の葛藤	問題に対する感想や意見、問題点
	日韓関係について	解決有無・方法、日韓関係の在り方
アイデンティティについて	日本について	経済・政治・外交・文化への意見・満足度、愛国心
	自身について	生活への満足度、未来への不安感

インタビュー調査を行う前に、上記の表 3-2 の内容について対面、またはメールを通し

て事前調査を行ったため、実際のインタビュー調査においては、その解答に基づく半構造化インタビュー調査形式をとった。所要時間は、一人当たり1時間～1時間半程度であり、必要に応じては2次インタビュー調査を行った。インタビュー調査では、まず韓流女性ファンの文化実践に関するこれまでの日常的・経験的ストーリーを引き出した。さらに、「嫌韓」、韓国人と韓国社会、歴史問題、アイデンティティなどが、彼女たちの日常生活においていかに現れたのかを引き出した。

一方で、本研究では上記とは別に、執筆者が2014年に行ったインタビュー調査のデータをサブ・インタビュー調査として加える。本研究では、サンプリングを主に若年層を中心に行った。なぜなら、「韓流」の人氣が2000年後半から若年層にまで広がっているが、若年層の「韓流」消費に関する具体的な考察が過去の研究においてさほど行われていないためであった。しかし、上記のインタビュー調査に、2014年度の40代の韓流女性ファン2名を対象に行ったインタビュー調査結果(民間の韓国語教室に通う執筆者の知り合い、40代の韓流女性ファン2名を中心に、韓国ドラマ『私の名前はキム・サムスン』の視聴経験と日常生活の変化を追ったもの)を加えて分析したい。

その理由として次の2つを挙げる。1つは、「韓流」の消費層が中高年女性から若年層に移動したのではなく、拡大されているため、世代を広く設定することで、より多様化した社会関係における考察ができると考えたためである。もう1つは、2014年の調査の質問の多くが特定のドラマに限定されているものの、40代の女性ファンもドラマだけではなく、幅広い韓流ジャンルを好んでおり、様々な文化実践を行っていたことが分かったため、2015年の調査データと重なる部分が多い。したがって、韓流女性ファンの様々な社会関係を考慮しながら理解を深めるため、2014年のインタビュー調査結果も分析に加え考察することにした。

3.2. 韓流女性ファンのストーリー

ここでは、インタビュー調査を通して再現された、韓流女性ファンのストーリーを詳細に記述していく。以下の表3-3は、本研究の対象者である韓流女性ファン、12名の特徴をまとめたものである。

表 3-3 12名の韓流女性ファンの特徴

名前	年齢 (学年)	韓流への 初接触年	好むジャンル	韓国語 学習経験	韓国旅行 経験	韓流を共有する相手
A	18	2011	K-Pop/バラエティ	有	無	友達
B	19	2013	K-Pop/ドラマ	有	無	母親, 妹
C	20	2010	K-Pop/ドラマ	無	無	友達
D	19	2005	K-Pop/ドラマ	有	無	母親, 友達
E	19	2008	K-Pop/ドラマ	有	無	友達, 留学生
F	20	2007	K-Pop/ドラマ	無	無	父親, 母親, 留学生
G	21	2010	K-Pop/ドラマ	有	有	母親, 友達, 留学生
H	22	2008	K-Pop/ドラマ	有	有	母親, 友達
I	24	2011	K-Pop/ドラマ	有	有 (留学)	姉, 友達, 留学生
J	20	2007	K-Pop/ドラマ	有	有 (留学)	家族, 友達, 留学生
K	43	2003	ドラマ/K-Pop	有	有	友達, 母親, 韓国人
L	44	2005	K-Pop/ドラマ	有	有	家族, 親戚, 友達

※対象者A～Jと対象者K～Lは、インタビュー調査を行った時期が異なるため、区分して示す。

次からは、上記に整理した12名の韓流女性ファンの日常的かつ経験的なストーリーを順番に紹介していく。

3.2.1 Aのストーリー：好きなダンスを生かして「韓流」を楽しむ

A（現在大学1年生）は、愛知県長久手市に家族4人で暮らしている。彼女は、小学生の頃からダンスが好きで、中学校ではダンス部に入部し、趣味や特技としてダンス活動を行ってきた。そんな彼女が、「韓流」に遭遇したのは中学校3年生の時、友達と韓国のガールズグループ『少女時代』のダンスの真似（以下、「完コピ」）をしたことがきっかけであった。

当時通っていた学校の友達の間でK-Popが人気を集めており、「韓流」を受け入れやすい雰囲気が形成されていたという。そのため、もともとダンスを実践していたAだけに、「曲が耳に残りやすく、ダンスがみんな揃っている」K-Popは、親しみやすい文化ジャンルとして、彼女の日常生活のなかに抵抗なく入っていった。

また、父親から「ご飯を食べに韓国へ行きたい」と声をかけられたり、「韓流」が好きな伯母からは、「韓流」及び韓国関連の話題を聞かされたりするなど、自身の「韓流」消費が周囲の人々にポジティブに受け止められていた。

このように、彼女が属する学校や家庭内における「韓流」消費へのポジティブな反応は、「韓流」関連の文化実践を次々に行っていくことへのモチベーションとなっていた。現在、

彼女は大学で第2外国語として韓国語を履修し、そのなかで知り合った韓流ファンと交流している。

3.2.2 Bのストーリー：家庭内の女性同士で「韓流」を消費する

B（現在大学1年生）は、名古屋市内に家族4人で暮らしている。彼女が語るストーリーの中で興味深いことは、家庭内の女性を中心に「韓流」が共有されていくことであった。彼女が韓流ファンになったのは、高校生の時に、韓国アイドルグループ『2PM』のファンである妹からコンサートに誘われ、同行したことがきっかけであった。彼女は、K-Popアイドルグループが、外国語である日本語で頑張る「真剣さ」と「真面目さ」に感銘を受けたという。さらに、2人の姉妹が韓流ファンになることで、そのファン活動をサポートしていた母親も影響を受け、その結果、家庭内の女性全員が韓流ファンとなった。

家族のなかに同様の文化的趣向を持つ人が存在することは、彼女が韓流ファンとして文化実践を行う上で、重要な役割を果たしていた。彼女には、学校やバイト先などに、同様の文化的趣向を持つ友人がおらず、主に家族と「韓流」関連の文化実践を行っている。彼女にとって文化的趣向を分かち合える韓流ファンが、最も親密で共にいる時間が長い家族であることが、「韓流」消費及び、更なる文化実践を行うためのモチベーションとなっていたのである。

3.2.3 Cのストーリー：韓流スターの「可愛さ」に憧れる

C（現在大学1年生）の実家は岐阜県だが、大学に入ってから名古屋市内で一人暮らしを始めている。彼女は、中学校3年生の頃にテレビで遭遇した韓流スターが自身の理想像であったため韓流ファンとなった。その時から、韓流スターのビジュアルに見受けられる「可愛さ」、「格好よさ」を消費することを目的に、数々の韓流コンテンツをテレビやインターネットを通して見てきたという（これまで見たドラマの数だけでも300本を超えるという）。

彼女は、本研究で出会ったどのファンよりもテレビ（地上波放送、衛星放送）やインターネットを通して多くの韓流コンテンツに触れていた。彼女の理想像に対する「憧れ」という強い欲求は、メディアを通じたイメージの量的消費によって満たされるため、毎日多くの時間を投資し、韓流コンテンツに触れている。彼女は、他のファンと交流するなどの実践より、誰にも邪魔されない自身の私的空間のなかで好きな韓流スターが出演する韓流コンテンツをとことん見ることを楽しんでいた。その量的な海外コンテンツの消費によって、韓国文化に関する基本知識及び、韓国語能力が自然と上達し、今では日本語の字幕な

しで韓流コンテンツを見ることができるという。

3.2.4 Dのストーリー：韓流スターのギャップに憧れる

D（現在大学2年生）は、名古屋市内に家族4人で暮らしている。彼女は2005年頃、家で母親と一緒に韓国ドラマ『チャングムの誓い』を見て「韓流」に遭遇した。歴史ドラマが好きな母親が、韓国の歴史ドラマ『チャングムの誓い』を毎週見ていたことに影響を受け、共に最終話まで見たという。彼女が「韓流」に触れたきっかけは、母親とテレビ視聴をともにしていたことであるが、その時から「韓流」や韓国を「ちょっとずつ意識し始めた」と語っている。そして、2008年頃、偶然テレビで見かけた韓国の男性アイドルグループ『2PM』に刺激を受けてはまったという。彼女は、自身が「韓流」にはまる前までは、「韓流」を日本の中高年女性に起こった単なるブームの1つとして見ていたという。一度植え付けられた「韓流＝中高年女性文化」というステレオタイプは、母親の影響で「韓流」に触れる機会が多くとも変わることはなかった。数年後、彼女は「野獣アイドル」をコンセプト²⁹に登場した『2PM』のビジュアルに一目惚れし、好きになるが、それまで日本のアイドルグループ『嵐』にはまっていたことから見ると、それは全く異なる特徴を持つ文化となる。

Dは最初、『2PM』のビジュアル的な部分に惹かれていたが、ファンとしての文化実践を行っていくなかで、彼らのファンに対する「優しさ」や「メンバー同士の友情」などにも惹かれていた。さらに、作詩・作曲にも積極的に関わっている彼らの「音楽性」に惹かれ、『2PM』を「アイドル」の境界線を越えた「アーティスト」として評価していた。つまり、『2PM』を通して感じる既存のアイドルと異なるギャップが日々の刺激となり、7年もの長い間、飽きることなく文化実践を続けているという。

「韓流」をきっかけに国際交流に関心が芽生えたDは、現在大学で「交流文化」を主な専門分野にし、勉強を続けている。さらに、彼女は「韓流」アイドルのなかに中国人が混成されているグループがあることをきっかけに、中国や中国語にも関心が芽生え、第2外国語として中国語を履修している。

3.2.5 Eのストーリー：「韓流」を通して日常生活を元気づける

E（現在大学2年生）は、岐阜県に家族4人で暮らしている。彼女は、2008年頃テレビのミュージック番組に出演していた韓国のアイドルグループ『東方神起』に遭遇し、はまっ

²⁹『スターニュース』（2009/06/18）によれば、『2PM』のコンセプトが、パフォーマンスボーイバンドとしてアクロバティックという特技と、独特な男臭い男性性をアピールすることから、ファンから「野獣アイドル」というあだ名が付けられたという。

たという。『東方神起』は、2005年に日本でデビューし、2008年と2009年連続でNHKの『紅白歌合戦』に出演するほど、日本でも有名なK-Popアイドルである。

『東方神起』は中高年女性を中心に日本で韓国ドラマの人気の高まる時期にデビューした。その後、メンバーの一人が出演した韓国ドラマ『成均館スキャンダル』などが日本で放送されることで人気を集め、中高年女性から若い女性たちにかけて幅広いファン層が形成されるようになる。ビジュアル的に「格好いい」だけではなく、音楽性を持ち、外国人歌手でありながらも日本語で真面目に頑張る『東方神起』の姿は、彼女の日常生活に新たな刺激を与えていた。彼女は、メディアを通して彼らの姿を見たり、音楽を聴いたりすることで、平凡であった日常生活に楽しさが芽生え、毎日元気や勇気をもらっているという。

現在は、愛知県内にある外国語大学に通っている。外国語大学は、韓国を含む外国が好きな人がたくさんいる場とであるため、その中で多くの韓流ファンと「韓流」に関する情報を共有できるコミュニティに参加し、ほぼ毎日交流している。彼女は、『東方神起』に遭遇してから、約7年もの長い間彼らのファンであり続けている。

3.2.6 Fのストーリー：アーティストとしてのK-Popアイドルに共感する

F（現在大学2年生）は、家族5人で実家の静岡に住んでいたが、大学に入学してから名古屋市内の寮で一人暮らしをしている。彼女が「韓流」に遭遇したのは当時一緒に住んでいた両親の影響が大きい。家庭内で「韓流」を好んでいた両親の文化的趣向が、当時一緒にテレビを見る時間が多かったFに伝授されていたのである。

彼女は、2010年頃、韓国のガールズグループ『KARA』にはまっていた父親の影響で、父親と一緒にテレビで『KARA』を頻繁に見るようになったという。音楽性のあるアーティストが好きな彼女は、偶々耳にした『KARA』の歌唱力や完成度の高いパフォーマンスに惹かれ、自らインターネットやDVDを借りて見るようになっていた。さらに、母親としばしば共に韓国ドラマの視聴を続けるうちに、長編(一般的に16話編成～100話超えるものもある)に渡り展開されるストーリーや人間関係が濃密で細かく描写される韓国ドラマの特徴に惹かれて、韓国ドラマにもはまったという。

彼女が語った文化実践の1つに、「完コピ」がある。彼女の中学校や高校ではK-Popの人气が高く、「韓流」がクラス共通の話題として時々上がっていたという。中でも、韓国のガールズグループ、『少女時代』や『KARA』の曲が流行していたため、女子生徒を中心に「完コピ」を実践する動きがあったという。彼女は「完コピ」を教室などで練習し、学園祭で披露するなど、K-Popを介して楽しい青春時代を過ごしたと語っていた。

現在、彼女は名古屋で一人暮らしをしており、身近に韓流ファンがいないため、家族や

友達と一緒に「韓流」を楽しむことはできないが、スマートフォンで韓流コンテンツを見たり、同じ寮に住んでいる韓国人の留学生と交流したりするなど、「韓流」関連の文化実践を続けている。

4.2.7 Gのストーリー：既存文化と異なる「韓流」が好きだ

G（現在大学3年生）は、名古屋市内に家族4人で暮らしている。彼女は高校の時、仲の良い友達からすすめられた『東方神起』に遭遇して以来、友達から映像や音楽を繰り返し薦められることで、いつの間にか本人もはまっていったという。彼女は、「アイドルなのに、アーティスティック」、「礼儀正しい」など、日本のアイドルには見られない異質な「韓流」が好きになったという。彼女は既存文化とは異なる特徴を持つ「韓流」を好む自身の文化的趣向を、「特別なこだわり」とであると評価していた。

その背景には、次のような家庭環境が深く関わっている。彼女の父親は、大学で韓国語を専攻しており、それをきっかけに彼女が小さい時から韓国や中国人留学生を対象にホームステイを行っていたという。彼女は、子どもの時から家庭内で韓国人や中国人と触れ合っていたため、多文化共生意識が芽生えていた。その流れで小学生の頃、韓国出身の歌手、『BoA』が好きだったという³⁰。数年後、友達の影響で遭遇した『東方神起』の異質な特徴に大きな刺激を受け、韓流ファンになったのである。

このような文脈を持つ彼女は、韓国を始め、中国やロシアなど、日本と対立関係におかれているアジア諸国に対し、強い問題意識を持っており、諸国との架け橋的存在になることを目指して、現在所属学部内のASEAN(地域発展のための国際協力リーダーを育成する事業)で活動している。さらに、大学にいる留学生とも毎日交流しており、外務官になる夢を持っている。

³⁰以下を、韓国コンテンツ振興院「日本コンテンツ産業動向」（2012年14号）から引用した。日本では「韓流」及びK-Popという用語が登場する以前から、韓国人歌手「イ・ソング」、「ゲェ・ウンスク」、「キム・ヨンジャ」などの演歌系の歌手が活動していたが、韓国歌謡のヒットは非常に散発的であり、ヒットしてもほとんど日本の演歌風の楽曲であった。それ以降、「韓流」の前兆とも言える韓国歌手の日本進出は、ガールズグループ『S.E.S.』からスタートしたと言えるが、ビジネス的側面からみると成功とは言えなかった。その後、2001年『BoA』が日本デビューを果たし、日本の音楽番組、バラエティなどに出演し、大衆の人気を集め、ビジネス的に成功を収めた。しかし彼女は、韓国歌手としての特色を消し、完璧な日本語を駆使し、日本語でアルバムを出して活動するなど、J-Pop歌手として日本で活動しているため、K-Popとは異なると言える。2003年の『冬のソナタ』の放映以降、韓国ドラマが大ヒットすることでOSTの人気の高まるなか、OSTを歌う歌手のスター性は弱かった一方で、ドラマファンを中心に楽曲が愛されていった。これらのドラマOSTの歌手らは、韓国人であり、その歌も韓国語であったため、第1世代K-Popとも評価できる。その後日本でデビューした『東方神起』、『BIGBANG』などの男性グループが成功していき、2010年には『少女時代』、『KARA』などの女性グループも大ヒットする。2010年から次々と、『2PM』、『SHINee』、『CNBLUE』、『FTISLAND』など、K-Popアイドルグループが日本でデビューし、多くの人から人気を集めながら活動している。

3.2.8 Hのストーリー：「韓流」と出会い、韓国を身近に感じる

H（現在大学4年生）は、三重県に家族3人で暮らしている。彼女は、日本で韓国ドラマ『冬のソナタ』が人気を集め始めた「韓流1.0」時期に、猛烈な韓流ファンとなった母親の影響を受け、小学生の頃から「韓流」に遭遇していた。彼女は、母親と共に韓国ドラマを視聴したり、韓国に旅行に出かけたり、様々な文化実践を積み重ねていくうちに、徐々に「韓流」にはまったという。

彼女のストーリーで興味深いのは、父親と母親で韓国に対する意識が割れていることである。父親は、今日のように経済的発展を成し遂げる以前の韓国、つまり1980年代に仕事で頻繁に韓国を訪ねていたため、韓国に対するネガティブなイメージを抱いている。一方で、母親は、2003年以降、「韓流」を通して発展している韓国に触れ、ポジティブなイメージを抱いている。彼女は、小さい時から父親を通して韓国に対するネガティブな話を聞いていたため、自身も韓国に対しネガティブなイメージを持っていたという。しかし、母親が「ヨン様」の熱狂的なファンになり、母親と共に「韓流」に触れていくうちに、韓国に対するイメージが変わり、「韓流」にも好感を抱くようになったと語っていた。

彼女が「韓流」ファンになったのは、「韓流」に遭遇してから4～5年経った2008年頃であった。偶然テレビで見かけたK-Popアイドル『東方神起』のビジュアル的な格好良さと、親切で礼儀正しいなどの、既存の日本のアイドルにはない異質な特徴に惹かれていた。もともと韓国にネガティブなイメージを抱いていた彼女が韓流ファンになったことには、先に「韓流」にはまった母親が積極的に「韓流」を娘に伝え、一緒に文化実践を行ってきた長年の蓄積の結果と、それに、異質なK-Popの特徴が彼女の情緒に強い刺激を与えたためであろう。彼女は、現在上級レベルの韓国語能力を持っており、母親を始め、友達など、多くの韓流ファンと「韓流」を楽しんでいる。

3.2.9 Iのストーリー：「韓流」を韓国語学習に役立てる

I（現在、大学院生）は、大学までは仙台に家族7人（祖父、祖母、父、母、姉、姉、自分）で暮らしていたが、名古屋の大学院に進学してからは、名古屋市で一人暮らしをしている。彼女は、特に仲の良かった2番目の姉が2005年頃から韓国の俳優「イ・ビョンホン」を好きになったため、一緒に韓国ドラマを見ることが日常茶飯事になったという。彼女は、自ら韓国ドラマを見ることはなかったが、日常生活にありそうな設定やストーリーを描きながらも所々で劇的な展開をする韓国ドラマのドラマチックな特徴に惹かれ、韓国ドラマの視聴を楽しんでいたという。2010年頃になり、大学で韓国人留学生と交流し始めたことをきっかけに、K-Popにも興味が芽生え、「韓流」の積極的なファンになった。

それから、I は隣国韓国への興味・関心が急速に高まり、第 2 外国語として韓国語の履修や、韓国史の履修、韓国社会における日本語教育に興味を持ち、韓国に 1 年間留学した。彼女は、好きな韓流コンテンツを、自身の韓国語学習と研究に生かすことができ一石二鳥の結果を得たという。一方、彼女にとって韓国への留学は、好きな韓国をより深く理解できる良い面だけでなく、歴史的葛藤の根の深さや日韓の政治的対立に改善の余地がない複雑なものであることを痛感する悪い一面も持ち合わせていたようである。しかし、それが I の「韓流」消費に大きな影響を与えることはなく、今もなおインターネットを通して毎日韓国のニュース、ドラマ、歌謡、バラエティなど、「韓流」や韓国情報に多くの時間触れている。

3.3.10 J のストーリー：「韓流」によって自信を高める

J（現在大学 1 年生）は、生まれは大阪だが、小学生の際に愛知県豊田市へ引っ越し、家族 6 人（父親、母親、姉、姉、自分、弟）で暮している。彼女は、日本生まれ、日本育ちの在日コリアン 3 世の父親と、日本人の母親の間に生まれた、言わば「ハーフ」と言われる特殊な民族アイデンティティを持っている。父親が在日本大韓民国（民団）の団体に所属し、民族活動を行っているため、彼女は家庭内で韓国文化に触れるチャンスが多く、幼い頃から自分のルーツを知っていた。そんな彼女は自分のルーツをありのまま受け入れ、社会とうまくバランスをとりながら暮らすように努力しているものの、葛藤や苦労も抱いていた。

彼女が日本社会で自身の民族アイデンティティを受け入れ、カミングアウトするまでは、それなりの時間がかかっていた。家庭が他の在日コリアンの家庭に比べ、韓国文化に比較的に多く触れてはいるものの、彼女自身は日本名で日本の教育を受けており、韓国語が駆使できなかったため、駆使できる兄弟との間で疎外感を感じていたという。さらに、学校の友達からハーフであることでネガティブな反応が返ってくることを経験し、複雑な民族アイデンティティを抱いていたという。

しかし、「韓流」の人気により、同年代の間でも韓国に親しみやすい雰囲気が形成されたことは、日本社会を生きる彼女の民族アイデンティティの構築に重要な影響を及ぼしていた。彼女自身も 2001 年に日本で『BoA』が J-Pop の韓国人歌手としてデビューした当時から関心を持っており、その後、韓国のアイドルグループ『SHINee』を好きになることで、姉や友達と一緒に「韓流」を共有しながらコンサートに行ったり、カラオケに行ったりするなど、様々な文化実践を行う韓流ファンになっていた。2014 年、約 1 年間の韓国留学を経験したことで韓国語が上達し、自分の民族アイデンティティを明確に構築したという。

いまは「ハーフ」としての自分を堂々とカミングアウトしていた。

3.2.11 Kのストーリー：「韓流」を通して現実社会の不安やストレスを消去する

現在K（独身女性43歳）は、外資系大手企業の派遣社員として、名古屋市内で一人暮らしをしている。彼女は、『冬のソナタ』が流行っていた2004年頃、「社会的に話題になっているあのドラマが見てみたい」と思い、DVDを借りて見たのが、韓流ファンになるきっかけであった。

当時『冬のソナタ』を視聴し、「一回見るとやめられない、最後まで見ないと気がすまない」と思い、日々の仕事で忙しいなか、休みの日に一気に視聴していったという。このように韓国ドラマの中毒性は、彼女を積極的な韓流ファンに変えていった。彼女は、主にテレビを通して放送される韓国ドラマを次々と見ていたが、面白いと感じた韓国ドラマは、DVDを借りて繰り返し視聴するなど、集中的視聴傾向を見せていた。また、韓国の俳優「イ・ジョンジェ」が好きで、ファンミーティングや映画上映会に参加するために日本全国又は韓国に行くほど、積極的な文化実践を行っている。彼女が好んで何度も見てきた韓国ドラマは、『私の名前は、キム・サムスン』や『タルジャの春』、『ファンタスティックカップル』など、主に女性主人公が正々堂々と社会を生きる姿を描いたものが多い。

そのなかでも『私の名前は、キム・サムスン』は、彼女が最も感情移入し、女性主人公の役柄に自身を投影しつつ深い共感を得たドラマであったという。日本社会において派遣社員として生きる40代の独身女性である彼女は、低賃金で契約がいつ切れるか分からない不安な毎日を送っている。実際、彼女は半年ほど、契約切れによる無職を経験しており、当時テレビでたまたま見かけた『私の名前はキム・サムスン』を見て、歯に衣着せぬ物の言い方で正々堂々と生きる主人公の姿に惹かれていた。そして、その視聴経験が自身の日常生活を生きるモチベーションとなっており、いまでも現実社会における不安やあらゆるストレスを発散させてくれる作品であるという。

3.2.12 Lのストーリー：「韓流」と通して好きだった韓国をもっと知っていく

現在L（既婚女性44歳）は、三重県内の個人歯科で歯科衛生士として働き、三重県に夫婦2人で暮している。彼女は、昔から韓国に旅行に行く父親、韓国に短期留学した兄を持つなど、比較的に韓国に関心の強い家庭内で育ったため、自身も韓国に関心を持っていた。彼女にとって「韓流」は、好きな韓国をより知るためのきっかけとなっていた。例えば、「韓流」に人気が集まることで家の近くに韓国語教室が新しくできたこと、韓国料理屋が多くできたこと、韓国が好きな人が増えたことなど、彼女に韓国関連の文化実践を促す要素が

多く現れたのである。その1つとして、2005年頃から家の近くにできた韓国語教室に通い始め、今でも韓国語学習に取り組んでいる。彼女は韓国語学習の勉強のために、当時人気のあった韓国ドラマを見始めた。しかし、勉強のために始めた韓国ドラマの視聴が、いつの間にかDVDを所蔵し、何度も見るほど感情移入し、集中視聴するほどにはまっていった。

有職女性であり、主婦である彼女が「韓流」を積極的に消費していくには、多くの制約がある。しかし、主に会社から帰宅してからの 1-2 時間や、夫と休みの合わない平日休みを利用して好きな韓国ドラマを見たり、韓国語の勉強をしたりしている。さらに 2009 年頃、通い先の韓国語教室の教師からプレゼントされた韓国の男性グループ『BIGBANG』の CD を聴いて、メロディが好きになることで彼らのファンとなった。そこから K-Pop も好きになった彼女は、家のなかや外出時に車のなかで夫と一緒に K-Pop を聴くことで、夫も K-Pop を好むようになり、今では夫婦で K-Pop のコンサートや、韓国旅行を行っている。

第4章 「韓流」を通した快樂の文化実践

本章では、韓流女性ファン12名のインタビュー調査を通して現れた文化実践の特徴について論じる。インタビュー調査を通して語られていく彼女たちの文化実践過程には共通して快樂が見られた。彼女たちにとって「韓流」がいかなる文化であり、その「韓流」を通していかなる能動的文化実践を行うことで快樂を感じていたのかを、それぞれの日常的・経験的データのなかから分析していく。

4.1 トランスナショナルな文化の「差異」を楽しむ

彼女たちの「韓流」を通した文化実践において最も重要なのは、彼女たちが日本のポピュラー文化との差異を楽しんでいたということである。トランスナショナルな文化を論じる際、差異は重要な特徴として挙げられる。自国文化と差異を持つ異文化への接触欲求と、それを通して発生する新しさに対する快樂は、海外発信の文化を消費するオーディエンスを説明する際、たびたび取り上げられる(Yang, Eun-Kyung, 2003; 河津, 2009)。今日のように、世界各国のポピュラー文化が越境し、日常的に消費されている状況では、トランスナショナルな文化の差異をめぐる理解が重要な課題となってくる。これは、日本における「韓流」を語る際にも例外ではない。

本章で取り上げている彼女たちの多くが「韓流」と既存文化との差異に惹かれたと答えていた。彼女たちが語る「韓流」の差異を羅列すると、ドラマなら、「ストレートな愛情表現」、「人間関係の密接さ」、「予想外の展開」など、K-Popなら、「セクシー」、「歌唱力が高い」、「曲が良い」、「ダンスが上手い」、「礼儀正しい」、「真面目」などであった。このような差異を彼女たちが具体的にどう消費していたのかを見ていこう。

好きになる前はそんなに、熱中したことないです。小栗旬は大好きです。でも、小さい時だったので、小栗旬さんはコンサートもないし、友達と一緒にDVDを家で見るぐらいだったので、そんなに熱中せず…韓国のアイドルは)ただただ格好いい(笑)、格好いいし、後なんか、髪型がすごく、スタイル?!あと、礼儀正しい気がするので、日本のアイドルはちゃらっと!ですけど、韓国のアイドルはこう、韓国のアイドルの方がきちっとしているかなというイメージ、コンサートに行くたびにやっぱり好きになります。やっぱり異国の日本で全部日本語で伝えてくれるところとか、そこが格好いいなと思いますし、すごくいろんな人に気を配っているところが、上の人にも場所のよく見えない人にも声をかけてくれるところがやっぱり素敵だなんて、人柄が、最初は歌が好きだったけど、今はキャラクター?!歌はメロディが違う。でも、なん

か、日本の歌はやっぱり日本ぽくなってるので、私はどちらかというと韓国原曲の方が好きです。韓国語で聴く方が好きです。リズムが違う。発音？が韓国語の方が可愛いし、格好いい。日本語の曲よりもなんかいいなと思います。

G (大学3年生, 21歳)

Gは、「韓流」に出会う前までは平凡な学生として日常生活を過ごしており、文化領域においても単なるオーディエンスに過ぎなかった。それが「韓流」に遭遇し、既存文化と異なる韓流アイドルの「セクシー」「曲がいい」「礼儀正しい」などの差異に触れることで、それを能動的に受け入れるファンに変貌していた。ここで興味深いことは、彼女たちが既存文化との差異に、距離感や拒否感を抱くことなく、かえってそれを自身の個性的な文化的趣向と結びつけていたことである。それはGのみならず、彼女たちの多くから見られる傾向であった。「韓流」に触れるようになったきっかけはそれぞれ異なるが、彼女たちは、「韓流」を通して自身の個性的な文化的趣向を発見し、差異の特徴を持つトランスナショナルな文化をどんどん受け入れていったのである。

私は、日本のアイドルと別で、アイドルが好きなんじゃなくて、K-Popのアイドルが好きなの！

C (大学1年生, 19歳)

また、彼女たちは常に既存文化と比較しながら「韓流」の差異を消費していた。Cは、「韓流」に触れる前までは誰のファンでもなかった。それが「韓流」と出会い、差異を消費することの快楽を体験することで、彼女は自身の個性的な文化的趣向をより強めていった。このように、GとCを含む彼女たちは、「韓流」の異質な特徴を個性的な文化的趣向とマッチさせながら、トランスナショナルな文化のファンとして変貌していったのである。

ここで重要な特徴は、彼女たちが個性的な文化的趣向を持つことや、既存文化に満足できないことなどではない。それは、彼女たちが「韓流」の差異を受け入れながら快楽を感じていたことである。言い換えると、彼女たちが「韓流」という既存文化と異質な他者を自身の日常生活に受け入れながら楽しむような多様性を見せていたことである。

このような特徴は、「韓流」がドラマを中心に展開していく「韓流 1.0」期にも見られていた。韓国ドラマが持つ日本ドラマとの差異は、『冬のソナタ』を始め、韓国ドラマに見られる、愛に全てをなげうち全てを包み込むような「純愛」や、家族関係の親密性などであり、これが多くの中高年女性の「ノスタルジア」の対象となっていた(毛利, 2004; 林, 2005;

岩淵, 2007)。日本のドラマと韓国ドラマの差異に関する指摘は、これまで多くなされてきた(平田, 2005; 林, 2005; 小倉, 2007; イ, 2008)。コラムニストである小泉すみれは、「韓国ドラマは、日本のトレンドドラマやホームドラマが再現できなかった女性と家族関係をうまく描写しており、何か欠乏していた日本のドラマ系に反響を及ぼした新たなジャンルである」(平田, 2005:32-35 から再引用)と語っている。ドラマにおける「韓流」の差異を受け入れながら文化的欲求を満たしている中高年女性たちが、新たな主体として浮上したことも、前例のない社会現象として当時は世間の注目を浴びていた。

今日、彼女たちはドラマだけではなく、歌謡にまでジャンルを拡大した「韓流」の様々な差異を楽しむことで、トランスナショナルな文化「韓流」のファンになっていた。

4.2 消え去った「男性性」に対する快楽的追求

彼女たちの文化実践において、「韓流」の男性性を追い求める能動性が見られた。彼女たちは、「韓流」の魅力を「格好良さや男らしさから感じるドキメキ感」と語っていた。女性が映画やドラマ、音楽というポピュラー文化を通して、異性である男性俳優やアーティストの「格好よさ」に恋愛感情を感じることは日本やアメリカ文化においてもしばしば見られる特徴であろう。しかし、彼女たちが感じる「韓流」の男性性は単純に「格好よさや男らしさ」を意味するものではなかった。それを、日本という地域のポピュラー文化の特徴と、ジェンダー的観点から見えていく。

朝のニュース番組で野獣アイドルが日本にやってきたみたいなのやつでパッと目にして、また韓流か、みたいな感じで、パッとテレビ見たら「テギョン(メンバーの一人)」いるじゃないですか。一目惚れして(笑)、それで雑誌とか色々読んで、ネットで調べていくうちにはまって今に至ります。人の野性的な感じ〜(笑) いや〜でも野性的な感じもありつつ、わりと性格は野生っていう感じよりはなんか、フレンドリーな性格なんで、そのギャップというか、もう他のメンバーもわりと脱いだり、キンキンって感じなんですけど、みんな最近すごく作詞・作曲を頑張ってる、なんか、そういう場面でも頑張ってるんだなとすごい感動しました。

D (大学2年生, 20歳)

Dは、韓流アイドルの「筋肉」や「野獣性」など、男性的な見た目のセクシーさから感じられる「男性性(masculinity)」にはまっていた。彼女が語る韓流アイドルの男性性は、「今まで見たことない、独特で、セクシーな感じ」だった。韓流アイドルについて、コラ

ムニストである北原（2013）は、日本で男性性をアピールするダンスグループ『EXILE』と比較しながら次のように語っている。『EXILE』からは、「他者を威嚇するパワーや、男の沽券、というような価値を感じる日本人の男らしさ」を感じる一方で、韓流アイドルからは「美とエロスしか感じない。180センチを優に超すしなやかな身体で腰を前後に振るエロイダンスと、完璧な白肌で微笑む男」であるという（北原, 2013:48-49）。

本研究では、北原の分析結果にあるセクシーという視覚的男性性以外にも少しその範囲を広げて解釈する。Dの語りを見ると、彼女が最初に「韓流」にはまった理由は「強くてセクシー」な視覚的男性性であったが、その裏に隠れていたフレンドリーさと、作詞作曲まで可能という万能な能力を持つことにますます惹かれていったことが分かる。同様に、E（大学2年生, 20歳）は「色んな人が見ても格好いいと言えることを全部持っている気がする」と語っている。要するに、彼女たちが感じる「韓流」の男性性は、容貌や身長、筋肉など外見的な男性的強さ（toughness）に加え、技術的な能力と相手を配慮する紳士的な面が全て備えられた完璧な理想像であるといえよう³¹。

似たような特徴が、彼女たちの韓国ドラマ視聴の感想から見られた。

日本で放映されてるのをそのまま見る感じですけど、日本のドラマを見るよりももうちょっと関心高い感じです。特に恋愛ドラマとか見ると「エイ！」とかなるんで（笑）ストレートで臭い台詞を言うのが面白くて（笑）そういう表現が日本のドラマにはないので、ちょっと隠しながら見る、ちょっとこれ19禁以上でしょう〜25禁でしょう〜、みたいな（笑）

H（大学4年生, 22歳）

Hは、韓国ドラマの中で描かれるラブストーリーのなかで、強い男性に愛されて守られる女性という設定や、男性の情熱的で濃密な愛の表現などに、心はずませていた。彼女は、男性の消極さについて不満を抱いており、それとは正反対に積極的に恋愛関係を築こうとする韓国ドラマの男性俳優を見ながら、自身の性的欲求を満たしていた。たびたび男

³¹徳田（2010）は、国民的アイドルを次々と出演させている「ジャニーズ」事務所の所属タレントについては「美少年」、「爽やか」、「スポーツ万能」といったイメージが広く定着していると述べている。これらとともに「男性性の薄さ」も特徴として数えられる（2010：22）。ジャニーズアイドルの外見上の「男性性の薄さ」は、その未熟さや幼児性、少年性を強調するものであり、その姿がファンの母性本能を刺激するものであったと分析している（2010：42）。

一方で、K-Pop アイドルに関する分析はジャニーズアイドルに関する徳田の分析とは反対の結果を示している。韓国文化産業交流財団（2014）の「2013 韓流白書」によると、K-Pop アイドルは数年間の練習生過程を経て歌唱力、ダンス力、外国語能力、自己管理能力などについて、徹底的に教育を受け完璧に近くなるようトレーニングされる育成プログラムを受けているという。さらに、グループの場合、華麗なるボーカルとダンス、強烈なリズム、魅力的な外見などを備えていることが特徴として挙げられるという（韓国文化産業交流財団, 2014:27）

性の消極さを指す際に用いられる表現、「草食男子」現象について山田・開内(2012)は、男女関係における男性のガツガツしない消極性は、1990年代前(1970年代から)まではなかったものであると述べ、日本社会がガラパゴス化し、男女交際に関して競争的環境にないことがその原因であると指摘している(2012:118-119)。今日、日本人男性の多くが草食化していることに比べ、外国の場合、積極的にアプローチしなければ他の男性に先を越されてしまう傾向もある(山田・開内, 2012:120)。このような背景から、積極的でストレートに愛を語る男性像を描いている韓国ドラマが、日本で人気を集めた理由を見つけられることができよう。

このように、「完璧な男性性」を求める彼女たちの欲求に対して、未だに女性は男性に守られるという家父長制イデオロギーの枠組みから離れられていないと指摘があるかも知れない。しかし、彼女たちがその男性性を消費することで得た快楽を家父長制イデオロギーに迎合した結果物として見ることは誤った解釈であると考えられる。なぜなら、彼女たちは「完璧な男性性」を自身の性的対象として消費することで、潜在していた自身の性的欲求を満たしているからである。女性が自身のセクシュアリティを満たしていく行為はジェンダー的側面から見ると大きな意味がある。これまでの社会において、セクシュアリティを楽しむことは男性に限られており、女性は性的対象として客体化されることが多かった。しかし、女性たちが「完璧な男性性」を見つけ出し、それを自身のセクシュアリティを満たすための手段として消費することからは、ジェンダー的権力関係の亀裂が伺えるのである。

4.3 「私との関連性」から感じる快楽

彼女たちは、韓流コンテンツや韓流スターを自身と関連付けて消費することで、「同一化」や、「親密性」を感じていた。今日、私たちは無数のメディア・コンテンツから自身の日常的興味や関心していくコンテンツに能動的に触れている。それと同じく、本研究で取り上げている韓流女性ファンも「韓流」を「私との関連性」から消費していることが分かった。

以下は、韓国ドラマ『私の名前はキム・サムスン』が好きなKが、ドラマの登場人物の経験と自身の日常生活における経験を同一のものであると感じていたという語りである。

日本のドラマは、遠いところの職業だったりとかが多いので、あまり同じ目線で見られないですね。すごく若い子のお話とか、弁護士だったり医者だったりというのが多いので、普通のOLさんでもちょっと贅沢なOLさんとかなので、あまり共感は出来ませんね。(韓国ドラマの設定は)あり得ると思いますね。相手の男性主人公が、その社長さんというの

がまれだっただけで、後は別に普通の家庭だし、なんか恋愛のごちゃごちゃも普通にあり得る話だったし、そう思いますね。…（ドラマの中で）最初彼女も無職から始まったと思うんですけど、そこが当時の私と一緒にだったので、そこは、どうなるんだろう、仕事がすぐ見つかるの良いな～とか（笑）やっぱり手に職を持った方が良いんだろうなというふうに思いながら見ました。彼女は結構どん欲に探していたと思うので、『キム・サムスン』を見る度に自分も働くためにはああだこうだ言ったらだめだし、もっと一生懸命に探さないとだめだな～と思いました。…やっぱり、彼女ははっきりものを言うので、それ見ていると、自分はあまり言えないので、（当時の）面接官とかに代わりに言ってもらっているような、自分だったらそういうふうに言えないだろうなというのも彼女は言っていたんで…

K（大手派遣社員、43歳）

当時、無職であったKは韓国ドラマ『私の名前はキム・サムスン』を見て、主人公、「キム・サムスン」の歯に衣着せぬものの言い方で、正々堂々と生きていく姿に感銘を受けていたのである。彼女は等身大の女性主人公が無職であったことから、自分と同じだと思い、同一化しながらそのドラマに感情移入していた。仕事がなく不安な毎日を送っていたKにとって、権力を持つ上司や社会に向けて言いたいことをズバリ発言する女性主人公の姿は憧れの対象であった。K自身が日常生活で同じように発言できないため、「キム・サムスン」を代弁者で見立てることで、「スカッ」とした快感を感じていたのである。フィスク（1987a=1996）によると、同一化の報酬は快楽であるという。この快楽は、イデオロギー的に生起する快楽ではなく、視聴者と登場人物との間に成立する関係の、より広範な統制にかかわる快楽である（1987a=1996:261）。彼女が感じた快楽は、虚構のドラマを通した代理的な満足であったが、それが厳しい日常生活に立ち向かって生きる力のモチベーションとなっていたのである。

このように、テレビドラマの虚構の世界に現実にはない満足を求め、共感するオーディエンスの心理を、もう少し詳細に考察しよう。よく、韓国ドラマのストーリー展開は、現実的な側面に焦点を当てて展開される日本のドラマに比べ、非現実的なものが多いと言われている（Park, Jo-won・Hyun, Moo-am 他, 2005:84）。財閥系男性主人公とのシンデレラストーリーや、主人公の事故、病気などの悲劇的設定から発展したクライマックスの展開などの非現実性は、韓国ドラマによく登場する特徴である³²。しかし、不思議なことに非現実性を描くドラマを見ながら、そこに代理的満足を求め、情緒的に共感する傾向は稀ではない。これは、

³² 『PD JOURNAL』に（2015/10/29）によると、不倫や裏切り・復讐、衝撃的な出生の秘密、記憶喪失になる主人公、頻繁に登場する財閥家、悪役の熱戦、突発的な展開などが上げられる。

Ang(1985)の研究でも明らかになっている。Ang は、ドラマのなかに非現実的で誇張された設定が多く含まれていても、それらがオーディエンスの情緒に強く訴えかけるとき、そこには「情緒的リアリズム(emotional realism)」が生まれると述べている。この「情緒的リアリズム」が、オーディエンスがドラマから快楽を感じる重要な要素となる。また、Radway(1984)の研究が示したように、ポピュラー文化の登場人物を自身の代理人として捉えることで得られる快楽は、オーディエンスの日常生活にポジティブな影響を与える。Kが、「無職である主人公の悲惨な日常生活」から「私との関連性」を見つけ、女性主人公の経験に代理的な満足を感じることで生じる快楽は、K自身の「就職活動の奮発」に還元されていた。

「韓流」を「私との関連性」のなかで楽しみ、日々モチベーションを上げていくことは、彼女たちの「韓流スターとの関係」においても見られた。

あまり日本の方知らないですけど、例えばジャニーズとかと比べるとやっぱりダンスとか公開度が、結構「Twitter」してたりとか、色んな情報媒体で色んな情報が見れたりするので、もっと近い感じがしたりしますね。

I (大学院生, 24歳)

…芸能人ってあまりネット見ないという人もいないじゃないですか。でもすごい「Twitter」をよく見て、今ファンはこんな感じだから次はこういう曲を作ろうとか、こういう振る舞いをしようとか考えたりするらしいですし、後普通にファン同士が会話している中でちょっつかいかけて、会話に入ってきたりするのを見て、親しみやすいというか、アイドルといったらなんかちょっと差がある感じじゃないですか…

D (大学2年生, 20歳)

上記の I と D は、韓流スターとファンの距離が近いことに感銘を受けていた。彼女たちが知る韓流スターは、ソーシャルネットワーキングサービス(以下、SNS)などを通してプライベートな写真・動画・メッセージを公開したり、ファンとのコミュニケーションに積極的に参加したりするなど、ファンに対し真摯に接していた。その韓流スターの姿を見て、彼女たちは「私との関連性」を深め、親密で、リアルな関係に在るという虚構の世界を描き出していた。韓国国内においても芸能人のファンに対する愛は、しばしば「ファンバカ³³」

³³K-Pop アイドル歌手が、人気の度合いに応じて順位をつける音楽番組で1位をとったり、コンサートなどでファンの歓声を聞いたりした際に、カメラやファンの前で90度のお辞儀をする、または涙を流すなどの姿がメディアでたびたび報道されている。過酷な練習生過程を経て、人気アイドルになるまでの努力の時間が長い分、彼らを応援し支えてくれるファンへの感謝は大きい。そのために K-Pop アイドルは、些細なこともファンと一緒に分かち合うために SNS などを通してファンへのメッセージを送っている。そういつ

という名称でメディアに取り上げられる。スターという立場にも関わらず、常に支持し、応援してくれる「ファンのため」に積極的に感謝の気持ちを表す韓流スターの姿勢は、日本のファンに対しても同様であった。それ故彼女たちは、韓流スターと積極的にコミュニケーションをとりながら親密な関係性を想像し、快樂を感じていたのである。

また、彼女たちは、親密さを感じさせる距離感にいる K-Pop アイドルの日々努力するイメージを能動的に消費し、そこから得られた快樂を自身の日常生活に適用していた。

あ〜だいぶ、楽しくなりました。なんか、もしちょっと落ち込んでも、まあ、いいや、
聴こう〜と、現実逃避かもしれないですけど、楽しいことがあるから、あとなんか、
やっぱり頑張っている人が多いので、『東方神起』も今も軍隊の様子とかも見てるし、
もっと私より辛い人がいるなど見て、私ももう少し頑張ろうと思うので。

G (大学3年生, 21歳)

韓国における徴兵制度や、韓流アイドルとして求められる能力や日々の努力などは、Gの日常生活空間においての文脈とは重ならない部分も多いだろう。しかし、韓流スターと密接な関係性を結ぶことで、Gにとって彼らの文脈や行為は自身とかけ離れたものではなくなったのである。そして、彼女は日々学校と家とを行き来し、学業に追われる厳しい日常生活を送るなかで、韓流スターのイメージを通してほっとしたり、共感したり、学んだりしながら楽しんでいたのであろう。

このように彼女たちは、「韓流」の特徴を自身の日常生活と深く関連付けて解釈し、共感し、間接的に満足することで感じた快樂をさらに、日常生活を生きるための力として還元する能動性を見せていた。

4.4 親しみやすい異文化を通した共感

これまで、韓流女性ファンの文化実践に、自国文化との差異を持つトランスナショナルな文化を好む特徴があることを述べた。しかし、調査を通して、そのトランスナショナルな「韓流」は単に自国文化とかけ離れているだけではなく、親しみやすい異文化であることが分かった。つまり、韓流女性ファンが「韓流」に共感しやすい理由は、親しみを感じやすい要素がアメリカやヨーロッパ、アフリカのポピュラー文化よりも、「韓流」には多く含まれていたためである。

た K-Pop アイドルの一連のファンサービスは、事務所のマネジメントによるものであったとしても、ファンには特別な感情を与えるに違いない。

以下は、テレビやインターネットなど、メディアを通して毎日3時間以上、韓流コンテンツを消費しているCの語りである。

(私が韓流にはまったのは)K-Pop のガールグループが可愛かったからです。『少女時代』の「ユナ」が可愛かったからです。で、すごいタイプで、なんか、かわいくて、歌っているから歌もよくて、みたいな、そうしたら好きになって、みたいな感じです。アメリカのアイドルじゃなくて、やっぱり韓国アイドルの方が可愛いと思いますし、格好いいと思いますしって思ってます…顔です。私ほとんど顔です。とりあえず、格好いい人とか可愛い人探して、どんなグループでも自分のタイプがいたら調べて…

C (大学1年生, 20歳)

Cは「韓流」にはまった理由として、親しみやすいビジュアルイメージを挙げていた。つまり、彼女にとって韓流アイドルは同じ文化圏の人であるため、視覚的な親近感を抱きやすく、自身の理想像を想像しやすかったということである。オーディエンスが自身の言語や人種、宗教、ユーモア、ファッションなどと似た文化的特徴を持つ海外文化を好むケースは多くの研究で報告されている。例えば、スタラバー(1991)は、南米の『テレノベラー』流通に関する研究で、ドミニク共和国が、アメリカよりメキシコからドラマやコメディ、バラエティショー、ニュースなどの番組を輸入する現象に注目し、テレビのオーディエンスは一次的に国内番組を好むが、国内番組では満足できない場合、隣接国（つまり、アメリカ）の番組よりも、相対的に近接している、あるいは類似しているものを求める傾向があることを明らかにした(Straubhaar, 1991:56; Yang, Eun-Kyung, 2003:7 から再引用)。このように、比較的近い特徴を持つ文化を受け入れやすいという「文化的近接性(cultural proximity)」は、従来の「韓流」に関する研究においてもしばしば取り上げられてきた概念であるが(Yang, Eun-Kyung, 2003; Lee, Kyung-Sook, 2005; Yoon, Kyong-Won・Na, Mi-Su, 2005)、本研究の分析においても同様の結果が得られた。

しかし、今日の「韓流」は様々な文化の「混淆化」概念に関連付けて言及されている。本研究では、今日の「韓流」とその文化実践を理解するために、文化的近接性を文化混淆の概念に含めて解釈する必要があると考える。Shim, Doo-bo(2006)は、韓国のポピュラー文化が、複数の文化が混淆化したものであると主張する。1990 年、韓国の映画産業が「ハリウッドを学ぼう」というスローガンのもと、積極的に混淆化を試みながら映画産業の競争力を強化させたように、K-Pop も、ジャンルやスタイル、スター生産プロセス及びマネジメントなどにおける混淆化過程を経て成長したものであると Shim は論じている。同様に、Jung,

Sun(2011)は、K-Pop は、アメリカ化(Americanization)と日本化(Japanization)が混淆したものであるが故に成功したと分析している(Jung, Soo-Young, 2011 : 212 から再引用)。韓国の新聞記事において、Lee, Dong-Yuen はある文化が形成される際、それは既存の先進的な文化有産を参考し、影響を受けるという「参考世界 (system of reference) ³⁴」概念を用いて、K-Pop を論じている。つまり、K-Pop は先進していた日本文化が混淆化して制作されたものであるため、日本人に身近な文化として受け入れられたのであろう。

実際に、本研究で取り上げている彼女たちの多くが、「韓流」に抵抗感や距離感を感じていなかった。むしろ K-Pop アイドルが好きなAは、「日本のアイドルっていう感じでした」と答えており、韓国のアイドルとして特別視せず、日本のアイドルと変わらない印象を受けていたのである。つまり、彼女たちは親しく聴いてきた自国のアイドル文化と混淆している K-Pop だからこそ、距離感なしで、抵抗なく受け入れることができたのであろう。

トランスナショナルな文化が様々な地域で消費され、新たな文化が生成されていく今日、文化が 1 つの国の特性だけを帯びるという発想は古いのかも知れない。特に、東アジア地域において「韓流」のような混淆文化は、越境した地域のオーディエンスに親しみやすい異文化として受け入れられている。

4.5 インターネットを通じた文化資本の習得

国内の主流メディアを通して海外発信の文化である「韓流」に触れることには限界があるため³⁵、「韓流」の消費においても言語的、文化的、そして経済的な資本が求められる。その入手困難な「韓流」を、彼女たちはインターネット・メディアを通して気軽に消費していた。インターネットは、時空間を超えた情報の自由な交換と双方向的コミュニケーションを可能にし、利用者間の相互作用を保障する媒体的特性を生かしたファンの文化実践をより強化している(平井, 2014 : 66)。

まず、本研究で取り上げている12名の韓流女性ファンは、「韓流」関連情報の消費を主にインターネット上で行っていた。40代の2名は、情報収集を目的にインターネットを利用する他、テレビやDVDを通して韓流コンテンツに触れている一方、若い世代のほとんどはイン

³⁴ 『プレシアン』2012/02/16

³⁵ 韓国の放送コンテンツは、地域別輸出現況の割合のなかで日本が最も多く約6割を占めている(韓国コンテンツ振興院(2015)「統計で見るコンテンツ産業」参照)。日本における韓流放送コンテンツは他の国に比べテレビを通して比較的多く放送されているものの、近年の地上波テレビでは減少傾向にある。例えば、『東亜日報』(2014/03/13)によると、日本の地上波テレビ「TBS」の平日午前10～11時に放送される韓国ドラマ専門番組「韓流セレクト」は2013年3月で終了しており、NHKも日曜日午後11時に放送していた韓国ドラマの放映を中止したという。5つの地上波テレビ局(NHK、TBS、TV朝日、日本テレビ、フジテレビ)全てが韓国ドラマを編成しないのは2010年以降初めてであると指摘されている。本インタビュー調査の中でも彼女たちの多くが、近年のテレビで韓流コンテンツに触れることの難しさを訴えていた。

ターネットのみを通して消費していた。これには世代が関連しているように見えるが、彼女たちの家庭環境や経済的状况なども、重要であると考えられる。40代の2人は、一人暮らしをしている独身有職者(K, 42歳)と、共働きで子どもがいない主婦(L, 43歳)である。彼女たちは家にテレビがあり、BSチャンネルを繋げて韓流コンテンツを見たり、DVDを借りたりできるほどの経済的余裕がある。一方、若い20代の女性たちは、一人暮らしの家にテレビがない(F, 20歳)、あるいは家族と暮らしておりテレビが自分自身の所有物でないため、自由に見られない(A, 18歳、E, 19歳)など、テレビを通して「韓流」に触れる機会に制限があることが分かった。

そのような状況の中で、インターネットは彼女たちが他人を気にせず「韓流」を消費することができる極めて私的で、自由なツールであった。今日は、かつてのように一家に一台しかないパソコンを家族みんなで利用していた時代ではもうない。一人に一台のパソコン、さらに、スマートフォンやタブレットPCなども普及した、パーソナルメディア(personal media)の時代³⁶である。急変するメディア環境の中で、彼女たちはパーソナルメディアを用い、インターネットを通して韓流コンテンツに能動的に触れていた。

今テレビがなくて…曜日によってやってる番組とか違うので、でもバラエティは結構見ますね。一日1本くらい、週末の方が多かったりするので、好きな番組、最近、ドラマだとこの前終わっちゃった『プロデューサー』をずっと見てたり、バラエティは毎週見るのは『1泊2日』とか、『スーパーマンが帰ってきた』とか『無限挑戦』とか『僕一人で暮らす』とか(笑)、あまり集中しないで見れるというか、結構朝の準備している時に前日やってた番組見たりすることが多いので、料理とかしながら見たり聴いたりするのが多いですね。日本よりも韓国のニュースとかの方が見るかもしれません。ニュースとかは「naver (検索エンジン)」で見て、番組はいいのか分かんないですけど、「baykoreans」とか…

I (大学院生, 24歳)

前述したように、「韓流」は海外発信の文化であり、その消費には高度な資本が要求される。Iの語りから分かるように、彼女はインターネットを利用して、韓国で放送されたコンテンツを字幕なしでそのまま消費していた。彼女が字幕のない韓国語コンテンツに触れる

³⁶総務省の『平成27年版情報通信白書』によると、インターネット利用者数は、年々増加傾向にあり、平成25年には1億44万人に達したという。インターネット利用率は全体の82.8%で、端末別インターネット普及度を見ると、「自宅のパソコン」が58.4%と最も多く、次いで「スマートフォン」(42.4%)、「自宅以外のパソコン」(27.9%)と、なっており、前年度と比べてスマートフォンのインターネット利用率が大幅に増えている(前年度:31.4%)。一方で、携帯電話やパソコンのインターネット利用率が下がっていることが示されている。

ことができる理由は、韓国への留学経験により、韓国語が堪能であるためである。Iのように、韓国留学及び韓国語学習の経験があることを理由に原作のままの韓流コンテンツを見ることを好む人もいれば、その経験がなくても、韓国語での視聴を好む人も多く見られた。「テレビでやっていたのは、日本語バージョンだったんですけど、韓国語バージョンが見たくて、普通にインターネットでずっと見ていました」と語るC(大学1年生, 20歳)のように、彼女たちは吹き替えや日本のシステムに合わせるための編集などを加えていない韓流コンテンツを求めており、それが利用できるインターネットを能動的に用いていた。インターネット上には、韓国のコンテンツに韓流ファンが自ら日本語の字幕を追加したものが数多く存在している。このように韓流ファンの自律的かつ積極的なコンテンツの再生産とその共有によって、海外コンテンツの消費において言語の壁はもはや問題にならない。インターネットは彼女たちの「韓流」を通じた文化実践のために欠かせないメディアであるといえよう。

また、彼女たちはインターネットを通して積極的に「韓流」を消費するだけではなく、SNS などのファンコミュニティに参加しつつ、新たなコンテンツを創造していた。

やっぱ「Twitter」ですね。動画とかも写真とかも貼れるんで、それでリンクすぐ飛べて、簡単に情報集め出来るんで楽ですね。はい。やっぱりファンカメラってあるじゃないですか。やっぱあれは結構大事ですね。や~もう、とりあえず、好きな曲のやつは大体全部見ます。やっぱ『2PM』は脱いだり、セクシーなやつが多いんで、そういうのは必ず欠かさず見ます(笑)

D(大学2年生, 20歳)

オンライン上だとK-Popの話だと普通に「Twitter」とかで話したり、情報はほとんど「Twitter」から得てるんで、なんかあったらみんな騒ぎだすので…

E(大学2年生, 20歳)

SNS は、共通の文化的趣向を持つファン同士が集团的協同によって知識を生産し、共有する場となる。そこに、ファンが積極的に参加し、「韓流」関連の情報を共有し合うことで、ファン同士の共通の知識基盤が形成される(Jenkins, 2006=2008)。彼女たちが共有する「韓流」関連情報は、韓流ファンが自ら収集した文化的知識であり、昨今のウェブ環境においてはハイパーリンク機能を用いて他の SNS や関連サイト、ニュース、動画配信サイトに簡単に移動できるため、この知識を幅広く蓄積していくことが可能となる。また、SNS を含む各サイトには、既存コンテンツをファンが再解説し、再生産したもの、あるいは、新たに

制作したコンテンツが数多く共有されている。

特に、Dが語る「ファンカメラ」は、ファンがコンサートなどで撮影した映像や写真などであり、イキイキした現場の映像を取り入れた韓流ファンダムにおける主要コンテンツとして、ファンの間で積極的に消費されるファン文化である。ファン同士が能動的に SNS に参加し、相互作用を引き起こしながら知識を生み出し、活用していく文化実践を通して、Jenkins(2006=2008)の言う「参加文化」と「集団知性」の創出が見られた。Jenkins(2006=2008)は、多様なメディアが交差し、生産者と消費者が相互作用するコンバージェンス・カルチャー時代に、ファンの能動的な参加はその集団の討論や交渉、発展のための集団知性を生み出すと論じている。韓流女性ファンが SNS を通して交流し、自律的にコンテンツやファンダム文化を生み出すなど、様々な文化資本を蓄積することに寄与する文化実践を行うことで、新たな社会集団としての価値形成の過程を伺うことができた。

4.6 ファンダム文化の生産:完コピ

彼女たちのファンダム文化の生産的実践は、前述したインターネット上だけではなく、実生活のあらゆる場で生まれていることが分かった。例えば、彼女たちの属する社会(家庭、学校、会社、バイト先)や「韓流」を消費する場(コンサート場、ファンミーティング場、韓流関連ショップ)などが挙げられる。彼女たちはそのような場所で共通の文化的趣向を持つファン同士の相互作用を通してファンダム文化を生成していた。その代表的なものが「完コピ」である。

確かに中学の時に少女時代が流行りだして、やっぱその『少女時代』好きな子とかと一緒に歌ったりとかダンスの真似するの楽しかったので、やりました。あ、やった～その時もなんか「ジェットコースターラブ」という『KARA』の曲があって、それをみんなでやってて、超爆笑してた思い出があります…先輩たちが少女時代と『KARA』の曲使って体育祭で踊ってたんです。めっちゃ格好いいと思って。

F(大学2年生, 20歳)

「完コピ」とは、プロの歌手やダンサー、楽器の演奏者などのパフォーマンスを、主にアマチュアが、完全に真似て再現することを意味する³⁷。韓流ファンたちの間では、この用語は元々の意味から派生する形で、K-Popのカバーダンスを指すものとして用いられているようだ。「完コピ」は、2000年代後半から若い女性たちの間で流行し、公共の場や、学校の

³⁷ウェブサイト『実用日本語表現辞書』による定義を引用した。

文化祭・体育祭で披露されるなど、注目を集めていた。Fは中学生時代、友達と一緒に「ノリの良いK-Pop」を遊び文化の一部として「完コピ」を実践することで、強烈な「快樂」を感じていた。青少年のポピュラー文化消費に関する心理的要因としては「模倣」と「心理的代理満足」が取り上げられている(Kim, In-Kyeong・Kwak, Keum-Joo, 1998:Yoon, You-Kyung・Chae, Jee-Young, 2009:233 から再引用)。彼女は仲間と一緒に憧れのアーティストのダンスを模倣し、「完コピ」を娯乐的遊び文化として生産すると同時に、憧れていたK-Popアイドルへの代理的な満足を満たしていたのであろう。

以下は、友達との「完コピ」を娯乐的に実践することで、韓流ファンになったAの語りである。

私はダンスをずっとやっていて、小学生ぐらいから中学生までダンスのチームに入り、高校からは部活に入ってやりました。(ダンスする前は)テレビでは音楽番組とかで『KARA』の「ミスター」とか『少女時代』の「Gee」とか、聴いていました。やっぱり、曲がすごく耳に残りやすくて、というのと、ダンスが本当にみんな揃ってるので、すごくいっぱい練習してるので、だからそういうのが日本のアイドルはあまり揃ってないから、それから振りもすごく簡単なのしか踊らないから、そういうのが格好よくて、揃ってて、曲も良くてというのが。…週に一回ダンスの集まりがあるので、高校の時の、それに行って話します。あ、でも、その中では私とその子しか好きな人がいないので、二人で喋りますけど(笑)今は『Twice』の曲を「一緒にやりたいね」って言っていて、私が今は忙しいのであれですけど、それが終わったら、一緒にダンスしようと言っています。

A(大学1年生, 19歳)

Aは、自身の趣味とK-Popの真似しやすい音楽的要素が絶妙にマッチングされることでK-Popにはまり、今でも友達と「完コピ」を実施している。彼女の語りや、彼女自身の「完コピ」動画などを通して、それが単なる既存文化の「真似」ではないということが感じられた。同じ曲の「完コピ」であっても、そこには参加する一人ひとりの個性が影響するため、生み出される特色はそれぞれ異なる。つまり、「完コピ」は、既存文化を再解釈し、彼女たち一人ひとりの個性やアイディアを吹き入れて作り上げたファンの創造的生産物であった。このように、多くの時間と努力を費やして生産された彼女たちの「完コピ」動画は、「YouTube」など、インターネットサイトを通して新たなコンテンツとして流通したり、ファンダム内で共有されたりする。

その生産的文化実践の過程には、ファンの能動的参加と相互作用が求められる。上記のAとFは、「完コピ」を家や学校の他、街や公園など、社会のあらゆるところで、積極的に

披露していた。実際、韓流ファンの「完コピ」が渋谷のような若者の街で大会イベントとして、または集団として披露される傾向は、メディアからも注目されるほどであった³⁸。すなわち、「完コピ」は韓流ファンの積極的で能動的な参加を通して生産された彼女たちの創造物である。ファンダムへの能動的参加とそこでの相互作用を通して、ダンスという高度な技芸を生かした創造的ファンダム文化が生み出されたと見ることができよう。

³⁸ 『ハンギョレ』2011/10/02 /連合ニュース 2012/09/01 /BIGLOBE 音楽芸能ニュース 2012/02/28 参照
K-Pop は若い女性を中心に人気を集めており、様々な場所で彼女たちの「K-Pop 完コピ」が披露されている。
例えば、「KPOP COVER DANCE FES “DREAM ON !”」などの名称の全国大会や中・高校の学園祭での披露の他、
「YouTube」にアップロードして公開するなど、若い女性たちの K-Pop 「完コピ」を用いた自己アピールは
様々なツールを用いて行われる。

第5章 韓流女性ファンのせめぎ合い

本章では、日韓関係、ひいては東アジアの政治的対立により、国家イデオロギーやナショナリズムが高まっている現時点において、韓流女性ファンの文化実践にいかなるせめぎ合いがあるのかを分析する。国家間の政治的対立が「韓流」と絡み合い、韓流コンテンツの放送中止を求めるデモや、嫌韓の風潮が高まっているなかで、彼女たちの心境にも様々な葛藤が生じていることが見られた。今日の対外的・社会的情勢も踏まえた上で、彼女たちがいかなるせめぎ合いを通して「韓流」を消費しているのかを分析する。

5.1 日韓のナショナリズムの狭間で葛藤する韓流女性ファン

本研究で取り上げたすべての韓流女性ファンは、隣国韓国との関係において反日・嫌韓というナショナリズムの摩擦を感じていた。それは、韓流ファンになった彼女たちの関心が、その発信国である韓国(韓国文化・韓国人・社会・政治・歴史など、韓国をキーワードとする様々な領域)にまで広がっていたためである。彼女たちの関心が政治や歴史のような公的領域へ広がることで、日韓関係の対立を目の当たりにし、批判的視点をもったり、目をそらしたりするなど、複雑多様な心境に至る様子が見受けられた。

まず、マス・メディアにおける番組編成や報道形態を指摘するDの語りから見ていこう。

最近はすごい日本を持ち上げる番組が増えたかなって、『世界が驚いたニッポン! スゴ〜イデスネ!!視察団』とか、外国人にニッポンのいいところ聞いてみました。みたいな番組が増えすぎて、日本はすごい、他の中国や韓国よりは日本の方がすごいみたいなこと言っていて、その報道はちょっと、報道っていうか番組の進め方どうかな〜と最近思います。欧米はすごい、ヨーロッパもすごい、日本もすごいけど周りの東南アジアとか、中国や韓国はなんかうんって感じは、それはただの偏見じゃないかなって思います。

D(大学2年生, 20歳)

Dは近年のマス・メディアの報道形態が、ナショナリズムを強調する一方で、韓国を始めとする東アジアにネガティブな立場をとることを批判的に見ていた。ここ数年、そのような番組を編成する送り手としてのメディアに、視聴者のナショナリズムを助長させようとする意図が含まれていたのだろうか。近年、日本の国際、経済、政治、社会、文化的領域に急速な変化が起きており、戦後高度経済成長を成し遂げてきた日本の社会的情勢が、これまでとは異なる様相を呈していることが指摘されている。小倉(2007)は、この15年ほ

どの、すなわちバブルの崩壊を機転とする、「失われた十年」以降において日本が自信を喪失していたことを説明している(2007:51)³⁹。世界的競争の中で国力に危機が訪れると、自国の利益と価値を高めるための様々な政策や運動が起ることは、当然かも知れない。高原(2006)は、日本国内の社会経済の変動によって国民が感じる「不安」がナショナリズムの形で現れており、これが近年、日本と政治、経済、文化的領域で対立しながら急速な経済成長により国際的に浮上している韓国や中国に向かっていると分析している。このように、激変する社会において、対立関係を維持するナショナリスティックな支配コードが、韓国を理解し始めたDを含む多くの彼女たちの文化実践に居心地悪さをもたらせる支障を与えていた。

また、Dが指摘したように、近年、こうした支配コードが反映された番組が増えているのも事実のようだ⁴⁰。『週刊朝日』(2015/01/30)の記事によると、日本や日本人の良いところを強調する番組の増加現象について、朝の情報番組でも、外国人観光客に日本のいいところを聞くというコーナーがあることや、ここ数年で「世界の村で発見!こんなところに日本人」(テレビ朝日系)、「世界の日本人妻は見た!」(TBS系)などが増えているという。記事の中で、精神医師の香山リカはこれを「日本最高」という「ナショナリズム」と呼んで論評している。

しかし、このようなマス・メディアが送るメッセージに対し、Dは鵜呑みにすることなく、批判的立場を取っていた。彼女は、「韓流」に関心を持つことによって、日本と対立関係にある東アジアとの関係の改善のために、大学で国際交流に関する勉強をしながらアジア諸国への理解を深めている。そんな彼女だからこそ、東アジアに対するマス・メディアの報道形態に、批判的に向き合うことができたのであろう。テレビを含むマス・メディアは、いうまでもなく、多数派の価値や規範を社会的に再生産していく中心的な場である(吉見, 2001:68-70)。社会情勢の複雑な変化のなかで、政治、経済、文化的に優位を占めようとする、支配コードを反映したマス・メディアのメッセージに、政治的対立関係にある韓国へのネガティブなものが含まれていることは、当然かも知れない。しかし、これまで述べてきたように、ファンはメディアからのメッセージをそのまま受け入れる受動的な存在

³⁹しかし、小倉は「韓流」への楽観論的評価に批判的な立場を取っている。後節で述べるが、「新しい歴史教科書をつくる会」など、既成右翼やネットや日本政府が反動的な反・朝鮮半島キャンペーンを繰り返しているのに対抗しうる勢力として「韓流」ファンを中心とした「越境文化」実践者たちを位置づける(47-48)とも述べている。つまり小倉は「韓流」と「嫌韓流」の根っこは同じ(2007:47)であり、「韓流」と女性ファンたちの浮上が、日本が抱えている政治、経済など諸問題と深く関わり、日本における「嫌韓」を生み出したと見ているのである。

⁴⁰『東洋経済ONLINE』(2014/11/06)によると、世界に貢献する日本人を紹介する番組が増えていることを、データを提示し指摘しながら、視聴率も安定的にとれている理由を、グローバルに適した知識を求める視聴者が増えていることや、「日本で生まれ育ってよかった」と確認するためであると分析している。

ではなかった。彼女たちは、自身の経験から状況に合わせて解釈、判断する能動的な主体であり、Dもその一人であった。

一方、反日・嫌韓というナショナリズムは、両国が互いを「近くて遠い隣の国」として長い間認識させるよう機能していた。本研究では、そのナショナリズムが、両国の交流が活性化していた時期も、そうでない時期も、「空気のように偏在しているもの」と見なしている。それは、両国の政治的問題が洗い流されたり、解決されたりしない問題として未だに続いているように、空気のように偏在しているために、いつでも浮上する危険性があると考えられるからだ。

学部時代に、韓国学を取ったことがあって、韓国人の社会学の先生がやっていた授業だったのですが、その時に色々話し合ったら、その、竹島問題の根拠が歴史書に載っているものなのか、とか国際条約で承認されたものなのか、そういうことを勉強していて、解決するためにはどうしたらいいでしょうかね。もうなんかなくなっちゃえばいいのになと思います。竹島なんかなくなればいいのにつて(笑)それがなくなれば全ての問題がなくなるわけではないので、根本的な解決に至らないのは分かっているんですが、そのせいで、もちろん韓国の人も嫌なことも知っているし、日本の人もそう言われることに対して嫌な気持ちも知っているし、私は韓国に行って地下鉄の駅にドクト(竹島)の模型とかあるの見て、すごいな〜と思ったし、食堂で最後に水を飲もうとしたら紙コップに「独島は我々のもの」って書いてあるのを見て、「あ、すごいな〜」思いながら水を飲んでいたのですが、それは日本人にとっては気分がいいものではないですし、なくなっちゃえばいいのになと思いました。

I (大学院生, 24歳)

韓国社会に空気のように偏在している「反日」感情は、韓国に留学することで韓国人や韓国社会と深く関わったIを、複雑な心境にしていた。自国(日本)との政治問題が、韓国社会ではあからさまに大きく取り上げられている現状に驚いたIは、日韓の「国家」の壁と、「温度差」を感じていた。その温度差とは、日本社会や日本人が韓国との政治問題に対する態度の差と、日本で「韓流」を通して感じた韓国社会や韓国人へのイメージの差である。「韓流」を通して隣の国、韓国を理解したいと感じたIは、実際、韓国社会に入り、その国や人々に直接触れ、交流するような大胆な文化実践を行っていた。しかしながら、歴史的清算を要求する韓国側と、その終了を主張する日本側の意見が交差する両国家間のナショナリズムの狭間で彼女は、日本人韓流ファンとしてのアイデンティティに複雑な思いを抱き、「疲れ」を感じていたことが分かった。

5.2 「嫌韓」との衝突

近年、日韓関係の政治的対立が深化するなか、嫌韓の風潮がより高まり表面化していることで、韓流女性ファンがその勢力と衝突していたことが見られた。ここでは、近年日韓関係がいかに悪化しているのか、2000 年以降の出来事を中心に見ていく(表 5-1 参照)。

表 5-1 2000 年以降の日韓関係の動向

2001	4	「新しい歴史教科書をつくる会」作成の歴史教科書が検定に合格。韓国は反発。
	8	小泉純一郎首相、靖国神社参拝（以後、全 6 回）。
	12	天皇陛下、「韓国とのゆかりを感じている」との発言。
2002	5-6	日韓共催のワールドカップ開催。 北朝鮮の第 2 次核危機。
2003	5	麻生太郎自由民主党政務調査会長、創氏改名について「朝鮮人が望んだこと」と発言。
	8	北朝鮮問題について、日米韓中露及び北朝鮮による六者会合開始。
2004	4	俳優のペ・ヨンジュン氏、初来日。
	7	盧武鉉大統領、日韓首脳会談で「歴史問題を任期内に提起しない」と発言。
	12	日韓首脳会談、「シャトル外交」の継続で合意。
2005	3	島根県、「竹島の日」条例制定。韓国は反発。
	7	『マンガ嫌韓流』発売。
	8	小泉首相談話発出。
2006	4	日本の海上保安庁の竹島周辺における海洋調査を巡り日韓間に軋轢が生じる。
	10	安倍晋三首相訪韓。日韓首脳会談で北朝鮮問題等に関して意見交換。
2008	2	福田康夫首相訪韓。李明博大統領とシャトル外交の再開で合意。
	7	日本政府、学習指導要領の解説書に、竹島を明記。韓国政府は反発し、韓国の韓昇洙国務総理が竹島に上陸。
2009	4	日韓防衛相会談、「日韓防衛交流に関する意図表明文書」に署名。
2010	8	菅直人首相談話発出。
2011	1	日韓防衛相会談、日韓防衛協力・交流の拡大・深化で一致。
	8	韓国、鬱陵島を訪問しようとした日本の国会議員 3 名の入国拒否。
	12	韓国憲法裁判所、元慰安婦への補償について韓国政府が日本側と解決に向けた努力をしないことは違憲であると判決。 フジテレビの番組編成が「偏向」「韓流への偏重」とであると批判する抗議デモが発生。 元慰安婦を支援する韓国の市民団体、毎週水曜日のデモが 1,000 回を迎えたのを記念して、ソウルの日本大使館の前に少女像を設置。 李明博大統領、日韓首脳会談で慰安婦問題への対処求める
2012	5	韓国大法院、元徴用工が三菱重工業と新日本製鉄に損害賠償と未払い賃金の支払いを求めた訴訟で、原告の請求を退けた原判決を破棄。
	6	日韓秘密情報保護協定の署名延期。
	8	李明博大統領、竹島上陸。その理由は慰安婦問題に対する日本の不誠実な態度。
2013	3	朴槿恵大統領、3・1 独立運動の記念式典の演説で、「加害者と被害者という歴史的な立場は、千年の歴史が流れても変わらない」と発言。
	4	麻生太郎副総理ら靖国神社参拝。尹炳世外交部長官の訪日中止。
	5	安倍首相、「侵略の定義は定まっていない」と発言。
	12	朴槿恵大統領、米韓首脳会談で「日本は正しい歴史認識を持つべき」と発言。
2014	3	日米韓首脳会談。
	6	日本政府、河野談話の作成過程についての検証結果発表。韓国政府は反発。

出典：山本(2015:47)から引用、筆者再作成

日韓関係は、表 5-1 で示したように、2002 年日韓ワールドカップ共同開催や、2003 年以降人気を集めた「韓流」などの文化的交流によって、友好的になったというのが一般的な評価である(三矢, 2004; 岩渕, 2007; 小倉, 2007; 小針, 2007; 石井, 2011; Chung, Jae-Jeong, 2013)。もちろん、文化交流が増えたとはいえ、政治的対立がなくなったとは言えない。しかし、日韓関係が「最悪」と言っても過言ではないほど悪化したのは、2011 年後半から頻繁にメディアに取り上げられるようになった慰安婦問題や領土問題が契機であると考えられる。この時期から両国民におけるナショナリズムが高まっていく。その詳細な経過を内閣府の「外交に関する世論調査」における「韓国への親しみ」の経年変化データを取り上げて見ていこう(図 5-1 参照)。

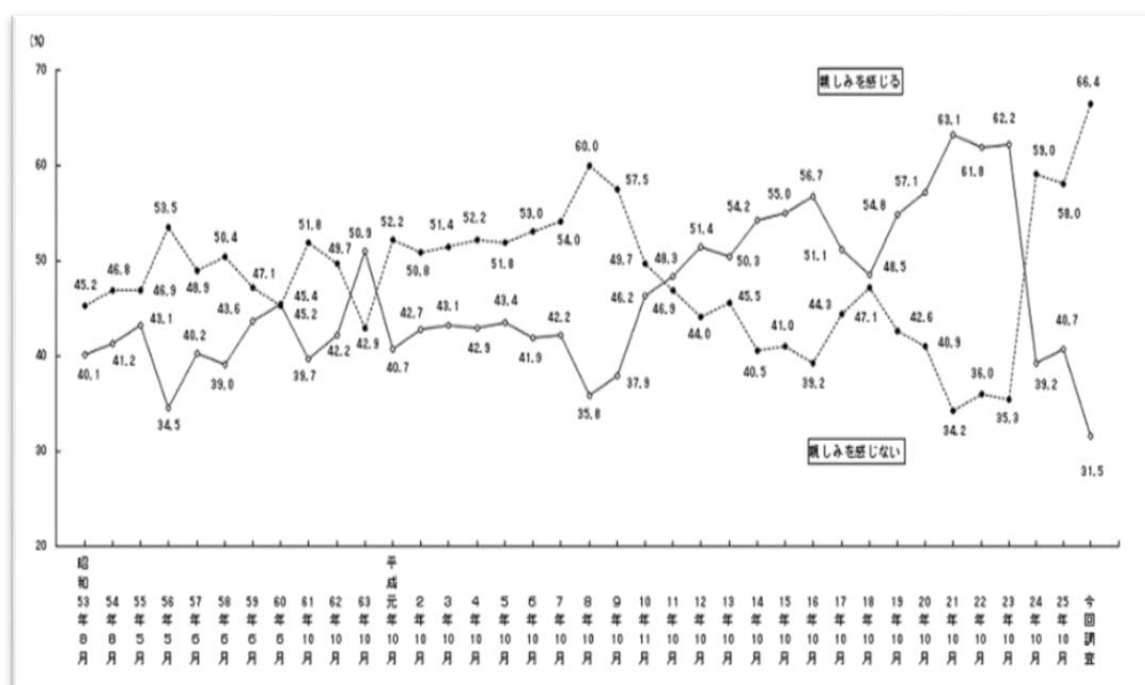


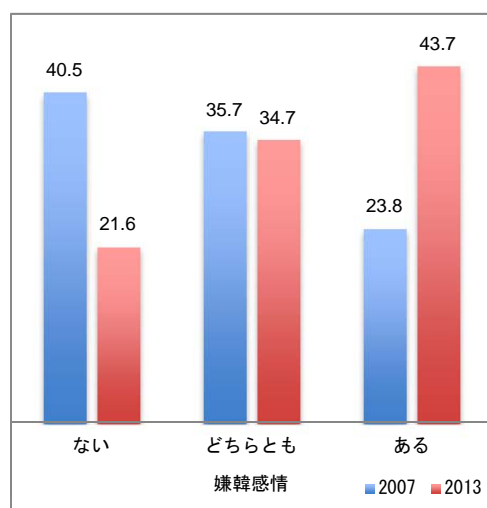
図 5-1 内閣府「外交に関する世論調査」＜韓国への親しみ＞経年調査結果

内閣府は、1978 年から毎年、「外交に関する世論調査」という題目で、世界諸国に対する日本人の「親しみを感ずる」、「親しみを感ぜない」の比率を発表している。2000 年以降のデータを中心に見ると、韓国に「親しみを感ずる」人の数値は、「韓流」がピークを迎える 2000 年代後半(2009 年)に 63.1%で、調査開始以来の最大値を記録している。しかし、政治的に対立していく 2012 年からは急激に低下し、2014 年(今回の調査)には、逆に「親しみを感ぜない」人の数値が 66.4%と、調査開始以来の最大値を記録している。

これは、日韓の政治的問題に対する意見の相違が、相手国についてどのように感じているのか、という世論にまで負の影響を及ぼしていることを明らかにしている。上記の内閣

府の経年調査結果を、より具体化させて嫌韓感情と政治的論争についての世論の動向を分析する。以下、2007 年と 2013 年に実施した嫌韓感情や政治的論争点に対する世論調査の実証データを用いて、近年嫌韓感情と政治的論争がいかに深化しているのかを検討する。

図 5-2 は、日本人の嫌韓感情を各年度別に示したものである。



2007 年に、嫌韓感情を持つ人は 23.8%に過ぎず、むしろ好感を持つ人が 40.5%であった。2007 年は、これまでの政治、文化、スポーツ等における交流の後押しもあり発生した「韓流」が、ジャンルや消費層を拡大しながら進展していく時期である。「韓流」を始め、様々な文化交流が増加するこの時期、嫌韓感情は全体の約 2 割に過ぎなかったのである。しかし、日韓の政治的論争が浮き彫りになる 2013 年の嫌韓感情は、2007 年の 2 倍に近い 43.7%にまで増加していた。

図 5-2 全体：嫌韓感情の推移(2007/2013)

一方、図 5-3 は、これまでの日韓関係において重要な政治的論争点であった「慰安婦問題」、「靖国神社参拝問題」、「相手国の歴史主張」に対する政治性向を示している。いずれの政治的論争点も、日韓関係の対立を長期化させている重要な歴史的問題である。興味深いことに、2007 年と 2013 年の世論の動向に差が見られている。

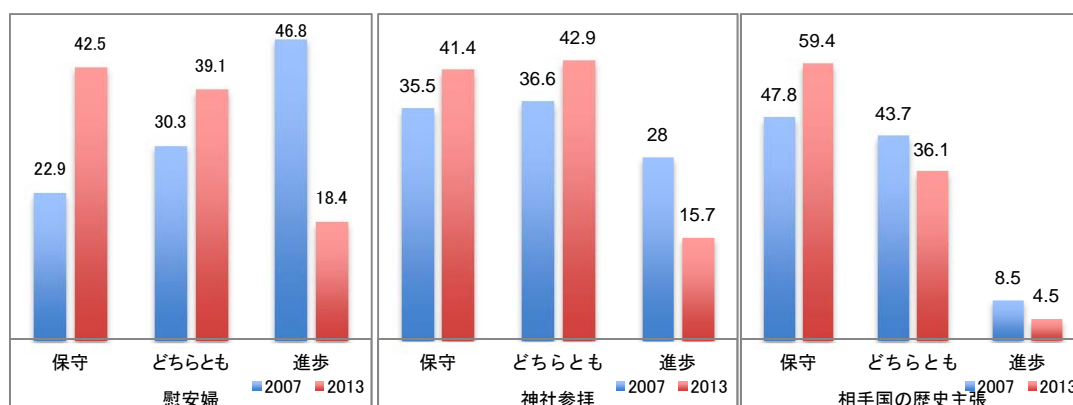


図 5-3 全体：政治的論争点に対する政治性向の推移(2007/2013)

政治的論争をめぐる対立関係の深化は、日本人の嫌韓感情を煽るだけではなく、国民の政治的性向をより保守化させていることが示された。2007 年の結果を見ると、全体的に保守的であるが、慰安婦問題に関しては、「謝罪すべきである」という進歩的な人が 46.8%に

達しており、この論争に限っては進歩的な人が多いことが言える。一方、2013 年の結果を見ると、慰安婦問題を含むすべての論争に対し、保守化の傾向が見られた(進歩:慰安婦:46.8%→18.4%, 神社参拝:28.0%→15.7%, 相手国の歴史的主張:8.5%→4.5%)。つまり、「韓流」を始め、様々な交流が行き来すると、日韓関係の政治的論争も和解と理解の方向に進み、一方、今日のように国家間の歴史認識の相違が深化すると、それが真逆の方向に向かうことが明らかになった。

このように、嫌韓感情と保守化が支配的になっていく今日、韓流女性ファンにいかなる影響が及んでいるのだろうか。以下は、「フジテレビ抗議デモ」について伝えるGの語りである。

(フジテレビ抗議デモに対して)私的にはショックですね。それも、なんというのですかね。日本ってアメリカの結びつきが結構強い、私はあまりよく思っていない人で、そういうアメリカ人はするのに、他の中国や韓国、他のアジアを、なんっていうんですか?ちょっと下に見てるというか、あまり対等に見ようとしなところは、日本のよくない、日本の政府のよくないところだと、まあ、いろんな想いがあるのでしょうか、嫌ですね。正直。もうちょっと広い視野を持つべきだと思います。(消費する側としては)ちょっとやりづらい。なんか、おっ広げに「あ!東方神起のところ行ってくるよ」みたいなことは、やつぱり仲いい友達には言えるけど、なんか韓国とか中国とかよく思っていない友達にはそんなに言わないかな〜って。

G (大学3年生, 21歳)

2012 年以降、フジテレビの韓流コンテンツの放送禁止及び中止を求める抗議デモが断続的に続いた。黄(2011)は、フジテレビの韓国に関する報道が、韓国側を利するように偏向、捏造されているとし、「韓流やめろ」等の掛け声でデモが起き、初日の8月7日には600人ないし2500人の規模が、8月21日には、大規模に発展し、参加人数は警察発表で3500人、主催者発表で約4000~6000人であったという(2011:142)。実際このデモは、「韓流」に対する反感を、公的な場にまで及ぼした⁴¹。このデモが効果的であったか否かは不明だが、フジテレビは、2010年から設けていた韓流ドラマ枠『韓流α』を2012年8月に終了している。

⁴¹黄(2011)は、フジテレビへの抗議デモについて報じた記事一覧を整理した。例えば、2011.08.08 「フジテレビ前に「ノーモア韓流」1000人「デモ」高岡蒼甫ツイートきっかけネット発」デイリースポーツ、21項(全507字)…他、2011年10月まで『毎日新聞』『朝日新聞』『共同通信』『東京新聞』などで取り上げられていることを示した(2011:150)。さらに、『中央日報』の記事によると、日本の地上波チャンネルで海外コンテンツの輸入を担当する関係者は、「韓流コンテンツに関する抗議は、2011年フジテレビデモ以降、急激に増加し、韓国ドラマを放送すると視聴をボイコットするという電話が一日100通以上あり、スポンサーからも韓国ドラマ広告を中断しないと不買運動を展開するとの脅迫が増えたと話す」という。

この状況を把握しているGは、抗議デモを始め、「韓流」にネガティブな反応を見せる政府と世論を批判的に見ていた。Gは、幼い頃から国際的交流と人的交流を通して、様々な国家、民族、価値を受け入れ、共有してきた。彼女はこうした文脈を持つからこそ、「韓流」という他者を受け入れ、多様性を経験しながら、対立する日韓、東アジア関係ではなく、和解と協力する東アジア関係の構築を望んでいたのである。「韓流」の消費は、彼女たちにこのような問題意識とともに、東アジア共同体意識を強化させる役割を果たしていたと見ることができよう。しかし、「韓流」や韓国に対するネガティブなまなざしは、Gの韓流ファンとしてのアイデンティティにまで影響を与えていた。それはGが、韓流ファンとしてのアイデンティティを表出することに躊躇する形で表れていた。

整形？韓国のアイドルは整形するという風な情報はたぶん、『KARA』とかが流行り出した方より今の方が全然多くて…なんか、アイドルが整形しているんだ〜こうだって言い出すようになって、そう、そういえばそうですよ。全然『KARA』とか流行り出す時そんな話題なかったのに…政治？ですかね。ニュースとかで流れる？そうかも。周りに流されやすいですね。

F (大学2年生, 20歳)

また、Fは、近年「韓流」に関する周囲のネガティブな反応が、2012年発生した国家間の政治的対立によるものであると考えている。確かに、内閣府のデータにおいて「韓国に親しみを感ずる」人は、韓国の李明博元大統領が竹島(独島)に上陸し、騒ぎとなった2012年から大幅に減少していた。両国が政治的に対立すると、各国のメディアでは自国の立場からナショナリズムを煽る報道が相次いでいく。なかでも、身近で彼女たちがしばしば言われていたことが、Fのいう「韓流」スターの整形問題であった。その他に、HとJも、嫌韓感情を持つ周囲の人々から「韓流スターは整形している」と言われ、自身の「韓流」消費を避難する声があることを語っていた。つまり、「韓流」スターの整形問題が、政治的対立やナショナリズムの標的となり、それを消費している韓流女性ファンに向けられていたのである。

5.3 ジェンダー的まなざしを受ける韓流女性ファン

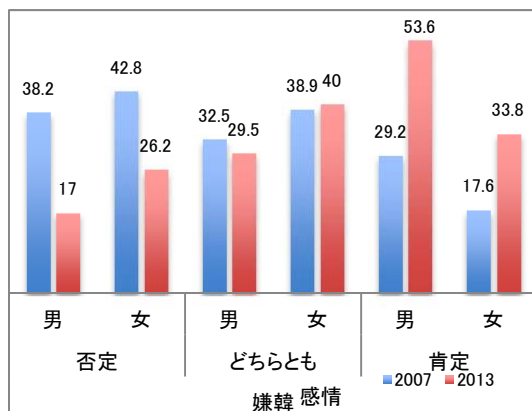
韓流女性ファンが感じるまなざしにジェンダー的差が見られた。本研究で取り上げた韓流女性ファンのなかには、前述したように支配コードのまなざしを受けた人がいた。ここでは、彼女たちが主にどのような人々からどのような形の非難を受けていたのかを分析す

る。

本研究が批判的に見ているのは、「韓流」とそれを消費する女性文化が、国家とナショナリズムによってネガティブなまなざしを受け、他者化されることである。「韓流 1.0」期、林(2005, 2006)やイ(2008)の研究から、中高年女性の韓流ファンダムに対し、ネガティブなまなざしを示す主流メディアの報道形態が指摘された。本研究においてもHが、「おばさまたちが好きなものだみたいな感じで日本で印象付けられたので、なんか入っちゃ行けないっていうか…」(H, 大学4年生, 22歳)と言ったように、韓流ファンを「おばさん」と固定化させる支配コードに潜められた意味を解釈する必要があるだろう。

林(2005)は、主流メディアが『冬のソナタ』のファンを「おばさん」呼ばわりして嘲笑の対象として扱っていることを批判的に見ている。その論調には、マス・メディアに女性たちを乗せている男性たちのまなざしがあることを指摘している(2005:55-64)。林の指摘のように、「韓流」とそのファンに対するジェンダー的まなざしは、しばしば指摘されてきた(林, 2005, 2006; 石田, 2007; イ, 2008; 黄, 2011)。「韓流」や韓国に対する支配的言説を生み出す、主流メディアの従事者及び国際的外交を担っている政治系の多くが、男性を中心に構成されていること(新井, 2006)は周知のことである。その他にも、「嫌韓」の主な活動舞台となるインターネット上の『2ch』の利用者に男性が多いことも報告されている⁴²。

ここで、「5.2 「嫌韓」との衝突」で見た、嫌韓感情及び政治的論争にジェンダー差があるか否かを検証してみた。図 5-4 は、前節で取り上げた実証データのジェンダー差を示したものである。2007 年から 2013 年にかけて、政治的対立によって男女問わず、嫌韓感情



が高まったことは事実であるが、その比率に男女差があることを指摘したい。「韓流」がポジティブに受け入れられていた 2007 年、男性は 29.2%と女性の 2 倍ほど多くの方が嫌韓感情を持っていたことが分かる。それが、日韓関係が悪化する 2013 年には、特に男性の場合、過半数以上の 53.6%を占めるほど、その増加率が激しい(女性：17%から 33.8%に増加)。

図 5-4 ジェンダー：嫌韓感情の推移(2007/2013)

このようなジェンダー差は、政治的論争をめぐっても同様であった。

⁴² グーグル・アド・プラナーは、排他的ナショナリズム的性向(言わば、右傾化)が多いと言われている『2ch』の利用者層を分析した結果(グーグル・アド・プラナー, 2009)、利用者の男女比率が 68:32 であると報告している (<http://www.j-cast.com/2009/05/27042011.html>)。また、黄(2011)は、2011 年 9 月 1 日の朝日新聞記事を用いてフジテレビ抗議デモの中心を構成したのは、主に「30 歳代の男性」とであると指摘している。

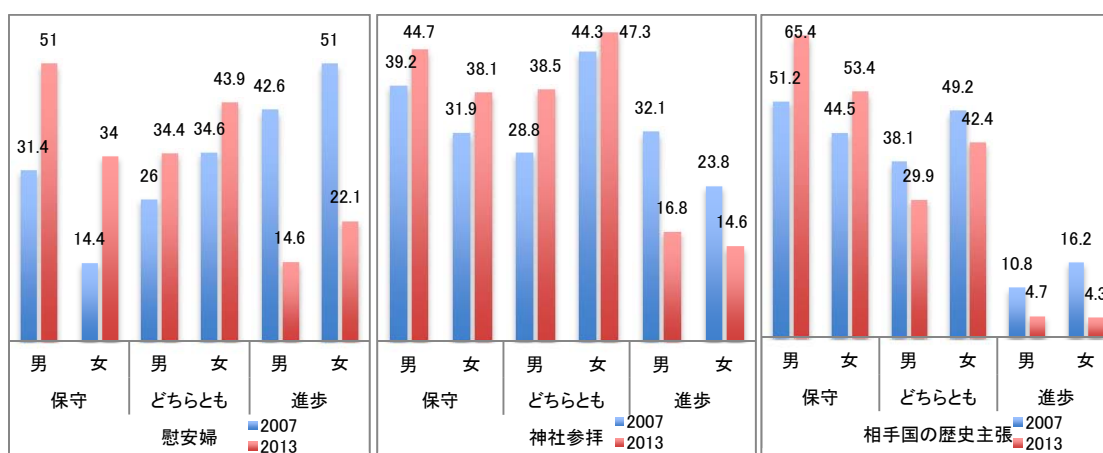


図 5-5 ジェンダー：政治的論争点に対する政治性向の推移(2007/2013)

図 5-5 は、政治的論争点 3 つに関する政治性向をジェンダーで分類し、各年度別に示したものである。2007 年から 2013 年に移行すると、男女問わずどの論争においても進歩的な人は減少し、保守的な人が増加する。しかし、この結果をジェンダー的に見ると、その差は著しい。どの論争においても女性が男性より進歩的であり、中立的立場に立っている。この結果をより正確に検証するため、これまで見てきた世論の嫌韓感情及び政治的論争に対する政治性向をジェンダー別に、「t 検定」⁴³を行い、分析した(表 5-2)。

表 5-2 嫌韓感情及び政治的論争に対する政治的性向(ジェンダー)

	嫌韓感情		慰安婦問題		靖国神社参拝		相手国の歴史主張	
	男	女	男	女	男	女	男	女
2007	2.92	2.66	3.08	3.43	2.90	2.93	3.60	3.50
	t= 3.440**		t=-4.660***		t=0.384		t=1.751	
2013	3.62	3.16	2.35	2.80	2.51	2.68	3.98	3.72
	t=6.079***		t=-6.324***		t=-2.167*		t=4.398***	

* 数値は平均値

significant at 5% level; ** significant at 1% level; * significant at 0.1% level

2007 年の場合、「嫌韓感情」と「慰安婦問題」においては男女差が見られたが、その他に男女差は見られなかった。しかし、2013 年になるとすべての項目に男女差があることが明らかになった。この結果は、政治的領域で日韓関係が悪化すると、男性が女性よりナショ

⁴³ 本研究では、世論の嫌韓感情及び政治的論争に対する政治性向をジェンダー別に区分し、その差を分析するために、SPSS 統計ソフトを利用し、「t 検定」を行なった。「t 検定」とは、2つの集団の平均に意味のある差があるか否かの検定である。差があるならどのぐらいの差があり、ないならどのぐらいの差がないのかを分析する方法である。

ナリスティックになりやすいことを意味する。

この実証的分析結果を踏まえ、韓流女性ファンが経験したネガティブなまなざしを具体的に見ていく。彼女たちが取り上げていたネガティブなまなざしを示す周囲の人々は、祖父母であったり、父親であったり、学校の男子学生であったり、バイト先の女将や男性の先輩などであり、主に「男性」が多かった。以下は、自身の韓流ファンとしての表出が、バイト先の男性の先輩からの批判を招いていたHの経験談である。

バイトの先輩で2人男の子がいて、私がK-Pop でなんちゃらって言ったりすると「あいつらのどこがいいの」とか、「ちょっと(韓国語)喋ってみて」とか、私がなにになにお勧めですよとか言うと、「全然あいつらの意味が分かん」とか言いますし(笑) …(知りたくないみたいな感じですかね。たぶん、自分が視野を広くすることが怖いとか、女の人は割とそういうのに寛容というか、広い心ですけど、男の人ってそういうのが狭いんじゃないですか。なんか、韓国が好きっていう時点で男の人引くんですよ！なんか、「理解し難い韓国が好き女」みたいながあるので、日本の男子は。なので、まず、男がいる前ではあまり言わないです。優しい、理解しようとしている子には言いますが、普通に男の子は「湘南乃風」とかバンドとかそういうのが好きな普通の男の子はK-Pop は若干引いちゃうみたいな感じ?!

H(大学4年生, 22歳)

Hは、自身の「韓流」消費に対する周りの反応にジェンダー差があることを経験している。「韓流」と出会ってから韓国語を学び、韓国に旅行するなどのトランスナショナルな文化実践を楽しんでいた彼女は、身近な人々に韓流ファンとしてのアイデンティティを表出していた。その彼女が受けたまなざしを、彼女の語りから解釈すると「外交的摩擦を醸す韓国の文化に熱狂する非理性的な女性」と見なす、男性中心的な批判であったと考えられる。

ここで指摘したいのは、そのまなざしが日本のアイドルや、アニメ、スポーツ選手の女性ファンに対するジェンダー差別的コードとは少々異なるということである。韓流女性ファンを他者化するまなざしには、これまで言及してきたような、女性文化を通俗化させる男性的まなざしに加え、政治的対立によるナショナリズムを強調する男性的まなざしがあると考えられる。男性中心の支配社会のなかで、彼女たちの「韓流好き、韓国好き」を他者として転落させる支配コードが、彼女たちの文化実践に居心地悪さを与えていた。

5.4 日本社会を生きる韓流女性ファンとしての不安

日韓関係の悪化や嫌韓風潮の高潮は、その社会のなかで韓流ファンとして生きる彼女たちに不安をもたらしていた。彼女たちのトランスナショナルな文化を通じた娯楽的快樂の実践が、支配コードのなかで「不安」という感情に結びつく過程が見られた。ここでは、その不安な感情がいかんして現れ、それが彼女たちの文化実践にいかなる影響を及ぼしたのかを見ていく。

以下は、最近浮上している「嫌韓」の風潮に対し、不安な心境を持っているEの語りである。

あまり関わりたくない。え〜なんか、あまり自分が韓国好きというのを出さずに関わる、関わらなければいけない人だったら関わるし、あまり関わらなくていいなら、関わりはしないように避けます…なんか、対立しているというだけでちょっと遠ざけたくはなります。日本人の中にもいるじゃないですか。韓国が嫌いだったり、中国が嫌いだったりする人が、そういう人たちの前で仲良くしてるのを見られたりすると自分の日本での生きる道が、なんか、反感を受けたりして自分が傷つくんじゃないかなって、遠ざけたくなるんですけど、対立しているっていうことで縛られたくはないです。自分一人じゃなくて、どこかで誰かがそういうことを言ってくれたりしてくれたら、自分も言えるかなと思います。

E (大学2年生, 20歳)

Eは、国家間の対立による相手国への反感は、どの国にも存在し、国内においても同様であるものとして認知している。しかし、彼女が韓流ファンになると同時に、それと反対的位置に立つこと、そして、その勢力が高まっている今日、自分がますます他者化されることに不安を感じていた。「韓流」が急速に人気を集めながら日本で広がっていた2000年代までも、韓流ファンは嫌韓の風潮の影響力がかすかであると認知していた (Yoo, Jae-Woong, 2007; Jung, Soo-Young, 2009; Han, Young-Gyun, 2014)。しかし、嫌韓の風潮がますます支配化していく今日、Eのように接触することを遠ざけたり、恐れったりしていることが分かった。

Eが感じる不安の意味を、彼女が語った「自分の日本での生きる道」という言葉から見つけることができよう。Eは、「韓流」という他者を受け入れることで、多様性豊かな快樂を感じながらトランスナショナルな文化の主体となった。ところが、それと同時に、社会において自身も他者化されてしまう現状に陥ったことで、彼女は「日本での生きる道」という、自身の属した社会、システム、国家的境界を超えることができず、不安を感じてい

たのであろう。

しかし、彼女が韓流ファンとしてのアイデンティティを抑えることが、支配コードに対する順応であるとは言えないと考えられる。彼女は自身を取り巻く社会との関係のなかで自分が従属された存在であることを認めながらも、それに支配されることを拒否していた。その方法として、彼女は、個人ではなく、同じ文化的趣向を共有する韓流ファンダムの中かで韓流ファンとしてのアイデンティティを形成していた。外国語大学に通っているEは、その大学の特質上、比較的にグローバル的な思考を持つ人々が多く、彼女はその中で多くの韓流ファンと交流しながら自身の文化実践を楽しんでいる。Eは、支配社会に従属する一員であるため、韓流ファンとして生きることには不安を感じているかもしれないが、最も身近な関係のなかで同じ文化的趣向を持つ人々と関わることで、その不安を解消していることが伺えた。

5.5 「私事化」する：韓流女性ファンダムの連帯感の強化

彼女たちは今日のような日韓関係、国内情勢の変化のなかで「韓流」の文化実践を内在化する「私事化」戦略を執っていた。彼女たちの「私事化」は、身近で密接的な関係にある彼女たちの間で行われていた。「私事化」は、具体的に2つに分類できる。1つは家族の中で、もう1つは女友達との間で行われていた。まず、前者の「家族の中での私事化」から見ていく。彼女たちの多くは、最も過ごす時間が長く、私的な場所である家庭内の家族を通して「韓流」に遭遇していた。なかでも全体の半分である6人が家族を通して「韓流」に遭遇しており、母親が2人、両親が1人、姉妹が3人であった。家庭という空間の特性上、家族みんなが共有するリビングにテレビを置き、それを囲んで1つのチャンネルを同時に見る光景は珍しいものではない。その意味で、家族の誰かが韓流ファンであり、テレビで韓流コンテンツを見ていたなら、家族構成員の誰かに影響を与えることが想定できよう。以下は、先に「韓流」にはまった母親の影響で「韓流」に触れていたHの語りである。

(お母さんから)小6の時に、「ピアノで「冬ソナ」弾いてくれない？」見たいなこと頼まれて、ポップカルチャーに触れるのもいいかなと思って実際弾いたんですけど(笑)意味も分からず歌ってました、あの歌詞(笑)お母さんはなんか、「泣けてくるわっ」って言ってました。別に感動じゃないですけど、お母さんが喜んでくれたなら、いいかなみたいな…ちょうどお母さんが帰ってくる時間と私が帰ってくる時間が重なるので、テレビを私も見たいんですけど、韓国ドラマを見ているために見れないですよ。チャンネル変えると怒られるんで、見るしかないかと思って見るみたいなのになぜかはまるみたいなの(笑)

…話すのは友達かお母さんが多いです。お父さんはありえないですね。お父さんは「またこんな見て」とか言って、「もう変えるよ！」って。テレビで見れる時があって、その時に「ホンギ」を久しぶりに見て、前も見たことあるので、「こいつ歌うまくなったな〜」って(笑)「前見たやつだな〜」って言ってて、ちょっと変わったかも知れないです。

H(大学4年生, 22歳)

もともと韓国に対しネガティブな意識が強かったHが「韓流」を受け入れるようになったことには、先に韓流ファンになった母親の影響が大きい。彼女の母親は、「韓流」が人気を集めるきっかけとなった『冬のソナタ』からのファンである。その時に、韓国ドラマやその主役を情熱的に支持していた中高年女性によって、日本で「韓流」が社会的認知度を上げ、急速に流通しはじめたのは周知の通りである。当時、彼女たちが身近な知人や他の韓流ファンと相互作用しながらネットワークを広げ、ファンダムを形成していたことも多くの研究結果から明らかになっている(三矢, 2004; 林, 2005; 平田, 2005; イ, 2008)。これと同様の現象が本調査で取り上げた彼女たちの家庭内においても見られた。

Hは、母親が自身に求める「韓流」を通した文化実践、例えば、韓国ドラマ視聴、コンサートへの同行、韓国旅行などを、幼少から行なってきた。韓流ファンである母親が一人娘に求める文化的共感と、それを受け止めていた彼女の語りから、母娘関係における親密性が見られた。「一卵性母娘」や「友達母娘」といった言葉からも推測できるように、同性の母娘間は親子関係の中でも心理的距離が近く、密接な関係の構築を意味している(藤田・岡本, 2010:121-122)。彼女が行う文化実践には、母親との親密関係に基づく母親に対する思いやりが内在されており、それが、彼女が「韓流」を受け入れることに対する抵抗感を軽減させる役割を果たしていたと考えられる。中高年女性に多く消費されていた「韓流」がジャンルを広げ、消費層を若年層にまで拡大していくこのプロセスに、Hのように親密関係に基づく、母娘間の「韓流」を介した共感があることが明らかになった⁴⁴。

一方、近年若年層を中心に K-Pop が普及されているが、Hのケースとは反対に、先にはまった娘の影響で母親もファンになるケースが見られた。

なんか、ちゃんと歌って、ロパクとかじゃないじゃないですか。日本語なのにちゃんと歌ってて、MC の時とかもすごい頑張って日本語喋ってくれてて、あ、すごいいいなと思って、はまりました。お母さんなんではまったのか、分からないですけど、(笑)なんか、グッズとか私と妹が学校終わって買いに行けなかった時とかに、グッズ販売とか並んでく

⁴⁴ 『OSEN』(2014/11/20)によると、「韓流」消費をめぐる親子同士の文化実践が、親子一緒にコンサートに行ったり、韓国旅行するなどの形で行われているという。

れてて、一緒に並んでいる人とかと仲良くなって、なんかはまったのかな～みたいな……
でもお父さんはあまり韓国好きじゃなくて、だからお父さんいない時に話す感じですけど、
お父さんはなんか、私たちがはまりすぎて、うるさいから、なんかちょっとうん、みたい
な、自分がたぶんその話題に入れないから、あまり良くないと思っているんだと思います。
たまに韓国料理食べに行きます。家族、お父さんもその時は一緒に行きます。話題が韓国
の方向に行くこともあるけど、行っても戻る(笑)

B (大学1年生, 19歳)

Bの場合、家庭内で父親を除く3人の女性が「韓流」を共有していた。妹とはK-Popの最新情報を共有し、母親とは韓国ドラマを見るなど、家庭内の女性同士で文化的共感帯を形成することで、互いの文化実践を促していた。家庭は、血縁という最も親密な関係で形成された人々が暮らす場であり、韓国に対する社会のネガティブなまなざしも比較的にならない、最も安心⁴⁵で安全な空間ともいえよう。そのなかで、彼女たちは「韓流」の共感帯を形成しつつ、家庭における女性同士の連帯感を強化させていった。親子関係の希薄化によって家族団らんのお茶の間がなくなっている現在、「韓流」という共通の話題の形成は、母娘間のコミュニケーションを増加させ、家族団らんの素材としてその絆と連帯感を強化させていく役割を果たしていたと言えよう。

一方、家庭においても、「韓流」や韓国にネガティブな意識を持つ人もいる。ここで取り上げているHとBに共通して見られた興味深い点は、「韓流」が家庭内の女性同士に消費され、連帯感が強化されていく一方で、それにネガティブな反応を見せる父親の存在が他者化されていくことであった。彼女たちは、嫌韓感情を持つ人々の前で自身の韓流ファンとしてのアイデンティティを表出せず、「私事化」する傾向を見せていた。しかし、家庭が安心かつ安全な空間であるために、父親が嫌韓感情を持っていたとしても、それは不安に至らない。なぜなら、父親は、彼女たちに脅威的な存在ではないためである⁴⁶。家族の形態と役割の変化によって、従来の家父長制家庭における父親の垂直的な権威が水平的に転換され、父親が優しくて親しい存在として位置付けられている。それに加え、何よりも安心を基盤とし、親密な関係を築いている家庭という空間は、彼女たちが「韓流」を満喫し、自

⁴⁵山岸(1998)の信頼理論に基づき、ここでは「信頼」より「安心」という概念に注目している。社会的現実性が低かったり、存在しない家族や仲の良い女友達との関係においては「相手が自分を搾取する意図を持っていない」という期待の中で、相手の自己利益の評価に根差した部分(1998:37)である安心が存在する。韓流ファンは、安心が存在する狭くて身近な人間関係のなかで、「韓流」を共有していた。

⁴⁶2012年NHK世論調査部の「中学生・高校生の生活と意識調査」では、父母に対し、「優しくあたたかい」「よくわかってくれる」「いろいろなことを話す」といった人が過去30年で最も多い結果となっている。「親子友達」という言葉が多くの研究で用いられているように、現在の親子関係はかつてのような家父長制に基づき、親の権威の元で築かれたものとは言い難い。

由に文化実践を行うことができる拠点となっていた。

次に、後者である「女友達の中の私事化」について見ていく。彼女たちのなかで、一緒にいる時間が多い仲の良い女友達と文化的趣向を共有し、これを拡張していくことが見られた。

友達が大好きで、友達から毎日聴かされて、「東方神起って素晴らしいんだよ」って、それから『東方神起』聴くようになって、韓国のドラマも見ようになって、好きになりました。仲良い友達一人と、ほぼ毎日聴かされてました(笑)最初聴いて、「あ、面白い」なんか、「東方神起の音楽は日本の音楽と全く違う」メロディが違うので、なんかヒップホップみたいで、「あ、好きだな〜」と思って、それからずっと聴くようになりました。『東方神起』好きになったのは、1年後ぐらい。その友達とは高校1年生から仲良くして、2年生になってから同じクラスでほぼ毎日「東方神起こういうふうだよ」と聞いて、3年生になってから、もう大好き(笑)韓国ドラマも、テスト週間にやってて、その時に「あ、面白いな」みたいな、…お母さんも普通に見てました。お母さんは私に影響されて、(笑)今もお母さんに見せてます。一緒に見て、最近は忙しくなっちゃったのでちょっとあれですけど、昔は朝起きたら東方神起のDVDかけて、ずっと着替える間もずっと東方神起見ながら、ごはん食べてる間もずっと『東方神起』、チャンネル権私にあります(笑)。

G (大学3年生, 21歳)

上記のGのケースを見ると、彼女の友達が「韓流」を積極的かつ反復的に伝播する行為を行っていたのは、彼女との親密な関係にいたからこそ可能だっただろう。同時にGも、「韓流」が仲の良い友達からの勧めであったため、それに抵抗感なく繰り返し接していくことができたのである。群れ関係を取ろうとする青年自身は、友人関係を維持するために、友人がとっている関係の取り方に合わせようとする(岡田, 1999:437)可能性があるが、その同調傾向は自分の理想に反するものではない。つまり、韓流女性ファンの「私事化」によって、「韓流」を親しい友達との間で一緒に共有し、文化的共感帯を形成していくことで、女性的連帯感を強化させながら韓流ファンダムをより広げていった。

5.6 韓流ファン文化を差別化する

彼女たちは、「韓流」という文化と、その文化を消費する自身の文化実践を、既存文化のそれと区分することで、特別さを付与し、差別化されたアイデンティティを形成していた。ここでは、自ら差別化するその戦略のなかに、いかなる意味が込められているのかを見てい

く。

なんか、もう私が逆に『EXILE』が好きとか、『flumpool』が好きとか言われたら、‘え～?’
(笑)、逆にですね。ちょっと、えっ?てなります。あまり、こう脱ぐようなアイドル好き
な子、いないと思うんですね。確かに『EXILE』も脱ぎますけど、『EXILE』って結構色ん
な子が好きじゃないですか。でも『2PM』が好きな子って、日本ではおばさんとかは好き
な人が多いですけど、私ぐらいの年齢で好きな人はいないイメージなんで、ちょっと違うっ
ていう感じです。

D (大学2年生, 20歳)

だって、「日本のアイドルが好きになれないんだもん」っていうのがあります。これと言
って、魅力を感じないというか、もちろん格好良いとは思いますが、一緒に歌を歌いた
いとか、別にないです。人と違うのが好きというがあるので、『EXILE』とか『嵐』と
かみんなが好きなのを好きって言う人はなんか、自分がないんじゃないかなみたいな、ち
よっと言い過ぎですけど、そんな感じで、個人主義なので、わりとそういう子が多いと思
います。K-Pop が好きな子は、こだわりがあるみたい。

H (大学4年生, 22歳)

上記の二人の韓流女性ファンの語りから、一般的な既存のポピュラー文化を好むことな
く、あえて稀少性の高い海外発信の文化を消費する自身の文化的趣向を、位階的に昇格さ
せようとする意志が見られた。もちろん、「韓流」は海外発信の文化であり、日本で消費す
るためには高度な資本と努力が求められるだろう。当然ながらトランスナショナルな文化
の希少性を能動的に消費する彼女たちの文化実践を特殊で特別なものとして評価すること
もできると考えられる。

しかし、今日のように「韓流」とそのファンが他者化され、彼女たちのなかにも葛藤が
生じているため、その意図を社会関係のなかで解釈する必要があると考えられる。それは、
自身のファンダムが支配コードのなかで評価が矮小化されること(韓流ファンダムがおば
さん文化としてコード化されることや、「韓流」が主流ではなく周縁的な文化に当たること)
を、逆に「稀少性」や「特殊性」で乗り越えようとしていたと解釈できよう。ナショナリ
ズムやジェンダー的差別により他者化される自分たちの文化を逆に既存文化と区分し、差
別化することで彼女たちのプライドに、一種の補償心理が含まれていることが明らかとな
った。

本研究では、彼女たちの「私事化」を批判的に見ていない。なぜなら、自身の文化実践

をめぐる支配コードを認め、彼女たちは韓流ファンとしてのアイデンティティを表出することに一線を引きながら、自らを差別化させることで自身の文化実践を維持していたためである。そして、平凡な日常生活を生きてきた彼女たちが、異文化としての「韓流」を様々な形で消費し、トランスナショナルな価値観、外国語習得、創造的文化を生産する能力など、文化資本を身につけた女性として成長していた。支配コードとせめぎ合いながら、能動的・創造的主体として浮上した彼女たちの文化実践には、サブカルチャーの特徴が見られた。

第6章 結論

6.1 研究要約

本研究は、トランスナショナルな文化を消費する韓流女性ファンの能動的な文化実践の諸相を明らかにし、その文化実践が国家や民族、システム、ジェンダーなどを重視する支配コードによって、ネガティブなイメージを帯びてしまう現状を批判的に検討し、支配コードとのせめぎ合いを明らかにした。そのための研究手法として、カルチュラル・スタディーズにおけるオーディエンス・エスノグラフィー研究法を採用した。

本研究がカルチュラル・スタディーズの理論的枠組みを用いて韓流女性ファンの文化実践とせめぎ合いを明らかにしようとする理由は次の2つである。1つは、トランスナショナルな「韓流」を消費する彼女たちの文化実践が日韓関係、ひいては東アジアの政治的対立による国家的支配コードの規定を受けながら他者化されているためである。もう1つは、主な消費層が女性であることからジェンダー的コードも加わり、彼女たちの文化実践への評価が矮小化されていると想定したためである。これらの理由から、本研究は支配コードの規定を受けるオーディエンスが、意味付けをめぐる過程に能動的に参加することの政治性を重視するカルチュラル・スタディーズの理論的枠組みを参考にした。

そもそも、日本における「韓流」消費を論じる際、トランスナショナルな海外発信の文化である「韓流」は、地域的特異性により、少し異なる解釈をする必要があると考える。「韓流」は、海外文化としてたびたび取り上げられる欧米圏(英語圏)発信の文化ではなく、植民地経験や戦争などの歴史的な葛藤を持つ東アジア、そこに属する韓国発信の文化である。しかし、序論で述べたように、対立関係が緊迫状態にある東アジア地域において、他の国々よりも「韓流」消費が最も多いことはアイロニカルな現象でもある。実際に、地域的特異性により、「韓流」消費とその人気は、各地域において激しい衝突と結びついている。このような状況において、「韓流」を楽しむ日本人女性ファンたちの文化実践は何か、その文化実践過程にいかなるせめぎ合いがあるのかを明らかにし、「韓流」を通じた文化実践をの意味を国際関係のなかで確認することが重要な課題であると考えた。そのため、彼女たちの日常的な文化実践に起きる様々な経験を記述し、考察するオーディエンス・エスノグラフィー研究法(特定の目的変数に寄り添うのではなく、オーディエンスの視点からその経験を再現していく解釈的アプローチ)を用いて12名の韓流女性ファンの文化実践の特徴を再現し、支配コードとの中で現れるせめぎ合いを明らかにした。

まず、「研究課題1」においては、彼女たちの文化実践の特徴を以下の6つにまとめた。

1つ目の特徴は、日本文化との差異を楽しんでいた点である。彼女たちが語った「韓流」

の差異は、ドラマなら「ストレートな愛情表現」、「人間関係の密接さ」、「予想外の展開」など、K-Pop なら「セクシー」、「歌唱力が高い」、「曲が良い」、「ダンスが上手い」、「礼儀正しい」、「真面目」などであった。彼女たちはこのように、常に既存文化と「韓流」を比較し、差異を見出しながら「韓流」を消費していた。その理由は、「韓流」の差異が自身の個性的な文化的趣向とマッチされることでこれまで感じたことのない快樂を感じていたためであった。そして、彼女たちは「韓流」の差異を受け入れながらトランスナショナルな文化のファンへと変貌していったのである。

2 つ目は、韓流スターの「完璧な男性性」を通して、自身のセクシュアリティを満たしていた点である。彼女たちは、日本社会において、一般的に男性のセクシーで強靱な姿が消え、「草食男子」が増えていることを批判的に見ていた。彼女たちが語る韓国ドラマや K-Pop アイドルに表れる男性性とは、強く、勇ましく、セクシーな男らしい容姿に、優しくてジェントルな内面と能力まで備えた完璧に近いものであった。このような男性性に対する女性たちの追求は、伝統的コードを支持しているようにも捉えられる。しかし、彼女たちはそれに止どまることなく自身のセクシュアリティを満たすための対象としてその男性性を能動的に消費していた。このことから、ジェンダー的権力関係の亀裂が伺えるのである。

3 つ目は、「私との関連性」を通して共感を得ていた点である。彼女たちは、韓国ドラマや K-Pop アイドルを自身と深く関連付けて消費することで、リアルなものとして共感し、代理的な満足を得ていた。彼女たちは、韓国ドラマに見られる恋愛関係・家族関係・職場関係などを、自身の日常生活の延長線上におくことで共感し、快樂を感じていた。つまり、彼女たちは韓国ドラマのテキストに、自身の日常生活を反映させる能動的な文化実践を行うことで、その想像の世界に代理的な満足を覚えていたのである。一方、彼女たちは K-Pop アイドルの SNS を通してファンと直接的にコミュニケーションをとることや、ファンに対し優しく、礼儀正しく振舞うことなど能動的に受け入れることで、まるで自分と密接な関係にいるような想像力を発揮し、リアリズムが生まれる快樂を感じていた。彼女たちは「韓流」を自身の日常生活と深く関連付けて解釈し、共感し、間接的に満足することで感じた快樂をさらに、日常生活を生きるための力として還元する能動性を見せていた。

4 つ目は、親しみやすい異文化として共感していた点である。彼女たちが消費していた「韓流」は既存文化と遠くかけ離れた文化ではなく、比較的日本人が共感しやすい文化であることを、「文化的近接性」と「文化混淆化」概念を用いて分析した。韓国ドラマの場合、日本と同じ東洋圏文化であるため、人物に対し視覚的に共感しやすい文化であった。また、同じ東アジアの儒教文化としての人間関係や社会的背景(生活習慣、都市姿)なども日本と類似している。しかし、「韓流」の「文化的近接性」だけでは、彼女たちの文化実践の特徴

を論じ尽くすことは不可能である。例えば、K-Pop の場合、彼女たちは日本のアイドルと変わらない印象を受けていたため、ここでは「文化混淆化」という概念を用いて分析した。K-Pop が、慣れ親しんできた自国のアイドル文化と混淆した文化であるからこそ、彼女たちの日常に抵抗なく受け入れられたのであろう。

5つ目は、インターネットを通して、彼女たちが文化資本を習得していた点である。「韓流」は、海外発信のポピュラー文化であることから希少性を持つ。その希少性のある「韓流」消費に、インターネットは欠かせないメディアであった。日本のテレビでは、日本語の吹き替えや字幕が入った韓流コンテンツを放送しているが、彼女たちの多くは日本語化されていない韓流コンテンツを消費することを好んでおり、時空を超えたインターネットを通して能動的に消費していた。彼女たちがインターネットを通して収集する情報は、「韓流」だけではなく、韓国に関するニュース、政治など様々な領域に広がっていた。その文化実践を通して、彼女たちは高いスキルの韓国語能力や知識を身に付けていたのである。一方で、韓流女性ファンがSNSを通して交流し、自律的にコンテンツやファンダム文化を生み出すなど、様々な文化資本を蓄積することに寄与する文化実践を行うことで、新たな社会集団としての価値形成の過程を伺うことができた。

6つ目は、韓流女性ファンの主要文化の1つである「完コピ」を実践していた点である。「完コピ」は、プロのパフォーマンスを、アマチュアが完全に模倣し再現することであり、K-Pop に至っては、2010 年以降メディアからも注目されるほど話題になった。「完コピ」は私的領域だけではなく、公園や街中でも披露され、国内のあらゆるところで大会が開かれるほど話題となっていた。「完コピ」は、生産者となる韓流ファンの一人一人の個性が吹き込まれた創造的ファンダム文化である。ファンダムへの能動的参加とそこでの相互作用を通して、ダンスという高度な技芸を生かした創造的ファンダム文化が生み出されたと見ることができよう。

一方で、韓流女性ファンの文化実践には、日韓関係の対立による、国家や民族、ジェンダーイデオロギーを強調する支配コードに抑圧され、他者化されることへのせめぎ合いが見られた。この点は「研究課題 2」において、支配コードとの衝突による葛藤や不安、そして「私事化」する戦略などを論じることで具体的に明らかにした。まず、実証的データを通して 2011 年後半から深化している日韓の政治的対立が、国内のナショナリズムと保守的性向を仰いでいることを明らかにし、それが韓流女性ファンの文化実践にも圧力をかけていることを示した。

そして、そのなかで彼女たちが複雑な心境に至る様子が見られた。それは、自身の文化領域に「政治」が介入することへの「疲れ」や、自分たちが他者化されることへの「不安」、

日韓関係や東アジアの関係が政治的対立によって悪化していくことへの「歯がゆい思い」などであった。その結果、彼女たちは社会のなかで、韓流ファンとしてのアイデンティティの表出を躊躇していた。しかし、この葛藤が支配コードに対する服従と屈服を意味するとは言い難い点も確認できた。

彼女たちは韓流ファンとしてのアイデンティティを表出することに一線を引く、「私事化」傾向を見せていた。彼女たちの「私事化」は、女性的親密感を共有する人々と「韓流」を共有していくことで連帯感と所属感を強化させながら、「韓流」を楽しむ戦略であった。さらに、彼女たちの語りから、支配コードのなかで自身のファンダムの評価が矮小化されることを、「韓流」や自身のファンダムが持つ「稀少性」という特徴として逆説的に強調することで乗り越えようとする意志が見られた。「韓流」を既存文化と区別し、差別化することでプライドを持つ彼女たちの文化実践を通して、韓流ファンダム文化が1つのサブカルチャーとして定着していることが分かった。

上記の要約を踏まえた上で、韓流女性ファンダムが「差異」を受け入れ、多様性を楽しむ能動的文化実践の意味を、ミクロ的な個人レベルの視点と、マクロ的な日韓関係及び東アジアの国家レベルの視点から考察する。

まず、前者の個人レベルの視点からは、彼女たちの異文化を通じた能動的文化実践が、それぞれの日常生活に多様性溢れる経験をもたらし、エンパワーメントする可能性を秘めていることが見出された。例えば、Ang(1985)、Radway(1984)の研究から確認した文化実践が、韓流コンテンツを自身の日常生活と深く関連付けて消費し、想像の世界を生み出すことや、それを通して代理的満足を満たし、自身の日常生活を生きる力として生かす側面にその可能性を見出すことができる。また、フィスク(1987a=1992)、Jenkins(2006=2008)の研究から確認したファンの生産者としての創造的実践が、インターネットを通してファンダムへ参加し、情報や知識を共有することや、ファン同士の相互作用によって、ファンダム文化を生産する側面から見られた。これらを通して、学生として、独身女性として、主婦として定められた日常生活を送っていた日本人女性たちが、「韓流」を受け入れることで、自身の日常生活に起る様々な変化を楽しむ、文化実践の能動性が見られた。

次に、後者の国家レベルの視点から考察した場合、彼女たちの他者を受け入れる能動的文化実践が、歴史、政治、文化的葛藤を帯びた韓国や東アジアを知り、理解するように作用することで、韓国を始め、東アジアに対する連帯感の形成に結び付くことを明らかにした。前述のように、今日、「韓流」が最も消費されている地域は、日本と中国の東アジア地域である。東アジア地域は、様々な分野における長期的な激しい衝突により、各国の排他的ナショナリズムを煽り、緊迫状態にある。そのなかで、韓流女性ファンの能動的文化実

践、つまり、他者を受け入れ、理解しようとする姿を通して、日韓関係、ひいては東アジアの友好関係を結ぶきっかけとなる兆しが見られた。実際に、彼女たちのなかには「韓流」消費のみならず、韓国語や中国語を勉強や、日中韓の友好を求める実践を行っている者もいた。

一方で、彼女たちのなかには、韓国と東アジア関係の悪化を悩み、それを改善したいという思いが消え去ったり、弱まったりする傾向はあったものの、彼女たちが見せた「韓流」消費とそれによる意識の変化、交流の活性化のための努力は、日韓関係、さらには、東アジア関係回復の架け橋となる可能性を示していると言えよう。

本研究では、他者の文化を知り、その知識を積みながら理解しようとする彼女たちが手に入れた能力を、「カルチュラル・インテリジェンス(cultural intelligence) ⁴⁷」と見ている。彼女たちが「韓流」を通して手に入れたカルチュラル・インテリジェンスこそ、エバーチェンジングなグローバル化に必須な能力であろう。特に、グローバル化によりさまざまな国際関係において、民間的次元からの克服に臨む際、対話と協力を通じた友好的発展を図ることのできる重要な能力として解釈できよう。

6.2 研究成果及び反省点

本研究は、以下の点において、学術的及び社会的意義を有する。

1. 学術的意義

まず、カルチュラル・スタディーズのオーディエンス・エスノグラフィー的アプローチを通して、社会的に他者化される韓流女性ファンの文化実践を再考察することで、その文化実践の特徴と、社会関係とのせめぎ合いを具体化させ、彼女たちを能動的主体として見直すことができた。彼女たちの能動的文化実践を促すメディアとして、インターネットを取り上げることで、トランスナショナルな文化消費におけるインターネットの機能とその重要性を提示した。そして、韓流女性ファンの能動的文化実践が持つ意味を、国際的知識と文化能力の習得を通じたエンパワーメントの可能性として具体化させた。

このような知見は、ジェンダー的側面においても意義を持つ。韓流女性ファンをトランスナショナルな文化及び国際関係の新たな主役として位置づけることは、女性文化の価値を矮小化するジェンダー化された社会構造において、それを回復させる役割を果たせると

⁴⁷カルチュラル・インテリジェンスとは、文化が多様な状況で機能することのできる能力である(笠井, 2009)。この能力は、文化的に多様な状況に関心・興味を持ち、状況の違いや自らの文化をメタ認知しながら、行動も変化させていくことのできるものとしてグローバルな人材に求められている(笠井, 同前, 2009:4)

見ることもできよう。本研究は、ナショナリズムとジェンダー的まなざしのなかで他者化されていた韓流女性ファンを、グローバル時代の中心的存在として再位置付けすることができる手がかりを提示したと考えられる。

また、「韓流」が政治的に絡み合うことで、近年、日本の女性ファンの消費傾向に関する考察が不足するなか、エスノグラフィー的アプローチを通して、彼女たちの文化実践の意味合いを理解し、日本で「韓流」が10年を超える歴史を経ていかに定着したのかを提示することができたであろう。

2. 社会的意義

本研究では、「韓流」のようなトランスナショナルな文化が日韓関係、ひいては東アジアの共同文化形成のための手がかりとなることを提示できた。さらに、他者を受け入れる文化実践を通して、韓国を始め、東アジアへの関心と意識が広がることを示した。これは、近年、国際関係が国民国家の枠組みに封じられ、対立と緊張関係を形成しているなかで、「韓流」のようなポピュラー文化を通して人々がトランスナショナルな文化共同体としてのアイデンティティを築くことを含意する。このことは、国民国家的価値理念によってネガティブなイメージを帯びる「韓流ファンダム」を再評価し、日韓関係はもちろんのこと、東アジア文化共同体における新たな主体として位置づけることができたと考える。

一方、本研究は研究方法において幾つかの限界と反省点を持つ。本研究は、「韓流」を通して韓流女性ファンの日常生活に再現されるせめぎ合いを記述するため、エスノグラフィー研究法を用いた。「第3章 研究方法」においても述べたが、伝統的なエスノグラフィー研究法では、特定の文化様式を把握するために、研究者が長い間、対象者と密接な関係を結びながら彼/彼女らの日常生活に入り込み、参与観察やインタビュー調査などを実施する。前述したように、文化人類学で用いられる伝統的なエスノグラフィー法が、オーディエンス・エスノグラフィー研究において簡素化されることにより、考察に限界が生じる点については、周知の通りである。12名の韓流女性ファンを対象にインタビュー調査を通して書き出した彼女たちの日常生活の詳細なデータが、彼女たちの私見を通して再現したものに過ぎなかったため、深い考察に結びつけるのに限界があったことは、反省すべき点であろう。

また、補助データとして用いられた実証調査のデータが、韓国や、政治的論争に対する日本世論の動向を示してはいるが、「韓流」に対する世論の動向を示していないことは、残念な点である。「韓流」関連研究は、「韓流」が一時期ブームを起こし社会的現象となった2000年初めのものが殆どであり、以後、「韓流」が政治的懸案と関わりネガティブな言説を

形成したため、量的及び質的のどちらにおいても研究が疎かになっている。しかし「韓流」を、政治的論争やナショナリズムなど、支配コードの政治的ツールとして用い、ネガティブな言説を生成する社会構造を批判的に省察する、カルチュラル・スタディーズの学問的関心はこれからも必要であると考えられる。トランスナショナルな「韓流」とそのファンダムは、未だに女性という特定オーディエンスを中心に中国を始め、世界各国のサブカルチャーとして定着している。「韓流」というポピュラー文化と海外各国のオーディエンスが出会い、生み出す様々なせめぎ合いと特定現象をカルチュラル・スタディーズ的アプローチの他にも、量的アプローチを並行させ、明らかにしていくことが重要であろう。

引用文献

【英語文献】

- Ang, I. (1985). *Watching Dallas: Soap opera and the melodramatic imagination*, Methuen.
- (1996). *Living room wars: Rethinking media audiences for a postmodern world*. London and New York: Routledge.
- Bakhtin, M. M. (1968). *Rabelais and his world*, Cambridge: MIT Press.
- Butler, J. (1992). Contingent foundations: Feminism and the question of “Postmodernism”, in Butler, J. & Joan W. Scott (eds.), *Feminists theorize the political*, 3-21, New York: Routledge.
- De Certeau, M. (1980). *L’Invention du quotidien, I: Arts de Faire*, Paris: Gallimard.
- Csikszentmihalyi, M. (1975). *Beyond boredom and anxiety: Experiencing flow in work and play*, San Francisco: Jossey-Bass.
- Fiske, J. (1987a). *Television culture: popular pleasure and politics*, Hutschon.
- (1987b). *British cultural studies and television*. In R. Allen (ed.) *Channels of discourse*, London: Methuen.
- (1992). *The cultural economy of fandom*, In Lisa A. Lewis (ed.) *The Adoring Audience: Fan culture and popular media*, 30-49, London: Routledge.
- Flick, U. (1995). *Qualitative forschung: Theorien, methoden, anwendung in psychologie and sozialwissenschaften*, Reinbek bei Hamburg: Rowohlt.
- Hall, S. (1980). Encoding/decoding, In S. Hall, D. Hobson, A. Lowe, & P. Willis (eds.), *Culture, media, language*, 128-138, London: Hutchinson.
- Henry, J. (1992). *Textual poachers: Television fans & participatory culture*, London: Routledge.
- Henry, J. (2006). *Convergence culture: Where old and new media collide*, NYU Press: Updated.
- Hobson, D. (1982). *Crossroads: The drama of a soap opera*, London: Methuen.
- Morley, D. (1980). *The nationwide audience: Structure and decoding*, London: British Film Institute.
- (1992). *Television, audiences, and cultural studies*, London and New York: Routledge.
- Nightingale, V. (1989). What’s ethnographic about ethnographic audience research?,

Australian Journal of Communication 16, 50-63.

Radway, J. (1984). *Reading the romance: Women, patriarchy, and popular literature*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

———(1988). Reception study: Ethnography and the problems of dispersed audiences and nomadic subjects, *Cultural Studies* 2(3), 359-376.

Procter, J. (2004). *Stuart Hall*, Routledge.

Shim, Doo-bo (2006). Hybridity and the rise of Korean Popular culture in Asia, *Media, Culture & Society* 28(1), 25-44.

Straubhaar, J.D. (1991). Cultural diversity; Beyond media imperialism: Asymmetrical interdependence and cultural proximity, *Critical Studies in Mass Communication* 8, 39-59

【日本語文献】

安貞美 (2008). 「日本における韓国大衆文化受容—『冬のソナタ』を中心に」『千葉大学人文社会科学研究』 16, 196-210.

石井健一 (2003). 「東アジアにおける日本大衆文化の浸透とその要因」第 35 回韓日文化フォーラム日本大衆文化第 4 次開放と韓日文化交流の展望 発表論文(12 月 6 日).

石井健一 (2005). 「韓流の源流—アジア志向の経時的比較」Institute of Socio-Economic Planning discussion paper series.

石井健一 (2011). 「韓国ドラマ視聴の要因分析—対外意識とコンテンツ利用の関連」Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series. 1282.

石田佐恵子 (2007). 「韓流ブームの様々な語り手たち—他者表象と越境する文化」1-32, 石田佐恵子・木村幹・山中千恵他編. 『ポスト韓流のメディア社会学(現代社会のフロンティア)』 ミネルヴァ書房.

イ・ヒャンジン著, 清水由希子訳 (2008). 『韓流の社会学—ファンダム、家族、異文化交流』岩波書店.

伊藤公雄 (2000). 「カルチュラル・スタディーズが問いかけるもの」『理論と方法』 15(1), 75-88.

伊藤勇 (2008). 「質的インタビュー調査の再概念化」福井大学教育地域科学部紀要 第Ⅲ部社会科学 64, 1-31.

伊藤守 (2001). 「メディア・スタディーズにおける「階級」概念の再構築」, 吉見俊哉編. 『メディア・スタディーズ』 せりか書房.

- 岩渕功一(2001).『トランスナショナル・ジャパン—アジアをつなぐポピュラー文化』岩波書店.
- 岩渕功一(2007).『文化の対話カーソフト・パワーとブランド・ナショナリズムを超えて』日本経済新聞出版社.
- 植木とみ子(1981).「女性の意識の現状に関する考察:福岡市における婦人の意識の実態調査より」長崎大学教育学部社会科学論叢 30, 27-45.
- ウィリアム・フット・ホワイト著, 奥田道大・有里典三訳(2000).『ストリート・コーナー・ソサエティ』有斐閣.
- ウヴェ・フリック著, 小田博志他訳(2003).『質的研究入門 —「人間の科学」のための方法論』春秋社.
- 大石裕(2010).「能動的オーディエンス論の構成」『法學研究: 法律・政治・社会』83(2), 73-93.
- 岡田努(1999).「現代大学生の認知された友人関係と自己意識の関連について」『教育心理学研究』47(4), 432-439.
- 小倉紀蔵(2005).『韓流インパクト—ルックコリアと日本の主体化』講談社.
- 小倉紀蔵(2007).「歴史認識」126-129, 小倉紀蔵・小針進他編『韓流ハンドブック』新書館.
- 纓坂英子(2008).「韓流と韓国・韓国人イメージ」『駿河台大学論叢』36, 29-47.
- 笠井恵美(2009).「海外派遣勤務と文化的知性(CQ)—帰任前後の心境の分析から」『Works review』4, 234-237, リクルートワークス研究所.
- 河津孝宏(2008).「「私」を語るテレビ視聴—海外ドラマ『Sex and the City』の生活史の実践」『マス・コミュニケーション研究』72, 59-77.
- 河津孝宏(2009).『彼女たちの『Sex and the City』—海外ドラマ視聴のエスノグラフィー』せりか書房.
- ギアーツ著, 吉田禎吾他訳(1987).『文化の解釈学 1、2』岩波書店.
- 北原みのり(2013).『さよなら、韓流』河出書房新社.
- 金相美(2004).「日本における『冬のソナタ』視聴と効用: 韓国に対するイメージ・感心・評価向上を中心に」2004年11月4日ソウル大学言論情報研究所主催 ソウル大学校・東京大学合同シンポジウム報告.
- 金相美(2015).「若年層は如何に保守化しているのか—若年層の投票行動に関するウェブベース質問紙調査結果を元に—」日本マス・コミュニケーション学会 2015 年度春季研究発表会発表論文.
- グレアム・ターナー著, 金智子他訳(1999).「カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英

- 国での発展」作品社.
- 小針進(2007).「嫌韓流」151-153, 小倉紀蔵・小針進他編『韓流ハンドブック』新書館.
- 小山雄一郎(2008).「性別役割意識の規定要因」119-139, 安河内恵子編『既婚女性の就業とネットワーク』ミネルヴァ書房.
- 斉藤慎一・李津・有馬明恵他(2010).「韓流ブームと対韓意識—韓流との関連で見た韓国・韓国人イメージおよび日韓関係に対する認識」東京女子大学比較文化研究所紀要(71), 1-32.
- 桜井厚(2002).『インタビューの社会学—ライフストーリーの聞き方』せりか書房.
- セルトー・ミシェル著, 山田登世子訳(1987).『日常実践のポイエティーク』国文社.
- ジェームス・プロクター著、小笠原博毅訳(2006).「スチュアート・ホール」青土社.
- フィスク・ジョン著, 伊藤守他訳(1996).『テレビジョンカルチャー:ポピュラー文化の政治学』梓出版社.
- 鄭榮蘭(2014).「日本における「韓国文化受容」と今後の課題—放送・映画部門での「韓流」受容の過程を中心として—」『日本国際情報学会誌』11(1), 44-55.
- 高原基彰(2006).『不安型ナショナリズムの時代—日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社.
- 竹内郁郎・児島和人・橋元良明(2005).『メディア・コミュニケーション論1、2』北樹出版.
- 田中東子(2012).『メディア文化とジェンダーの政治学：第三波フェミニズムの視点から』世界思想社.
- 徳田真帆(2010).「ジャニーズファンの思考」『くにたち人類学研究』5, 21-46.
- 長谷川典子(2005).「テレビドラマ「冬のソナタ」の受容研究—日韓コミュニケーションの視点から」『多文化関係学』2, 15-30.
- 長谷川典子(2007).「韓国製テレビドラマ視聴による態度変容の研究—異文化間教育の視点から」『異文化間教育』25, 58-73.
- 長谷川典子(2007).「対韓イメージの質的研究Ⅱ—ドラマ視聴が生む心理的变化の経時的調査」『異文化コミュニケーション』10, 63-82.
- 林香里(2005).『「冬ソナ」にハマった私たち—純愛、涙、マスコミ…そして韓国』文藝春秋.
- 韓英均(2013).「日本における韓流現象と韓国の韓流に対する認識」早稲田大学審査学位論文(博士).
- 平井智尚(2014).「一般の人々によるメディア・コンテンツ生産の理論枠組み—ファン研

- 究の有効性」 慶應義塾大学 メディア・コミュニケーション研究所紀要 64, 65-74.
- 平田由紀江(2007).「韓流とその「愛のあと」—韓国を消費する女性とその表象をめぐって」 33-54, 石田佐恵子・木村幹他.『ポスト韓流のメディア社会学(現代社会のフロンティア)』 ミネルヴァ書房.
- 藤田結子・北村文編(2013).『現代エスノグラフィー—新しいフィールドワークの理論と実践』 新曜社.
- 藤田ミナ・岡本祐子(2010).「青年期における母娘関係とアイデンティティとの関係」『広島大学大学院心理心臨床教育研究センター紀要』 8, 21-132.
- フォンセカ酒井アルベルト清(2006).「ケン・ブラマーにおけるライフストーリー調査法のメディア研究への応用可能性」 千葉大学社会文化科学研究 12, 191-200.
- 黄盛彬(2011).「韓流と反韓流の交差—日本人のアイデンティティと韓国認識」『日本學』 33.
- ブロニスラフ・マリノフスキー著, 増田義郎訳(2010).『西太平洋の遠洋航海者』 講談社学術文庫.
- 三矢恵子(2004).「世論調査からみた「冬ソナ」現象—「冬のソナタ」に関する世論調査から—」『放送研究と調査』 2004 年 12 月.
- 毛利嘉孝(2004).「「冬のソナタ」と能動的ファンの実践」, 毛利嘉孝編『日式韓流—「冬のソナタ」と日韓大衆文化の存在』 せりか書房.
- 盛山和夫(2004).『社会調査入門』 有斐閣.
- 山岸俊男(1998).『信頼の構造: こころと社会の進化ゲーム』 東京大学出版会.
- 山腰修三(2014).「批判的コミュニケーション論 における「政治的なもの」の再検討-N. Couldryのメディア理論を手がかりとして」 メディア・コミュニケーション: 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要64, 41-51.
- 山田昌弘・開内文乃(2012).『絶食系男子となでしこ姫』 東洋経済新報社.
- 山本健太郎(2015).「国交正常化から 50 年の日韓関係—歴史・領土・安全保障問題を中心に」『レファレンス』 722, 43-62.
- 吉川徹(1998).「性別役割分業意識の形成要因—男女比較を中心に」 49-70, 尾嶋史章編『現代日本の社会階層に関する全国調査研究 第14巻, ジェンダーと階層意識』.
- 吉見俊哉(2001).『カルチュラル・スタディーズ(思考のフロンティア)』 岩波書店.
- 渡邊聡・石井健一(2012).「韓流と国家イメージ—ナショナリズム的態度との関係」『国際関係・比較文化研究』 11(1), 195-215.

【韓国語文献】

- Bae, Hyen-Ju(2013). 「成人女性のアイドルグループファン経験に関する文化記述的研究」
仁荷大学大学院文化経営学科博士学位論文.
- Cho, Young-Han(2012). 「インターネットと民族誌学的オーディエンス研究ーインターネット・エスノグラフィーの可能性と課題」『メディア、ジェンダー&文化』 21, 101-170.
- Choi, Eun-Kyoung(2014). 『グローバルメディアと文化境界』 コミュニケーションブックス.
- Chung, Jae-Jeong(2013). 「韓日関係の危機と克服のためのオデッセイー領土と歴史をめぐる葛藤を中心に」『領土海洋研究』 5, 4-37.
- 林香里(2006). 「日本における「韓流熱風(boom)」の限界ー大衆媒体システムにおける女性視聴者(audience)の問題」 梨花女子大学校アジア女性学センター学術大会資料集 79-97.
- Han, Young-Gyun(2014). 「日本人の韓流受容による韓国認識の変化」『韓日関係史研究』 48, 383-420.
- 平田由紀江(2005). 『韓国を消費する日本ー韓流、女性、ドラマ』 チェクセサン.
- Jenkins, Henry 著, Kimjung, Hee-Won・Kim, Dong-Sin 訳(2008). 『カンヴァージェンス・カルチャー』 ビズアンドビズ.
- Jeon, Gyong-Ran(2008). 「デジタル・ゲームファンダムに関する研究」『ゲーム産業ジャーナル』 19, 26-45.
- Jung, Soo-Young(2009). 「熱性韓流ファンを通して見た韓流の意味及び日韓関係の展望ー日本女性を中心に」『メディア、ジェンダー&文化』 11, 75-122.
- Jung, Soo-Young(2011). 「日本内韓流地形の探索及び韓流受容者の文化実践に関する研究ー韓流専門家と市民グループ KAJA の深層インタビューを中心に」『メディア、ジェンダー&文化』 20, 207-239.
- Jung, Sun(2011). K-pop beyond Asia: Performing trans-nationality, trans-industriality, and trans-textuality. 韓国言論学会主催セミナー、韓流 2.0 時代の診断と分析資料集, 3-26.
- Kim, Chang-Nam(1998). 『ポピュラー文化の理解』 ハンウルアカデミー.
- Kim, Hyun-Mi(1997). 「フェミニズムとカルチュラル・スタディーズは幸せに会うのか」『現代思想』 3, 83-102.
- http://ycgs.yonsei.ac.kr/www/bbs/board.php?bo_table=qna・wr_id=4
- Kim, In-Kyeong・Kwak, Keum-Joo(1998). 「韓国斉唱年のロックンロールに対する意識」『韓国心理学会誌：文化及び社会問題』 4(1), 15-28.

- Kim, Ji-Oon(2011).『批判コミュニケーション：批判理論の政治経済文化研究』コミュニケーションブックス(グーグルブックス電子版).
- Kim, Su-Jeong(2010).「オーディエンス研究の解説モデルとジョン・フィスクに対する再評価ーオーディエンス研究に対する批判的省察と開かれた論争のために」『言論と社会』18(1), 2-46.
- Kim, Su-Jeong(2012).「東南アジアにおける韓流の特性と文化趣向の超国家的流れ」『放送とコミュニケーション』13(1), 5-54.
- Kim, Su-jeong・Kim, Soo-ah Kim(2015).「解説パラダイムを超えて遂行パラダイムへーファンダム研究の現況と争点」『韓国放送学報』29(4), 33-81.
- Lee, Kee-Hyeong(2009).「葛藤の時代、「民族誌学的想像力」と(メディア)カルチュラル・スタディーズの含意を問い返す：現場と他者の生の中へ関心を寄せて」『コミュニケーション理論』5(2), 6-53.
- Lee, Kyung-Sook(2005).「韓流と東アジアの文化的近接性」『韓国放送学会 세미나及び報告書』111-121.
- Oh, Ja-Young(2007).「30代の既婚女性ファンダムと年齢の文化政治学」梨花女子大学大学院修士学位論文.
- Park, Jo-won・Hyun, Moo-Am 他(2005).『日本ポピュラー文化全面開放の影響及び波及効果予測』韓国文化観光政策研究院.
- Park, Sung-Hyun(2014).「「韓流」の消費者関連研究に関するメタ分析ー2002～2013年までの国内学術誌に掲載された論文を中心に」『韓流ビジネス研究』1(1), 49-71.
- Sohn, Seung-Hye(2009).「学術論文のメタ分析を通じて見た韓流10年：研究傾向とその政策的含意に対する探索的研究」『言論と社会』17(4), 122-153.
- Yang, Eun-Kyung(2003).「東アジアのトレンドードラマの流通に対する文化的近接性研究」『放送通信研究』56, 197-220.
- Yeon, Hye-Kyung(2009).「ポピュラー文化の視覚文化教育的理解とアプローチ」『美術教育論叢』23(3), 1-26.
- Yoo, Jae-Woong(2007).「韓国ドラマ視聴が韓国に対するイメージに及ぼす影響ー中国と日本の視聴者を対象に」漢陽大学大学院博士学位論文.
- Yoon, Kyong-Won・Na, Mi-Su(2005).「日本の青少年たちの韓国大衆文化受容と文化的アイデンティティ」『韓国放送』19(1), 7-46.
- Yoon, You-Kyung・Chae, Jee-Young(2009).「ファンダムの倫理学的接近と文化研究の提言ー女性ファンダムを中心に」『文化政策論叢』21, 227-249.

【ホームページ】

- ・韓国コンテンツ振興院「日本コンテンツ産業動向」2012年14号

http://www.kocca.kr/knowledge/abroad/deep/___icsFiles/afieldfile/2012/08/10/Rd6ffp0x4KPb.pdf

- ・韓国コンテンツ振興院、「日本コンテンツ産業動向」2013年24号

- ・文化体育観光部「2013 コンテンツ産業統計調査」2014/1/27

https://www.mcst.go.kr/web/s_data/research/researchView.jsp?pSeq=1511&pMenuCD=0406000000&pCurrentPage=13&pTypeDept=&pSearchType=01&pSearchWord=

- ・韓国文化産業交流財団(2014)「2013 韓流白書」

- ・『中央日報』2005/10/21 記事

<http://news.join.com/article/1706156>

- ・『JCAST ニュース』2009/5/27 記事(グーグル・アド・プランナーの報告を再引用)

<http://www.j-cast.com/2009/05/27042011.html>

- ・韓国『エキスポニュース』2012/1/5 記事

http://www.xportsnews.com/jenter/?ac=article_view&entry_id=209533&_REFERER=http%3A%2F%2Fwww.google.co.jp%2F

- ・『スターニュース』(2009/06/18)

<http://star.mt.co.kr/view/stview.php?no=2009061807575179896&type=1&outlink=1>

- ・『プレシアン』2012/02/16 記事

<http://www.pressian.com/news/article.html?no=38109>

- ・『中央新聞』2012/08/23 記事

<http://japanese.join.com/article/055/158055.html>

- ・『ハンギョレ』2011/10/02 記事

<http://www.hani.co.kr/arti/international/japan/498937.html>

- ・『連合ニュース』2012/09/01 記事

<http://entertain.naver.com/read?oid=001&aid=0005789879>

- ・『BIGLOBE 音楽芸能ニュース』2012/02/28 記事

http://news.music.biglobe.ne.jp/201202/article_74.html

- ・『京郷新聞』2012/8/26 記事

<http://m.khan.co.kr/view.html?artid=201208262216505&code=970203>

- ・平成27年版情報通信白書 インターネットの普及状況

- ・『東亜日報』2014/3/13 記事

<http://news.donga.com/3/02/20140313/61666265/1>
 ・『東洋経済 ONLINE』 2014/11/06 記事
<http://toyokeizai.net/articles/-/52496>
 ・『OSEN』 2014/11/20 記事
<http://www2.osen.co.kr/article/G1110012558>
 ・『週間朝日』 2015/1/30 記事
<http://dot.asahi.com/wa/2015012100095.html?page=2>
 ・『ハンギョレ』 2015/6/4 記事
<http://www.hani.co.kr/arti/international/japan/694402.html>
 ・『中央日報』 2015/08/17 記事
<https://jmagazine.joins.com/monthly/view/307832>
 ・『PD JOURNAL』 2015/10/29 記事
<http://www.pdjournal.com/news/articleView.html?idxno=56868>
 ・実用日本語表現辞書
<http://www.weblio.jp/content/%E5%AE%8C%E3%82%B3%E3%83%94>
 ・内閣府「外交に関する世論調査」
<http://survey.gov-online.go.jp/index-gai.html>
 ・総務省「平成 27 年版情報通信白書」インターネットの普及状況
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/>
 ・2012 年 NHK 世論調査部の「中学生・高校生の生活と意識調査」
<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/social/pdf/121228.pdf>
 ・厚生労働省（2014 年 8 月 7 日）「第 145 回労働政策審議会雇用均等分科会の議事録について（資料 4）：「女性の活躍推進が求められる日本社会の背景」」
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12602000-Seisakutoukatsukan-Sanjikans-hitsu_Roudouseisakutantou/0000051535_1.pdf

APPENDIX

12名の韓流女性ファンのインタビュー内容(テープ起こし)

【対象者 A】

Q: では、インタビューを始めます。よろしくお願いします。2011 年からどういう経路で韓流に接しましたか？

A: きっかけは、少女時代の韓コピ?をしようって、友達と、そういう話になって、ダンスの練習のためにいっぱい動画を見てる時に、好きになりました。中学3年生の時…

Q: そうなんですね。何人ですか。

A: 9 人です。

Q: その9 人はどんな友達ですか。

A: クラスで仲いい友達です。引っ越しちゃう子がいて、その子がずっとやりたいって言ってたので、思い出のために9 人で、普通に高校受験があったので、それが終わってからビデオ取っただけです。自分たちで。

Q: どうでしょう。その中に、少女時代好きじゃない人もいたと思うんですけど。

A: はい。全然知らない子もいて、私も知らない方だったんですけど。

Q: あまりやりたくないとか、そういう抵抗はなかったんですか？

A: でも、友達が好きなのは知ってたので、で、流行ってましたし、後、ダンスも、私がダンス好きなので、やりたいとなって、一緒にやり始めました。

Q: K-Pop について友達から話はその前から聴いたりしましたか？

A: はい。CD とかも借りたりして、

Q: 最初全然好きじゃなかった時に、話を聞いたりして、どう感じましたか？

A: 全然、普通のアイドルっていう感じでした。

Q: その前は、テレビとかで接したことはなかったんですか？

A: ダンスする前ですか？テレビでは音楽番組とかで KARA のミスターとか少女時代の Gee とか、聴いてました。

Q: 普通に聴いてました？その時から韓国アイドルというのは知覚してたんですか？

A: あ、韓国から来たっていうのは知ってて、でも、そんなに特別に気にしてはいなかったです。

Q: 韓国ドラマは見ますか。

A: ドرامアは、あまり見ないです。

Q: テレビはよく見ますか？

A: テレビ、最近は見ないですけど、昔は見てました。

Q: お母さんとかは全然見ないですか。

A: 見ないです。

Q: 分かりました。K-Pop が好きになったきっかけは友達からですよ。今は、何が好きなんですか。

A: 今一番好きなのは、Twice です。

Q: Twice って、最近流行っているアイドルですよ。

A: はい。すごい新しいです。最近デビューしたので…

Q: 女の子のグループが好きですか？

A: そうです。でも、男の子のグループは EXO が好きです。

少女時代がずっと好きですけど、Jesica (少女時代のメンバー) がちょっと抜けちゃって、ちょっと離れている感じです。Tiffany (少女時代のメンバー) が好きなんですけど、Jesica の声

が好きだったので、抜けちゃってちょっと歌に迫力がなくて(笑)かな～と思って。

Q：ダンスの練習するのに、時間がかかりますよね。

A：受験があったので、そんなに集まってはしてなかったんですけど、授業、あの学校のお昼休みとかに練習したりして、1ヶ月～2ヶ月ぐらいで、だと思います。その時の動画今も持ってます。

Q：あ、本当ですか。ちょっと見ても大丈夫ですか。

A：はい。

(二人で完コピの動画を見る)

Q：誰役ですか。

A：ヒョヨンです。

Q：あ～そうなんですね。みんな、上手ですね。日頃ダンスやってる感じしますね。

A：サークルに入っていて、高校の時にダンス部だったんで…

Q：あ～はい。学校とかでこう練習すると、周りも何しているのかと興味持ちますよね～どうでしたか？それを練習してる時に、周りの反応は。

A：みんな仲良かったので、すごく流行ってたので、あ、聴いたことある～っていう感じ。

Q：今まで好きになって、活動してる中で興味を持ってるくれる人の方が多かったんですか。反対の意見とかは？

A：別に嫌がられたことはないです。

Q：今見たダンスのほかにもやったりとかしましたか？

A：特にこうやってビデオ取ったりはしなかったですけど、好きな子同士で今これ流行ってるよとか言って、あ、一緒に踊りたいとなって、お昼休み一緒に踊ったりしてましたね。例えば、レットベルベットとか、少女時代も色々踊りましたし、EXO、私は当時EXO あまりすきじゃなかったんですけど、好きな子は踊ったりしてました。

Q：それは高校入ってからもしました？

A：高校入ってからです。

Q：結構、周りに好きな人とか多い感じですか。

A：多かったです。高校では。大学に来たらあまり少なくて(笑)

Q：女子校じゃなくても、雰囲気よかったんですね。

A：はい。男の子でもEXOが好きな子がいて、踊ってました。

Q：中学校から高校までK-Popを話題に話し合える人が周りに多かったという感じですね。

A：はい。

Q：それで結構影響される人も多かったと思いますか。

A：あ、そうですね。やっぱり、私がすごく動画見せられたりとかしてはまったので。

Q：K-Popはまるようになったきっかけはもちろん、K-Popを見たり、聴いたり、ご自身でもダンスやってみたりとかだったと思うんですけど、そこには、これがいいからはまったというのがありますか。

A：やっぱり、曲が耳に残りやすくて、というのと、ダンスが本当にみんな揃ってるので、すごくいっぱい練習してるので、だから、そういうのが日本のアイドルはあまり揃ってないから、それから振りもすごい簡単なのしか踊らないから、そういうのが格好よくて、揃ってて、曲も良くてというのが。

Q：元々ダンスとか、音楽とか好きだったんですか。

A：ダンスはずっと自分がやってて、

Q：あ、いつからですか。

A：小学生ぐらいから中学生までダンスのチームに入り、高校からは部活に入ってやりました。

Q：え～小さい時からやってたんですね。部活でも K-Pop を踊ったりしました？
A：あ、部活では、しなかった。何でも踊るんですけど、特にはヒップポップとか。
Q：その頻度というのは、昔はどのぐらい聴いたりしました？
A：昔は、本当に始めの頃はダンスを覚えるためにだったんですけど、高校に入ってからはずごくたぶん家に帰ったら自分の好きなアイドルの動画を検索して、で、そうするといっぱい候補が出て来るんですよ、次に。そこで、新しいアイドルを見つけたりして聴いたりするようになって。
Q：YouTube とかでチャンネル登録とかしてですか。
A：はい。そうですね。
Q：例えば、どんなものを見ますか。主には。
A：主に見てたのは、少女時代。SM タウンのアイドルが結構自分は好きなので。
Q：じゃ、Super Junior もありますね。それにははまらなかったんですか。
A：なんか、私が SM にはまってた時は、トゥギ(メンバーの一人)が兵隊に行行ってトォギが一番格好いいと思ってたので(笑)。
Q：私もトゥギが格好いいと思います(笑)
A：ちょっとずつはまってた時には、もういなかったの。トゥギがいなくなって(笑)
Q：SM のコンサートも結構多いじゃないですか。コンサートは行きますか。
A：SM のは行ったことないです。少女時代だけ、行ったことがあります。横浜？と、あ、でも、この前はガイシホールで。少女時代だけ、2 回しか行ったことないです。
Q：コンサートに行った時のエピソードとかあれば教えて頂ければと思うんですけど。
A：うん…
Q：コンサートだけじゃなくて、色々…なんでもいいです。
A：あ、今は Twice の曲と一緒にやりたいねって言ってて、私が今は忙しいんであれですけど、それが終わったら、一緒にダンスしようと言ってます。
Q：それは高校の友達とかですか。
A：そうです。週に一回ダンスの集まりがあるので、高校の時の、それに行行って話します。あ、でも、その中では私とその子しか好きな人がいないんで、二人で喋りますけど(笑)
高校の時の友達と会って話したりとか、不定期なんですけど、一緒に遊ぼうとなった時に、自然と韓国話になって行きます。K-Pop の話しに。
Q：韓国話までは…しない？
A：しなないです。
Q：旅行行きたいねという話は？
A：あ、行きたいと話します。後、父もご飯食べに韓国に行きたいと言ってて、私が今、韓国語勉強しているので、喋れるようになったら一緒に行こうって言ってました。
Q：本当ですか。お父さんは韓流とか、韓国に興味ないんですか。
A：特に…あの、焼き肉が食べたいって(笑)
Q：そうなんですね。家族の中では割と応援する感じですか。
A：たぶん、あまり知らないと思うんですけど。私が好きだということは知ってて。後は、母さんの妹が結構好きで、K-Pop とか、後、ドラマも好きでよく見てて、なので、別にそんな。
Q：家族の中で好きな人がいるっていう感じですか。
A：そうですね。(お婆さんとは) そんなに会わないんですけど。あ、なんか、まだそんなにたくさんは喋ってないんですけど。
Q：今は、毎日 K-Pop 聴くっていう感じですか。
A：通学しながら聴きます。後、家に帰ってから音楽番組見たりとか、後、バラエティも日本語

に訳されたやつを見たりします。ネットで。

Q：一日どのくらい見てますか。

A：今は週末の方が忙しくて、部活と免許取ろうと思ってるんで…平日は、家に帰ると、1 時間見るか見ないか。韓国語勉強して、翻訳されたものがなくても見れるようになりたいな～と思って。

Q：そうなんですね。今、韓国語はどのくらいできますか。

A：今は、初級です。文字もちょっと読めます。(大学の) 前期も取ってたんで。だいぶ、あの、バラエティとか見てても、あ！この単語知ってる～とかします。『ショータイム』とか、『私たち結婚しました』とか。

Q：バラエティは、何が良くて見えますか。

A：すごく、いつもアイドルしか見ないので、いつも歌ってる時は格好いいけど、いつもその普通の時は可愛かったりとか、面白かったりとかして、そういうのが面白いです。

Q：分かりました。K-Pop アイドルのコンサートに行ったとき、良かったと思ったことがありますか。

A：結構日本語を頑張って喋ろうとするところ、そういうのがすごく嬉しいです。

Q：コンサートとか最近ちょっと減っているとか、増えているとか、考えたことがありますか。

A：うん。私はすごく(笑)

Q：K-Pop アイドル、テレビからはあまり出なくなったとか、感じたことはありますか。

A：あ… します。でも、ニュースとか、朝のニュース番組に出たりとか、『ミュージックステーション』とか、(出てるので…)、あと、ネットでも見れるので。

Q：そうですね。ネットで普通に見れますよね。曲は日本語のを聴いてますか。

A：でも、日本語の曲よりも韓国の曲の方が好きなので…

Q：なぜですか。

A：え～何でだろう。やっぱり日本語だと、やっぱりちょっと変だなと思うので、

Q：韓国語で聴いても分かりますか。やっぱり言語的な壁を感じたりとかは。

A：韓国語だと分からないですけど～(笑)、でも、あまり気にしないです。

Q：分かりました。K-Pop 好きになる前まではほかに何か好きだったりしましたか？

A：音楽は、うん。でも、その時流行っている曲を聴くっていう感じですね。

Q：日本の？

A：日本の。

Q：海外のは？

A：海外のはあまりないです。

Q：最初韓国の、少女時代を聴いた時も日本語でした？

A：そうです。『ミュージックステーション』に出た時に。でも、やっぱり日本の曲とはちょっと違って、メイクとかもちょっと違って、アイラインとかもすごく印象的なメイクだったので、韓国人だなという感じでした。

Q：それに普通にはまったという感じですよ。

A：そうですね。あ、でも、最初は全然興味なくて、友達から話聞いてもあ、そうなんだ～という感じで、だったんですけど、やっぱり自分でやってみたりとか、聴いてみたりとかすると…好きになります。

Q：なんだろう。ダンスをしている内に自分でも探してみたいと思ったんですか。

A：そうです。

Q：探してみたら？曲がはまりやすいし～というので、アイドルに対して、アイドルのこれが良かったというのがありますか。

A: あ、でもその時はミュージック・ビデオとか、ばかり見てたので、あまりそういうの知らなかったんですけど、でも好きになってから「ペンカフェ（ネットコミュニティ）」とかあるじゃないですか。そういうのを見て、こんなふうにやってくれるんだなと思って、すごいな～と思ったことがあります。

Q: そういうの、日本のアイドルにもありますか。

A: あ～AKB とかはあると思います。でも、なんか、コンサートとかでビデオ撮ったらいけないので、あと、ペンカフェとかもないので(笑)

Q: 今の Twice にはまったきっかけというのは。

A: あ、友達がはまって、で、なんか私は忙しかったので、あまり見てなかったんですけど、友達がすごいいいよって入って、で、見て、すごい、9 人いるんですけど、多くて、最初は今忙しいし、今ちょっと覚えられないから見るの辞めとこうかなと思ったんですけど、でもすごくいいよ～って言われて、見ててみたらすごく良くて、しかも日本人が 3 人入ってて、みんな可愛くて、曲もすごく耳に残りやすくて、で、ダンスも可愛かったので、良いなと思って、

Q: これ、いつ頃からはまりましたか。

A: あ、でも、本当に、先週とかです。

Q: そうなんですか？このグループは最近出てきたグループ。韓国でも活動してる？

A: 韓国で活動してます。

Q: 好きになるグループは大体曲中心ですか。

A: 曲よくて、結構聴いているうちに音楽番組の YouTube であるやつとかを見て、最初は曲を聴くために聴いて、見てる？んですけど、曲とか、アイドルを見るために、見るんですけど、いっぱい見ているとダンスを勝手に覚えて、で、踊れるっていう感じ。

Q: そうですね。自分で踊れると面白いですよね。

A: そうです。

Q: 友達と話したりもすると思いますが、それは主に会ってからになりますか。

A: あ、でも、Twitter とか、自分が動画を見て、あ、すごくいいなと思ったら、じゃ、Twitter に言ったりするので、そうすると反応が返ってきて、私も今それにはまってるよ、とか、で、次会った時に、この前、はまってるって言ってたよねってなった話したりとか～

Q: Twitter がファン同士のコミュニティになってる感じですか。

A: そうですね。でもあまり、うん… 友達の中で話しているだけなんですけど。

Q: 友達と Twitter で話している感じですね。違う友達とは話してない

A: はい。

Q: ありがとうございます。日本のアイドルにはまらなかったけど、韓国のアイドルにはまった理由とかはありますか。先ほど、おっしゃった曲ですか。

A: 曲と、ダンスですね。

Q: 分かりました。ありがとうございます。男性アイドルと女性アイドルの違いって何だと思いますか？両方好きだから聞けると思うんですけど。

A: EXO はでも、すごく難しいです。後、すごく疲れるんです。ちょっとだけやりましたが、難しいんです。

Q: 何が違うと思いますか。

A: あまり、今までは少女時代に最初はまったので、女の子のグループばかり見て、でも、なんだろう、やっぱり友達が EXO にすごいのはまったので、聴いてみようかなと思ったら、聴いたら曲が良くて、という感じです。曲が良かったし、後、ダンスは、すごく迫力があって、なんか、日本だとジャニーズとかは、なんかあまりダンスぽくないダンスで、でも韓国の男性グループは本当にダンスをしているっていう感じで、そこがすごく好感？という感じで(笑) ダ

ンスすごい！と思いました。

Q：ご自身の趣味とか生活というのがK-Popにはまってから変わったりしましたか。変わったのがあれば。

A：でも辛いものが好きになりました（笑）

Q：好きになる前は食べれなかったんですか。

A：そうですね。

Q：今は韓国料理食べに行きますか。

A：食べに行ったりします。そんなに、行かないですけど、たまに行きます。チヂミとか、サムギョプサルとかも食べますし、後ビビンバ食べます。

Q：ビビンバ辛いですよ。

A：辛いです。だからいつもゴチュジャンを少なめにしてもらいます（笑）

Q：ご自身でやってきたダンスに関してはどうですか。やってきたダンスのスタイルが変わったり、頻度が増えたり、なんでもいいですけど。

A：でも、完コピをするようになったので、今まではそのチームのダンスしか踊ってなかったんで、それ以外に友達と完コピしたりとか、するようになりました。

Q：チームのダンスというのはどういうものですか。

A：普通に部活とか、

Q：ダンスを作るということですか。

A：そうですね（笑）

Q：すごく楽しそうですね。新しいのを作って、それでダンスして、

A：そうですね。

Q：そのほかに、変わったことはありますか。

A：あ、でも、うん、いつもYouTubeで見ているので、K-Popの曲が流れたりすると、踊ったりします。結構。

Q：分かりました。ありがとうございます。

ほかに、趣味とか以外にも生活とか、色々、なんか変わったと感ずることってありますか。

A：うん…

Q：じゃ、韓国に興味を持ったりすることはありますか。

A：韓国語、私がすごい可愛いと思います。発音とか、可愛いと思うので、今までは英語がいっぱいいっぱいで、あの、第2外国語なんてあまりやりたくないと思ってたんですけど、韓国語はずっとやりたいと思ってたので、大学で授業があつてよかったな～と思ってます。

Q：韓国語やってみてどうですか。難しいですか。

A：ちょっと難しいです。

Q：今大学の中にはこういうこと話せる友達いますか。

A：なんか、私はいつも、大学入ってから仲良くしている友達は、あまり、K-Popに興味がないので、ちょっと洗脳しようと思って、頑張ってます（笑）けど、あまりされないです（笑）

Q：そうなんですね。K-Pop好きになった当時はどうでしたか？

A：あ、その、さっきの動画を見せた時の9人のうち、たぶん、少女時代のこと知らなかった子が半分はいたと思うんですけど、でも、完コピするってなって、一人一人メンバーの担当決めたので、名前も覚えるようになって、ちょっと詳しくなったとは思っています。

Q：同じクラスの9人ですか。

A：はい。同じクラスです。同じクラスの友達です。

Q：本当ですか。別のクラスの人も入っていると思ってました（笑）

同じクラスでこうやっている人が9人もいたら、違うクラスにもあったりしたんですか。

A: いや、たぶん、完コピ、みんなで集まって完コピする人はいなかったと思うので、でもうちらがそうやって教室で練習したりしたんですけど（笑）それを見て、何練習している？いいね～みたいなことはあります。

Q: あ～そうなんですね。完コピ、韓国ではニュースになってましたよ～

A: え？本当ですか。

Q: ファンが完コピを公園とかいろんなところで披露して、それを学園祭とかで披露しますよね。大会もあったりして、

A: あ！大会も考えました。まだ、出たいね～って言ってるんですけど、日程が合わなくて、出れると良いんですけど。

Q: そうですね。出れるといいですね。ありがとうございます。

では、さっきの質問に戻って、韓国に興味が出たというので、食べ物とか、韓国語とか、あったんですけど、行って見たいとかも思いますか。

A: あ、行ってみたいですけど、でも、まだ韓国語あまり喋れないんで、

Q: そこは言語が重要だと思いますか。

A: はい。

Q: どうですかね。文化に接することで近く感じたとかはありますか。

A: あ、でも、まだちょっと遠い（笑）

Q: (笑) どういったところがですか。

A: なんか、心境的に？やっぱり外国的なところが…

Q: どういう？言語とか？

A: うん…そうですね。あまり、飛行機乗らないんで、っていうのがあります。行くとなると、やっぱりちょっと遠い感じ…

Q: (笑) そうですね。距離もありますし、海渡っていかないと…それに関してはアメリカとか、他の国に比べても同じ感じですか。

A: そうですね。

Q: はい。分かりました。ありがとうございます。あ、一つだけ、韓国語が話せられるようになったら、韓国にいきたいと思いますか。

A: うん。あまり、今韓国のこと、知らないんで、でも、ショータイム（韓国の番組）とか見ると、色んなところに行ったりするじゃないですか。そうやって行っているのを見ると、そうだな～って行ってみたいと思ったりします。

Q: 韓国の番組を見たりすることで少し刺激はされるけど、でも、直接韓国とかに行ったり、同じような行動をしたりすることにはまだ至らないということですね。

A: まだちょっと敷居が高い感じです。

Q: あ、同じく K-Pop が好きな友達と韓国に行きたいという話にはならないですか。

A: あ、行きたい～ですけど、まだ、お金がないので（笑）そう…

Q: お金大事ですよ～そうですね。韓国は外国じゃないですか。好きになる前は、意識したり触れることあまりなかったと思うんですけど、どうですか。

A: 今は、毎日韓国語を聴いているので、うん、K-Pop とかバラエティ字幕付きの韓国語で聴いているので、だから、どっちかという、韓国語が近くなったという感じです。

Q: 分かりました。ありがとうございます。次の質問ですけど、ニュースとかで、韓国が取り上げられたりしますよね。見たイメージというか、それはどうですか。

A: なんか、ニュースで見ると、韓国の人は日本が嫌いなのかな～と思います。でも、韓国に行った友達とかに、ニュースでこうやって言ってたよね～というと、でも、行って見たらそんな感じじゃないよ～とか、というふうに言われます。

Q: あ〜友達は韓国に行ったことありますか。

A: 行ってます。

Q: こういう話をしたりしますか。

A: はい。なんか、若い人たちは気にしてないという… そんなに〜反日という感じじゃないよ〜って。

Q: 本当にそうだと思います。その韓国に対してそういうニュースが多いと思われる中で、自分のファン活動に何か、影響されたりすることはないですか。

A: ないですね〜なんか、ライブとか行ったりすると、日本に興味があるように見える (笑)

Q: はい。そのアイドルの？

A: アイドルの…なんで、そこは私が普通にアイドル好きなのと一緒にかな〜という感じですね。

Q: 最近の日韓関係ってどう思いますか。ニュースとか見てると。

A: 日本で韓国がすごくブームになっていた時よりは、ちょっと距離があるのかな〜と思います。

Q: その当時はどんな感じだったと思いますか。

A: すごく、韓国に旅行する日本の人もすごく多かったですし、でも、今はちょっと…

やっぱり仲良くできるなら、仲良くしてほしいな〜と思うんで…

Q: それは、K-Pop に出会ってからそういう感情が生まれたという感じですか。

A: そうですね。今まではそうやってニュースでやってても、あまり分かんないな〜という感じだったんですけど、やっぱり自分が好きになってからは仲良くしてほしいな〜と思うようになりました。

Q: それはどういった面ですか。例えば、交流ができなくなることに對してなのか…

A: あ、それもあるし、やっぱり、いつか韓国に旅行に行きたいと思っているんで、その時に行きやすい環境になっていたらいいな〜と思っています。

Q: そうですね。分かりました。ニュースとかで日韓関係が悪くなっているのかな〜と感じる中で、周りの反応って、なんか聞いたりしますか。ニュースで、韓国こうだね〜みたいな。

A: あ〜なんか、お母さんとか、一緒にニュース見ている時は、そういうのが流れると、そういう感じがする時もあります。でも、それはなんか、K-Pop とは別の話して感じで、友達と話すときはあまり、友達と K-Pop の話をする時は、ニュースの話はあまりしないですけど、でもやっぱり旅行行きたいね〜という話になると、どういう関係なのかね〜という話になりますね。

Q: 気になりますよね〜旅行となると。

A: (笑)

Q: 周りのファンは、ニュースに影響されるのかな〜とう感じしますか。

A: K-Pop の話する時は、それはそれっていう感じで、でも、ニュースの政治的な話の時は、ちょっと意見がわれたりします。

Q: K-Pop が好きな友達の中でもですか？

A: あ、好きな友達は、ないですけど、K-Pop に興味がない子とかと、でも、あまり話さないですけど (笑)

Q: (笑)

A: 後、あ母さんと話す時とかは、色々…すごく好きとかすごく嫌いとかじゃないですけど、うん…この前のニュースではこう言ってたけど、今回こう言っているからなんかちょっと変だよ〜とか。

Q: お母さんはテレビよく見ますか。

A: テレビ見てます。

Q: どういう？

A: ニュースが多いです。

Q：一緒に見るとなると、時間的にそうなるんですかね。

A：そうですね。

Q：お父さんとはどうですか。

A：仲は良いんですけど、夜帰ってくるのが遅いんで(笑)

Q：ネットでなにか、調べたりする時に、何か気になる書き込みや情報や、なんでもいいんですけど、ありますか。

A：特に、気になることはないです。

Q：なんか、調べる時に、リンクとかで飛んでいくことってありますか。

A：特にないと思います。

Q：分かりました。ありがとうございます。

こんな話ばかりですけど、何年か前に起きたフジテレビデモというのはご存知ですか。

A：あまり

Q：2011年にフジテレビの韓流コンテンツの中止を求めるデモみたいな感じですけど、ネット上では結構流れてたんですけど。

A：知らないです。あの、その時はスマートフォン持ってなかったんで、あまりネットを見てなくて、YouTube ぐらいだったんで。知らなかったです。

Q：そういう人たちがいたということを聞いて、どう思いますか。

A：あ〜なんか、そういう人は見なければいいんだけど…思うんですけど(笑)

Q：どうですか。その時に、自分がそういうことがあるというのを知ってて、周りにそういう人がいるかもという状況でもあまり自身の活動には影響がなかったと思いますか。

A：いや、全然。嫌いな人もいるんだろうな〜と思います。

Q：はい。ありがとうございます。あ、特にそういう人が周りにはいなかったんですよ。

A：すごく嫌いという人はいなかったです。

Q：あ、そうなの？みたいな感じで聞き流す人はいました？

A：あ、でも、韓国アイドル好きじゃない子は、なんか、少女時代とかすごく人数が多いので、ちょっと人数が多すぎて覚えられないけどとか…(みたいな反応です)

Q：それ女の子ですか。

A：はい。女の子です。

Q：男の子とかはどうですか。

A：男の子は、私が知っている人は、あの、私が知っている韓国のアイドルが好きな男の子は一人しかなくて…やっぱり、男の子の方が少ないかな… 結構完コピとかもしてたんですけど、後、先輩が文化祭でK-Pop 踊ったりしてたんですけど、でも、普通に可愛い！という感じで、女の子も男の子も。

Q：はい。分かりました。ありがとうございます。

では、ニュースで流れてる韓国との歴史問題が、結構話題になっていると思うんですけど、ニュースで見たことありますか。どんな問題が一番ニュースで取り上げられていると思いますか。

A：うん…慰安婦？！

Q：最近、結構あげられてますね。その問題についてご自身の感想というか、意見というのはありますか。

A：うん、解決できるなら、解決してほしいんですけど…

Q：自分で調べたりとかはしたことありますか。

A：自分で調べてはないですけど、討論番組？があって見るんですけど。お母さんがその番組をいつも見てるんで、時々一緒に見てたんですけど。

Q：この問題について知ったのはいつ頃ですか。

A：高校生の時にはもう知ってたと思うんで…

Q：授業ですか。

A：授業で特別に取り上げてはないですけど、テストの時事問題でやったことはあります。

Q：そうなんですね。この問題に対して、ご自身の意見としては、早く解決してほしい？

A：はい。解決できるなら。

Q：どういうふうに解決できると思いますか。

A：あ、でも、日本はお金も払って、一回はそれで韓国も合意して、お金を払ったので、なんか、うん、どうして、また、これが問題になっているのかな～と思います。

Q：はい。この問題の問題？というのは何だと思いますか。

A：ちゃんと記録が残ってなかったりとか、みんなが言っていることが違ったりとか、すること…

Q：その韓国では集会みたいな、被害を訴えているお祖母ちゃんたちがいるんですけど、それについてどんな感情を抱いたりしますか。

A：想像できない気持ちとか、考えとかがあると思うんですけど、うん…なんか、具体的にどういうふうに、日本にしてほしいのかとか、あまり、それも、なんか、みんな言っていることが違ってて、どうすればいいのかな～という感じです。

Q：そうですね。この問題は、両国に意見が分かれてて、かなり難しいと思うんですけど、今後の日韓関係のために解決すべきだと思われませんか。

A：この問題を置いて、という感じではやっぱり難しいと思うので…そうですね。

Q：ありがとうございます。これからは、ご自身の生活などについてお聞きます。現在の生活に満足してますか？不安はない？

A：うん…でも、今すごく忙しいんで、時間が足りないな～というのがあって、韓国語もっと勉強したいんですけど、あの、私保険学科なんですけど、専門の勉強がすごく大変で、ほぼ毎週テストがあるので、韓国語の勉強にあまり時間が使えなくて、ちょっと、もうちょっと時間がほしいなと思います。

Q：忙しいこと以外はほとんど満足している？

A：そうですね。でも、バイトしてなくて、なので、バイトはしたいな～と思うんですけど、やっぱり時間がなくて（笑）

Q：分かりました。では、次に、未来に不安は、感じてますか。

A：やっぱり保険学科で、専攻が決まってるので、将来にやることはほぼ決まっているんですけど、で、自分が納得して、自分がやりたい仕事なんですけど、やっぱり、うん、本当に、その、専門的なことなので、今、それだけしか、それになるしか道がないので、それに関してはそう思います。早く決めすぎちゃったのかな～とか（笑）

Q：（笑）学校は楽しいですか。

A：楽しいです。高校もすごく楽しかったので、自分のやりたいこといっぱいやってたので。

Q：受験とか大変じゃなかったんですか。

A：あ、でも、気分転換という感じで、

Q：ちゃんと分かち合える友達もたくさんいますよね。

A：はい。

Q：日本を誇りに思うか、という、特に国に対して不満とかはないですか。

A：生活する上ではないです（笑）でも、やっぱり政治のニュースとか見ると、なんか、何でそうなんだろうな～と思います。国会のニュースとか見ても、同じニュースで何回も堂々巡りで話し合ったりとか、なんか、意味のないと思うような討論してたりとか（笑）

Q：消費税とかはどうですか。

A：あ、でも、消費税とかはしょうがないかな～と思うんで、それはまあ、いいんですけど、消費税あげて、そこからどうするのかとか、そこ考えてるのかな～と思ったりします。

Q：憲法改正についてはどうですか。軍隊に行くようになったら、兄弟は？

A：あ、弟がいます。

Q：そういう話しないですか。

A：あ、軍隊、とか、憲法 9 条について調べて、文化祭で話したりしてたんですけど、うん…軍隊、あまり、現実味はなくて、どうなのかあまりよくわからない感じで。

Q：弟さんとそういう話とか、家族と話したりとかは。

A：あまりしないですけど、

Q：韓国は軍隊義務つけられているんですけど。

A：はい。でも、日本は戦争しない国、第 2 世界大戦の時に、そういうふうになったはず、なったから、なんか、それが、ちょっと違う方向に行くのはちょっと悲しいな～と思います。

Q：ありがとうございます。次に、日本に生まれてよかったと思いますか。

A：思います（笑）

Q：じゃ、日本のために貢献したいと思いますか。

A：自分のできることがあれば（笑）

Q：こういう話はちょっと大きいですか？

A：大きいですね（笑）あまり…

Q：分かりました。じゃ、最後の質問ですけど、日韓中の東アジア関係のための日本の体勢というか、協力的にしていくなさだと思いませんか。そこまで必要ないと思いませんか。

A：うん…仲良くできるなら、仲良くしてほしいです（笑）距離的な問題で（笑）近いんで、やっぱり仲悪いと、ちょっと、やっぱり怖いかな～というので、そうですね。

Q：ありがとうございます。もう一つだけ聞きたいですけど、K-Pop のことで、ご自身が K-Pop が好きなことで、友達の影響ってかなり大きいと思いませんか。

A：思います。たぶん、自分だけが好きだったら、話せる人がいないと、やっぱりちょっとつまらないかな…

Q：みんなで分かち合えて、盛り上がっていくことで、どんどん好きになったとも思われますか。

A：うん。そうですね。思います。

Q：分かりました。以上です。ありがとうございました。

【対象者 B】

Q：インタビュー始めます。よろしく願いいたします。具体的に韓国の大衆文化が好きになったのはいつ頃ですか。

B：高 2 の冬に、妹がもともと K-Pop が好きで、アーティスト、アイドルのコンサート一緒に行かない？って言われて、行って、はまりました（笑）

Q：妹さんに～何歳ですか。

B：妹は今高 2 です。

Q：結構離れてますか？

B：2 歳離れてます。

Q：妹さんが先にはまったという感じですか。

B：はまってて、後からはまったみたいな感じです。

Q：誰にですか？

B：2PM

Q：あ、だからメールアドレスに 2PM が入っているんですね。

B：あ、そう～（笑）めっちゃ恥ずかしいなと思って、

Q：他の人分からないんですよ～

B：（笑）妹も好きで、お母さんも好きで、今、好きで～みたいな（笑）

Q：誰が先に好きだったんですか。

B：妹が、なんか、あ、ドラマ？『Dream high』で、テギョンとウヨン（2PM のメンバー）が出て、あ、ちょっといいな～みたいな思って、ファンクラブ入って、で、コンサート当たったから、2 枚当たって、もう一人、私が行くわ～みたいになって、一緒に行って、最初、全然分からなかったんですけど、誰が誰かとか。でも、なんか、あ～いいな～と思って（笑）って感じです。

Q：そうなんですね～コンサート行って何が一番よかったんですか。

B：なんか。ちゃんと歌って、ロパクとかじゃないじゃないですか。日本語なのにちゃんと歌ってて、MC の時とかもすごい頑張って日本語で喋ってくれてて、あ、すごいな～と思って、はまりました。

Q：そうなんですね～お母さんもはまったんですよ～

B：お母さんはなんではまったのか、分からないですけど（笑）なんか、グッズとか、私と妹が学校終わって買いに行けなかった時とかに、グッズ販売とか並んでくれてて、なんか、その、一緒に並んでいる人と仲良くなって、なんかはまったのかな～みたいな。

Q：あ～（ナゴヤドームから）家が近いですね。

B：はい。近いですね。結構（笑）

Q：そうしたら家族の中で、K-Pop の話題で盛り上がることってありますか。

B：あ～ありますね。でも、お父さんは韓国あまり好きじゃなくて、お父さんがいない時に（笑）話す感じですけど。だいたい 2PM の話題が多いですね。コンサートやっているよね～とか、日本に来たよね～みたいな、そういう話？よくします。

Q：家の中で一緒にいる時間って結構多いですか？

B：あ、多いと思います。

Q：どういう感じで多いですか？夜帰ってからですか？週末？

B：あ～そうですね。普通に夜ご飯とか、Twitter とか見ててそういう発言している人いたら、あ、そういうば～とかっていう感じです。

Q：そうなんですね。お父さんはあまり好きじゃないというのは、なぜ、そう思いますか？

B：たぶん私たちがはまりすぎて、うるさいから、ちょっと、うん、みたいな、たぶん、自分がその話題には入れないから、あまりよくないと思ってるんだな～と思います（笑）。

Q：今友達とはどうですか？韓流？K-Pop で話題になることとかはありますか？

B：あまりない。K-Pop 好きな人とか、周りに友達があまりいなくて、あまり話す機会がないです。

Q：高校の時はどうですか？

B：高校の時は、あ、一人いて、話していました。

Q：友達との間で分かち合える機会ってというのは？

B：なんか、同じアイドルグループが好きとかじゃなかったんで、なんか、一応知っているけど、みたいな感じで、軽い話程度しかできてなかったですね。

Q：そうしたら、主には、家族、妹さんと。

B：そうですね。

Q：週に 6 回程度（韓流に）触れるっていうのは、どういう感じですか。

B：音楽、学校までとか、移動時間めっちゃ iPod 聴く時に、その 2PM の曲をめっちゃよく聴くんで、結構聴いているかな～と思います。

Q：移動中にですね～YouTube とかは見たりしますか？

B：見てます。PV とか、ミュージックビデオとか、後なんか、2PM がやってたバラエティ番組とかは、日本語の字幕版が出てたりするので、それを見たりします。

Q：バラエティとかはなんで見るんですか？

B：なんか、普段の感じが見られるからいいな～と思って（笑）

Q：2PM が好きになったのは、何か特徴とかありますか？

B：妹？最初は本当に全然分からなくて、コンサート行ったら、あ、いいな～みたいな、これからも聞きたいな～と思って、っていう感じです。それからちゃんと調べるようになってみたい、2PM は格好良かったです。なんかコンサートの様子とか、

Q：はまる前は どうでしたか？

B：なんか、日本のアイドルで好きだった人がいなくて、今まで、それで、なんか、日本のアイドルはなんか、ロパクとか、多いイメージじゃないですか。だから、それと違って、ちゃんと歌ってくれるところがいいな～と思いました。

Q：アーティストの中にも好きだった人はいなかったんですか。

B：めっちゃ好きだった人はいなかったです。

Q：例えば、誰が好きだったんですか。

B：一回、いきものがかりのコンサートに行って、あ、いいな～と思ったぐらいです（笑）

Q：あ、そうなんですね。コンサートはそこまで好きじゃなくても行く感じですか？

B：あ、友達がチケットを持っていたんで、いきものがかりの時も。だから、あ、じゃ、一緒に行かせて～言って、行かせてもらったっていう感じです。だから、ファンクラブとかも入っていないです。

Q：そうなんですね。今、K-Pop が好きになったじゃないですか。友達に話すことはないですか。

B：あ、あります。なんか、入学した時とか、何が好きな～みたいなと言われる時に、K-Pop 好きです～みたいな。ことは言います。それで、ああ、私も～みたいな感じになったことはないです（笑）

Q：そうなんですか。寂しいですね。

B：寂しい（笑）

Q：いてほしいですね。

B：ちょっと欲しいですね。

Q：それはなぜですか。

B：えーと、共有？共感したいですね。

Q：高校でもそういう雰囲気はなかったんですか。

B：なんか、一時期、すごい KARA とか、少女時代？が高校の中ですごい流行ったんですけど、私が K-Pop にはまった頃には、もうそこまで、なんか、AKB とかの方が人気になってて～という感じです。

Q：そうなんですね。自分が好きだということ、他の人に行った時に、どんな反応ですか。

B：あ、そうなんだ～みたいな。2PM という、あ、聴いたことあるけど、分かんないけど、聴いたことあるな～ぐらい、そんな、嫌そうな感じでも、良さそうな感じもなく、普通～（笑）

Q：そういうのが、嫌な感じで言われたことは一度もないんですか。

B：あ、ないです。

Q：なら、世間的にはどういう感じだと思いますか。そういうことを言うと。

B：あ～、でも、過度に言わなきゃいいのかな～と思います。ただ、好き～みたいな。

Q：それはなぜですか。

B：ううん…

Q：アイドルだから？韓流だから？

B：韓流だから～

Q：韓流というと、人々の認識って違うと思いますか。

B：違うと思います。なんか、（韓流が好きな人は）好きな人は韓国もめっちゃ好きだと思うんですけど、世間的に日韓関係があまり良くないから、なんか、年とっている人とか、お父さん世代に人とかはあまりよく思っていないんじゃないかなと思います。

Q：日韓関係と関わっていると思います。

B：思います。

Q：自分がK-Pop が好きなことと政治とかとは関係ないと思いますか。

B：関係ないです（笑）

Q：好きになってから韓国に興味を持ったんですか。

B：好きになってから、韓国に行ってみたいな～と思います。あと、韓国料理とかもよく食べるようになりました。

Q：その前はあまり食べてなかったんですか。

B：なんか、ビビンバとか、有名なものしか知らなかったんですけど、今は結構食べます。家で作ったり、

Q：そうなんですね。家族と一緒に食べる感じですか。

B：たまに韓国料理屋とか行く、行きます。家族、お父さんも連れて行ったりします。

Q：その時に話題が韓国に関連する方向に行ったりしますか。

B：あ、でも、行っても戻る（笑）でも、食べながら盛り上がったりします。

Q：他に、何か興味持ったことがありますか。

B：韓国語話せるようになりたいと思うようになりました。韓ドラとか見てて、だから韓国語にしました。第2言語。

Q：今読める感じですか。話せる？

B：ちょっとだけ（笑）

Q：ドラマは何々を見てたんですか。

B：先の、『Dream high』と、『太陽を抱く月』？と、『イケメンラーメン店』、で、今、あ、昨日から？『夜警日誌』っていうのが始まって、それを1話見ました。

Q：見る基準はなんですか。

B：私、ジョン・イルウという俳優？あの人が好きで～（笑）格好いいな～と思って、その人が出てるのは見ようと思って、見ました。『イケメンラーメン店』と、『太陽を抱く月』はそれで見ようと思って、DVD 借りて見ました。

Q：一人で見るとですか。

B：お母さんいたら、お母さんはもう、既にそれを見てて、地上波でやってた時に、で、私が普通に見てて、お母さんいたら一緒に見る感じです。一人で、暇な時に見ることが多いです。

Q：ドラマの場合は、韓国の文化とか、社会とか色々出てると思うんですけど、どうですか。

B：あ、行って見たいと思います。あと、なんか、喋り方、可愛いな～と思います。あと、女の人のファッション、可愛いです。あと、めっちゃ親を大事にしているなと思いました。敬語ですよね～親に対して。それで大事にしているんだな～と思いました。

Q：日本のドラマもよく見ますか。

B：日本のドラマは見ない。

Q：韓国ドラマは見る理由はなんですか。

B：周りが見たり、家族が見てるとついでに見たりすることが多くて。

Q：共通の話題もできますよね。

B：はい。

Q：韓国語を勉強しているということで、何か変わったことってありますか。

B：あ、はい。韓国ドラマとか見てて、聴いてて、あ～なんか、習った言葉だとか、思ったりするし、授業の先生とかかなり韓国の話をしてくれるので、あ～こういうところもあるんだ～みたいな、色々…、それで行きたい、行ったら使える言葉とか、結構習ったので、行って見たいな～と思いました。

Q：韓流が好きな人って、どうなんですか？男女によって違ったりしますか？

B：女性に多いと思います。

Q：それはなぜですか？

B：(笑) なんですかね。

Q：自分の経験からですか。

B：コンサート行くとほとんど女の人ばかりです。あと、その、女の人アイドルグループ？KARAとかでも、女の人の方が多くなって聞きました。行く人、コンサートに。だから、やっぱ女の人から人気なのかな～と思って。

Q：それは、自分が韓流が好きだというと、男女によって反応が違ったりしますか？

B：あると思います(笑) 女の友達に K-Pop が好きだと言ったら、あ、そうなんだ～みたいな、そんな、なんか、ああ～みたいな、私もこれ知ってるよ～みたいなこと言ってくれて、ちょっと盛り上がる感じですけど、男の人だと、あまり言いたくないなと思います。なんか、まず、アイドル好きっていう時点で、なんかあれかなと思って、なんか、あまりよくないかな(笑)

Q：それにプラス韓流というのは？

B：あ！(笑) 結構。そう～なんか、おお～見たいな、なるかな～って思って、ちょっと言いにくいなと思います。

Q：それは K-Pop が流行る時も、今も一緒だと思いますか。

B：あ、うん、私は女子高出身だったんで、中高の時は、周りに女子ばかりで(笑)。

でも、普通に言っても、言いにくいなと思いつつも、普通に、男子にも K-Pop 好きだわ、みたいな、感じで言います。

Q：ちなみに彼氏がいますか。

B：います。でも、意外と向こうは理解を示してくれて(笑) 彼氏は AKB が好きなんです。逆に(私が) AKB については理解できない感じ…(笑)

Q：そうなんですね。わかりました。

最近のニュースで見る韓国って、どんな感じですか。いいニュースが多いと思いますか。悪いニュースが多いと思いますか。

B：悪い方が多いと思います。

Q：悪いニュースが多いから自分が K-Pop が好きなことに何か、影響したりすることはありますか。

B：それで、日韓関係が悪いから、嫌いになろうとは思わないけど、なんか、周りからの思われ方があれかな～と思います。

Q：でも自分の周り、特に友達とかからはどうですか。

B：そうですね。そんな、え～？みたいな感じではないので…

Q：家族の中でも、影響されたりする姿は見えないですか。

B：あ、見えません。

Q：そうなんですね。分かりました。ありがとうございました。

【対象者 C】

Q：インタビューを始めます。よろしくお願いします。最初、韓国の大衆文化の何に接しましたか？

C：最初ですか。最初は、どっちが最初か忘れちゃったんですけど、たぶん K-Pop だったら少女時代が最初で、韓ドラだったら『イケメンですね』が流行って、そのどっちかが最初です。

Q：今はどっちが好きっていう感じですか。

C：なんか、珍しいんですけど、私どっちもなんですよ。なんか、どっちかと言う人が多いんですけど、私はどっちもです。

Q：最初からどっちも一緒に見ていたんですか。

C：そうですね。はい。

Q：きっかけはなんですか。

C：あ、でも、テレビから流行り出したからです。

Q：テレビで見てから好きっていう感じですか。周りが好きだったりとかは？

C：あ、なんか、周りもちょっと好きみたいな感じで、続いていたみたいな。

Q：例えば、周りは誰とかが好きですか。

C：周りも少女時代と KARA がいっぺんに流行った時期に、みんな少女時代、KARA ってなつて、みたいな。

Q：女子グループが流行っていた時期ですか。

C：そうです。

Q：少女時代が好きっていうのは友達同士でも？結構流行ってたり、あ、自分も好きだなというふうに思うようになったきっかけというのは？

C：K-Pop のガールグループが可愛かったからです。少女時代のユナが可愛かったからです。で、すごいタイプで…

Q：はまるようになったのが韓流アイドルとかの外見ということですか？

C：顔です。私ほとんど顔です。とりあえず、格好いい人とか可愛い人探して、どんなグループでも自分のタイプがいたら調べて…

Q：人が好きだったから少女時代が好きになったという感じですか。少女時代の曲とかよかったとかじゃなくて。

C：あ、確かに、そうかも知れないです。なんか、かわいくて、歌っているから歌もよくて、みたいな、そうしたら好きになって、みたいな感じです。

Q：歌はどういうところが良かったですか？

C：あ、可愛いな～と思ってから好きになった感じです。

Q：それはテレビで結構頻繁に見るようになったから、見てて、そう思ったんですか。

C：あ～でもテレビでやってたのは、日本語バージョン、だったんですけど、韓国語バージョンが見たくて、普通にインターネットで探してずっと見てました。

Q：自分で調べて見たくなった理由はなんですか。

C：可愛かったから～（笑）

Q：インターネットで見ていくうちにどんどんそう思うようになって、もっと調べて行ったという感じですか？

C：そうです。

Q：友達の中で韓流が話題になることはなかったんですか。

C：あ！ありました。自分が入った時期には、みんな話してました。誰が好きとか、誰が一番可愛い？みたいな感じです。

Q：中学生の頃はみんなの中で話題になってたという感じですか。

C：そうですね。

Q：共学？

C：共学です。あ、でも、女の子だけで喋ってたんですけどね。

Q：主に少女時代だったんですか。

C：KARA が好きな人と少女時代が好きな人がいました。どっち派？みたいな感じで、自分はダンスあまり上手じゃないので、あ、でも、少女時代の GEE の、あのユーエヌダンスとかはどうやってやるんだろう～とは思いました。

Q：ドラマはどうですか。

C：ドラマはもう、どんどん見ていく感じです。あ、でも、それも結構 K-Pop と関係があつて、CNBLUE のヨンワが格好よくて見たり、少女時代のユナがドラマに出るからドラマ見てみたいな～と思って見たりする感じです。なんか、韓国ドラマがお昼とかやってて、2時間ぐらい？ずっと見てました。主にテレビで見てました。

Q：普通に放送されてるものを見る感じですか。

C：あ、録画して見ました。

Q：有料チャンネル取ったりとかはしてますか？

C：ダメって言われました（笑）

Q：お母さんから？

C：お母さんから

Q：ご家族は韓国の大衆文化についてどう思ってるんですか。

C：家族は、なんか、最初は、え～ってなってたんですけど、たぶん、うちの母さんも好きです。あまり私に言ってこないんですけど、チャン・グンソクとか好きです。うちのお母さん。

Q：そうですか。それは自分より前からだと思いますか。

C：後です。絶対、後です。いや、なんか、最初、私が好きで見てる時に、お母さんが微妙な反応してたんで、ちょっと、たぶん、そういう反応しちゃった分、後から好きになったと…だから、たぶん私に言えなくて、黙ってるんだと思います。

Q：じゃ、お母さんものはまっている感じですか。

C：たぶん、はまってるわけではないと思いますが、たぶん、チャン・グンソクは好きです。

Q：分かりました。あ！ドラマについてですけど、

C：ドラマも見ています。

Q：お母さんと話すことはあまりないですか。

C：ないです。

Q：ドラマは主にどうやって見ている感じですか。

C：ドラマは最初テレビで見てたんですけど、それ終わっちゃって、それで、最初インター

ネットで探してたんですけど、なくて、DVD 借りてみたんですけど、最近はずっと BS で見えます。

Q: 今は一人暮らしだけど、昔はどこで見ました。

C: 昔はリビングで、でも、めっちゃ朝早く起きて見てたりしました。夕方の時間帯邪魔すると怒られるんで (笑)

Q: 誰からですか。

C: 全員からです。テレビ見たいじゃん〜みたいな。

Q: 家族は何人ですか？

C: え〜と。妹とお父さんとお母さんです。

Q: じゃ、誰もハマってない感じですか。お母さんはちょっと見てるかな〜という感じでしたけど…

C: そうです。他の人は見てないです。お父さんも全然見てないです。でも、BIGBANG ぐらいは分かるらしいです。テレビの影響で。

Q: そうですか。全くお父さんには話してないですか。

C: マニアックだから分かってくれないと思うんで、兄弟は私と趣味違うんで、そんなに興味なさそうです。

Q: 家族とあまり分かち合えない感じですかね。誰に

C: あ、でも、最近は Twitter をやってます。知らない人、別に話しているわけじゃないですけど、人の見たりして、あ!これ自分も好きなんだよな〜と思ったりします (笑)

Q: Twitter で友達同士で話し合ったりは、SNS とかで？

C: あまり、話さないです。

Q: SNS は、主に情報収集としてですか？

C: そうです。

Q: これまで韓国ドラマはどのぐらい見ました？

C: めっちゃくちゃ見てます。

Q: 韓国ドラマ長いから、結構時間かかるじゃないですか。

C: あ、そうです。暇なんで (笑)

Q: いつ、一番見たという感じですか。

C: 今です。

Q: そうなんですね。一日どのぐらいですか。3 時間ぐらい？

C: はい。でも見る時は、一気に見ちゃいたいんで、3 日で見たりするんで、平均にしたらそのぐらいです。

Q: 何が良くて見ちゃう感じですか。

C: とりあえず、一気に見るのが好きなんです。私。毎日やるじゃないですか。それで、結構続き見たかったらすぐあるから、見てるんですけど、なんだろう、恋愛ドラマが好きです。日本のドラマは刑事ドラマとかばかりだから、こっち見ちゃいます。

Q: 日本のドラマは見ないですか。

C: 見ているんですけど、見ますけど、でもなんか、週 1 とかだと忘れちゃうんで、あまりそこまではまらないです。韓国ドラマは週 5 ぐらい見てます。

Q: 韓国ドラマと日本のドラマの違い、もちろん日本にも恋愛ドラマあるじゃないですか。でも韓国ドラマ見ちゃう理由はなんですか。

C: なんか、韓国ドラマは、なんか、少女漫画みたいで、日本のドラマはなんか、大人？な

感じでちょっと違うなって思って、(日本のドラマは)一応週一回見るけど、そんなに執着しない感じです。

Q: 韓国ドラマには執着していく感じですか。

C: 先が気になってしょうがなくて (笑)

Q: どういったところで?

C: 分かっているけど、見たいっていう感じ?

Q: 見ることに重要なポイントとかありますか。

C: あ! あります。格好いい人が出るドラマを見ます。でも、格好良くなくても最近格好良く見えてきます (笑)

Q: 最初韓ドラ見た時の印象はどうでしたか。

C: 最初は、なんか、面白かったです。たまに日本語ばい、「が」っていうじゃないですか。なんとか「が」、あ! 日本語だと思ったら韓国語で、へえ~と思ったことがあります。

Q: 韓国ドラマ見る時は、字幕付いているのを見ますか。吹き替え?

C: なんか、字幕のほうが、なんか、不自然な感じがしないんで、字幕で見えます。

Q: 韓国ドラマの中で流れるのは、日本と違う場面とかも多いかと思うんですけど、気にならなかったんですか。

C: 違うな~と思いましたけど。特に、あ、また出てきた! と思います。

Q: じゃ、K-Pop の場合はどうですか。日本のアイドルと違うと感じたりしますか。

C: します。あ! 日本のアイドルと別で、アイドルが好きなんじゃなくて、K-Pop のアイドルが好きな! ということですよね。

Q: それはアメリカのアイドルとかと同じ?

C: あ、そうかもしれないです。でも、アメリカのアイドルじゃなくて、やっぱり韓国アイドルの方が可愛いと思いますし、格好いいと思いますしって、思ってます。

Q: 自分が韓国ドラマを見ることで、韓国とかにもっと興味関心が増えてきたと思いますか。

C: はい。韓国行きたいです。

Q: 韓国語は勉強したことがありますか。

C: してないです。

Q: 授業は取ったりしないですか。

C: 取ればよかった (笑)、なんか、難しいって聞いたんで、取らなかったです。中国語取って間違えました。テストがめっちゃ難しい...

Q: 韓国語分らないと、K-Pop 聴く時、歌詞とか聴き取れたりしますか。

C: K-Pop は歌詞とか難しくて、分からずに聴いてます。ラップが多くて、私には無理です。でも、韓国ドラマは簡単な恋愛系だったら聴き取れたりします。でも弁護士とかそういう系はダメですけど...

Q: 勉強してなくても、見たり、聴いたりしてある程度はできるんですね。すごい!

いいですね... 分かりました。じゃ、韓流にはまってから、友達も同じ趣味を持った人が増えるという感じはありますか。

C: 実際の友達ですよ。あまりいないです。好きだから友達になるとかそういう感じはないです。

Q: 友達の中で韓流が好きな子がいたら?

C: ちょっとでも好きだったら、なんか紹介したくなる。これが好きだったら、これ見よう! みたいな。でも、やっぱ、私がやっぱめっちゃめっちゃ知っているんだな~と、そういう話を

すると思います (笑)

Q: それはなぜだと思いますか。

C: 見過ぎ (笑)

Q: (笑) K-Pop だけが好きな子とちょっと違うと思いますか。

C: 思います。本当にドラマ全然見ないですよ。K-Pop 好きな子って、え〜ドラマ面白いの
にって言ったら、アイドルが出てきたら見るけど、なんか、別にドラマが好きでとかない
から見ることはないって言ってました。

Q: 韓国ドラマを見て、韓国に行きたいと思った理由はなんですか。

C: 理由、うん、でもなんか、ドラマのロケ地とか回っている人がいて、ちょっと行きたい
です。あとは屋台で食べてみたいし、ジャージャー麺とか出前してみたいって、思いま
す。ここに立ってみたい写真、撮ってみたいです。あ！ここよく出てくる建物だよな
〜みたいな写真撮ってみたいです。誰にも見せるわけじゃないですけど (笑)

Q: そうなんですね。分かりました。好きになってから韓国への認識が変わったりしました？

C: 中国人と区別がつかしました。韓国人はそうじゃないですか。中国人と日本人の差があま
り区別つかないですよ。その差がはっきり分かってきました。普通に言葉もそうだし、
どういう、性格とか、テレビで見てて、アジア 3 みたいな、テレビで最初は韓国人と中国
人、一緒に見えたんですけど、ちゃんと分かるようになりました。

Q: そうなんですね。面白い。どうでしょう。韓国は近い感じしますか。

C: します。

Q: 韓国に関連するニュースも気になったりしますか。

C: ちょっとは。今は暴動みたいなのが起きているのを見たんですけど、でも、なんか、他
の番組で高校生とかがそんなに政治と関係なく、日本人と付き合って行きたいと言ってる
のを見て、あ、そうなんだな〜って思いました。高校生が喋ってるのと、後、政治家が喋
ってるのを見て、あ、なんか、日本人もそうやって考えてる人多いじゃないですか。韓国
人ともっと仲良くなってもいいんじゃないかな〜みたいな。だから、ふん (笑) 私は仲よ
くして欲しいです。

Q: それは韓流が好きになってからですか。

C: はい。そうです。

Q: その前まではどうですか。

C: あ、何にも考えてなかったです。

Q: 分かりました。フジテレビ抗議デモとかは知ってますか。

C: あれ、ひどいですよね。私はテレビで見てたのに。うちの実家、BS 取れなくて、録画で
きなくて、本当に最悪でした。なんか、(その人たちは韓国ドラマ) 見たことあるのかな〜
と思います。

Q: そういう人たちって増えている感じですか。反対している

C: いや、変わらないと思います。見る人は見て、そんなに嫌悪感も持ってないし、

Q: そういうデモに会っても自分の趣向は変わらない？

C: ひどいこと言うなと思うんですけど、でも、別にテレビでなくなっても、インターネッ
トで見れるし、そんなに関係ないです。

Q: そういう抗議デモがあったりしてる中で、世間の目とかは気にならないですか。

C: あ〜でも…しないですね。私の周りにそんなこと言ってくる人いないんで、へえ〜って
感じです。別にアニメ好きな人がいれば、韓流が好きな人もいるっていう感じです。

Q：韓流ファンのイメージって世間的にどういうイメージですか。

C：日本でですね。あまりよくないですよ。あれはちょっと思ってます（笑）なんか、（韓流ファンを）おぼさんだと思っている人がいます。でも、それは冬ソナの影響だと思うんですよ、私。

Q：自分が思う韓流ファンはこうだと言えば、

C：みんな少女漫画読むのになんで韓国ドラマ見ないの？って（笑）

Q：見ればみんなはまっていくと思いますか。

C：思います！

Q：好きな人たちに男女の差があると思いますか。

C：あ、でも最近男の子でもいますよ（笑）ね。なんか、髪型とか真似して、いると思います。で、やっぱ、可愛い子は日本人も好きなんで、可愛い子が好きな人は…でも女の子が多いです（笑）

Q：それはどういうところで、そういう印象があるんですか。

C：Twitter とかで、女の子ばっかです。でも男の子もたまにいて、きっと友達には言っていないだろうなっていう感じで（笑）なんか…

Q：そうなんですね。分かりました。自分が韓流を好きでやっていくことが、何か、韓国とのトラブルや国との関係とかで影響されることってあると思いますか。

C：私が（韓流が）嫌いになるかっていうことですか。

Q：うん…やめたりとか？

C：しないと思います。普通に好きだからなんですけど、なんでだろう。趣味だから別にそんなことでやめる必要はないかな～と思ってます。

Q：分かりました。ありがとうございました。

【対象者 D】

Q：インタビューを始めます。よろしくお願いします。じゃ、韓国の大衆文化の何が好きですか。何を見てますか。

D：2PM です。

Q：2PM が好き。いつから好きですか。

D：え～と、中3の後半からなんで、もう5年ぐらいですかね。

Q：そうなんですね。何で2PM が好きになりましたか？

D：ちょうど KARA とか少女時代がばんばん出てきて、その次になんか、それでなんか、朝のニュース番組で野獣アイドルが日本にやってきたみたいなやつでパッと目にして、また韓流か、みたいな感じで、パッとテレビ見たら「テギョン(メンバーの一人)」いるじゃないですか。一目惚れして（笑）それで雑誌とか色々読んで、ネットで調べていくうちにはまって今に至ります。

Q：そのテギョンのどんなところに一番はまりました？

D：人の野性的な感じ～（笑）いや～でも野性的な感じもありつつ、わりと性格は野生っていう感じよりかはなんか、フレンドリーな性格なんで、そこのギャップというか。

Q：ギャップ燃えて～

D：はい（笑）

Q：あ、そうなんですね。

D：はい。

Q：テギョン以外の人からもそのギャップを感じますか。

D：あ、そうですね。もう他のメンバーもわりと脱いだり、キンキンって感じなんですけど、みんな最近すごく作詞・作曲を頑張ってる、なんか、そういう場面でも頑張ってるんだなとすごい感動しました。

Q：あ～そういうところでずっと好きであったんですね。結構ファン暦も長いと思うんですけど、2PM からもう離れることは？

D：いや～もう本当にいつか離れそうかな～離れそうかな～と思いつつ、ずっと今こんな感じなんですけど（笑）

Q：あ～そうか、2PM だけですか。

D：はい。

Q：他に何か、K-Pop とか、ドラマとか触れたりしますか。

D：あ、ドラマはやっぱりあのテギョンが出てた『Dream high』とか、後、本当に昔なんですけど、10 年ぐらい前に日本でやってた『チャングムの誓い』ってあるじゃないですか。やっぱそこ、親が見てたのを見て、見たんですけど、やっぱりなんか、そこからちょっと意識し始めたというか、韓国ってこういうのなんだ～みたいな、意識し始めたかな～と思います。

Q：じゃ、本当に最初に入ったじゃないですけど、

D：本当に最初に若干触れたのは『チャングムの誓い』からですね。

Q：そうなんですね。そこからテギョンが出てるドラマ、『シンデレラのお姉さん』とか見ました？

D：見ました。

Q：方言良かったですね。

D：あれ、すごい好きです。

Q：じゃ、他の 2PM のメンバーが出てないのも見ることであります。

D：昔は見てたんですけど、最近はめんどくさくて、見ないですね。

Q：あ、昔は見てましたか。

D：昔は見てました。

Q：今度も出るのを見るけど、出ないドラマは別に見ないという感じですか。

D：っていう感じですね。はい。

Q：ありがとうございます。2PM が好きになることで、なにか、自分のなかの変化とか、変わったこととかありますか。

D：はい。最初は 2PM の外見というか野獣みたいな格好良さ、で、最近は中身、性格とか…

Q：あ～最初ファンになった時と今は自分の趣向が少し変わったということですか。

D：やっぱりちょっと、5 年前目なんで、やっぱ年取ってやっぱちょっと性格が大人になったのかなと思うし、で、本当最近になって作詞作曲とか始めて、アルバムの収録曲のほぼ全てがメンバーの自作曲なんで、そういうクリエイティブな感じがやっぱり…昔は本当になんか、脱ぐのが仕事みたいな感じだったんですけど、今は、なんか、そういうことじゃなくて、そういうクリエイティブなアーティストとして、アイドルよりはアーティスト的なところがやっぱ惹かれるポイントですね。

Q：じゃ、今は、脱ぐセクシーさとかは？

D: まあ、やっぱりそこはポイントですね (笑)

Q: (笑) 欠かせないところで?! (笑) はい。分かりました。K-Pop とか追ったりする時間じゃないですけど、一日どのぐらいかけますか。

D: 一日もう、最近は本当に新曲出たばかりで、暇な時はいつも Twitter とか YouTube とか見て、情報集めてます。

Q: 情報集めに一番使っているツールは何ですか?

D: やっぱ Twitter ですね。動画とかも写真とかも貼れるんで、それでリンクすぐ飛べて、簡単に情報集め出来るんで楽ですね。

Q: 確かに Twitter は便利ですね。

D: はい。

Q: テレビのチャンネル契約というのは、家でしたりしますか? M-net つなげてるとか?

D: いや、つないでないです。

Q: じゃ、YouTube のチャンネルとか、マスタサーのチャンネル登録してるみたいな…

D: あ! そんな感じです。あります! あります。

Q: あるんですね。そういう面では YouTube もそういうところで、

D: はい。やっぱりファンカメラってあるじゃないですか。やっぱあれは結構大事ですね。

Q: それ見る時のポイントはどこですか。

D: や~もう、とりあえず、好きな曲のやつは大体全部見ます。やっぱ 2PM は脱いだり、セクシーなやつが多いんで、そういうのは必ず欠かさず見ます (笑)

Q: 分かります。はい。えーと、2PM の何が一番好きですか。

D: なんか、まず一番好きなのは、あ! でも最近は、昔はやっぱ筋肉だったんですけど、最近はその大人っぽい優しい感じ、なんか、親しみやすい性格かな~って自分で思います。やっぱ、そこが一番いいかな~と思います。

Q: 親しみやすさ、それは年を重ねることによってですか。

D: 年を重ねることでどんどん心が開いていく感じが分かりますね。

Q: あ、それは、あちら側がですか、それでも自分がですか。

D: あちら側もなんかすごい、元々親しみやすい感じだったんですけど、さらに最近は本当にそうですね。

Q: もうそれが分かるというか、感じるんですか。

D: 分かりますね。はい。

Q: どういうところで感じるってありますか。

D: あの、テギョンなんですけど、すごい Twitter をよく見るんですよ。芸能人ってあまりネット見ないという人もいますじゃないですか。でもすごい Twitter をよく見て、今ファンはこんな感じだから次はこういう曲を作ろうとか、こういう振る舞いをしようとか考えたりするらしいですし、後普通にファン同士が会話している中でちょっかいかけて、会話に入ってきたりするのを見て、親しみやすいというか、アイドルといたらなんかちょっと差がある感じじゃないですか。でも、なんか、そのファン同士の会話にちょっかいかけて来るあたりは、フレンドリーだな~と思いますね。

Q: そういうところがいいな~って感じですか。

D: ちょっとグッと来ますね (笑)

Q: ポイントが高くなって行く?

D: はい。どんどん (笑)

Q：分かりました。ありがとうございます。他にコンサート行ったりしますか。

D：あ！韓国は行ったことないですけど、国内のはツアーだったら名古屋で、関東でしかないやつだったら関東に遠征しに行ってます。

Q：どうですか。その時にファンサ（ファンサービス）してもらったとか、そういうエピソードありますか。

D：私、実は去年の夏に行ったコンサートで、JYP のファミリーコンサートなんですけど、一番前の席になって、すごいいっぱい、色んな人からファンサをもらって、幸せにひかりました。

Q：いいですね。

D：はい。

Q：それもらって一番嬉しかったのって、決められます？

D：そのとりあえず、団扇を振ってて、ちょっと変な顔したテギョンの顔を貼った団扇なんですね。私がこうやって振ったら、テギョンがその顔してくれて、もうその時は、本当に倒れそうになりました（笑）

Q：どういう感じの団扇ですか。言うのが難しいかも知れないですけど。

D：本当に変な顔です。なんか、口を開けて眉間寄せてカッとしてる感じの顔ですけど、割と有名な変顔なんでよくやるんですけど、それやってくれて、うわ！と思って。

Q：どうでしたか、特別な感じ？どんな気持ちでしたか。

D：もうなんか、あ！通じた！みたいな感じですね。

Q：日本のアイドルは追っかけてないですもんね。

D：もう今は、昔は嵐が好きだったんですけど、コンサートには行ってないです。

Q：なんか、そのファンサ受けた時にこれしかないなというか、韓国のアイドルを追うことでしか、この幸せは得られないみたいな気持ちって出ます？

D：あ！やっぱ韓国のアーティストって日本のとはやっぱ差がある感じがします、なんか。ファンとアーティストの上下関係があるみたいな、でも、なんか、韓国の場合は確かにあるんですけど、あまりそういう感じも感じられないのはやっぱ魅力だなと思います。

Q：近さ、短い感じしますか。

D：はい。近い。

Q：そうなんですね。また、他にありますか。テギョンがやってくれたここがすごい心に残っているみたいな。

D：いや〜でも、あり過ぎます。（ファン暦）5年持ってるんでやっぱ色々ありますね。

Q：これだけは自慢したいというのは。

D：テギョンのですか。やっぱ空気を妙に読むのが上手いというか、なんか、わざと外して空気を読まない、あえて空気を読まないというか、やっぱ賢いと思うんですよね。それで、ファンの笑いを誘ったりとか、メンバーから笑いながら突っ込まれたりするそういうのをファンは好きなんです。なんか、テギョンは割りといじられキャラなんで、そうやって空気を読んでそういうことするというのは、やっぱ賢いんですね。

Q：そういう、なんだろう、人間性じゃないんですけど、そういうキャラクターに惹かれたのは、最近ですか。それとも継続して…

D：いや、テギョンにはまった時からやっぱぱっと見のイメージはやっぱ怖そうな感じで、まあ、確かに知性的だけど、怖そう〜みたいなイメージもあるんじゃないですか？でも、いろいろ昔のバラエティとか見てたら全然そんなことなくて、やっぱそのギャップ、

やっぱギャップですね。

Q：ギャップ燃え～

D：ギャップに燃えました（笑）

Q：ありがとうございます。そういうテギョンの魅力というか、それは、もう日本に比べるとないということですか。

D：あまり、アイドルとしてはないですね。なんか、好きな日本の俳優とかだったら結構あるんですけど。

Q：例えば～比較して。

D：私結構日本の俳優だと、北村一輝なんですけど。

Q：意味分かった気がします。

D：顔濃くてすごく怖いイメージがあるんですけど、バラエティ出てるのを見ると、すごいいい人だなと思うんで。

Q：やっぱギャップなんですね。

D：やっぱギャップなんです。見た目怖くても、なんか、優しい性格というのがやっぱ来ますね。

Q：じゃ、韓国アイドルでテギョンにあるものは、日本のアイドルに共通するものはちょっと見つきにくい、ないだろうなと思うけど、俳優というところにする

D：他のジャンルにあるかなという感じです。

Q：分かりました。ありがとうございます。

そういうギャップというのは2PMを知る前も求めてました？

D：あ、でもギャップは大事だなと思います。やっぱり。

Q：自身の日常生活においてもですか。

D：あ、でも、日常生活だとちょっとびっくりしちゃうんですけど、やっぱ芸能人とかでのギャップはやっぱいいですね。

Q：日常生活では、例えば、本当に好きな人とかできたときはその人がすごい面白いギャップを持っていたらちょっとそれは惹く？

D：いや、面白い性格のギャップは良いんですけど、全然。見た目は寡黙そうだけど、面白いというのは本当にポイントが高いです。

Q：あ、じゃそこはもう共通している部分ですか。

D：割と共通してますね。

Q：分かりました。え～と、2PM好きになってから自分の生活って変わりましたか？

D：あ、もう、お金が全部彼らに（笑）高校の時は、お小遣いが少なかったんで、少ないお金でCD買ったりとか、貯めてコンサート行ったりとか…

Q：じゃ、経済的な面でそこに。

D：はい。

Q：そこに使うことが多いとか、なんか、我慢することがあってもそこに使おうかな～みたいな感じですか。

D：はい。

Q：分かりました。他にはどうでしょう。考え方とか？

D：あ、やっぱ、政治的な面で気にするようになりました。

Q：あ、ニュースを追って見たりとか？

D：はい。

Q：じゃ、それ、また後に聞きたいと思います。じゃ、ちょっと変わってライフスタイルとかにおいてはどうですか。なんか、変わったこととかありますか。

D：はい。

Q：2PM が中心のライフスタイルとか送るようになったとか、そういうのってありますか。

D：昔、本当に高校生の時はそうでした。もう 2PM しか考えることができなくて、もう授業中もなんか、ずっとケータイでなんか、動画検索したりとか（笑）もう不真面目でしたね。今は大学の方が忙しいんで、あまり、頭の片隅にはずっとあるんですけど、なかなかそれ中心で考えることは少なくなりました。

Q：ちょっとそれは寂しい感じですか。

D：まあ、寂しいんですけど、このぐらいの年代ならしょうがないかなと思います。

Q：そうかそうか、周りの友達に変化とかありますか。

D：あ、高校の時はやっぱり韓流好きの友達がいっぱいいて、今でも 1 年生の時は韓国語履修してたんで、その時のつながりでできた友達もいるんですけど、今は取ってないですね。履修は。

Q：その時の友達というのは、みんななんか、どこかのグループが好きだとかですか。

D：はい。

Q：逆に、そういうのが好きじゃない友達が離れて行ったとかあってありますか。

D：ありますね。なんか、やっぱりちょっといいや！になって離れてた友達もいるんですけど、それでも今でもやっぱり仲良くはしています。

Q：それは女の子の友達ですか。そういう話した時に、どういう反応されたとかあってありますか。

D：あ、韓国の話をしてですか。

Q：はい。

D：いや、たぶんキャーキャーキャー言ってたんで、それにえっとなったと思います。

Q：なんかを追っかけているから、韓国アイドルだからということで、それとも何かを追っかけてキャーキャー言ってたからですか。

D：たぶん何かを追っかけてからだと思う。普通にアイドルにキャーキャーと言うのはいいと思うんですけど、うるさかったんだと思います。

Q：もう自分の自覚として？

D：はい。自覚としてあります。

Q：そうだったんですね。それ、男の子と話す時に韓流や 2PM の話をしたりとかします？

D：いや、私、実は男の友達がいないんです。ずっと中高女子校だったんで、今の大学も男は、学部は少ないんで、全然いないです。

Q：じゃ、もう、そういう話をするまでもなく…そうかそうか。

逆にテギョン追ってて、出来た男の友達とかはいますか？

D：いや、いないです。

Q：いないんですか。

D：いないんです。

Q：2PM のファンって男性多くないですか？

D：多いですね。

Q：多いですよ。コンサートで会ったりとかは？

D：一回、コンサート場で仲良くはないんですけど、一緒にいた人がいるんですけど、

ずっとニック、ンニクンって叫んでました。

Q：その人とは 2PM の話だけしました？

D：連絡取ってないですね。

Q：その時だけ？

D：本当に。

Q：韓流はまったことで趣味とか変わったことってありますか。

D：とりあえず、趣味じゃないですけど、YouTube 見る頻度が増えました。ネットを使う頻度が増えたというか。

Q：必然ですね。後は、韓国語も大学入ってから勉強しました？

D：若干したんですけど、ちょっとシフトチェインジーして、今中国語真剣にやっているところです。

Q：その変化はどうして生まれたんですか。

D：普通に、大学受験する時は、韓国のことやりたくて大学選びしたんですけど、大学入って中国語ちょっとやってみようかな～程度でやってみたら面白くて、中国語の方に熱が言っちゃって韓国語はまあ、ハングル読めるからいいかな～と思って（笑）まあ、機会がある時に勉強しようとなりました。

Q：それは、何で中国だったみたいなのってありますか。例えば、フランス語とかじゃなくて。

D：あの、やっぱ MIssA いるじゃないですか。中国人のメンバーのジアという人が好きなんですけど、やっぱその子が喋る中国語がすごい魅力的だったのもあるし、後、EXO に中国人のメンバーいるじゃないですか。やっぱそれとか、後、Super Junior にも中国人のメンバーが、その彼らが喋る中国語、あ、やっぱ中国語の発音きれいだな～と思ったりして、まあ、韓国人がきっかけではあるんですけど、そこからですね。

Q：韓流はまることによって、そこから中国語の魅力も感じてみたいな自分もやろうか

D：そんな感じ、そんな感じです。

Q：分かりました。それによって視野が広がったというか

D：はい。視野はだいぶ広がりました。

Q：他にありますか。言語以外のところでここ広がってるな、自分。みたいな、気付いているところとか。

D：うん、2PM のファンはやっぱニクンってタイ人じゃないですか。やっぱタイもちょっと気にかけるようになりました。少し、タイの洪水とかもなんか、あ、可哀想と重大に思っちゃって募金とかしました。

Q：気になる、なんか、やらなきゃなって。

D：はい。

Q：ありがとうございます。知る以前と知った後で韓国や韓国人に対する変化ってありますか。

D：本当に知る前は何とも、何ともというか本当に興味がなかったというのがたぶん正しいと思うんですけど、本当に何とも思ってなかったんですけど、やっぱ韓国人が好きになるようになって、やっぱり韓国人の民度きにするようになりました。

Q：例えばどういうところですか。

D：やっぱり日本人、テレビとか、韓国の音楽番組とかでファンを呼ぶじゃないですか。音楽番組で、キャーキャーとか言ったり、こういうプラカード出したりするのは、やっぱり

日本と違うなど、キャ〜と言ったり、誰々〜と叫んでるのを見ると、なんか、わーすごい、過激と思ったんですね。

Q：どうです？それ見てなんか。

D：や、でも素敵だなと思います。はい。

Q：日本もこういう感じだったらいいなと思うこともありますか。

D：でも若干ありますね。もうちょい韓国よりは控えてもらって、キャーキャーという感じならいいかなと思います。後、なんか、斜線ファンっているじゃないですか。やっぱそれは怖いかなと思いますね。はい。

Q：え〜と。じゃ、韓国が嫌いになったというか、そこは踏み込まないなという部分は

D：あ、本当に芸能界の部分では日本も見習って欲しいぐらい、なんか、発展しているというか、良いなと思うんですけど、政治的な部分は、ううん〜と思うんですね。

Q：韓流に接する前はある意味無関心というか、普通に何とも思わなかったのが、気になる。

D：はい。気になるようになって。

Q：韓流によって韓国社会にまで視野が広がった訳ですね。

D：はい。

Q：韓流の報道とかつてあるじゃないですか。ずっと前だったらいい感じで報道されたかも知れないですけど、最近ちょっと微妙なところあるじゃないですか。

D：あります。あります。

Q：どうですか。率直に

D：いや、本当に、なんか、なんなんだろう〜って、持ち上げるだけ持ち上げといて、なんか、『ミュージックステーション』とかにも一時期すごくばんばんばん出てたんじゃないですか。なのに、もう、あの、デモとかあったんじゃないですか。そこからピタって、もう、音楽番組の出演も殆どなくなって、テレビ番組出るよ〜といっても大体CSとか、BSとかで、え〜？って、この扱いの差は何だろうって思いますね。

Q：それはもう、日本の社会的なあれに対する不満というか、

D：あ、あれはありますね。

Q：あ、こうして欲しいと言うのはありますか。そのメディア報道について。

D：なんか、最近はずごい日本を持ち上げる番組が増えたかなって、『世界が驚いたニッポン！スゴ〜イデスネ!!視察団』とか、外国人にニッポンのいいところ聞いてみました。みたいな番組が増えすぎてて、日本はずごい、他の中国や韓国よりは日本の方がずごいみたいなこと言ってて、その報道はちょっと、報道っていうか番組の進め方どうかな〜と最近思います。

Q：ちょっと偏りあるんじゃないですけど〜

D：欧米はずごい、ヨーロッパもずごい、日本もずごいけど周りの東南アジアとか、中国や韓国はなんかううんっていう感じは、それはただの偏見じゃないかなって思います。

Q：確かに。そう感じるどころ…

D：やっぱありますね。

Q：それ、どうですか。自分の周りの人も同じように言っているみたいな話とかしますか。

D：いや、話はしないですね。あまり、でも、ネットでは最近そういう番組増えてるよね〜みたいな目にしますけど。

Q：お父さんとかお母さんとか周りの家族の反応ってどうですか。自分が 2PM にはまってることも含めて〜

D：政治についてですか。

Q：どっちに行こうかな、じゃ！

D：あ、韓国についてですか。

Q：じゃ、韓国について（笑）

D：親は、本当に父親は何とも思っていないんですけど、母親はあの、元々『チャングムの誓い』を見てたのはやっぱ母親なんで、ドラマとか時代劇には本当に興味があるんで今でも時代劇見ているんですけど、アイドルはなんか、すごいわーいっぱいいるのね（笑）～みたいな…

Q：でも、まあ、やめなさいとのことは別に…

D：昔は勉強しなかったんで、やめなさいって言ってたんですけど、今はわりと真面目に勉強してるんで、何とも言わないです。まだファンだったのみたいな（笑）

Q：お父さんは別になんにも

D：まあ、私が東京コンサート行くって言ったら、ふうん～じゃ、いってらっしゃいって感じですね。

Q：あ、そうなんですね。じゃ、政治についてはどうですか。

D：政治は本当に、あ！父親は家にいないんであまり聞く機会はないんですけど、母親はあ～、何かまたこんなことしてみたいな（笑）そういう反応ですね。

Q：ここからちょっとずつ政治に入っていくんですけど…

D：はい。

Q：嫌韓とかフジテレビデモとか、どうですか。そういうニュースについて…

D：あ、ちょうどそのフジテレビデモがあった時は本当に自分がピークで追ってた時期だったんで、もう本当にバカじゃないのって思ってたんですけど、でも、今思っても何でそんなことでデモしたんだみたいな、別にいいじゃないって思うんですけどね。

Q：周りの反応とかどうでした。なんか、そのことについて友達と喋ったり…

D：いや～特にはなかったんですね。あ、デモあったよね。うんっていう感じ。

Q：それについてこうして欲しいよねとか

D：うん、まあ、デモするまでではなかったんじゃない？の感じの話はちょろっとしました。

Q：そうなんですね。分かりました。それに引き続いて韓国の歴史問題に関するニュース、何か気になるニュースってありますか。

D：あ、歴史問題ですか。よくあがるのが慰安婦とか竹島とかですけど、そのニュースやってるとやっぱ手を止めて見ちゃいますね。

Q：集めたりとかしますか。

D：一時期すごい気になって集めたことがあります。どっちが正しいんだろうと思って、

Q：それは慰安婦問題？竹島問題？

D：あ、竹島ですね。

Q：そういう問題を集める、どっちが正しいんだろう～と、メディア報道を自分の中で知ってたかった、その問題の審議を知りたかった？

D：はい、なんか、やっぱり日本のメディアでは日本の方が正しい正しいって言うじゃないですか。本当は正しいかも知れないけど、どういうところ、どういう根拠で正しいって言うてるのか、やっぱよく分からないんで色々調べたんですけど、やっぱ色々言っている人がいて、結局分からなかったです（笑）

Q：そこで調べようと思ったきっかけは？

D: あの、李明博が上陸した時にやっぱりどうなんだろうと思って調べました。

Q: 李明博の動向を追おうと思った理由って何か。

D: あの、ちょうど朴槿恵さんになる前に、あの選挙あったじゃないですか。確かその選挙の前に李明博が上陸して自分の支持率をちょっとでも挙げようとしたんですよね。何でそういうことするんだろうと思って、そもそも竹島はどっちの領土なんだろうと思って。

Q: どんどん遡って、その進境を突き止めたかった？

D: はい。

Q: 韓国の政治について気になりだした頃っていつ頃か覚えてますか。

D: 本当に 2PM を好きになりだしてからやっぱりちょっと気になるようになりましたね。

Q: あ、そこからどんどんちゃんとした根拠みたいなを見たくなくてっていう？

D: はい。

Q: 分かりました。ちょっと難しいんですけど、領土問題についていうと、どんな風にしたら解決できるんじゃないかなみたいな希望じゃないですけど、対策、方法みたいな。

D: あまり私詳しいことは知らないですけど、安倍さんはちょっと今の政治見ているとちょっと右寄り過ぎかなと思うんで、もうちょっとあの中国や韓国にももうちょい気を配って、接してほしいなって、本当中国ともやっぱもめてるんで、そこもちゃんともっと議論する機会があればいいかって思います。

Q: 今国としての政策にちょっと不満が…

D: ちょっと最近は～

Q: 程度でいうと 5 段階評価するというとどのぐらい、5 が一番いいとして～

D: うん、2 ぐらい、あまり、はい。

Q: あまりにも安倍さんが右ばい所ですか。

D: 左より過ぎも良くないと思うんですけど、右ちょっとより過ぎかなって、なんか、中学校の時に、社会の先生が言ってたんですけど、安倍さんは戦争始めるぞ！って、その時は冗談だろうと思ってたんですけど、最近なんか、集団的自衛権とかそういうこと言い出して、本当にこれは戦争へ行っちゃうんじゃないか、と思い始めて、ちょっと不安ですね。本当かも知れない。あの先生が言ったのは本当かもと。

Q: 予言が

D: 怖いと思って。

Q: 慰安婦問題についてもさっき出てきたんですけど、まあ、知っているんだということでしたけど。

D: あ、知ってます。

Q: いつからなんだろう。気になるっているか。

D: いつから、うん、きっかけ、あまり覚えてないです。

Q: メディア報道がされてから、自分から、自分から見つけることは研究者じゃないから不可能だけど、

D: いつからかな、本当に思い出せないです。慰安婦は思い出せないですけど、でもずっと気にはしてた問題です。

Q: その問題についてどんなふうに思っていますか。

D: 確か慰安婦の象みたいなのが韓国の大使館に、日本の大使館の前でしたっけ。ちょっとデリケートなところなんですよ。象を立てるのはどうかな～と思うんですけど、ちょっとその部分ではえ～ちょっとそれはないんじゃないかなと思うんですけど、もうちょい慰

安婦についての日本からの説明ももうちょいしてあげるべきかなって思うんですね。

Q：韓国側がやったことに対してもちよっとそれやり過ぎなんじゃないかなってという思いもありつつ、日本はあまりにも説明が

D：ちょっと不足してるかなって思いますね。

Q：個人的に慰安婦問題があったという事実を知って抱いた思いとかありますか。被害にあった人たちに対してとか。

D：昔は慰安婦問題があるよって言われても、あ、そうなんだって感じだったんですけど、学部なんで、色々調べてるとなんか、日本とか日本人にも慰安婦みたいな人がやっぱいたと思うんです。それってなんか、日本人はやっぱ言わないだけ、韓国の人はずごいなんか、アピールしてるなっていうか、慰安婦が作った iPhone ケースとかグッズとかがあったりして、えーっと思って、そんなもんがあるんだと思って、そこって関係ないじゃんって思っちゃって、単にアピールしたいだけじゃないかなって最近ちょっと思います。

Q：それってどんな力が働いてるのかなって考えたことがあります？

D：やっぱり慰安婦、日本、やっぱ韓国は日本のこと気にするんじゃないですか。反日。日本人はやっぱ反韓してる人多いじゃないですか。ううん。あ、なんか、上手く説明できないですけど。やっぱ、反日感情抱いていることで、国民からの好感がちょっと上がるというか、たぶんそれが働いてて、慰安婦のグッズがポンって出たら反日の人たちが慰安婦の人可哀想と言ってばって買ったりするのかなと思います。ごめんなさい。ちょっと説明がめちゃくちゃなんですけど。

Q：じゃ、ご自分の考えとしてはそれはアピールし過ぎかなって。

D：やっぱり芸能人で言ったらちょっと言い過ぎかなと思うんですけど、ちょっとアピールし過ぎかなって。

Q：控えた方がいいと…

D：もう少しなんか、私は慰安婦でももう少し賠償してもらいたいというのはいいんですけど、グッズ？グッズは関係ないんじゃないかなって思います。

Q：ありがとうございます。それを政府のレベルでみた時に、日本政府は慰安婦問題の責任を認めて謝罪すべきだと思いますか。それとも必要ないんじゃないかなと思いますか？

D：やっぱりするべきだと思うんですけど、反韓の人たち、フジテレビのデモの人たちが日本政府は怖いんじゃないかなって思います。

Q：するべきだとは思うけど、政府としてはその行為によって日本国民がどうかなるんじゃないかなって。

D：ちょっと懸念してるんだと思います。やっぱそこデリケートな問題なんで。

Q：どうですか。その懸念も含めて、それでもやったべきかと思うのか、いや政府仕方ないやらなくてもいいかなって思うか、どっちですか。

D：謝罪はしてほしいというか、もうちょい説明はしてほしいですけど、確かに機会がちょっとないかなって、もうちょい両国が歩み寄らないというそういう機会はなかなか訪れないんじゃないかなって思います。

Q：どっちから行くべきかというか、両国がなんですけど…

D：どっちもですよ。どっちもどっちだって最近は。

Q：意見としてはもっと真実があるならその部分を説明すべきだという。

D：もうちょっとなら日本国民にも説明できるように、韓国政府にも日本人全体にもば一って説明するべきだと思います。

Q：謝罪の前に説明すべきだと

D：説明は大事だと思います。どういことがあって、きっかけからなにやらまで。

Q：今後の展望として日韓関係について必要なことって、今おっしゃってくれたように…

D：もうちょい、日本は自民党なんで、ちょっとやっぱ右寄りの部分もあるんですけど、もうちょいもうちょい左の方にも向けてあげて欲しいかなって思うのと、韓国はやっぱ反日がステイタスみたいな感じが自分の中ではそんなイメージがあるので、もう少しその概念を追う払って、会談をやってもらいたいなと。本当に前会談したの何年ぶりとか何年ぶりの会談になりますとかいうのだと、え～それはちょっと、隣の国なのに何年ぶりって可笑しいんじゃないかなって思うんで、本当に頻繁に話し合っ欲しいですね。

Q：歩み寄りが必要だということですね。

D：あ、そうですね。歩み寄りをもうちょい、お互いに歩み寄りが必要だと思いますね。

Q：で、その歩み寄りのためにはやっぱり情報公開しようと、もう少し。

D：あ、もうちょい、どっちも情報を出すべきだと思う。韓国、竹島についても韓国が主張することもうちょい詳しく説明して、日本も竹島自分の領土だと言うならもうちょいなぜかを説明するべきだと思います。

Q：ありがとうございます。最後、今の日本の情勢について、国際的・経済的な地位じゃないですけど、そういう情勢について何か感じるこことあります。

D：経済的な情勢、日本国内のです。

Q：日本のですね。どちらでもいいですよ。国内のでもいいですし、

D：例えば？

Q：例えば、国内外での、経済的状況とこいうグローバルでの体制とか、日本の家電、今弱いんじゃないかと、何でもいいですよ。

D：どうかな、最近ちょっとやっぱアメリカの犬になっちゃってるかなってすごい本当に思うんですよ。なんか。アメリカがそうすると言ったらじゃ、日本のそうするし、アメリカがやめたと言ったらじゃ、日本もいやですみたいな、ロシアはなんか、これすると言ったら日本はじゃやらないみたいな、感じで日本はなんか、アメリカの犬みたいになっちゃってる感じがして、アメリカと日本 VS 中国とロシアみたいな感じでパカって割れて、なんか、冷戦じゃないですけど、何か冷戦みたいな感じでパカって割れちゃってるんで、ううん～って、もうちょい日本は中立的な立場じゃないかなって思います。

Q：そうですね。アメリカ。どうですか。アメリカをばっくり付けてるのはそろそろもうちゃんと自立した方がいいんじゃないかなみたいな～

D：最近あの、飛行場の問題もあるんじゃないですか。なんか、沖縄の知事は建設反対反対と言っていることに対して日本の政府はいや、建設するぞ！みたいな感じで勝手に押し進めようとしてるんじゃないですか。やっぱアメリカが怖いからかなって思います。

Q：個人的にはそれは仕方がないと思います。アメリカの力っていうのは強いから日本はやっぱ。

D：戦争で負けちゃって、それからしばらくアメリカの支配下にあったんで、やっぱアメリカのことに従うのはしょうがないかなって思うんですけど、ちょっとあまりにもあの、アメリカに従いますって感じが強すぎるんじゃないかなって思います。

Q：それについて満足してますか。可笑的かな～とか。

D：いや、でも沖縄の知事がこの前アメリカまで行って、アメリカのお偉いさんとなんか、会談してたことはすごいいいな～と思うんですけど、その時に沖縄の知事じゃなくて日本

の政府が動くべきだったんじゃないかなって、本当は思いますね。

Q：そこで動かなかった日本政府に対してちょっと不満じゃないですけど、

D：日本の政府が動かなかったから、わざわざアメリカまで行ったんであって、日本の政府がもうちょい、柔軟かい考えが出来たらよかったんじゃないかな～なんて思います。

Q：次は、日本を誇りに思ってますか。

D：でも日本は自分が住んでいる国なんでやっぱり好きです。

Q：どんなところが好きですか。

D：やっぱ文化の面で、あの何て言うんだろ。おもてなし？話題になっているんですけど、最近中国に行ったんですけど、中国と比べるとやっぱおもてなしの心がすごいあるなって思って、普通のチェーン店のバイトでも笑顔でいらっしやいませって言ったりするのは偉いな～と思います。

Q：そういう日本に生まれて良かったとか日本好きだなという気持ちを持ってして、将来的にこういうところで自分は日本に貢献したいなという気持ちを抱いたりしますか。

D：昔はそういう反日デモとかもあったんで、韓国にも日本にもためになることしたいなと思ったんですけど、今はあまりそういうこと思わないです。

Q：なんで変わったとかありますか。

D：ちょっとやっぱり、今中国語にシフトチェンジしたこともあるんですけど、あの、その日本にも韓国にも具体的にためになることって何だろう～と思って、それは一体何をすればいいか、何から始めればと思ったんですけど、結局分からなくなって、まあいいかな～ってなって、今アイドルを追っかけてキャーキャー言っていればいいかなって思いました（笑）

Q：じゃ、もしかすればその考えは何か見つけることによって変わるかもしれない感じですか。

D：今大学2年生なんで、将来の事考えると、まあ機会があればそういうことはしてみたいかなと。あの、韓国に限らず、日中韓のことにに関して何かやりたいなと思うんですけど、うん、たぶんおそらくあまりやってこないと思います。

Q：分かりました。ちょっと就活とかを見て行くとちょっと不安とありますか。

D：例えばどういう会社に入ろうとか具体的な夢が私ないんで、どういう会社に入ろうかなって漠然とした外資系がいいかな、漠然とした感じのはあるんですけど、具体的なのはまだ何にもないんです。

Q：さっき、その日中間ってところの続きなんですけど、東アジアの関係性というのが複雑ですけど、この3国じゃなくてもアジアにおける日本の役割はこうあるべきだとか、そういう意見ってありますか。

D：東アジアの中で自分が思うのは日本が一番先進国というか、一番発展してて、その次に韓国、その次にたぶん中国だと自分は思っているんで、東アジアの中でリーダーシップを取って欲しいかなって思うんですけど、うん、でも、なかなか韓国はまあ、うん、親は韓国は他の国にいちやもん付け過ぎと言うんですけど、それも大変かなと思うし、中国も共産党なんでわがままそうだなって、やっぱりなかなかあの、調和を取るののは難しいかなと思うんですけど、日本が一番国的には豊かで、国際的にもたぶん一番日本が認められてるのかな～と思うんで、日本が頑張ってリーダーシップを取って行くべきなんかなと思うんです。だからちょっと右側なのは控えて、もうちょい周りのことを見て欲しいな～と思います。

Q：そういうことについて、興味で聞いているんですけど、お友達と喋ったりします？日本はこうあるべきだなとか。

D：いや、しないんですけど、やっぱ、親は気にしますね。親が気にするのを聞いて、自分もこういう考えを抱いたりします。親がよくニュースを見るんで、その繋がりでも自分もニュース見て色々考えます。

Q：その親御さん世代が持つ意見と自分が持っている意見にギャップがあるというところありますか。

D：昔本当になんか、韓国が本当に全部好きっていう感じだったんで、親が韓国はまた他の国にいちやもんつけてて言ってる時に、別にいいじゃん！という感情を持ってたんですけど、今はそれを聞いてまあ、確かにって思う（笑）ちょっとなんか、まあ、確かにと思います。

Q：そこはもう学んできたことによる変化みたいな

D：そんな感じですね。

Q：感情的にはあれ、否定したいんだけどみたいな…

D：そうなんです。本当は否定したいんだけど、まあ確かに言ってる事は正しいかなって、はい。

Q：分かりました。ありがとうございます。

「追加質問」

Q：ずっと、2PM のファンで長いと思うんですけど、今ファン歴は、5 年目ですよね？

D：はい。

Q：5 年も立つと結構飽きたりすることもあると思うんですけど、

D：あまり、曲調が日本にない曲調が多いんで、まあ、どのアーティストの聴いても飽きない。後、アイドルが好きなんで、普通に。日本のアイドルあまりいないじゃないですか。主流のだとジャニーズとか AKB とか。でも韓国だと色んな事務所が色んなアーティスト出しているんで、例えば、今、2PM 飽きちゃったな～と思っても、他のアーティスト見て、ちょっと検察してみよう～って、色々楽しめる。なんか、種類が色々ある。可愛い系とか、やんちゃ系とか、男らしい系とか、セクシー系とか、そういう色々あって、バリエーションが色々あると思います。

Q：そうですね。

D：なんか、日本のアイドルは私の勝手なイメージでは、男の人だったら、王子様だっていう感じで、女の子だったらキャピキャピ可愛い、一種類、女も男も一種類っていう感じです。韓国は男の人でも、可愛い系で売ってます、セクシー系で売ってます、男らしい系で売ってます、女の人でもセクシー系、清純派系とか、色々あって、飽きないです。

Q：ちなみにご自身はどうですか？

D：私は 2PM が好きなんですけども、普通にヒップホップが好きなんで、アーティスト、普通に、Epik High って知ってますか。ダイナミック・デュオとか、そっちの系も聴いたりしてます。

Q：結構マニアックな（笑）

D：自分でもそう思います（笑）

Q：よく芸能人は夢の…雲の上の存在というじゃないですか。K-Pop アイドルは、どうです

か。外国人だし、距離とかもっとあるような感じはしないですか。

D：確かに、まあ、そうなんですけど、コンサートとか行くと、身近に感じたり、そんなに雲の上の存在という感じじゃなくて、割と身近な感じです。

Q：分かりました。なんか、K-Pop が好きな標識となる名札？みたいなもの、付けたりしますか。

D：昔は付けてたんですけど、今は付けてないです。ちょっと恥ずかしい（笑）

Q：あ～

D：テギョンなんで、ハングルでしかできなくて、もう、2PM でも、最近、日本でも有名なんで、もう、あからさまに韓流だというのは、分かっちゃうんですよ～2PM の中でもテギョンの名札はできないんで、困ってます（笑）

Q：さっきの、ちょっと恥ずかしいと思うのは、なぜですか。

D：一時期 KARA とか少女時代とか出てきたときに、ブームだと言われて、で、今、一応去ったみたいな感じで言われてて、で、なんか、でもやっぱり周り見ると相変わらず好きな人もいるし、最近ハマったという人もいるから、ブームという形でまとめちゃうのはどうかな～というのと、やっぱり歴史認識とかもあるので、私が K-Pop が好きって言うと、あまりいいイメージを持たれない？感じがします。

Q：それについてですけど、他の人にファンであること言ったりしますか。

D：言いやすい環境になったら言うんですけど、なんか、別に言ってという環境になかったら言わないです。

Q：そういう環境というのは、ファンとしてやりにくいと思うんですけど、気になったりしないですか。

D：もう慣れました（笑）

Q：（笑）

D：なんか、もう私が逆に、EXILE が好きとか、flumpool が好きとか言われたら、え～？（笑）逆にですね。ちょっと、えっ？てなります。あまり、こう脱ぐようなアイドル好きな子、いないと思うんですね。

Q：EXILE も脱いだりするじゃないですか。

D：確かに EXILE も脱ぎますけど、EXILE って結構色んな子が好きじゃないですか。でも 2PM が好きな子って、日本ではおばさんとかは好きな人多いんですけど、私ぐらいの年齢で好きな人はいないイメージなんで、ちょっと違うっていう感じです。

Q：分かりました。ありがとうございました。

【対象者E】

Q：インタビュー始めます。宜しくお願いします。

E：宜しくお願いします。

Q：さっき、アンケートで答えて頂いたんですけど、韓流、韓国の大衆文化に、始めて触れたのは？その他には何かドラマとか見たりはせず、東方神起からですか。

E：はい。

Q：どれを見たのか覚えてます？

E：Share The World(曲名) ぐらいからだったと思うんですけど。

Q: はいはいはい。始めて見たのはテレビを通してですか。
E: はい。テレビ。
Q: 日本のテレビ見てて、偶然出てきた時にですか。
E: はい。
Q: なんだっけ、『ミュージックバンク』じゃなくて、『ミュージックステーション』的な？
E: はい。
Q: それを見て、その他に触れるものってありますか。東方神起の他に？
E: 他とは…
Q: たとえば、ドラマ見たりとか。
E: ドrama見始めたのは結構最近、最近4、5年ぐらい前？
Q: その時はもう、東方神起はずっと最初からもうずっと2008年から東方神起にはまっていたという感じですか。
E: はい。ドラマは好きな俳優さんとか関係なく見てました。
Q: なにを基準で選ぶとかありますか。
E: 結構友達のおすすめとか、あのなんか、日本で夕方に韓国ドラマやってた時期あるじゃないですか。普通に知らなくても見てました。
Q: 見てる時に、日本のドラマとここが違うかなとか思うことってありましたか。
E: なんか、終わり方が、物足りないというか、日本も話によっては、なんか、ここで終わるんだ～みたいなところあると思うんですけど、結構そういうのあるのかなと思います。
Q: ここで終わる、一話完結感があまりないということ、それとも一話完結して。
E: 完結しちゃってここで終わるんだと思って、続きが見たくなるじゃないですか。で、なんか、日本はスペシャルとかで振り替えたりするじゃないですか。韓国ってあまり戻ってみたりとかしないんですよ。
Q: ないね、全てのドラマの終わりということですか？
E: そうです。そうです。
Q: 最終回が物足りないですか。
E: そうです。
Q: 最初に接したのが東方神起で、最近、なんか、これ見ているよ～というのありますか。
E: 最近、あのこの前のライブ・ビューイングで、たぶんダメだと思うんですけど、録画したやつがYouTubeにのってるんで、それを見てます。
Q: それを、やっぱり東方神起（笑）
E: あ、でもEXOのネクストドア？いいって聴いて最近見ようかなと思っているところです。
Q: これから？あ、現在そういうK-Popとかに触れる頻度とか時間というのは、1週間に20時間！一日の割当じゃないですけど、どんな感じですか。
E: 平日だと通学時間で2時間ぐらいで、結構昼休みに韓国好きで集まったりしたらもう見て、あ～格好いいってなったりしますし、土日とかだとバイトの休憩時間にちょっと元気もらおうみたいな感じで聞きます。
Q: もう常にですね（笑）
E: はい（笑）
Q: 分かりました。そういう視聴環境というか、韓国の文化に触れるものとして、家にテレビ回線引いてるとか、ないですか。M-netのチャンネルとか。

E：それはないですね。

Q：YouTube のチャンネル登録してますか。

E：チャンネル登録？たぶんしてないですね。

Q：毎回なんか探して

E：なんか、アプリで保存できるやつで保存しておいて、すぐ見れるようにして見てます。

Q：東方神起の何が好きでずっと離れられないという楽しんでいますか。

E：一番最初に思ったのがまず歌がうまくてライブでもちゃんと歌ってくれるんですよ。普通に、なんか、日本のアイドルってロパクとかじゃないですか。みんなそうなのかなと思ってたら、東方神起は違って、あんだけ動いて、そんだけ歌えるのがすごいな～と思って。

Q：今まででコンサートとか行ったことがありますか。

E：はい。

Q：どこですか。日本でですか。

E：はい。日本で。でも親戚しいんで、あまり遠く行ったりとかダメで、あまり岐阜県から出てなくて、全然岐阜でやってないんじゃないですか。だから行き始めたのが 4 年？3、4 年ぐらい前ですね。

Q：名古屋でやっているやつとかですか。

E：はい。そうです。

Q：そうなんだ。ファンミーティングみたいなのに参加するとかはあまりない。

E：や、でも行った事あります。友達がチケット取ってくれて、私ファンクラブは行ってないんですよ。チケット取ってくれて行きました。

Q：どうでした。なんか自慢したいエピソードとかあれば、コンサートの時とかでもいいです。何でも。

E：あ～コンサートとかでも良かったんですけど、USJ でホログラムやってんじゃないですか。あれで、ホログラム見た時になんか、ユノが、あの、メンバー全員出てきて最初に自分の写真登録するんですよ。で、その写真どこで使うのかなと思って、とりあえず、ホログラムが終わって、なんか、MC の時に上に何人かの写真が出るんですよ。選ばれた人みたいな感じで、出て、私の写真がここに出て、9 人ぐらいなんですけど、え～？出た！と思って、ほんで、そうしたらユノが映像なんですけど、指さして、この人は僕のファンだよね、って言うてくれたのが私で、はっ？すごい！分かってる～となって、(笑) 映像なんですけど (笑) すごい嬉しくて (笑)

Q：あ、そう？それ何人ぐらいの規模で選ばれましたか？

E：結構客席は埋まってて、100 人ぐらいの規模で入ったんですけど、10 人ぐらいしか選ばれてなくて…

Q：楽しかったですか？

E：はい。めっちゃ嬉しかったです。それは。

Q：そうかそうか、それ、どこで？

E：「ユニバーサルスタジオジャパン」で、期間限定で SM タウンホログラムってのがあって。

Q：東方神起のどこが好きって言われたら、一言で言ったらどこですか？

E：仲の良さ、

Q：あ、関係性？5 人の時も 2 人の時もですか？

E：はい。なんか違う、別々の仕事やっても同じ家に帰って来るじゃないですか。ユノとチ

ヤンミンって、まず一緒に住んでいることがすごい仲いいな～と思うし、喧嘩とかしたとしても一緒にいるからこそ、作りあげれるものがあるのかな～と思ったらほっこりして。

Q：あ、そういうところで、家族ばいというか。

E：暖かいな～と思って。

Q：じゃ、外見的にはどうですか。東方神起のここが好きみたいなのところありますか。

E：外見的ですか。外見的？衣装がめっちゃ似合ってる。

Q：あ、スタイルいいかな～みたいな。

E：そう、スタイルがめっちゃ良くて（笑）

Q：なんかコンサート行った時に、ここに注意して見るとかありますか。

E：コンサートの時は、なんか、歌っている時はすごい真剣なんですけど、MC とかでこっちに投げかけてくれる言葉とかちゃんと聴いてます。なんか、方言で言ってくれたりするんですよ。ちゃんと聴いてます。

Q：そういうところで好きになって行く…なんで、東方神起のそういう、まあ、方言で話してくれたりとか、格好いい、スタイルいい、歌唱力あるとかそういうところに日本のアイドルではなくて東方神起を追い続ける理由というか、比較してこれが日本に欠けてるところありますか。

E：エンターテインメント性？なんか、すごい世界観があっていいと思うんですけど、結構好きなタイプ分かれるんじゃないですか。ファンを選ぶというか、でも東方神起ってなんか、幅広くて、小さい子も好きだし、おじさん、お婆さんとか、最近男の人とかもすごく多くて、全部に対応して行ける MC 力だったり、曲とかもバラードも良くて、色んな人が見ても格好いいと言えることを全部持っている気がします。

Q：なんでも、あ～アイドルの完全体みたいなのところがそこにあるんじゃないかみたいな

E：はい。

Q：さっき、ジャニーズに一回行きかけたみたいなのとおっしゃったんですけど、そこでジャニーズには行かなかった理由ってというのは何だと思えますか。

E：ちょっとあの、ファンが怖くて、あの、Twitter とかインターネット見てて、結構本気で好きって言うファンいるじゃないですか。ちょっとでもあまり格好よくないと言った人に対してすごい言ったりする人いたりするじゃないですか。そういうの見て、あ、ちょっと怖いなと思っちゃって。

Q：じゃ、別にアイドルに欠けてるものというよりはファンの関係性がちょっと怖くて行きたくないなってその世界には、東方神起のファンってどうですか。

E：すごい優しいです。

Q：そういうエピソードありますか。

E：あの、ライブのチケットが取りづらくて、結構、友達もとれなくて、自分もとれなくて、本当にないっていう時があって、結構ギリギリになってどうしても行きたくて Twitter で探して譲ってもらったんですよ。で、その当日に会って、お金渡してチケットもらってて、席着いて、なんか、その人隣だったんですけど、普通に自分で作ってきたグッズをどうぞ！ってくれたり、あの、今回のツアーでは結構こういうことがあるからみたいな、踊る曲多いからかけ声とかこういうことやってね！みたいな、色々教えてくれたり、後、一回違う友達といつもと違う友達で行った時に、荷物がすごく多くて、席に置き切れなくて、邪魔だなとなった時に、隣のお婆さんとかがこっち置きなよ！って言ってその荷物を持ってて通路側に置いてくれたり、すごい周りを気遣ってくれるんですよ。

Q: アットホームな感じがある…
E: はい。
Q: そこが良いなと？
E: はい。ファンがとても優しいんだな～と思いました。
Q: どうですか、そういうファンの在り方というのって東方神起好きになる前までは考えた事がなかった？
E: はい、全然。
Q: 分かりました、韓流を楽しんでいること、東方神起が好きな事で自分の生活が変わったと思いますか。
E: 変わったと思います。
Q: それはどういう点ですか。
E: なんか、そんなに音楽とか聞かなくて、CDとかも買わなくて、全然そういうメディアに触れてなかったんですけど、好きになってからは知りたくてしょうがなくて、本屋さんに行ったら立ち読みして読んだり、新聞のテレビ欄、東方神起出るところを探したり、友達に聞いたり、音楽が好きになりました。
Q: そういうところで興味関心が強くなった？
E: 韓国の料理とかも食べてみたいと思って、すごく興味が湧きました。
Q: 友達付き合いとかはどうですか。
E: 気付けば韓国好きが多くなりました。
Q: そうなんですね。趣味とかどうですか。東方神起以外に何かありますか。
E: 東方神起以外は、サークル、アカペラなんですけど、歌うことが好きで。
Q: それ、東方神起好きになったことで音楽が好きになってきて、アカペラ？
E: そう～
Q:すごい、それは。後は、韓国、第2外国語とか取るんですか。
E: えーと。第2外国語があって、中国語取ってて、韓国語本当はやりたかったんですけど、高校の時に韓国語がなくて、中国語しかなくて、取りあえず語学色々やりたいな～と思って中国語とって、で、大学入って選べたんですけど、なんか、中国語を延ばしたいなと思っちゃって、こっちは K-Pop とか聴いて独学でやって行けるんじゃないかな～と思ったんで、独学で、はい。
Q:すごいですね。高校でもうすでに第2外国語が中国語、やられて今もその独学で Language Lounge みたいところに積極的に参加するようになったというのはやっぱ東方神起が言っていることがちゃんと聞き取りたいからですか。
E: そうですね。
Q: あ、ですよね。なんか、視野が広がったとかありますか。物事考える時に、東方神起知った事で、韓国の文化に触れたことでもっと広がったのか、それとも別にそんなに変わることはないか、
E: なんか、お店とかに、買い物に行った時に、韓国の、こういうのだったら東方神起着てそうとか思ったら買っちゃったり、こういうの持ってそうと思ったら欲しくなったりします。
Q: 買い物にも結構影響されちゃうんですね（笑）韓国にも行ったことが、旅行とかで。
E: 行きたいですけど、行けてなくて。
Q: 一回もですか？

E: はい。

Q: 悲しい、それは…

E: 今行きたいと思って、夏休みとか調べようと思ったんですよ。マーズが、親に止められて、もうちょっと確認知ろうって言われて。

Q: あ、今お金を貯めて、

E: そうです。

Q: じゃ、韓国とか韓国人に対するイメージ？今どんなイメージがあるとかってありますか。韓国人ってこんな人かなとか、韓国ってこんな国かなとか。

E: なんか普通にいい人たちが、結構日本好きっていう人いるじゃないですか。留学生とかも韓国人結構いるんで、結構日本のこと好きなのかって思ったり、あとは、ライブとかで撮影しちゃったり、空港で押し掛けちゃったりする人？一部ですけど、あまり守ったりしないのはちょっとな～と思ったりします。

Q: ちょっと押しが強いんじゃないかなという、そこら辺みたいな～

E: 考えてあげて欲しいな～と思います。

Q: そういうイメージって東方神起好きになる前も持ってました？

E: ないです。

Q: 全く別に意識じゃないけど、普通に外国として隣にある国みたいな…

E: はい。

Q: 別に考えることはないですか。

E: ないですね。

Q: 東方神起好きになってから、韓国好きになりました？

E: はい。

Q: どういったところがいいと思うようになりました？

E: まず近いし、隣だということだけで親近感が湧いて、あの、韓国語と日本語ちょっと似たところがあるじゃないですか。だから覚えやすいかなっていうのもあったし、あの、食べ物、辛いのが苦手なんですけど、キムチとか焼いたら食べれるんですよ。でもなんか、おいしい食べ物、サンビョプサルとか美味しい食べ物いっぱいあるから、そこも好きです。

Q: 食にも魅力があって～

E: 食にも、はい。

Q: そういうなにか、好きになったことで、東方神起以外で韓国のこういうところ知りたくなったとかありますか。

E: もし旅行行ったときはどこが有名なのかとか、今流行っているファッションとか、何だろう、そういうの。

Q: 東方神起以外にこういうサイトよく見るとかってありますか。

E: なんか友達から、いつも教えてもらう、なんか韓国のファッションサイトみたいな、安く売ってるところなくて、それで友達が一緒に注文してくれたりとか。

Q: そうなんだ。友達同士で買って、そうか、じゃ、そういうファッションみたいなのところに興味がある？

E: はい。

Q: 分かりました。ちょっと今から少し難しくなると思うんですけど、

E: はい。

Q: 日本のメディアで韓流とか韓国について報道しているのって見たことありますか。ネッ

ト上？周囲の人でもいいですし、家族、友達でもいいけど、韓流や韓国に対する認識ってどんなふうにされてると思いますか。じゃ、自分が東方神起好きだということを、周りの友達とか、あまり関わったことない人に言ったとしましょう。それに対して今までどんな反応を受けてきましたか？

E：結構色々あるんですけど、同じく韓国好きな子だったら、あ〜分かる、格好いいよ〜って言われることもありますし、あまり聞かない子には、名前は知ってる。とか、曲は知ってるよ〜けど分かんない、みたいな反応ですね。うちのお父さんとかだと、どこが格好いいか分からん！みたいな（笑）

Q：ちょっと嫌がられますか。東方神起追ってるって…

E：でも、全然、そんな。

Q：何が格好いいか分からん、みたいな感じ？

E：そうです。でも、たぶん私が家でも結構流してるんで、最近分かって来てると思います。嫌でも分かって来てる（笑）テレビで今日東方神起出るとかなったらお父さんたまに教えてくれるんですよ。今日出るぞ！って（笑）結構そこまで、最初の方は全然何が理由で追っかけとるか分からん！みたいな感じで言われてたんですけど…

Q：最近はまだ慣れてくれてると（笑）そうなんですね。名前は知ってるという反応よりもちょっと酷いというか、嫌がられるんじゃないですけど、面倒くさそうな目で見られるとかありますか。

E：そんなに韓国を知らないとか、韓国の音楽とか興味ないと子だったらなんか、何で？というのがあります。そんなに酷いこと言われたことはない。

Q：なにか感じることであるじゃないですか。この子には話せないかな〜みたいな人っていました？

E：いますね。

Q：どんな時にそう思いました？

E：日本の、結構ジャニーズとか追ってる子にはあまり言えないかなと思います。

Q：女の子？

E：女の子ですね。なんか、言いづらい。

Q：じゃ、男の子よりもそういう他のアイドル、日本のアイドルを追ってる女の子の方が言いづらいですか？

E：はい。

Q：なんか怖いじゃないですけど、こっちの方が格好いいとか主張するとか。

E：そう、なんか、されそうで…

Q：実際あったことありますか。知らずに言っちゃって嫌な空気流れたんじゃないですけど。

E：いや、ないですね。

Q：今まで一番、あ、言わなきゃ良かったという経験ありますか。あ、話題変えなきゃみたいな…

E：あ！なんか、こっちが熱く語りすぎちゃって、あ〜あ〜ってもう聞く耳持ってくれない感じになっちゃって（笑）

Q：それ結構仲いい友達ですか？

E：仲いい友達でも結構あります（笑）熱くなりすぎちゃって（笑）

Q：あ〜そうなんですね。どうですか。周りに韓国好きな子って女の子が多いですか。男の子が多いですか。

E：女の子が多いですね。

Q：どういう時に感じます？自分の周りに女の子多いからとか、コンサート会場行ったら女の子多いからとか。

E：ライブでも女の子の人多いですし、結構日本で人気があるのって結構男の人じゃないですか。やっぱ女の子の人が押じゃないですか。だって、大学で最初の LINE のグループで SM ファミリー好きの LINE が出来てたらしくて、それに招待してもらって入ったとき全員女の子で、集まった時も全員女の子で、やっぱ韓国アイドルが好きなのは女の子なんだなと思いました。

Q：今もそれってありますか。

E：はい。あります。

Q：まだ男の子は入ってない？

E：入ってないですね。でも普通に高校の時とか、あの、いました。男の子で、韓国好きな子、結構 BIGBANG とかが多い（笑）

Q：どうですか。そういう韓国好きの男の子見つけた時はどういう、例えば男の子のアイドルを追ってる男の子に会ったときどうですか。

E：たぶんすごく喋ったり（笑）

Q：じゃ、KARA とか少女時代、今なら AOA とか知っている男の子に会ったら、その感覚ってちょっと違いますか。

E：いや、普通に話したいです。とりあえず、韓国が好きって言うだけでなんか、分かち合えるものがあるんじゃないかなと思うので、話したいです。

Q：そこにはやっぱ女の子のアイドル追ってるからとか、男のアイドル追ってるからとかの違いはないですか？

E：はい。

Q：分かりました。じゃ、何だろう。韓国についての報道？何か見ました？

E：最近？最近はマーズです。

Q：早くおさまって欲しいなと

E：はい。早くおさまって欲しいです。本当に。

Q：ネット上ではどうですか。東方神起の情報追ってる時に、何か嫌韓とか反韓じゃないですけど、韓国について嫌なことを言ってるところに辿り着くことってありますか。

E：あります。なんか、2ch、すごい皆言ってるのあるじゃないですか。普通に調べてて、取りあえず上から見るんですけど、結構後ろの方のページまで行くとあまり関係なくなってくるじゃないですか。そういうところでそういう掲示板とか見つけますね。

Q：どういうこと書いてありますか。

E：なんか、普通に格好よくない、どうせ整形しているとか、整形してるとか、言われるとすごい嫌じゃないですか、そんなことない人もいるじゃないですか。

Q：そういうの見た時ってどういう気持ちというか、そんな訳ないという気持ちの他にどんな気持ちを。

E：その掲示板消してやりたいぐらい。

Q：逆に、日本に対する反日に辿り着くことってありますか。

E：ないです。

Q：ない、日本人が韓国に対する、いわゆるネット右翼みたいな書き込みは見ると、その時には何だ、この人みたいな…

E: はい。良さを分かってないじゃん〜みたいな…

Q: もう全部反対したいっていう感じですか。周りにネット上じゃなくて、知り合いとかのなかでそういう感情持っているみたいな人っていました？

E: そんなにいないですね。外国語大学なんで結構海外好きな人が多くて、そんなに海外を批判している人はいないですね。

Q: じゃ、ニュースの質問が続くんですけど、嫌韓とかフジテレビデモって知ってますか。

E: フジテレビデモ？

Q: うん、何年前でしたっけ、3年？2011年、なんですけど、宮崎あおいの旦那さんがTwitterでつぶやいたりとか、それじゃないんですけど、フジテレビで韓国のドラマ？朝とか昼に韓国ドラマが異常に多かった印象を受ける日本人がいて、

E: あ〜すごいフジテレビの前で集まってやってたんですよね。

Q: そのニュース見てどうでした？

E: 別にそんなデモとかする必要はないかなと思います。

Q: なんで必要ないかなと思いますか。

E: 別に、じゃ、見なきゃいいじゃん！と思って、違う番組見てみればいいじゃないかな〜って、見たい人もいるわけだし、そんないっぱいやってたら、じゃ、違う番組見れば？って思いますね。

Q: 別にまあ、あの時期に韓国のドラマ？番組が多く流れていた印象はありますか。

E: はい。

Q: それに関してはどんな感じでした？

E: すごい嬉しい（笑）

Q: じゃ、嫌韓とかってどうですか。最近の新大久保でのデモとかネット上でそれこそ2chの書き込みとか、それに関してはどんな印象を持ちますか。

E: あんまり関わりたくない…

Q: でも、まあ、言うことに関しては言わしてOKって感じですか。もしも、自分の短な人が嫌韓だということが分かったらどういう反応をすると思いますか。

E: え〜なんか、あまり関わりたくない。え〜なんか、あまり自分が韓国好きというのを出さずに関わる、関わらなければいけない人だったら関わるし、あまり関わらなくていいなら、関わりはしないように避けます。

Q: じゃ、デモする人にも同じっていうことですかね。自分が好きだというのをばれないようにして、彼・彼女らには、もうそういうふうには報道させておけという…

E: うんうん。

Q: 分かりました。じゃ、韓国との歴史問題に関するニュースについてはさっき言った領土問題？その他になにか知ってる事ってありますか。

E: 歴史ですか。そんなにすぐ思いつかないです。

Q: その歴史問題が気になるようになったというのは、ニュースで気になったからですか。それとも東方神起の情報を追ってる時にそういうなんか、偶然辿り着いたとか、

E: テレビとかで出たりして、ただ単に興味本位で韓国としてはどうなんだろうと思って調べてたんだと思います。

Q: 領土問題に印象に残ってたとかってありますか。こういう意見持ってたとか。

E: 結局、あれ、どうなってるんですか。良く分かんない状態で、なんかニュースも今出なくなってる、結局どうなったんだろうって、でも、和解はして欲しかったんです、その時期。

和解できないのかなと思ってました。

Q：東方神起のファンで、韓国人のファンと友達になったことってありますか。

E：ない。

Q：日本人のファン同士でそういう韓国の歴史問題について喋ることってありますか。

E：ちょっとだけあったと思います。確かに竹島の話だったんですけど、なんか、もめてるから日本でもメディアの露出が減っちゃって、竹島問題とかがなかったらもっと東方神起テレビ出れるのにね～みたいな、会話はしたと思います。

Q：それを好きじゃない人とかも対話の話として同じように出て来ることってありますか。

E：あります。

Q：それはどういう文脈でというか、

E：普通に一緒にテレビ見てたりとかする時に、韓国のニュースとか流れるとそういう話になります。

Q：解決して欲しいね～みたいな。

E：はい。

Q：あの時期に、あ、今のその会話って女の子の友達ですか？

E：はい。女の子の友達。

Q：男の友達とそういう話をよくするような、歴史好きみたいな人はいないですか。

E：いないですね（笑）

Q：そうかそうか、分かりました。じゃ、どんなふうに解決してらいいかなと思いますか。

E：なんか、どちらかが折れるとかじゃなくて、どっちにも有利というか、どっちにもメリットがある感じで和解して欲しいなと思います。

Q：分かりました。さっき読んでもらった慰安婦問題について何ですけど、本当に今知ったって感じですか。

E：はい。

Q：全然テレビでも見た事ないですか。

E：なかったです。

Q：あ～OK です。

なんかアイドルの Inffinit のホヤだったっけ、だれかが慰安婦たちが作ったブレスレットとかやった、あれ、クリスチャンのヨセブ、あ、BEAST のヨセブだ。が付けてて一瞬話題にのぼったことがあるけど、それも全然？

E：はい。

Q：あ、そうかそうか、じゃ、資料を読んでみてどういう風に思いましたか？

E：あ、もうこういうことがあったということで取りあえずもうびっくりで、ちょっと信じ難い感じです。

Q：個人的に今読んだ内容だけから把握してもらってもいいんですけど、被害に会った人たちと、慰安婦たちと、そこにいた人たちに対してどういう思いを抱くとか、そういうことをした日本政府に対してこう思うとか感想じゃないですけど、そういうのがあったら教えてもらいたいんですけど。

E：それって、あの～自分の意志でやった訳じゃないですよ。日本政府から言われて言われるがままに行ってということですよ。

Q：もし、色んな見解があるから一概にこうだとか言えなくて、もし強制されて無理矢理連れて行かれて、そういうことさせられてたとした場合、そういうことを戦争中でやったと

したら日本の政府に対してどんな風に思いますか。

E：何でそういう制度を考えたのかが知りたい。

Q：じゃ、もし強制じゃなかったとしたら、それは一つのある意味で職業として？彼女達がそれを行っていたとしたら印象は変わりますか。

E：変わります。強制じゃないからそういう人たちもいるんだともう割り切ります。

Q：じゃ、それに対しては、日本政府は謝罪する必要もなく、賠償金払う必要もない？

E：そういう意図であれば…

Q：はい。分かりました。じゃ、慰安婦問題に対してどっちでもいいんですが、どっちの印象が強いですか。強制があったという印象が強いか、強制がなかったという印象が強いか。

E：強制があるんじゃないかなという印象が強いです。

Q：強制があるという視点から日本政府はその責任を認めて謝罪した方がいいと思うんですか。それともさっき談話見たいな話もあったと思うんですけど、あいう談話があるなら、もうする必要はないんじゃないかなと思うとか、そういうこれからの政府の取るべき行動？としてどういう感じでした方がいいと思いますか。

E：なんか、傷ついた人もいると思うので、ちゃんと気が済むまでこっちができることはやってあげた方がいいんじゃないかな～って思います。

Q：もしそれが半永久的であったとしてもそうするべきだと思いますか。あちら側が許すまで、それは謝罪だけでなく賠償金でも。

E：はい。

Q：そう思う一番の理由って何ですか。

E：単純に日本が悪いことをしたならちゃんと謝るべきだと思います。この先、長い付き合いになるんじゃないですか。国として。だからいい関係を気づくためにそういうわだかまりとかはない方がいいかな～

Q：その視点というのは加害者として存在しなきゃ行けない日本国民としてなのか、それともある意味被害者側の女性に共感して、そんなことされたならば私はこうして欲しいという思いから来てるのか。

E：被害者の立場になってだと思います。

Q：そこに共感して

E：はい。

Q：分かりました。じゃ、今後の日韓関係に必要なことって何だと思いますか。

E：お互いがお互いを気遣い合うというか、なんか、喧嘩とかあったとしてもちゃんと丸くおさまって、いい関係を気づいて行けばいいかな～と思います。

Q：今の慰安婦問題というのはやっぱり日本側がこういう配慮が足りてないんじゃないかなという印象の方が強いと思うんですけど、逆に今までのなかで、韓国側が日本側にこういうこと配慮してないんじゃないかなという気持ちを抱いたことってありますか。

E：うん、韓国側は、そんな考えたことないですね。

Q：OKです。じゃ、今の日本の情勢についてですけど、日本というか経済について考えたことありますか。

E：はい。あの、一応ビジネス学科で（笑）

Q：そうなんだ。それはちょろい

E：（笑）

Q：日本の経済的な状況とか国際的に見たときとか、日本国内から見たときどういうふう

感じていらっしゃると思いますか。

E：経済ですか。アベノミクスになってからなんか景気が良くなってるとか言われていたじゃないですか。そんなに具体的に変わってるところないかなというか、安倍さんに対するちょっと、ふうん？っていう不安があります。

Q：経済的にはやっぱり

E：そんなに変わってない気がします。

Q：それっていうのは国の問題として捉えますか。それとも自分の生活に対して、何で勝手に消費税上げてくれるんだ、みたいなそういう思いを抱きますか。

E：はい。あの、個人的に。

Q：個人的な不満の方が？

E：なんか、たぶん消費税あげるという役割？役割というか自分が残した、これを改正させたんだという記録が欲しかっただけだったのかなと思っちゃったり、特に上げてても意味ないんじゃないかな～と思います。

Q：あ～安倍政権に対する不満って他にあったりしますか。経済以外に。

E：うん、そんなに思わないですね、経済的な面以外には。

Q：国際的立場として日本って今こういう状況にあるんじゃないかなっていう考えってありますか。

E：なんか、結構日本が震災にあった時とかも、海外から支援が多かったので、結構信頼は得てるのかな～と思ってて、その海外が何かあった時も日本が自衛隊派遣したりするから結構いい環境を気付いているんじゃないかな～と思います。

Q：今、自衛隊の話が出たんですけど、不安は別にそう感じもしなければ。

E：はい。特に今の状況に満足している。

Q：政権的に今憲法改正するとか、集団的自衛権とか色々な話が出てるんじゃないですか。沖縄基地問題とか、そういうのに関して自分の生活に直結して不安に感じることってあります。

E：自分の生活に対して、なんか、言っちゃ悪いですけど、沖縄とか結構遠くて特に考える必要はないかなというところがあるんですけど、自分が日本人として、昔沖縄に住んでたりとか、問題に対して近い場だったらすごい関わると思うんですけど、そんなに関係ないかなと思うんですね。

Q：原段階としては国の問題は国の問題、私の問題は私の問題として、それは沖縄問題にしても集団的自衛権にしても同じ。それが意向としてこれから変わってしまったら、憲法が変わってしまったこれから日本が戦争ができる国になったとしたら、それは政府の判断として仕方ないなと思いますか。

E：う～難しい。たぶん、すごい嫌だな～と思います。自分は自分一人で動いても何も変わらないから、たぶんそういうふうにいる人いると思うんで、団体が出来たりとかしたらそれをすごく応援して行きたい。

Q：でも、まあ、現時点においては自分にはそこまで関係ないかな～って、もうちょっと問題が短くなってきたら？

E：はい。

Q：先の経済的な状況についてなんですけど、自分はそれに対して満足していますか。

サ：はい。そんなに財政が悪化してるっていう訳でもない。良くなってもないけど、悪くなってもないし、いい感じに進んでいると思うんで、このまま特にぶれずに今の生活が続

けるのであればいいかなと思います。

Q：じゃ、不安か満足かといわれたらどっちかという満足しているとか…

E：はい

Q：分かりました。日本を誇りに思うかどうかといわれたらどう答えますか。とても思う？何ですか。

E：はい。なんか、日本の文化がすごい良いな～と思ってて、あの、抹茶とか、和、和の茶道みたいなのが、なんか海外でも結構興味持ってくれてる人もいるし、漫画とかすごい人気じゃないですか。日本で誇れるものって多いな～と、技術も高いし、すごい平和に暮らせてると思うんで…

Q：どっちかという文化的な側面というか、国民性と言われるものが日本の誇れるものかどうか～

E：はい。

Q：さっきの慰安婦問題じゃないですけど、それって変わりますか。それとも文化面でフォローされるから別に考えなくてもいい感じなのか。

E：うん～フォローできると思うんですけど、

Q：でも誇りについて考える時にその問題は入らない感じですか。

E：入らないですね。

Q：日本に生まれて良かったと思いますか。

E：はい。

Q：韓国人じゃなくて良かった（笑）

E：（笑）あ～それはちょっと迷いますね。

Q：迷う、何で迷う？

E：韓国人だから最初から母国語が韓国語じゃないですか。すごい曲とかも聴いて分かるし、あの～すごい韓国人の顔とか好きで、あいうふうになりたいな～と思ったり、もうあの顔で生まれて来れるなら、韓国人いいな～とも思います。

Q：やっぱり文化的にというか、生得として生まれる韓国、韓国人としての特徴みたいなものが欲しいという、生活とか歴史とかそういうことではなく、韓国人としての表象というか、表れることに…

E：はい。

Q：自身が日本のために何か貢献したいなという気持ちってありますか。

E：一応日本の、日本で就職したいんで、日本人の人に、日本人だけでなく、日本人にも、外国人にも役に立てる仕事に就きたい。

Q：これに就きたいなという夢ありますか。

E：うん、そんなに、これ一つに絞ってというわけでもないですけど。普通、あの、ツアーコンだったり、後は、ラジオDJとか、マスコミ業界とか…

Q：それって、なんだろう。韓国の企業とか韓国社会で働きたいとは考えてなかった？

E：ないです。間接的につながっていたいです。

Q：あそこに行って暮らしたいとかは考えてないですか。

E：韓国すごい行きたいですけど、やっぱり日本が好きなんで、日本で韓国人とか中国人とか色んな人に役に立つ人になりたい、外国人観光客のためになんかしたいなと思います。

Q：自分が韓国人と結婚する可能性を考えることってありますか。

E：あ、あります。

Q：日本人の男性よりも

E：はい。

Q：それは何で、遺伝子が欲しい？（笑）

E：（笑）それもあります。けど、韓国人ってペアルックするじゃないですか。それもすごいやってみたいな～と思いますし、韓国のものが手に入りやすくなるから。

Q：じゃ、弟いますよね。弟が韓国人の彼女連れてきてても OK ですか。

E：全然 OK です。

Q：それってお母さんとかお父さんとかもそう思うと思いますか。自分が韓国人の彼氏連れて行ったとき、

E：なんか、そんなに驚かないと思います。韓国人好きだって分かってるし、お母さんの弟、おじさんに当たる人なんですけど、中国人の彼女がいて、お祖父ちゃんかお祖母ちゃんは結構反対的な立場だったんですけど、別にお父さんとかお母さんはそんなに言ったりしなかったんで…

Q：お祖父ちゃんとお祖母ちゃんって、自分が東方神起好きだというのは知ってますか。

E：韓国のグループが好きだというのは分かってますけど、たぶんそんなには分かってないんじゃないかな…

Q：それにちょっと熱く語ることがあったりして嫌がれることってないですか。

E：いや、ないですね。どういう好きなのかというので終わっちゃいました。

Q：じゃ、日本の大衆文化の中で好きなのってありますか。

E：日本ですか。

Q：はい。

E：日本の大衆文化、何でも、あ、あの、「琴」やってて、今は本当たまに教室に行ったり、琴学校でも琴クラブとか、やってたんで、たまに遊びに行ったりして。

Q：それは日本の誇れる文化として自分で思ってる？

E：はい。

Q：ポップカルチャー的にはどうですか。「琴」ってちょっと伝統文化的な感じなんですけど。

E：はい。ポップカルチャー？なんか、食品サンプルとか？岐阜なんで郡上が食品サンプルの街じゃないですか。行った時にちょっと体験して、あ！楽しいと思いました。世界に広げたいなと思いました。

Q：日本の生活、満足している？とてもそう思う。何ですか。不安に思うことは全くないみたいな？

E：ちょっとはありますが、何とかかな～と。

Q：不安になることって何ですか。一瞬不安になる瞬間はなんですか。

E：就職できるかな～とか、将来結婚してるかな～とか…

Q：将来の不安というのはそこまで今の現時点にはあまり関わることはないとかですか。

E：はい。

Q：その時になったら今満足してることももしかしたら下がるかも知れない。

E：はい。

Q：じゃ、将来の話が出たんですけど、将来のことで自分の中で最も大きく考えていることって何ですか。

E：将来のこと、とりあえず就職ですね。ちゃんと企業に就職して親孝行ができるのかな～

とか…

Q：就職の次は？

E：結婚です。孫を、お祖父ちゃんとお祖母ちゃんがすごい優しくしてくれてるから孫がいたらたぶん嬉しいのかな～と思って。

Q：最後、ちょっとまた難しくなるかも知れないですけど、東アジアの中で日本の役割ってこうあるべきじゃないかな～とかって考えたりしますか。

E：アジアの中で？日本の在り方？何だろう。なんかアジアだけじゃなくて全部の国に、とりあえず出来ることはやってあげて欲しいな～と思います。災害が起きた時に支援したり、なんか日本からの輸出とかも増やして、日本のこと分かってもらって、逆に向こうも色々やって、いや、もっとやり取りが増えるといいな～と思います。

Q：今ちょっと閉鎖的かなという印象がある…

E：もっと海外との交流が増えればいいんじゃないかな、アジアだったら近いからより深い関係を気づいて欲しい

Q：今日中韓の関係ってやっぱりちょっと対立してるっていう印象抱きますか。うん、抱くと思うんですけど、その状態っていうか、じゃ、韓国と中国見る時に印象違いますか。

E：違います。

Q：どういうふうに違いますか。

E：中国は中国の先生から聞いたことがあるんですけど、スタバーの水がトイレの下水道とか、なんかシャワーとかが全然でなくて、なんか日本と比べて安全じゃないというか、清潔感がないイメージはあります。

Q：中国人に対するイメージってどうですか。

E：中国人に対しては一部悪い人が、本当に一部だと思うんで、日本のこと好きな方いらっしゃるし、いい人たちが多と思うんですけど、日本でニュースで取り上げられる中国人が悪い話題が多いから悪いイメージ持ってるだけなのかな～というふうに、最近気付きました。

Q：自分の中でも悪いイメージに自分が今まで捉われていたところもある。最近それが変わり始めた？！

E：はい。結構優しいとか。

Q：あ、それは出会った事に対してですか。

E：はい。そうです。

Q：韓国の場合は、東方神起に出会うことによってですか。

E：韓国に対してはすごくいいイメージ持つようになりました。

Q：中国人に対しては実際に中国人に会ってみて変わった？

E：はい。

Q：そういう色々出会いがあって、どちらの国に対しても一部の悪いことがあったとしても全体としてまあいいんじゃないかなという、まあ、国として対立関係にあることが自分の感情を左右することってありますか。

E：なんか、対立しているというだけでちょっと遠ざけたくはなります。日本人の中にもいるじゃないですか。韓国が嫌いだったり、中国が嫌いだったりする人が、そういう人たちの前で仲良くしてるのを見られたりすると自分の日本での生きる道が、なんか、反感を受けたりして自分が傷つくんじゃないかなって、遠ざけたくなるんですけど、対立しているっていうことで縛られたくはないです。

Q: 避けるけれども、中国人と仲良くしてるところをばれないように遠ざかると、でも遠ざかったとしても心の中で実はそこに対して反発したいということですか。

E: そうです。

Q: けど、怖くてできない…

E: そうです。

Q: この状況を自分が変えるとしたら、どういうきっかけがあると思いますか。

E: なんか、自分一人じゃなくて、どこかで誰かがそういうことを言ってくれたりしてくれたら、自分も言えるかな〜と思います。

Q: じゃ、国としてはどうすれば、この対立関係とか、こういう自分の意見が言えないというのを変えてくれると思いますか。

E: なんか、もっと、あの、悪いニュースだけじゃなくて、些細なことでもいいんで、いいニュースをたくさんやってて身近にしてくれたら仲の良さも若い子も思うし、だからもっといいニュースを放送して欲しいです。

Q: 分かりました。以上です。ありがとうございました。

「追加質問」

Q: 国内の K-Pop や韓国に対する雰囲気って好きだった当時と今って変わってると思いますか。その悪いニュースが上がるのが、昔はそうでもなかったのに最近は増えてるような気がするとか、好きだと昔はこう言えたのに、今はあまり言えないとか…

E: なんか、好きだった頃はすごい韓国のがめっちゃ流れてたじゃないですか。それがあったから堂々として言えたというのがあるけど、最近はもう消えたね〜という感じが出て、寂しいです。

Q: その理由は何だと思いますか。

E: もっと知って欲しいと思います。おじいちゃん、おばあちゃんとか、知らない人って日本の文化をもっと守って行こうという人たちの気持ちも分かるけど、海外との交流関係が多い方が世界的に良くなって行く気がして、同じくアジア圏だし、お互いがお互いを知って仲良くなって行けたらいいなと思います。

Q: そうですね。分かりました。今ご自身が関わっているファンのコミュニティってありますか。

E: 全然いっぱいあります。

Q: 例えばどういうものですか？

E: オンライン上だと K-Pop の話だと普通に Twitter とかで話したり、情報はほとんど Twitter から得てるんで、なんかあったらみんな騒ぎだすので、Twitter とかじゃなくても韓国好きな友達からすぐ連絡が入ったり、DVD 出るらしいよ〜見たいなことが入ったりするんで、すぐ分かります。あと、知らない子でも、カバンとかにグッズ付いたりしたらこの子ファンだというの分かるんで、話かけたりします。

Q: そこからつながって行く感じですか。

E: はい（笑）

Q: その人たちと集まって話したりはしますか。

E: はい。韓国料理屋さん行ったりします。

Q: 頻繁に会うんですか。

E: 結構定期的に。また普通にローカーとかで会ったら話題がもう、エピソードだったり、

話題がもう止まらない（笑）一日中話してます（笑）

Q：グッズとか付けた時ありますか。カバンとかに。

E：あります。あります。これも東方神起のやつです（笑）知っている人が見たらすぐ分かる（笑）

Q：東方神起にいくらかけられますか。

E：財産がなくなるくらいに（笑）

Q：あと、東方神起を批判する人と韓国を批判する人がいたら自分はやはりどちらに反発したいと思いますか。

E：東方神起（笑）

Q：（笑）分かりました。ありがとうございました。

【対象者 F】

Q：じゃ、宜しくお願いします。最初の質問なんですが、韓国の大衆文化に始めて接したのが 2007 年。

F：たぶん KARA がデビューしたのが日本で、たぶん 2007 年ぐらいだったような気がして、その時父が好きだったので、それに影響されて。

Q：お父さんがその KARA を知ったきっかけって何ですか。

F：たぶん目覚ましテレビとかでそういうの、取り上げるんじゃないですか。日本でデビューみたいな、そこから知ったんだと思います。

Q：自分のお父さんがはまっているのを見て、

F：KARA の曲が流れてきて、可愛い曲だな～ってなって、それで。

Q：CD とか買ったりしますか。

F：買ってます。だからすごいありますよ。DVD とかも結構あります。わざわざ、韓国の韓流専門のショップがあって、韓国人のおばさんが経営している、そこ行って韓国にしか売ってないの買ってきて、分かんない韓国語で見たり（笑）

Q：ご自身がはまる前に見てどうでした？お父さんがいきなり KARA にはまったみたいな～

F：気持ち悪いな～と思いました（笑）違います。こんなおじさんがこんな若い小達にはまる？見たいな～でも良く聴いてみると、あ、やっぱりはまるかと思いました。

Q：何人兄弟でした？

F：5 人家族

Q：兄弟 3 人

F：3 人です。私が一番上です。

Q：他の兄弟とかお母さんの反応ってどうですか。

F：あ、でもお母さん別に、元々韓国のドラマとか見てたんで、別になんも抵抗なく、好きでした。

Q：他の兄弟は？

F：妹とか弟とかは別に興味ないです。全然。

Q：自分は関係ない、はまってもない？

F：はまってもない。別に嫌とも思わないし～みたいな。

Q：お母さんの方はドラマ何見てたのか、覚えてますか。

F：タルジャの春とか宮という宮廷の、はまってて、私も超はまってて、後何見たのかな、イタズラキスとか冬ソナはあまりはまらなかったです。イタズラのキスも見だし、映画で悲しみよりもっと悲しい物語って知ってます？

Q：見てないけどはい。

F：超面白いです。見てました。

Q：どうだろう。どっちがより一層はまったかというと KARA ですか。

F：あ、そうですね。KARA からはまってて、少女時代も好きでしたし、はい。

Q：K-Pop にそれほど聞き込まれた理由ってなんですか。

F：何だろう、本当にパフォーマンスがすごいなと思ったし、日本のアイドルと違って一人一人の歌唱力はすごいなと思って、スタイルいいし、可愛いしみたいな…

Q：トータルな面で？

F：あ、日本より勝ってるな～

Q：もうこれは見るしかないな

F：そう、そうです。

Q：最初に『宮』、一番印象深かったドラマってなんですか。

F：『宮』

Q：どうでした？印象？感想じゃないですけど。

F：韓国ってあれなんですか？昔はあんな感じだったんですよ。天皇？がいてみたいな、天皇っていうか宮殿が会ってみたい～良いな～ロマンがあるな～と思って、格好いいと思いました。

Q：ドラマ見てて、日本のドラマとはここが違うなみたいところってありますか？

F：話の長さ、違いますよね。話数が全然。日本って3ヶ月くらいで終わるじゃないですか。韓国って結構続いてて、だから話が深いというか。

Q：歴史ものはどうですか？歴史ものも見ました？

F：あ、なんか『チャングムの誓い』というかそういうやつですか？え～見てないです。それは見てない。

Q：日本の恋愛ものはあまり見ないけど、歴史物は結構見ていた。

F：はい。

Q：韓国だとそっちじゃなくて…

F：そうですね。歴史物はあまり見たことない。

Q：それはお母さんの選択によってですか。それとも自分が。

F：あ、どうかな～どうだろう。でも、テレビでやってたのが恋愛系のものばかりだったから恋愛もの見てた感じです。

Q：はい。ありがとうございます。今は韓流コンテンツに接している、週1回程度？

F：はい。なんかギャオのアプリで、韓国のライブとか映像流れてて、そういうの見たります。

Q：そうなんですね。その時よく見るのはやっぱり女の子の方が多いですか。

F：はい。そうですね。見ます。女の子の方が見ます。

Q：男の子に興味は？

F：分かんない、全然分かんない。

Q：そこに魅力を感じないというか、そこは行かないなと思う理由は何ですか。

F：何なんだろう、何で見ないんだろう、男の子、単純に興味湧かない？

Q：見たいことはありますか

F：2PM とかは見たことある。東方神起？東方神起、二人になってからは寂しいなと、そんな感じ。

Q：2PM はどうですか。

F：格好いいですね。クオリティが違いますよね、なんか。何なんだろうな、日本のアイドルとかも、ジャニーズとかもあるじゃないですか。はまらないです。はまらなくて、全然。だから元々男性アイドルに興味がない。

Q：なんか、見てて違和感じゃないですけど、感じることはありますか。

例えばジャニーズだったら何でこんなに中性的というか、男性性が弱そうに見えるんだろうかというわけでもなく、

F：そうなのかな～単純に格好いいと思わない？

Q：自分のタイプとは真逆。

F：あ、それ！そう。それかも知れない。普通に俳優さんだと、あ！この人格好いなとなるけど、アイドルだと男性のアイドルは、そう、そう思うんです。

Q：ほかの人がジャニーズでも東方神起でもいいんですけど、はまってる人って友達でいますか。

F：あ、ジャニーズ好きな子はいます。

Q：どうですか。理解できますか。

F：理解っていうか、すごい熱烈にはまれるものって、毎日が楽しくなるじゃないですか。そのために頑張ろうとか、羨ましいなと思います。そんなにはまれるものがあるっていいなと思います。

Q：進められたりとかしますか。

F：進められたりしたんですけど、でもあまり私が結構、あ、いいよ見たいな結構素直に言っちゃうんで、そうだからあまり進めてこなくなっちゃう。

Q：本当に見ようと思わない感じですね。

F：うん。そう元々日本のアイドルに興味がない。

Q：それって、日本の女性アイドルに関してはどうですか。

F：そうですね。普通に良いな、可愛いなとか、いい曲だな～と思ったりするけど、やっぱり熱烈なファンにはならない。

Q：AKB で最近何が最近よく知ってますか。日本の女性アイドル…

F：え？AKB？

Q：じゃ、AKB と例えばKARA にあってAKB にないものって何だと思いますか。

F：歌唱力？

Q：あ、やっぱり第1が歌唱力。

F：うん。

Q：分かりました。ありがとうございます。結構、家族というか、両親共に好きな感じですね。その時に家にBS引いてるとか

F：あ、はい。BS引いてます。何見てたんだろう、BSで『イタズラな kiss』やってて、それ見てたかな～後色々見てたと思うけど、

Q：韓国のチャンネル引いたりしてますか。M-net とか。

F：あ、いえ、韓国のは引いてないです。

Q: YouTube で、なんかファンが撮った映像みたいなのがあるのってご存知ですか。

F: メーキングビデオ?

Q: メーキングもそうですし、普通にいちファンが会場とかで行けないかも知れないですけど、

F: 見てないです。

Q: 見てないんですね。じゃ、お父さんと一緒にコンサート行ったとかありますか?

F: コンサートには行ってないです。

Q: あ、ない。

F: はい。行ってないです。

Q: 在宅で応援するみたいなの?

F: あ〜在宅で、何て言うんですかね。そこまで熱烈なファンではないかも知れないですね。

Q: お父さんはどうですか。コンサート行きたいとかも言わない?

F: 行きたいとかも言わないです。結構家族全部がそうかもしれない、熱烈にはまるものがない。

Q: 分かりました。えーと。じゃ、何で KARA が好きなのかというとまずパフォーマンスとか全部含めての魅力?

F: はい。

Q: 日本にはその歌唱力というのが第 1 に欠けてるだろうというところで。

F: はい。

Q: そうか、そうか、韓国の KARA を知る前ではまっていたとかってありますか。

F: 歌とか全然関係なしに?

Q: はい。

F: ずっとソフトボールやってた、私。運動ばっかやってたんでそっちばかり興味ありました。でも何追ったと思う? KARA にはなる前、え〜あ! あの、母親の影響で中森明っていう歌手? その曲とかすごい聴いてました。

Q: そうなんですね。

F: 古いけど、あ! でも昔から歌がうまい人好きだった。好きでした。

Q: じゃ、その価値観というのは別に KARA に会ってからじゃなくて、前からずっと歌唱力というのは大事〜

F: はい。歌うまい人いいなど。

Q: KARA に接した後に自分にこの価値観ができたとか、これがクリアできてなかったら自分は好きはならなかったというのってありますか。この要素って私にとって大事だったんだな〜って思うこと…

F: やっぱあれですよ。歌唱力。すごい大事だと思う、なんかテレビとかで西野かなとか好きな人全然いいと思うんですけど、テレビで歌うほどうまくないじゃんって思っちゃうんです (笑) え? ちょっと待って! 私頑張ったらこれ歌えるわ〜みたいな (笑) でも KARA とかは絶対超えれないというか、何つうの、本当に理想っていうか、すごいレベル高いよね〜って、なんか、やっぱアイドルってこれだよね〜と思う。

Q: 完成された〜

F: そう。ルクスも、惹かれますね。

Q: KARA とか韓流に触れてから考え方が変わったとかライフスタイルが変わったとか、一緒にいる友達が変わったと、そういうところの影響ってありますか。

F: あ! でも、確かに中学の時に少女時代が流行りだして、やっぱその少女時代好きな子とかと一緒に歌ったりとか、ダンスの真似するの楽しかったので、やりました。あ、やった〜その時もなんかジェットコースターラブという KARA の曲があって、それをみんなでやって、超爆笑してた思い出があります。あ〜思い出した! そう!

Q: それどこでやってたんですか。

F: 学校で (笑)

Q: 中学の時?

F: あ、そう、中学の時は少女時代やって、高校の時はそのジェットコースターラブ?

Q: KARA のやって〜

F: 教室で、あ〜懐かしいな。

Q: 女子校ですか。

F: 共学です。で、男子の目も気にせず、で、先輩たちが少女時代と KARA の曲使って体育祭で踊ってたんです。めっちゃ格好いいと思って。

Q: 自分たちはやってなかったんですか。

F: 先輩の代でやって、自分たちの時は全然 K-Pop の曲使わずにやってたんで、

Q: その、コピーユニットじゃないですけど、やっている時の周りの反応ってどうでした?

F: 無関心でした。(笑) 別にうちの世界に入ってるから (笑)

Q: 嫌がる人とかいましたか?

F: いや、全然。はい。

Q: じゃ、KARA が好きだという話を女の子の友達には全然できますか。

F: はい。全然。

Q: 好きじゃない子にも?

F: はい。全然。

Q: 男の子にはどうですか。

F: あ、全然。平気です。

Q: なんか、嫌がられたこともないですか。

F: あ、はい。ないです。

Q: 男の子って韓国のそれこそ KARA が好きだという共通点があったりしたことがありますか。

F: いました。中学の時、あ、でも KARA ではなくて、少女時代が好きだという子は結構いました。

Q: どうでした? その男の子、あ、好きなんだと思って嬉しくなるのか、

F: あ! KARA じゃないんだ。それですね。全然アイドル好きなのは全然 OK! KARA じゃないのかって思う。

Q: 結構みんな受容する側にいたというか、みんな嫌がることはなかったんですか。

F: 全然なかったです。はい。

Q: 体育祭に先輩たちが韓国の音楽とか使って踊ったみたいなことに関して周りの反応はどうでしたか。

F: 超盛り上がり、全校が見るんですよ。超盛り上げて。

Q: それは韓国語の曲でした? それとも日本語?

F: あ、日本語です。

Q: 分かりました。次、韓国と韓国人に対するイメージの変化はありました?

F: あ、でも元々そんな悪いイメージ持ったことないから、

Q：それなんか考えることってありましたか？別になにも考えないで、隣の国みないな人もいると思いますけど。

F：あ、でもなんか、ニュースとかでやるじゃないですか。韓国と日本がどうたらこうたらっていう、だから仲悪いのかな～とかは思ったけど、特別に国と国の問題だから、別に個人対個人に嫌ったりとかはなかった。

Q：別にそこに変化というのはなかったんですか。

F：なかった。

Q：分かりました。そうだな。KARA にはまってから韓国人の友達ができましたとかありますか。

F：あ、でもはまったからなのかな～去年、この寮の子で韓国から来た子がいて、その子と仲良くなって韓国からのお土産とかもらったりしました。もう出てちゃったけど、1年ぐらい。

Q：どうでしたか？その時に自分の中のステレオタイプじゃないですけど、こういうイメージだったけど、あ、本当はこうだったんだと思ったこととか、やっぱりこうなんだとか。

F：あ、でも、どうなんだろう。やっぱネットとか利用してて、韓国人が日本のこと嫌いみたいな、よく 2ch とかそういうの流れるじゃないですか。大丈夫かな～なんか日本人だけどいいかな～と思ったけど、全然そういうこと関係なく一人の人間として優しくしてくれたので、別にいい人だな～と普通に思いました。

Q：じゃ、2ch の話が出たので、それについてですけど、最初にそういうイメージがあったというか、やっぱり韓国人って反日の気持ちが誰しもちょっとあるんじゃないかなって思っちゃった理由っていうのはそういう 2ch の情報が結構入ってたからですか。

F：後、あのやっぱ、中学とか高校の日本史で韓国併合とか色々やってたじゃないですか。だからそりゃ、嫌いになるわな～とかって思っていました。

Q：歴史的な認識というか自分の中で、一瞬考えた時にそれはそうなって当たり前だろうなところが。

F：それはすごい思っていました。高校の時に。

Q：分かりました。別に韓流に接する前も韓国のことは好きっていう感じですか。

F：はい。全然。

Q：分かりました。韓流を知る事とか KARA を知る事によってその興味が芸能の世界だけじゃなくて、他のところ？まあ、歴史が好きみたいな感じで、そういう、韓国の歴史とかそういうところに興味が出てきたというところってありますか。

F：あれはないかな～たぶん、歴史が好きだからそのつながりで韓国？もちょっと、韓国にしてきたこととかで感じたりはするけど、K-Pop を知ったからといって韓国のことを調べようとは思ってない。

Q：あ、そうなんですわね。分かりました。ありがとうございます。

さっきの 2ch の話ですけど、日本のメディアで韓流について見たことありますか。

F：はい。見ました。東方神起が 5 人から 2 人になったとかそういう報道？

Q：東方神起が日本に来た時にファンが空港にめちゃくちゃ集まるとかも見ますか？

F：あ～見ます。よく見ます。

Q：そういう報道、どうですか。少女時代や KARA が最初に登場した時代と今の時代に報道の違いってありますか。韓流に対してのメディアの取り上げ方？

F：変わらないのかな～相変わらず、すごい、海外からスターが来たという前向きな報道だ

とは思う。そこはやっぱ政治とは分けてるような気がする。

Q：そういうニュースがあった時に家族の中で話したりしますか。

F：おばさんばっかだね～みたいな。

Q：(笑)

F：(笑) おばさんばっかじゃん～みたいな…そういう会話です。

Q：ご自身のイメージとしても韓流にはまるのはやっぱおばさんの方が多いかなと思いますか。

F：あ～思いますね。女性の方が多いような気がします。

Q：年齢的にはどうですか。世代によって差がある感じしますか？

F：人によります。あの、ヨン様とかって完全におばさんばっかじゃないですか。後、バク・ヨンハが亡くなった時、日本のおばさんがすごい号泣してるの見て、あれ、絶対取材している人の悪意ですよ。あれ、絶対おばさんばっかで、でもバク・ヨンハもね～格好いいな～と思ってたから残念だなと思った。

Q：じゃ、自分と同世代の人が韓国とか韓流のスターにはまっていることとおばさん世代がはまっていることに対しての感じ方って違う物がありますか。

F：あ、でもどうだろう～感じ方？

Q：報道見た時に例えば、キャーキャーって、声が高い黄色い声っていうか、なんだろう、歓声が若々しい時と、おばさんが…

F：(笑) あ～どうだろう～おばさんはたぶんそこは若返りしているのかもしれない心は(笑) ただイケメンを見て黄色い声を絞り出すみたいな感じ、だから好きって気持ちにやっぱ変わりないのかなと思います。

Q：家族の反応ってどうですか。お父さんが例えば、そのおばさんファンがキャーって盛り上がってるのを見て、おいおいってなるのか、あ～分かる～KARA 好きだもん、みたいになるのか。

F：(笑) 絶対たぶんそっちです。後者です。たぶん。自分が好きだから別におばさんに対してもなんも言わない。

Q：あ～どうですか。一緒にはまったことに対してお父さんはなんか、嬉しいじゃないですけど。

F：でも、そうです。新しいDVDとか買ってきた時に、一緒に見たりしました。

Q：そうなんですね。その時ってどういうふうに見るんですか？

F：普通に並んで？(笑) 並んで見て、声はちゃんと聴きたいからシーンとして。

Q：無言ですか？(笑) 見た後とかどうなるんですか。

F：可愛いよね～みたいな。ハラ (KARA のメンバー)、私ハラじゃなくてギュリの方が好きで、ギュリの方がいいと思うけどな～という会話してました。

Q：そう(笑) どうですか。そういう会話って、KARA まではなかったんですよね。

F：ないですね。あ、でも一個父親と話す話題ができたなという気がします。今までずっとソフトとか野球のことばかりだったんで。

Q：あ、いいですね。それは。

F：はい。

Q：韓流が親子を繋いで (笑)

F：そうかも知れない、本当に。

Q：韓国についての報道はどうですか。韓流が一番ブームだった時とか一時ブームの時

と今という時で韓国に関する報道の色っていうのは変わってると思いますか。

F: あ〜でも確かに、KARA とかの時よりは…今って政治的な報道の方が圧倒的に多いような気がします。日韓首脳会談とかもやるみたいだし、そういう報道？シリアスの方が多いかな…

Q: その何だろうな。そのニュースを見る時に感じることでなんですか。もう問題を問題として捉えるのか、その報道に偏りが見られるのではないかとかそういうメディアに対して不信感というのは抱きますか。

F: でもやっぱりそうです。日本の立場でしかものを見たことを発信しないから正しいというか、何なんでしょうね。ちゃんと自分の国が有利とかじゃなくて、ちゃんと正しい歴史をちゃんと教えて欲しいと思います。日本側のいい解釈したものしか報道しないから、確かに不信感とかありますね。それが事実なのかなって疑ったりはします。

Q: 疑った後に、ここちょっと気になるから自分で調べたりしますか。

F: はい。グーグルとか、iPhone で。本当に、韓国併合とか学校で教わったこととかと違うことも多くて、そういうのがあるからちゃんと両方の立場からみないと本当に正しいことって分かんないな〜

Q: じゃ、今まで習ってきたこととか報道とか、最近流行ってる池上彰とかのって。

F: あ〜ありますね。

Q: 信じていいのかどうかよく分からないもののなかで自分が調べて掴んできた中で一番ショックだったこと、何かありますか。

F: 韓国の併合が一番ショックでした。併合の仕方ってあまりにも自己中な日本軍の判断で韓国の人を巻き込んで、あれは本当にショックでしたね。歴史とかでは、1 分で、たったの1 分で流される。

Q: そうですね。何年でこれがあって、だけで終わりですからね。

F: そう、そうなんです。だからその真実を知った時に昔の日本人にすごい嫌悪感を持った事あります。

Q: 分かりました。

それについて家族で話すことってありますか。

F: 一回なんか、私家でもよくすごい喋ってたから、今日学校であったこととか話してたんですけど、やっぱりそういう話はしました。日本ってこんな悪い事ずっとしてきたんだよって言って、で、話しました。

Q: それに対してどういう反応が帰ってきました？

F: そうですね。そういう反応でした。あ〜そうなんだ〜みたいな…

Q: 友達？学校で喋ることってありますか。

F: 学校？学校でそんなたぶんなかった、なかったと思います。

Q: そういう歴史的なこととか政治的なことはやっぱり喋りにくいところがありますか。

F: 喋りにくいというか、たぶん理解されにくいというか、そこまで理解されないだろうなって思っ

Q: あ、じゃ、そこは自分で自己犠牲じゃないですけど、

F: まあ、そこは、そう思っちゃうところが。興味ないというか、そこまで深く疑問に思わないような。

Q: ただどうなるか分からないから言わないでおこうと思うのか、言ったら彼らとか彼女らの反応って言うのはこうなんだろうなっていう予想が立ってるというのか。

F：うんうん。なんか、反応薄いみたいなの。

Q：話しても意味がない？

F：あ、それ、それです。

Q：今まで韓国に対する歴史とかで、嫌悪感を示すような友達はいましたか？

F：あ〜どうだろうな〜竹島の問題とかあったじゃないですか。それを深くやったのがたぶん中学校ぐらいの時で、その時に、その時の社会の先生が、本当は竹島は日本のものなんだけど〜みたいなの、その話をしてて、未だに覚えている。なんか、そう、なんて言ってたっけ。本当は、機関？世界のちゃんとした機関に調べてもらえたら竹島は日本のものだって、それが、韓国の許可も得ないといけないから、で、韓国の許可が下りないから未だに審査できないって言ってて、え？なんでって、結局(先生は)日本のものだと言ってるし、韓国は韓国でももちろん、竹島は韓国のものだっていうから、ね〜どっちかってははっきりしてるならなんでこんな平行線なんだろうと思って、そうそう。

Q：その社会の先生は男性の先生？

F：はい。男性の先生です。

Q：他の子の反応ってどうでしたか？言動に対して。

F：絶対なんも思っていない(笑)。テストに出るかもとか、そういうもんだと思います。

Q：あ、そんなに考えない感じ…

F：うん。

Q：大学入ってからどうですか。韓国の問題とかについて。

F：話したことないです。あ、靖国神社に行って、春休みの時に、クラスに幅広い年齢層がいて、40代ぐらいの方もいて、その韓国の方も結構靖国神社にいらしてて、結構見えたんですよ。で、その方が、ね〜不思議だね〜って、しました。

Q：どういう意味ですか。

F：たぶん、あの、A級戦犯が祀られてるんじゃないですか。だから、韓国とか中国とかの人にとっては、まあ大事な人を奪ってた人だと思うんです、戦犯って。だからそういう人がちゃんと合掌しにくれてるということが、ちょっと不思議…

Q：あ〜そういう意味で、普通来ないだろう〜という

F：あ、そんな感じですよ。結構もめてるのに、見えてるから、そう。

Q：分かりました。ありがとうございます。じゃ、ネット上で、先、2ch にたどり着いたことがあると話されていたんですけど、それ見た時にどうでしたか？そこに書かれているのを見て、自分がどんな気持ちを持ったとか。

F：本当のことをやっぱり、平等に教えて欲しいと思いました。なんなんだろう。社会の先生にしろ、結局は、その日本のことだから、自分の国を守ることしかないだろうけど、やっぱり、本当のこと？日本がどんなことを色んな国にしてきたのかとか、そういうことを教えて欲しいなと思います。

Q：書かれていることの中で、これって、もしかしたら本当なのかなと思ったことってありましたか？

F：うん…何年だってけ。たぶん、日韓で、仲良くなった時あるじゃないですか。なんだっけ。なのに、今もめてるじゃないですか。やっぱりそういうのって、ちゃんと解決してからするべきなんじゃないの？ふうに思ったことがあります。

Q：分かりました。そう。KARA とか出てきた、東方神起が盛り上がったという時期と、今と韓国に対する周りの反応とか変わったりしていると思いますか。

F: どうですかね。あ、あ、どうなんですかね。整形？韓国アイドルは整形するというふうな情報はたぶん、KARA とかが流行り出した方より今の方が全然多くて…

だから、それが、結構、あれですよ。性格悪くなりましたね、日本人もなんか（笑）なんか、アイドルが整形しているんだ～こうだって言い出すようになって、そう、そういえばそうですよ。全然 KARA とか流行り出す時そんな話題なかったのになんでですかね。政治？ですかね。ニュースとかで流れる？

Q: じゃ、日韓の関係がいろんな問題が浮き彫りになる中で、韓国アイドルに対する目というのが、厳しくなって…

F: あ～そうかも。周りに流されやすいですよ。日本人って。そうですね。

Q: それと関連して、フジテレビデモってご存知ですか。

F: あ、知ってます。俳優さんがあれですよ。デモやらない？みたいな Twitter で呟いて集まったやつですよ。4000 人が。

Q: どうですか。それ見て。

F: それ俳優さんが言ったらダメだな～と思います。影響力のある人が言うというのもあれだし、デモ起こすほどでもないと思います。普通に韓国のものが良いと思っているから流しているだけであって、それを求めている視聴者だっているし、なんでそんなにデモ起こすほどの問題になるのか分からない。

Q: 理解できないという思いの方が強かった？

F: あ、そう思います。普通に見たいのに。

Q: その人たちが、なんでフジテレビデモにまで至ったんだろうって考えることってありますか。

F: 単純にその俳優さんが好きとか、結構面白そうだから結構みんな集まるみたいだし、行ってみようという好奇心の人とか絶対多いと思います。

Q: お祭り感覚で？

F: そう、絶対多いと思います。だから、だって、意味分からないですもん、未だに。そう、なんか、意味わからない（笑）ドラマ流すなって言ってるんですよ。どういうこと？と思って、日本にそんな面白いドラマないしと思って（笑）そう、なんでデモ起こすのか、未だに分かりません。

Q: じゃ、嫌韓のニュースとかどうですか。デモとかじゃなくても、ヘートスピーチとかあるじゃないですか。

F: あ～～

Q: 韓国人だけじゃないですけど、中国人に対してとか。

F: はい。なんか、あれですよ。それも、やっぱりなんなんだろう。日本からのニュースだけじゃなくて、やっぱり、中国とか、韓国ではどうやって流れてるのかとかも知りたいなと思います。

Q: 日本のニュースを見た時には、こういう人たちがいるんだな～って感じですか。

F: あ、そうです。

Q: その人たちに対して、あの、嫌だなとかじゃないですけど、思想の自由もあっていいと思うのか、悪いと思うのか。

F: そうですね。思想の自由とかもあるだろうけど、なんでそういうふうに思うのかという、その人の説明というか、納得できるように説明して欲しいというか、理由があつてそういうことしているんだったら、私も知りたいなと思います。

Q：なんでそんなに嫌うのかなという？

F：うん、知りたい。

Q：そういうことに関しても友達と喋ることってないですか。

F：ないですね。ない。

Q：一時期、中国で、反日デモがあったじゃないですか。あの時はどうでした？

F：あ～ありましたね。あ、でも、あ、あの時に、日本に結構旅行者来るじゃないですか。中国も。だから、他の友達から、なんで日本が嫌いなのに、そんなに旅行に来るの？って、そう言ってた気がします。

Q：疑問的な感じで、ちょっとした怒りもあったりしてましたか？

F：あ、でもなんだろう。最近、京都とか行った時にも、やっぱり多いです。中国の方。そう、だから、好きじゃないのに、なんで来るのかな～と思っちゃう自分もいたりします。

Q：そこに対してちょっとだけ嫌だなと思ったりしますか。

F：あ、嫌というか、普通に声がでかいな～と思います。ちょっと静かにして欲しいという感じです。国とかじゃなくて、普通に人として、ちょっと静かにして欲しいと思う（笑）

Q：韓国人に対しても同じような感じですか。

F：そうです（笑）それは日本人にも思うかもしれないです。そう。

Q：では、韓国との歴史問題について聞きたいですけど、気になるものって何かありますか。

F：慰安婦？最近よく～

Q：どういうところが気になるというか。

F：なんか、日本が慰安婦を募集してたというじゃないですか。それで、韓国以外の国からも希望者を集めて、でも、本当に韓国の方も行かれたんですかね？自ら。

Q：私もなんとも（笑）

F：だから、日本から、日本が無理やり韓国の女性を拉致して、そういうふうになんて言われてたというんだったら、本当にそれは日本が謝罪すべきだと思うけど、でも、もし韓国の女性が自らの意思で慰安婦になったというのであれば、違うのかな～と思うんです。やっぱ、そこら辺もちゃんと知りたいというか。

Q：義務教育の中で、教科書問題じゃないですけど、その内容も組み込まれて教えるべきだという感じですか。

F：はい。

Q：それはどの程度ですか。

F：それです。慰安婦という言葉だって、中高の教科書にないから、その日本がしてきたこと全部細かく書くべきというか、ちゃんとこれ知らないんだというのがないように、ニュース見た時に、日本人全員が、あ！これ習ったなと思うような…なんって言ったらいいんだろう。だから、慰安婦という言葉聞いた時に、これ知らないんだという反応がないように、勉強できたらいいな～と思う。

Q：慰安婦問題に関してだけじゃなくてもいいんですけど、韓国の歴史問題について興味を持ち出したのは何でだと思いますか。

F：太平洋戦争とか、たぶん、今年 70 年だから、何年前だって、13 ぐらい？戦後 60 年みたいなことやってた時に、ちょうどその太平洋戦争のこととか色々テレビでクローズアップされてて、中学でも日本史とかやってたんで、太平洋戦争に興味持ち出して、で、そこから日本が韓国に…後、満州事変とか、そういうことがあったんだな～と…

Q：戦争、いわゆる、日本がやってる平和教育の中で、隠されてきたという部分が自分の中

でどうしても気になり始めたという感じですか。

F: あ、そうですね。思いました。

Q: 色んなことを調べていらっしやると思うんですけど、歴史問題って、解決まで難しいところがあるじゃないですか。でも、そうなった中で、私たちがすべきことは何だと思いますか。

F: 正しいことを知ること？だと思います。ちゃんと正しい情報が知りたいと思います。

Q: いじわる質問ですけど、もしかしたら他の国が嘘をついてて、本当は日本が今やっていることが正しいかもしれない、実は歴史上そういう事実がなかったかもしれないということとはそんなに考えないですか。

F: うん、そうですね。日本が逆の方が嫌だと思うんです。日本がいいことしてきた、いいことしてきたと言ってて、本当は他の国が本当はこんなことやってたじゃんと言われる時の方がたぶんショックが大きいと思います。だから、悪いことしたと言われているけど、本当は違った方がショックが少ないから、だから日本悪いものと考えた方が楽です。

Q: その気持ちは、私は今まで日本がやってきたことが日本人として誇りに思っていたのに、歴史上にやってきたことによって、誇りに貶されたんじゃないですけど、貶められてしまったみたいな感覚を抱く感じですか。

F: そうです。もし、いいことやってて、戦争の時もいいことやってたとずっと教わってきて、で、それでたぶん、他の国からこういうことやってたと横割り入れられるとやっぱり、そうやって思うと思う。ショックが大きいと思う。

Q: 自分もそういうふうに指摘された時に、加害者の立場に立つと思うのか、知らされてこなかった被害者側に立ちやすいのか、どっちですか。

F: あー、でも、やっぱり、何なんだろう。知らされてないから知らないっていうふうにはなりたくないから、やっぱり加害者と思う方が、思った方がいいというか、そうやってありたいと思う。そうですね。もう、20 になるし、そういったことを、次の世代に伝える側になると思うので、美しいところじゃなくて、汚い部分も、これからの子たちに伝えた方が、何なんだろう、これからの日本のためにも、韓国とか、中国とかに対する変なイメージも持ちにくくなると思います。

Q: それでも、友達に対して言うのは諦めてしまうのは、どうしてですか。

F: うん、言っても分からないし、絶対そこまで深く考えてないから (笑)

Q: じゃ、個人レベルではなく、国として対応してほしい感じですか。

F: あ、そうですね。そうなるんですね。でも、そもそもそういう話題にならないから…そうですね。友達に話そうというところまでは私も行かないから、そうなんですね。

Q: タブーみたいな感じになりますか？そういう話題が。

F: タブー、タブーというか、タブー、タブーまではないと思うんです。韓国のこととか、嫌いな人ってまずそんなに私の周りにいないから、話そうと思えば話せるかもしれないけど、何なんだ、結構簡単に取り上げられる話題じゃないと思うから。そうですね。

Q: 自分と同じような問題意識を持っている人がいれば、喋れるんだろうな～

F: そうですね。

Q: 分かりました。ありがとうございます。

もう少し、慰安婦問題について聞いていきたいですけど、それっていつ頃から知りだしたとか、覚えてますか。

F: なんか、でも、最近かもしれないですね。ちょこちょこ慰安婦のことメディアが取り上

げるようになって、あ！慰安婦って何なんだろうと思って、自分で調べて。

Q：最初に触れたメディア、媒体としてはテレビの？

F：はい。そうです。

Q：最初、どんなふうに思いました？

F：慰安婦ってそもそも何？って、だから慰安婦から調べて、こういう役割？をしていた人なんだな～と思って、でも何でその韓国が慰安婦って取り上げるって、で、対日本っていうふうになるんだろうと思って、それで調べました。調べてみて、あまり、事実が分からないと思って、どういうことって、日本語募集をかけてきたみたいなの、そういう取り上げ方をしているページもあれば、逆にその無理やり？日本が韓国の女性をなんか、拉致してみたいなの、というふうに取り上げてるページもあるから、何を信じていいか分からないというか、何が本当か分からないな～と。

Q：どちらの情報に対しても信頼性が起きない？

F：そう。何なんだろう～結局分かんないな～だから、韓国の方が日本に謝罪を求めている？求めるということはやっぱり日本人が韓国の人を無理やり？したというふうに思っているんだな～と思うし、逆に日本は謝罪しないというか、そういう態度だから日本の政府とかはたぶん、募集したら韓国から来たし、みたいな感じになっているんじゃないかな～って、だから、本当に平行線だな～と思います。

Q：信頼できる情報もなければ、お互いの意見がこういうところで食い違っているんだな～とも思うし。

F：だから、他の国の人とか、日本が韓国の女性を連れて来たんだよということであれば、本当に私は日本汚いと思う（笑）

Q：個人的にはどう思いますか。

F：申し訳ないな～と思う。日本軍が女性を無理やり慰安婦とかにしたのであれば、精神的にも誰にも言えずに苦しんでた人とかもいたと思うので、もしそれが事実であれば、対韓国じゃなくて、慰安婦の方たちにちゃんと謝罪をするべきだと思います。

Q：強制されていたという事実があった場合と強制されていたという事実が実は違った場合の日本政府の取るべき態度というのは違うと思いますか。

F：強制だった場合には韓国にじゃなくて、慰安婦さんにちゃんと謝罪すべきだと思うし、逆に、強制じゃなかった場合は、ちゃんと強制じゃないよというのを慰安婦さんと韓国にもちゃんと説明すべきだと思います。

Q：根拠となるものを提示して

F：あ～思います、思います。

Q：それって、前に日本政府が一度認めて謝罪のようなものをしたからという報道は見た？

F：あ、ありました？ありましたっけ。あったんですか？（笑）それだったらなんか、納得いかない。え？そうなんだ。それ、認めたということですね。逆に意見を変えるというのは、どういうこと？でも、謝罪もしたんですよね。未だにこういう問題が起きるというのは、やっぱり日本政府の対応が甘かったというか、ちゃんとしてなかったということですよ。

Q：色んな意見があるので、

F：あれですよ。だから、韓国に対してじゃなくて、その慰安婦さんにちゃんというべきですよ。ちゃんと謝るというか、

Q: そこってどうですか。韓国の対応としてもそこはちょっとと思うのか。

F: あ、たぶん、全然政治のこととかは分からないですけど、韓国が欲しいのは賠償金とかって感じなのかな？と思う。ここまで、一回謝ったのに、また振り返すというのは韓国も違うもの、お金とかそういうものを日本に求めているのかなと思うけど、でも、今の日本も慰安婦さんとちゃんとコンタクトを取るべきだな～と思います。本当に心傷まれた人と話し合うべきだというか、真実是一個しかないから、そういうことを話すべきだなと思う。誤った情報の上で謝罪とか重ねても絶対根本がクリアになってないと絶対どっかで、こういうふうに繰り返すと思うから、やっぱり真実をちゃんと調べるべきだと思います。

Q: 分かりました。ありがとうございます。次から、日本の情勢について聞いていくんですけど、日本の経済状況についてどう思いますか。

F: アベノミクスとかで絶対景気上がっているとかいうけど、絶対あれ、一流企業の人とかしか感じてないと思うんです。一般庶民には全然まだできてないと思うんです。全然景気良くなってないし、増税また来年の4月に10%になるじゃないですか。ね～8%でこんなに嫌なのに、どんどん上げてって、しょうもない。

Q: 国際的な情勢はどうですか。

F: 一月の終わり頃に、安倍さんがエジプトかなんかでテロに対する支援金を送るみたいなことを言っちゃってから、後藤さんと湯川さん？が、安倍さんのせいで殺すみたいな、それ YouTube で発信されて、なってたじゃないですか。だから、靖国神社に安倍さんが参拝してアメリカから批判を受けるという、あれも、日本人として参拝した気持ちは分かるけど、やっぱり、世界の中にある日本をもっと考えて、だから、首相のやっちゃいけないことだなと思う。だからやっぱり安倍さんの感情だけじゃなくて、日本の立場とか、そういうことをわきまえて行動していかないと、やっぱり日本の好感度とか、世界での位置が下がっちゃうんじゃないかなと思います。

Q: 実際下がっていると思いますか。

F: ちょっと思う。やっぱりA級戦犯が祀られてるからここまで靖国問題が大きくなっているかなと思うけど、A級戦犯がやってきたこと考えてたら、日本のリーダーが謝罪するのは違うというのは理解できるし、世界の中の日本というのを意識して、色んな世界に対して対応して欲しいな～と。

Q: じゃ、不満を感じますか。成功していると思いますか。

F: 増税やめて欲しいな～（笑）とりあえず、増税は嫌だな～と思うし、国会議員の給料を下げればいいのになと思う（笑）

Q: それも含めて日本に満足していらっしゃいますか。

F: ややですね。

Q: あ、現在の生活だと、どちらとも言えないと。

F: 普通に身の周りは楽しいんです。普通に学校も。やっぱり国自体が貧乏だと思うから。経済がちゃんと裕福になって欲しいなと思う。

Q: その他のところで満足と言えない理由とは

F: なんか、集団的自衛権？というので、日本に戦争？日本は戦争したくなくても、巻き込まれるんじゃないかという不安？持ったことがあります。巻き込まれそうだなと思って。

Q: 今まさに憲法改正となっていることが自分の中でも不安が…

F: うん、怖いと思うし、赤神が来る時代が来るのか、みたいな。嫌だなと思う。

Q: 未来の生活に不安を感じる？で、とてもそう思うとおっしゃっているんですけど、どう

いうところで一番不安を感じますか。

F：やっぱ、お金？増税？これからどんどん増税していくのかなと、東京オリンピックもあるじゃないですか。その時にテロとか起こったら、最近ニュース見ててちょうどそう思っ
て、怖いな〜と。

Q：他にまたありますか。

F：お金〜あ〜やっぱ、お金のことばかり不安になる（笑）奨学金借りてるので、ちゃんと
した企業に就いてちゃんと返さないとな〜と思う。

Q：じゃ、もう就活、それから賃金の問題、奨学金の返済の問題も引っくるめて不安。

F：不安です。

Q：その不安っていうのが、現在の満足度の低さに

F：あ〜そうかもしれないです。そう。

Q：やっぱり楽しく過ごしていても、やっぱりお家に帰って寝る前には少し不安になるみた
いな。

F：あ、なります。お金返さないと見たいな。

Q：じゃ、日本を誇りに思っているか、ややそう思う。とてもは思わない理由とは。

F：日本ならではの美しいもの、京都の寺とか、そういうのは本当に誇りに思うけど、でも、
日本人の集団に溶け込もうとするとか、自己出張がないとか、あと韓国との問題もう
やむやにして、そういうマイナスな部分がちょこちょこあるなと思って、そんなにとても
は思わないです。

Q：日本人でよかったとは思いますか。

F：でも、日本で生まれてよかったと思います。トイレがきれいだったり（笑）結構、わり
ときれいです。世界の中でもきれいなんじゃないかなと思って。水道水が安心して飲め
るとか、そういうところは日本に生まれてよかったなと思います。

Q：そういう日本のために何か貢献できるようにしたいと思いませんか。

F：あ〜、どうなんだろう。でも、外国の方とか、見られた時に、ここの寮にも韓国とか中
国の方がいて、日本のためにとか、日本に来てよかったなとその子たちが思ってもら
えるように、ちゃんと対応しようと思います。個人として、人として、日本に来てよかつ
たと思って、自分の国に帰った時に、そう思ってもらえるようにちゃんと、正しく接し
ようというか。

Q：さっきのデモの話になると、あの人たちが留学生に悪い印象を与えたとしたらここで
行っている人たちに対して嫌だなんて思いませんか。

F：思います。

Q：日本の大衆文化で好きなものってありますか。

F：ミュージカル？

Q：劇団とか？

F：あ〜好きです。あと、日本舞踊とか、ちょっとやってたことがあります。日本舞踊。好き
です。お寺とか。お寺巡りとか好きです。

Q：そういう文化というのは他の国にない日本の文化という感じで認識しているんですか。

F：あ、日本ならではのことが好きかもしれない。

Q：自分の生活の中で、不安に思わないところってありますか。

F：不安に思わないところ？思わないところあるのかな〜え〜

Q：自分はこうだから幸せだとか。

F：あ！美味しいもの食べれる元気があると幸せだな、あ、好きなものを好きな時に食べれるって幸せだなと思う（笑）コンビニとかでバーって並んでいるの見て、あ、幸せだな～と思います。

Q：最後ですけど、東アジア関係、どういうふうに思いますか。

F：うん…仲悪いというか、ちょっと問題ごとが多いんじゃないかなと思います。

Q：そんな中で日本はこれからどうあるべきだと。

F：やっぱ、中国とか韓国がメインになっちゃうんですけど、日本の悪いところもちゃんと認めて、そこから中国とか韓国といい方向に向かう努力をするべきかな～と思います。

Q：中国とか、韓国を考える時、自分の中でマイナスイメージを持っている方が高いかなと思うような、ありますか。

F：あ、中国とか韓国に対して、マイナスのイメージ、そう、その 2ch とかで、中国の方が日本のことすごい悪く言っているとか、そういうの結構鵜呑みにしやすいので、こんなふうに思ってるんだな～でもそれなのに日本に来るんだ。そういうふうに思っちゃう。

Q：そこでなんか矛盾を感じるんじゃないですけど（笑）

F：（笑）そうですね。

Q：この対立状況というのは変わるべきだと思うんですか。

F：うん、変わる。そう、変わって欲しい。近い国だから、やっぱ、仲良くなって欲しいというか、みんながみんなという訳ではないというのは分かっているけど、近いから仲良くして欲しいなと思います。

Q：これで終わります。ありがとうございます。

【対象者 G】

Q：インタビュー始めます。よろしくお願いします。韓国の大衆文化の中で、主に見てるのはなんですか。

G：主に、東方神起と Super Junior です。東方神起はユノとチャンミンとユチョンが好き、で、Super Junior はシウオンが好きです。

Q：最初からずっと好きな感じですか。

G：いや、最初は、キム・ヒョンジュンが好きで、その後、末っ子のヒョンジュンが好きで、今は Super Junior のシウオンだけが好きです。

Q：コンサートとかは行きますか。

G：東方神起は 4 回ぐらい行きました。Super Junior はまだ行ったことないです。シウオンさんがまだ来たことがないので、行くなら韓国に行きたいです。行きたいです。

Q：好きになったきっかけはなんですか。

G：友達が大好きで、友達から毎日聴かされて、東方神起って素晴らしいんだよ！って、それから東方神起聴くようになって、韓国のドラマも見erようになって、好きになりました。

Q：まず、音楽からはまりましたか？

G：そうですね。まず、音楽から、音楽とドラマ両方。

Q：K-Pop 好きな友達は一人居るだけですか。

G：そうです。仲良い友達一人と、ほぼ毎日聴かされてました（笑）

Q：最初聴いてどう思いましたか。

G：最初聴いて、あ、面白い、なんか、東方神起の音楽は、日本の音楽と全く違う、メロディが違うので、なんかヒップホップみたいで、あ、好きだな～と思って、それからずっと聴くようになりました。

Q：最初聴いてすぐはまりましたか？

G：最初は全然そう思ってなくて、結構後です。東方神起好きになったのは、1年後ぐらい。最初は、あ～いいなぐらいで、それからだんだん大好きって感じで、自分から、半年後とかかもしれないです(探すようになったのは)。

Q：友達とはずっと仲よかったですか？

G：そうですね。高校1年生から仲良くして、2年生になってから同じクラスではほぼ毎日東方神起こういうふうだよと聞いて、3年生になってから、もう大好き(笑)

Q：受験の時とか大変ですね。

G：そうです。

Q：受験の時、コンサートに行ったりはしなかったんですか。

G：行ってないです。大学生になってからです。

Q：そうなんですね。ドラマはどういうのを見るんですか。

G：ドラマは、テレビでよくやってたので、ドラマが、最初見たのは『タルジャの春』の女の子とちょっと格好いい男の子の、あれを最初に見て、たぶん高校1年生ぐらいの時か、2年か、高1ぐらいの時ですね。

Q：ドラマにはあまり興味なかったんですか。

G：そんなに、まあ、ドラマ見るけど～みたいな、日本のドラマも見ると、韓国ドラマも、テスト週間にやってて、その時に、あ、面白いなみたいな、テレビで普通に見る感じで…

Q：一人で見るんですか。

G：お母さんも普通に見てました。

Q：お母さんはその前から見てた感じですか。

G：いや、お母さんは私に影響されて(笑)逆です。今もお母さんに見せてます。一緒に見て、最近は忙しくなっちゃったのでちょっとあれですけど、昔は朝起きたら東方神起のDVDかけて、ずっと着替える間もずっと東方神起見ながら、ごはん食べてる間もずっと東方神起、チャンネル権私にあります(笑)。

Q：他の兄弟とかは見たりしますか。

G：全然、全く。

Q：なら、一緒に見るのはお母さんだけですか。

G：お母さんだけ。

Q：分かりました。K-Popのコンサートは友達と一緒にいく感じですか。

G：いえ、一人で行きます。宮城と大阪?! 一人の方が楽で、私はどちらかというと二人の東方神起が好きで、友達はジェジュンが好きで、話は合うんですけど、まあ、なんかフォーカスが違うから一人で行った方が楽しいです。一人だととなりの人と仲良くなれるんで、結構いいです。

Q：なんか、エピソードとかありますか。

G：はじめ、大阪の東方神起のファンミーティングに行った時に、私、お金全然なかったので、大学1年2年とかだったんで、ローカル線? どこまで行って、すごい5時間とかかかって、ずっと調べながら行ったんですけど、帰りに、後ろのお姉さんが、え? どこに行くの? って言ってる、で、方向がいっしょだったんで、チケットが余ってたらしくて、それ

で、このチケットあげるから一緒に帰ろうよって言って、それで特急乗って帰りました。ただで、すごいなんか、ありがたかった。本当に2時間ちょっとで行けた(笑)

Q: え? すごいですね。その人は一人で来てたんですか。

G: お母さんと。お母さんがたぶん60代ぐらいで、その娘さんが30ぐらい? 二人でいらっしやって、で、私がある前に、電車で並んで、帰りの電車で、で、方向一緒なら一緒に帰ろうとなったら、ちょうど名古屋となって、本当はその乗継の前に話しているだけのつもりだったんですけど、たまたま名古屋だったので、いろいろ、それからずっとその人と連絡とって、たまに2-3か月一回ぐらい、会ってます。友達になってます。だから本当にその人のつながりで、名古屋で集まりがあるみたいで、そこにも入れてもらって、今度来月も、その人はいないですけど、今度違う友達とごはん一緒に行こうって、結構いい人に会えるな~と思います。

Q: そのコミュニティには何人いますか。

G: なんか、東方神起が好きな人たちで、3人、この人たちもバラバラで、たまたまコンサートで会ったとか、ホテルでたまたま隣だったみたいな、その人たちも名古屋じゃないところで会って、でも名古屋ということで、3人で集まっていたみたいで、私もその一人の人が知り合いになったから入れてもらって、今4人で、たまに会って、みなさん名古屋です。すごく楽しいです。

Q: 偶然そう会って、ネットワークを広げるのっていいですよね。K-Popが好きになる前、何か好きな芸能人とかいました?

G: 好きになる前はそんなに、熱中したことないです。小栗旬は大好きです。でも、小さい時だったので、小栗旬さんはコンサートもないし、友達と一緒にDVDを家で見るぐらいだったので、そんなに熱中せず。

Q: 日本のアイドルじゃなくて韓国のアイドルにはまった理由って?

G: (韓国のアイドルは)ただただ格好いい(笑)、格好いいし、後なんか、髪型がすごく、スタイル?!あと、礼儀正しい気がするので、日本のアイドルはちゃらっと!ですけど、韓国のアイドルはこう、韓国のアイドルの人の方がきちっとしているかなというイメージ、コンサートに行くたびにやっぱり好きになります。やっぱり異国の日本で全部日本語で伝えてくれるところとか、そこが格好いいなと思いますし、すごくいろんな人に気を配っているところが、上の人にも場所のよく見えない人にも声をかけてくれるところがやっぱり素敵だなって、人柄が、最初は歌が好きだったけど、今はキャラクター?!歌はメロディが違う。でも、なんか、日本の歌はやっぱり日本ぽくなってるので、私はどちらかというと韓国の原曲の方が好きです。韓国語で聴く方が好きです。リズムが違う。発音?が韓国語の方が可愛いし、格好いい。日本語の曲よりもなんかいいなと思います。

Q: Super Junior とかはどうですか。

G: Super Junior 大好きです。また東方神起とはジャンルが違って、面白くて、でも礼儀は正しいことには変わりはないで、でも東方神起はやっぱりいろんな問題があるからファン同士でもちょっと遠慮するところがあって、まず、だれだれさんが好きですか、疑いを察しながらしか仲良くなれないんですけど、Super Junior はそんなに気にしなくても、ファンの方も寛容な方が多くて、楽。曲も面白い曲が、なんか、意味のない曲が多くて、それもそれで好きです。覚えやすいです。大好きです。

Q: それぞれ違う特徴がありますよね。

G: 東方神起はプロ集団みたいな、ちょっと硬い感じ、でも Super Junior は楽しい、エ

ンタテインメント。

Q：嵐とかにははまらなかったですか。

G：私、なんか人と違うことが好きっていうのもあって、東方神起とかは今多いですけど、ファンは。でも日本ではやっぱり東方神起知ってる人、少ないですし、Super Junior はもっと、ほとんど知っている人少ないのもあって、うん、それもあると思います。たぶん、嵐好きな人いっぱいいるからはまらないのかもしれませんが。

Q：ドラマはどうですか。

G：なんか、キュンキュンします。日本よりも長いですし、だから内容も濃い、後は、女優さんもきれいだし、男優さんも格好いいし、他の言語で聴くというのが、私いろんな言語が好きで、日本語ただ見てると何にも収穫できないわけではないですけど、勉強にはあまりならないですけど、他の言語のやつを見ると、なんか、知らなかったこと少しでも取集できるからそれもあって、好きなのかもしれません。

Q：それは、他の国のことを受け入れたいという気持ちですか。

G：はい。ロシアもテレビで見てから、あ！ロシア行ってみたいな～と思って、文学読んだりとかして。

Q：イギリスとかアメリカじゃなくて、

G：たぶん、それもロシア好きですというのは少ないから、たぶんそうなんですけど、人が言っているロシアのイメージと自分が持っているロシアのイメージが違うから余計にもっとロシアを知りたいなという気持ちで、第 2 言語でロシア語を取ったりとか、後は、友達がドイツ人なので、今はドイツ語のカフェ行ったりとか、後は、ウズベキスタン人の友達がいるとまたロシア語勉強しようかとなったりするんで、本当に私うろうろしているんだと思うんですけど、大学で、毎日ほぼ留学生と会ってて、大好きです。知らないことが好きなので、なんか、本当深く、ああ、浅く広くっていう感じなんですけど、いろんなことが知りたくて、そうなんですよ。

Q：その意味で韓流もはまったという感じですか。

G：韓流はたぶん、ただ好きだった(笑)本当にルックスとかも完全にただ格好いいという感じで、好きなんですけど。

Q：K-Pop とか聴いて、見て韓国の文化だということを最初から分かりました？

G：あ～、あの、なんか、外国というイメージはあまりなかった。韓国に関しては元々BoAちゃん、好きだったんですけど、小学校ぐらいの時、その時って日本の方と外国の方、なんか日本人とアメリカ人としか、あまり分かってなくて、アジア人はみんなその BoA ちゃんだ、浜崎あゆみだという感じだったので、あまり区別できてなくて、家にも韓国、お父さんが韓国語を大学の時に専攻していたのもあって、

Q：え？本当ですか。

G：そうなんですよ。それもあって、韓国人と中国人の留学生が家に来たりもしてたんですね。そんなにアジア人にこの人はこの国の人だとかの先入観もたぶんなかったの、あ、BoA ちゃんの曲いいなという感じで、ドラマとかも見ても見ててから、あ、面白いな、あ、韓国のドラマかなみたいなの、そういう外国のものだという認識が自分の中にあまりないような気がします。

Q：そうですね。特にそういうことが気になったりとかはしてなかった。

G：そんなに気にしてない…

Q：今、お父さんは韓国語活かせてるんですか。

G: 今は、今喋れないですけど…

Q: 40 年ぐらい前に韓国語専攻するって珍しくないですか。

G: 本当は全然韓国に興味なかったみたいですけど、ホッケで、お父さん高校の時に全国に行行って、大学も引き抜いてもらったんですけど、どこかに所属しなきゃいけないくて、それで入試の時に、韓国語どうだって言われて、あ、じゃそうするみたいな感じで (笑)

Q: そうだったんですね。当時は、韓国語学というのも少なかったと思うんですけど。

G: すごく少なかったと思います。縁があったのかなと (笑)

Q: そういう家庭環境もあって、韓国とか、近く感じていたんですか。

G: たぶん、元々遠くない、どうですかね。でも前は、別に韓国人の留学生が来てた時、小学生とかの時、そんなに興味なくて、へえ～来てる、何々ちゃんだ～みたいな感じだったんですけど、最近韓国人の友達に会うと、あ！韓国の子に会えたという喜びができてから、最初とは大衆文化に接したことによって韓国への理解というか、もっと理解したいなという思いは強まったという感じです。本当に行きたいという気持ちも本当に増しました。

Q: 特に韓国に行きたいという思う理由はなんですか。

G: 料理が好きとか、後韓流も好きだし、後ファッションも好き、後。友達が…結構韓国人が多いのでその子に会いたいな、そういう…

Q: あ！韓国に友達いますか。

G: はい。向こうにいます。

Q: それは韓流に接してからの方が強いんですか。

G: そうですね。強いんですね。近く感じます。後、話題があるから、友達との、何々の音楽今聴いてるよ～とかそういう話ができるので、普通に。

Q: そういう人って多い感じですか。

G: 友達に？あ～高校の時は日本人しかいない学校で、そんなにみんな全然興味ないので、二人でしかしゃべらなかったのが辛かったですね。しかも方面がちょっとズレてて違ったので、ちょっと話したいけど、あの子はたぶん違いの見ているだろうなというのがあって、高校の時はやっぱり少なかったです。

Q: 自分が K-Pop 好きであることを、周りに言えない感じですか。

G: 言えるけど、たぶん誰も知らないんで、話が広がらない感じです。たぶん、あ～そうなんだ～みたいな感じで終わっちゃうみたい。いまは本当、自分でコンサートにも行けるし、友達もできたし、あと外国の、大学の中で韓国人にも会えるから、それで広がってるなと思います。後、SNS も使えるので、今は。高校の時は、なんか、そんなにまだスマホじゃなかったんで、ネットも使えないし、Facebook とかもなかったんで、全然あれですけど、今は、LINE と Facebook と前までは Twitter やってたんですけど、今はちょっとケータイ壊れちゃったので、ケータイ壊れちゃってからは Twitter やってないです。LINE は友達とグループで話したり…

Q: SNS で会ったことのない、知らない人たちと話しますか。

G: あ、は、しないです。

Q: どういうふうに見ている感じですか。

G: 家に帰ったら動画見たり、あとはずっと音楽流してたり、

Q: 動画は主に YouTube で見えますか。

G: そうですね。YouTube です。チャンネル登録したもの、たぶん、東方神起ばかりだと思

います。東方神起とたまに Super Junior、あと、少女時代、好きです。あ、私、顔と名前ずっと覚えられなくて、(笑)ただ、聴いてるので、少女時代と、あと、基本女の人は可愛い人よりきれいな人が好きなので、アイドルよりも女優さんが好きで、チョ・ユミさんとか、大好きで、あとユン・ソンハちゃんは本当にテレビで見て録画したりして見てます。ドラマも結構見てます。

Q：韓国ドラマって結構長いじゃないですか。長いからやめようというふうにはならないですか。

G：あ〜そうですね。好きな子が出てると見る。でもなんか、内容が難しくて、そんなに好きでもなかったら見ない。まずはユチョンとかが出てたり、そのきれいな女の人が出てたりすると見るんですけど、

Q：バラエティは見るんですか。

G：バラエティは、なんか、日本であまり流れないので、YouTube で流れてたら見るんですけど、自分の好きな人が出なかったら見ない。アイドルとか女優さんとかが出れば見る感じ。

Q：家で見たりするとやっぱり他の人も見たりする傾向がありますか。

G：お母さんは見ます。一緒に見たり話したり、あ〜面白いってなって、お母さんも一緒に、お父さんも韓国語がちょっと分かるので、その人自体に興味はなくても、韓国語一生懸命に聴いてます。で、字幕見てオォ〜って(笑)お父さんも一緒に見ます。一緒に、ドラマ借りてきてもお父さんも一緒に見ます。

Q：韓流を楽しむことで、自分の生活が変わったというのがありますか？

G：あ〜だいぶ、楽しくなりました。なんか、もしちょっと落ち込んでも、まあ、いいや、聴こう〜と、現実逃避かもしれないですけど、楽しいことがあるから、あとなんか、やっぱり頑張っている人が多いので、東方神起も今も軍隊の様子とかも見てるし、もっと私より辛い人がいるなと見て、私ももう少し頑張ろうと思うので。

Q：それは自分のなかで見て終わる感じですか。それとも友達と？

G：友達は、あ、そうなんだ〜みたいな感じなので、あまり友達には喋らない。好きな人には喋りますが、友達にはこれいいよ！と勧めますが、でも興味なさそうにしたらもう、一回ぐらいしか、進めないです。

Q：興味ある人とはどうでしょう？

G：どんどんしゃべります。

Q：それで韓国語もその一環ですか。

G：最初は興味だけで、韓国語とっていいのかよく分からなかったんですけど、自分の中に迷いがあって、ただ東方神起が好きっていうだけだったので、そうじゃなくて、ドイツにこの夏に行った時に、すごいあっちの、ドイツ語も全然喋れなくて、でもドイツにいる韓国の子たちがすごい優しくしてくれて、韓国の女の子が10人ぐらい来て、その中に入れてもらってで、よく、で、やっぱりヨーロッパ人の人とアジア人の子がいて、よく通じやすい部分が、いろんな身振り手振りでもやっぱりアジア人の方が分かり合えやすくて、それから、あ!もっとその子としゃべりたくて、あ、やっぱり K-Pop も好きだったけど、この子たちのためというか、話したいから、韓国語始めてみよう〜と思って、それから先生にお願いして、後期から授業とらせてもらえますかってお願いして、今から、本当は前期から始まっている授業なんですけど、その遅れてる分を自分で必死にやって、今こういうふうなので、ちょっと入れてもらっていいですか？お願いして、はい。入れてもらいました。

Q：そうだったんですね。きっかけが特に韓流だからというわけではなくて、いろんなところから広がったという感じですか。

G：友達から、韓流によって広がった子もいますし、別に全然関係なく、韓国の子とは結構仲良くなることが多くて、男の子とかもよく、それで、自然と、あ！韓国語やったらこの子とよく喋れるなって、この子というよりいろんな子と。

Q：韓流に興味なかったらそこまでも行ったと思いますか。

G：そしたら、たぶん、いろんな言語に行ってたかもしれないです。ドイツ語も見てたので、でもやっぱり韓国語先にやろうと思ったのは、影響しているかもしれないですね。

韓国語をやるとドラマも分かるし、全然、本当にそうだと思います。本当は K-Pop だけの理由でやろうと思ったんですけど、なんかアカデミックじゃないって心の中で思っちゃって、分かんないですけど、それで友達もいるし、やっぱりやろう！そういう感じです。でも、たぶん、K-Pop が強いと思います。

Q：韓流が好きになることで、周りの方もご自身が好きだということを知ってたと思うんですけど、その時の反応はどういう感じですか。

G：反応は、いろいろですね。やっぱり。あ、また韓国ね～というぐりで言われるのはちょっと分かりますけど、なんとなく、でもなんか、寂しいな～という感じです。一回見てから判断したらいいけど、やっぱり日本人の中には韓国のことよく思っていない人も多いので、実際に見て欲しいなと思います。高校時代の時が多いかもしれないです。その子と浸りで話していると、何話しているの？あ、東方神起か、そうか、また韓国のグループね！みたいな、感じで言われると、うんうん。

Q：そう言われたのは、アイドルじゃなくて、韓国のグループだからですか。

G：あ～～アイドルというのものもあるかもしれないですね。

うん、(韓国のアイドルだからというのもの) たぶんあります。男の子にはそんなに話してないですけど、別に男の子はそういう感じの時に別に加わってこないですし、女の子は、なんか、へえ～？みたいな、興味ないよ～みたいな。

Q：世間的にはどうですか。受け入れやすい感じですか。自分で接してみても。

G：受け入れにくいところもあるかもしれないです。まだ残っていると思います。うん。そうですね。なんか、アメリカのグループはよくて、アジアのグループは、中国のグループとかでも、なんか、え？中国のグループなの？みたいなのは、やっぱりある気がするので、そこはちょっと悲しいなと思います。

Q：ニュースとかは見ますか？

G：見ます。

Q：最近の韓国に関するニュースを見るとどうですか。いいニュースが多いと思いますか。悪いニュースが多いと思いますか。

G：ちょっとはマシになっているような感じですね。朴槿恵さんと安倍さんが会談するとか言ってたので、でも実際に私が韓国に 2、3 回行ってるんですけど、別に普通に行ける、行きます。普通にいいし、ドイツで会った韓国人、なんか、一人反日の人がいたと聞いたんですけど、私直接会ってなくて、でもあった子全員、あの、私が直接会った子はみんな日本のこと好きって言うてくれて、たぶんドイツに行ってるから、余計にいろんな視野持ってる子たちなのであれなんですけど、私に日本好きって言うてくれるし、私も韓国大好きだし、それはそれでよかったんです。今チューターもチュティングの子も韓国人で、それで結構話してるんですけど、でも、政治的な話にはひびこめないんですけど、でも人と

していい子が多いから私的には政治と興味とは一緒にしてほしくないなと思います。あと、ネットの書き込みとかも、たまに見えちゃう、東方神起のやつとか見るとたまに見えちゃんですけど、あ、この人ちょっと、もうちょっと（笑）

Q：この人ちょっと、と思う中に、男女の差とかは感じますか。

G：どうなんですかね。女の方は結構受容できてると思うんですけど、男の人の中には私たちの年ぐらいになるとあまり、そういう人少ない、反対する人も別に日本に愛国心持っている人いないので（笑）だから余計に別に少ないと思うんですけど、

Q：ネットで見るとどうでしょう～

G：男の人が多い。この大学だとあまりないんじゃないかな～と思って、この学校、結構外国の方が多いので、そんなにみんなグローバルな意識は持ってるから。

Q：ニュースでそういうの流れてることに影響されることはありませんか。

G：関係ない、関係ないというか、私の研究テーマでもあって、結構そういうのが、なので、ちょっと変えて行きたいなというのが、文化から。専門がヨーロッパ経済なんですけど、もともとはその歴史から通してどうしたら今の時代が変わっていくのかというのがしたいので、なんていうんですかね。まだ 3 年生なのでそんなにやってないんですけど、でも日本と韓国の差も、どこですれ違ったのかなって、興味ありますね。同じ民族ですよ。もともとは中国も日本も韓国も、元は一緒なのに。なんで～私 ASEAN にも入ってるので、そうなんです。経済学部の ASEAN に入ってる、だからあまり、結構授業も韓国人の子と一緒に受けてるので、なんでこんなに分かり合えるのに、仲いいのに、政治上では韓国、日本って分けられなきゃいけないんだろうとすごい強く思います。

Q：フジテレビのデモでドラマがなくなったり、

G：私的にはショックですね。なんかそれも、なんというんですかね。日本ってアメリカの結びつきが結構強い、私はあまりよく思っていない人で、そういうアメリカ人はするのに、他の中国や韓国、他のアジアをなんっていうんですか？ちょっと下に見てるというか、あまり対等に見ようとしなくていいところは、なんか日本のよくない、日本の政府のよくないところだと、まあいろんな想いがあるんでしょうけど、嫌ですね。正直。もうちょっと広い視野を持つべきだと思います。

Q：受容する側としてはどうですか？

G：ちょっとやりづらい。なんか、おっ広げに、あ！東方神起のところ行ってくるよ～みたいなことは、なんか、やっぱ仲いい友達には言えるけど、なんか韓国とか中国とかよく思っていない友達にはそんなに言わないかな～って。

Q：では、韓国とのニュースに関して、周り人の反応はどうでしたか？

G：うちの家族は割とワールドピースみたいな、世界の平和が好きな家族なので、ちょっと特殊なんですけど、うちの家族はなんで和解できないんだろうねって言ってる、韓国への理解がすごくあると思います。

Q：分かりました。ありがとうございます。これから、歴史問題について少し触れたいと思うんですけど、今話題となっている慰安婦問題についてですが、聞いたことがありますか。

G：はい、

Q：色々両国の意見も違うし、被害者というおばあさんたちの主張とかも含めて、なんか意見があればお聞きしたいんですけど。

G：私が日本人の立場から考えると、やっぱり昔日本人がしてしまったことって本当に卑劣だったと思うので、やっぱりそのところは謝っちゃおうとやっぱり日本政府として弱みになっ

ちゃうから、謝っていいのかよく分からないですけど、少しは謝罪すべきかな～と思いますし。でも、なんですかね、だから彼女たちがその傷を受けたことで謝って欲しいなら謝るべきだし、でも、それになんらかの他に、付与するもの？があれば？違う。例えば、その本当に芯から傷ついて謝って欲しいという人もいれば、たぶん、政府から何か言われてこういうふうじゃないか～みたいな。で、日本に謝らせるように仕向けるようにする人がいて、そういう行動とってるのはよくないと思いますね。だからお金とか絡むんだったら、ちょっと違うと思うんですけど。

Q：そうですね。そこに被害にあったと主張している人たちの話が事実であるなら、日本側が聞いてあげるべきだということですか。

G：うん、ちゃんと聞くべきだし、謝る、うん…謝るのもなんか、なんていうかな、今の政府がやったわけじゃなくて、昔の人がやったわけなので、それ言い出したらたぶん、きりがなくなっちゃうんですよね。アメリカに原爆落とされたこととかも、そうなるとなんか、上下関係が出てきちゃうからちょっと違うかなと思うんですけど、でも、本当に傷ついた人がいるなら、誰かしら代表で謝るべきだなとは思いますが。直接国とかじゃなくて、直接行って、その中で、小さいコミュニティで話し合うべきだなと思います。

Q：そうですね。はい、分かりました。ありがとうございます。

じゃ、今後の日韓関係のために文化も一つのツールとして交流が活発に出てくる良いものだと思うんですけど、この歴史的問題、領土問題、教科書とかそういうのも解決しないと、これって上手くいくと思いますか。

G：やっぱり解決すべきですよ。

Q：そうですね。そのためにはどういうふうにするべきだと思いますか。

G：私はなんか将来的に外交とか、いや本当に何十年後とかになっちゃうと思うんですけど、そういうのに興味があって、だからロシアも日本ともめてるところがあったので、ロシアも勉強したりとか、いろんな国を勉強したりしてるんですけど。うん、なんか話し合う場を設けるのもありかなって思って、お互いにやっぱりテレビだけしか見てないと洗脳されやすいに人もいますし、まあ、分かっている人もいると思うんですけど、洗脳されやすい人が洗脳されてなんか強くなっちゃうのは良くないことだと思うんで、お互いにもうちょっと話し合うきっかけがあれば、なんか、なんて言うんですかね、対談レベルで話し合われてもなんも影響ないので、市民レベルでもうちょっと話し合える機会があればな～ってふうに思うんですけど。

Q：そうですね。ありがとうございます。はい。ご自身の政治的性向というのはどちらでもないという感じですか。

G：どちらでもない。保守的か革新的かですよ。どっちですかね。

Q：今の政権についてはどう思いますか。

G：政権には、え～、う～ん。

Q：満足？

G：好きではないですけど、ただ、革新が起きるのもちょっと怖い部分があるので、どこの党になるのかにもよりますね。

Q：あ～そうですね。

G：なんか新しいちょっとやばい、やばいというか、ちょっと酷い人が出てきたら嫌ですけど、だったら今の自民党のまますっと来たので、自民党のままだ方がいいと思いますけど。

Q：例えば、消費税が上がるとか、憲法変えるとか。

G：あー、憲法変えるのはちょっと反対ですけどね

Q：弟？お兄ちゃん？

G：あつ、お兄ちゃん。

Q：お兄ちゃん。軍隊に行く可能性も考えられるんですね。

G：嫌です、やっぱり。

Q：そうですね、その話したりしますか？

G：あつ、私もそのなんかチャンミンとかが今行ってるので、なんか、本当戦争ずっと起きないでねってお母さんと言ってて、で、なんかやっぱ日本もそうなったらお兄ちゃんも行かないといけないし、後世に残る子たちがみんな行かないといけないのは、うん、良くないと思うので、そう考えると、憲法改正していくと、どんどんその流れになっちゃうのは嫌だな～と思います。

Q：韓国は軍隊に今行っているんですね。

G：そう、行ってますね。え？だったら首相行けよ、みたいな（笑）思っちゃう。声明出した人が行くべきでしょうというのが私の想いなんですけど。

Q：うん、そういうところは。

G：なりますね（笑）

Q：分かりました。ありがとうございます。

では、今の生活について聞きたいと思うんですけど、満足していますか。

G：毎日楽しいので（笑）

Q：あ、本当ですか。どういうことがですか。

G：今、韓国の友達に会いに行ったり、今から韓国人の子に会いに行くんですけど、

Q：あーそうなんですね。大丈夫ですか。

G：はい。大丈夫です。急に決まったんで。色んな国の子に会える機会がすごく多くて、それが私の中ではすごく楽しくて、ですね。なんか、自分、個人としては満足しているんですけど、社会に目を向けてみると、そうじゃない。個人は楽しいけど、そうじゃない社会問題をみると、あ、このままじゃダメだな～と思うので、満足、全体的な思考でみると満足はしてないのかもしれないですね。

Q：社会問題も気になったりしますか。

G：そうですね。専門が経済なので、一応社会、経済も見るんですけど（笑）そうですね。たぶん日本が、今世界の中で3位じゃないですか。でも、どんどん下がって行くと思うので、これから。それに関して、やっぱり、うーん～もう、需要もないですし、日本だけでは、でも、なんか、アジアの国々も自分自身で自立しているから、日本が別に多国籍企業として入っていく場も徐々に減って行くと思うので、もうちょっと新たな作戦を練るべきだなと思いますね（笑）

Q：今の競争世界挑戦していかないと、大変ですよ。

G：そうですね。

Q：次の、生活に不安は？これは先の質問と同じ感じですか。

G：まあ、そうですね。

Q：就職はどうですか？大学院に行きますか。

G：韓国に留学できるかちょっと分からなくて、でも、ちょっと英語はあまり得意じゃないので、スコアが足りなかったらできないですけど、っていうのがあって。

Q: 韓国に留学というのは?

G: そう、韓国留学考えてて、やっぱり私も韓国好きなのに、やっぱり日本と溝が埋まらないことがなんか、不思議に思ってた、現地に行って色んな人と関わりたいなと思っているので、韓国行きたいですけど (笑)

Q: そうなんですね。その方向も考えているということですね。

G: はい。一応あります。まあ、不安に思っていない?と言われたら、全然まだ決まってないので、思わないといけないと思うんですけど、でもなんとかなるんじゃないかな~と思っているので (笑) まあまあ。

Q: じゃ、国に誇りを思っているかについてですが、じゃ、日本に生まれてよかったと思いますか。

G: あ、それはめっちゃ思います。なんか色んなことを受容できたのは日本だからと思って、昨日もそういうの喋ってて、友達結婚式に行ったんですけど、友達キリスト教じゃないのに、キリスト教の教会で挙げてて (笑) それについて、え?なんで?みたいになって、それは日本人だから、日本人はある意味、流されやすいことも悪いことですけど、色んなこと受容できるのも日本人らしいし、私は、結構、そういうなんでも受容できちゃうので、そういう日本という環境で生まれたから私も、なんか、受容できたのかなと思うので、生まれてよかったな~と。まあ、経済水準も悪くはないので、よかったな~。

Q: そうですね。その日本のために役に立って行きたいと思いますか。

G: そうですね。日本のためというより、アジア。

Q: あ、アジアに興味あるんですか。

G: 全世界 (笑)

Q: あ! (笑) 全世界!

G: そうですね。元々、ロシアに興味あったんですけど、今はアジアにも興味あるし、うん、なんか、アメリカには興味がないのはちょっと、自分の中でもよく分からないんですけど、たぶん、日本がアメリカ好きすぎるのが、ちょっと、なんか、変だな~と思ってるからだと思いますけど。

Q: いいことだと思います。分かる気がします。みんながアメリカ好きという中で、

G: ちょっと、人と、たぶん、あれですよ。アメリカ好きというの考えると、うん、政府に影響されてるのかな~と、なんか、それは嫌で、アメリカに自分がいて、何かを得てアメリカが好きなのであればいいんですけど、まあ、そういう経験もいつかしたいなとは思っています。

Q: 分かりました。ありがとうございます。最後に、韓国に行ってよかったと思いましたが?

G: よかったです! 思いました。やっぱり自分の中に韓国に憧れがあったので、それで行ってよかったな~と思ったのと、あと、日本人に対しても優しくかったですし、それもよかったです。

Q: それも今の留学したいという気持ちに影響したんですかね。

G: 影響してると思います。

Q: 一人で行きましたか?

G: 1 回目は一人、じゃない、家族、お父さんと一緒に行って、2 回目は行ったうちに入らないですけど、ドイツから帰ってくるときに、トランジットレーン 7 時間ぐらいあったので、韓国まわって、市内ちょっと行って見て、まあ、少しの時間だったんですけど、道迷ったらお兄さんが助けてくれて (笑) おじさんが、あっちのバスだよ! って教えてくれ

て、それで、あ！やっぱり来て良かったな～と思いました。

Q：そういうことがあったんですね。分かりました。質問は以上です。ありがとうございました。

【対象者 H】

Q：宜しくをお願いします。一番最初に韓国の大衆文化に接したのはなんですか？

H：日本の『美しき隣人』という仲間由紀恵さん主人のドラマのあのエンディングが why? Keep your head down という曲だったんですよ。それを始めて聴いて、それまで東方神起知ってたんですけど、そんなに好きじゃなくて、その時に始めて聴いて格好よすぎて、その時に YouTube で聴いてみたらものすごく格好よかったので、そこから好きになりました。

Q：じゃ、それに会ったことで？

H：だから二人になってからの方がはまったという感じですかね。

Q：5人の時も知ってはいたけど、

H：そうですね。ちょっと歌ってたぐらいで、母が若干好きだったので、ボレロとかちょっと懐かしい感じの。

Q：お母さんはずっとはまっていたことに対して、どう思いました？

H：そうですね。ちょっとじゃ、一緒に歌ってあげようか？くらいな感じで、そんなにかつくりはまってはなかったですね。

Q：なんで？

H：最初に韓国というか韓流が来た時に、ベ・ヨンジュンとかがヨン様みたいな感じで、なんかおばさま好きなものだ、みたいな感じで日本で印象付けられたので、なんか入っちゃ行けないっていうか、日本は同じことしなきゃ行けないみたいな、そういうのあるじゃないですか。なんで、その感じで、自分もなんか、そこ行っちゃ行けないかなみたいな、周りもなんというか、韓国が入ってきたばかりでそんなにいいイメージじゃないというか、

Q：どんなイメージですか。

H：なんていうんですかね。なんか、お父さんが結構出張で行ったりとか、韓国に旅行行ったりとか、してたんですけど、その時に結構食べるものがないとか、人が合わないとかそういう話をしてたので、あ、韓国はアメリカとか欧米とかと比べて、そんなに心地よくないのかなみたいな、それは父の一人称の話なんですけど、で、それを聞いてたのもあり、メディアとか、ちょっと汚いじゃないですけど、そういうイメージもあったので、なんとなく。

Q：お父さんはそんなに好きではなかったんですね。お母さんが好きになっているのを見て、なんか言われたりしてなかったんですか。

H：そうですね。なんか、結構、寝ずに DVD 見てたりとか、してたので、大丈夫～みたいな、距離を置くような時期もありましたけど、

Q：何も言わずにやりたいならやりなよ～みたいな。

H：そうですね。

Q：自分はどうですか。

H：自分がちょうど、はまらなかった時はまだ小学校 5 年生だったんですけど、小学校のス

クラム集会で、男子がベ・ヨンジュンの役をして、冬ソナをやるみたいなのもあったりとかして、一応、小学生の中でもヨン様はブームだったんで、ちょっと大笑い形になっちゃってますけど、うちのお母さんもその冬ソナのブームよりはちょっと遅れてますけど、その後、(お母さんから)小6の時に、ピアノで『冬ソナ』弾いてくれない?みたいなこと頼まれて、ポップカルチャーに触れるのもいいかなと思って実際弾いたんですけど(笑)意味も分からず歌ってました、あの歌詞(笑)お母さんはなんか、泣けてくるわ〜って言ってました。別に感動じゃないですけど、お母さんが喜んでくれたなら、いいかなみたいな

Q: そこらへんから、少しずつ韓国への興味みたいなのが広がったという感じですか。

H: そうですね。別に下がることはなくて、そのままこういう感じで、ずっと継続的で続いてて、東方神起に来て、フォ〜〜って(笑)感じですね。

Q: その時って、何が一番変わったと思いますか。

H: そうですね。なんか、それまでは東方神起ではまる前に一回韓国に行ってるんですけど、ちょうどロッテのDUTY FREEの宣伝が5人だったんですよね。ちょうど喧嘩別れする前だったんですけど、その時高2か高1ぐらいで、全然興味なくて、お母さんは、東方神起だ〜って言って、一緒に写真撮って!て言って、お父さんともいったんですけど、家族で行ったんですけど、撮って!て言われてお母さん一人対東方神起5人で撮ったんですけど、それで、お母さんが、せっかく来たんだよ〜東方神起だよ〜撮らなくていいの?って言われて、いや、いいよ、いいよっていうのをはまってから思い出して、デジカメで撮った写真見てて、あ〜お母さんしか移ってないねって思って、その時ちょっとかなり後悔しました(笑)

Q: ドラマも見ている感じですか。

H: 今も。

Q: ドラマに触れだしたのはどのぐらいの時期ですか。

H: ちょうどお母さんが帰ってくる時間と私が帰ってくる時間が重なるので、テレビを私も見たいんですけど、韓国ドラマを見ているために見れないですよ。チャンネル変えると怒られるんで、見るしかないかと思って見るみたいな、なのになぜかはまるみたいな(笑)

Q: はまる理由は?

H: 日本で放映されてるのをそのまま見る感じですけど、日本のドラマを見るよりももうちょっと関心高い感じです。特に恋愛ドラマとか見ると、エイ!とかなるんで(笑)

Q: 今となっては日本のドラマみるよりも絶対韓国ドラマ見た方が楽しい?

H: そうですね。ストレートで臭い台詞を言うのが面白くて(笑)そういう表現が日本のドラマにはないので、ちょっと隠しながら見る、ちょっとこれ19禁以上でしょう〜25禁でしょう〜、みたいな(笑)

Q: でも見たいですか?

H: はい。

Q: 今ほぼ毎日接していて、10時間?

H: 一日えーと、どうですかね。大体平日にドラマやってるじゃないですか。見る時あれば1時間見てて、音楽聴いて1時間みたいな感じです。

Q: 特にニュースとかバラエティとか見るのはないですか。

H: あ〜ウリギョロンヘッソヨとか伯父さんが出てきて、草薨剛も出てきた時ある番組と普通に音楽番組とか…

Q: M-net引いたりとか、そういう回線契約は家でしてないですか。

H：大体 YouTube で見るんですけど…

Q：ドラマは？

H：ドラマは普通にテレビで見てる。

Q：今一押しのアイドルが？

H：1 押しが GOT7 で 2 押しが FTsland です。

Q：コンサートとかファンミーティングとかでのエピソードってありますか。

H：それが、FTsland のですけど、去年のですけど、今年 3 回目なんですけど、2 回目行った時はちょっと 1 回目始めて行ったのより近かったので、ジョンフンが超見えたんですよ。なんか、ジョンフンの映像通してるとやっぱりジェジンが光るんですけど（笑）ライブだとジョンフンが格好いいんですよ。本当に！っていうのが知れて、ちょっとびっくりみたいな。結構遠いんですけど、2 階席なんで、それでも結構見えてたんで、ちょっと拡大しててっていうのもあるじゃないですか。その時に感動しました。下からギターをぶっと上げる瞬間がぐっと来ました。

Q：どこが好きですか。

H：まずバンドということですね。で、チーム内が仲良くて、ホンギがなくても成り立つんですけど、でも、ホンギがいなくて花がないみたいな感じです。ホンギがいなくて、他のメンバーでも全然歌えるので、成り立つんですけど、ホンギの面白さとかがあって、ジョンフンの突っ込みもあり、ジェジンのこうちょっと幼いところがあり、それぞれのキャラクターがあるので、ちゃんと役割分担というのがあるので、っていうのもあるし、また年々うまくなってる感じが分かるというのもいいですね。

Q：日本もバンドミュージックあるじゃないですか。なのに、彼らを追う理由はなんですか。

H：あ！一番、全体で言えると思うんですけど、ファンに対しての愛の表し方というのが、日本はただ単に口下手だけかも知れないんですけど、本当に感じるという、韓国のファンに対して、そういうのがありますかね。一々感謝するじゃないですか、韓国のアイドルは、それが素晴らしいといつも思うんですよ！で、ファンに対しては当たり前だと思うんですけど、それをきちんと伝えてくれるところがいいところであると思います。後、flumpool 行ったことあるんですけど、友達に誘われて、南山の学際？かなんかであって、来たんですよ。で、行ったんですけど、曲知らないのもあるんですけど、全然感動しなくて、なんか、その喋ってることも、あ～～みたいな、普通の大学生が喋ることじゃん、そう思っちゃって、そうですね。考えてくると普通に喋るのと違うと思うんですけど、ちょっと違うかな～と思って。

Q：感謝とか愛を伝えるとかそういうのって、東方神起はまる前？その前にだれが好きだったりました？

H：ないですね。特別にこの人だ！みたいなのがなかったので、さっきの『Music Bank（韓国の音楽番組）』でも最後バン！てなって、その後に 1 位になつたりすると EXO とかもそうなんですけど、見てる皆さん、ファンの皆さん！って言って泣くじゃないですか。それ見ると自分も泣いちゃうみたいな（笑）なんで、あれ素晴らしいみたいな、ライブじゃなくてもメディアからでも分かるという感じですかね。

Q：分かりました。じゃ、韓流楽しむことで自分の生活が変わったとかありますか。

H：高校の時はブームが来てたので、5 年～6 年ぐらい前にブーム来てたじゃないですか。なんで、その時に、でも少数派だったんで、K-Pop だと、だから高校の時はそんなに友達に変化なくて、大学に来たら、やっぱり交流文化というのがあるって、韓国に対してそんなに悪

いというか、いいイメージの子が多くて、言いやすいというか雰囲気的に…

Q：高校の時に周りに好きな子っていました？

H：はい。いましたけど、

Q：少数派だったんですか？

H：そうですね。

Q：あまり大きい声で話せないみたいな感じですか。

H：う〜ん、そうですね。なんかジャニオタの方が多いですかね。

Q：それって男の子はどうですか。ジャニーズの話をしてる女の子がいる。一方でK-Pop の話をしてる女の子がいるっていうのに対する周りの反応は変わりますか。

H：え〜なんかジャニオタは、またかよ！っていう感じですけど、K-Pop は全然分かんないから、あ！少女時代きれいだね〜ぐらいな感じです。本当に触れないというか、触れないという感じです。でも、本当に少女時代の gee(曲)とか真似するじゃないですか。真似って普通おアイドルのように遊ぶとかそういう感じだったんで、あの人の名前はとか全然分かんないけど、まあ、可愛い人たちだね〜みたいな感じで喋ってました。

Q：特別に嫌がれることはない感じですか。

H：そうですね。

Q：男の中で少女時代めっちゃめっちゃ好きって言う子いました？

H：めっちゃめっちゃ好きはいないですけど、あの金髪の子可愛いね〜みたいな子はいましたね。でも、そこで終わってました。

Q：高校から大学になってある意味マジョリティに移った感じですか。

H：あ！はい！だいぶ。自由にK-Pop について喋れるとこですかね。なんか、大学でももちろん知れない子もいるし、韓国について全然興味ない子もいますけど、それに対して寛容というか、その別に、なにが韓国よみたいな子は全然いなくて、あ！そうなんだ〜みたいなちゃんと聞いてくれるというか。

Q：高校の時、単純に興味がないで終わってたから、

H：あ、そうなんだって終わってましたから

Q：その反応の違いに男女差がありますか。

H：大学は、私が取る授業が女性が多いのかよく分かりませんが、100 人ぐらいいても男子が 5 人とかなんで、あまり接する機会がなくて、交流文化でも 9 割女子でっていう感じで、女の子は部活とかで交流ありますが、男の子は接する機会がありませんね。授業の隣にいて、ちょっとこれどうなのよ、ぐらい喋る程度なので…

Q：コンサートの時とかに感じる男女比率の差というのはやっぱり女の子が多い感じですか。

H：そうですね。

Q：年代はどうですか。

H：二つ FTsland と GOT7 のライブしか行ったことないですけど、FTsland は結構幅広くて、『イケメンですね』のおかげなのか、おばさんとかお祖母さんまでいて、本当にしわしわの今にも倒れそうな（笑）本当にライブ始まったら笑顔になって、両手にライトを付けてるんですよ。今年は LED のオオッチみたいなのがあったんで、両手に付けてるのを後ろから見てたんですけど…

Q：自分もその年まで追って行きたいですか。

H：どうなんですかね。彼氏もないのもあって、一瞬のときめきみたいなものなので、落ち着くまでは応援しようかなみたいな、ちょっと落ち着いて子供も 3 歳とか預けれるよう

になったら復活しようかな、それまで変わらないでください、結婚しないでくださいみたいな（笑）

Q：韓国とか韓国人に対するイメージって変わるものというのがそこにありましたか？

H：そうですね。最初は窮屈というか、冷たいイメージだったんですけど、韓国の人に対して、父も男の人というのがありますけど、押し売りじゃないですけど、あるじゃないですか市場とか行くと、だからあまりいいイメージなかったらしいんですけど、だから父はあまりその時と変わってないらしいんですけど、私は K-Pop を通して旅行とか行って現地の人とも触れたりしたんで、全然違うじゃんと思いました。

Q：それはいいふうにですか。

H：はい。

Q：一番変わったポイントありますか。

H：その行った時に市場の人がめっちゃ優しくて、女性のおばさんなんですけど、日本語分からない割に親切にしてくれて、これまけてあげるね～みたいな（笑）あ、それと一番印象に残ってるのが、おでんを始めて食べようとなって、その時に屋台の前に来た時にカップルがいて、ちょっとユノに似ている男の人で、そこで汁が付いて来るのを知らなくて、くしだけもらったんですよ。で、汁を自分でもらうらしいというのを知らなくて、そして、お兄さんが気付いてくれて、汁ももらえるんだよ～と、彼女いるのにわざわざ渡してくれて、もうそれに感動しちゃいました。ほれちゃいました。（笑）

Q：その経験を通していい側面がどんどん見えてきたということですね。

韓流好きになることで韓国の自治ニュースとか興味が出てきたとかありますか。

H：日本で報道されてるニュースはいつもテレビを見るので見るんですけど、前は、ふうん～っていう感じだったんですけど、今はえっ？なにになに？みたいな感じ（笑）で、興味や関心の高さが結構変わって、前抱いた、前よりも韓国に対しての距離が近くなったと自分の中で感じて、こう助けるじゃないですけど、分かって出来ることみたいな感じで考えるようになりました。

Q：日本のメディアで韓国や韓流について、韓流についての報道見た事ありますか。

H：最近、なんか減りましたね。前は、『めざましテレビ』とかですごいやってて、クレームみたいなのが来て、でも、前 Super Junior がライブやった時に一瞬、お客さんがこんだけ来ました～みたいな感じでやってたんで。

Q：どうでした？何で減ったと思いますか。

H：なんか、嫌韓の人が多いというか、日本人の中で K-Pop にはまらない人って私のこれまでの韓国に対する印象と一緒に思うんですよ。なので、そのまま嫌いじゃないですけど、あまりよく思っていない人がそのままきて、悪いニュースばかりとか見て、日本をやっぱり誇張して喋るじゃないですか。だからより嫌い度が増すというか。

Q：韓国についてのニュースで印象に残ってるのってありますか。

H：あ、えーと。なんだろう。あの、地下鉄の1年か2年前のソウルの事故あったじゃないですか。日本でももっとでかいサリンとかあるしみたいな思って（笑）なんか、その時はそこまでなにがなんだか分からなくてあまり報道されなかったみたいな感じだったんですけど、たぶんサリンの時に、なんか韓国というだけで不備が出てみたいな感じで、また来ましたよ！みたいな感じで日本が報道するのを見て、日本にもあるじゃんってなりますね。

Q：韓国について悪いニュースが多いような～

H: ありますね。

Q: ネット上ではどうですか。

H: たまに引っかかって来るのが海外通信みたいな、ありますよね。あれをたまにちょっと、さっきのじゃないですけど、ひっそり見ながら。具体的に覚えてなくて喋れないですけど、うん、でも、なんかお互いに自分の国が上みたいなの、そういうの持っているかなと思いますね。別に、もう、一緒にいいじゃんと思いますね。ネットで喋ってるだけで何にも出来ないのに何言ってるんだって、いつも思います。経済界なんちゃらという人ならいいですけどみたいな (笑)

Q: それに対して友達と喋ったりしますか。

H: ニュースについてはあまり喋らないですけど、韓流というか、K-Pop の減り具合については話したことがあります。

Q: この右寄りの人たちについても喋ることはない。

H: そうですね。出てこないですね。

Q: 韓国の歴史とかそういう話、喋りにくいところがあったりしますか。

H: どうですかね。喋ったことないんで、分からないですけど。

Q: 日本の政治について喋りますか。

H: うん…あ、日本の政治について喋るよりかはちょっと言いにくいところはあるかもしれないですね。

Q: それって言うのはもしかしたら自分が多数派の意見じゃない恐れがあるからですか。それとも…

H: そんな感じですかね。

Q: 日本の政治についてはあまり関係ないからですか。日本の政治について喋らない理由はなんですか。

H: え〜どうですかね。普通に喋りますかね。でも喋りますよね (笑)

Q: いや、私も学部の際は喋らないですけど、あまり話題に上らない?

H: そうですね。学部が学部というのもあるんですけど、私アメリカの、日米のジェンダーでゼミにいるのに、韓国が好きなんで、いっしょくなんです (笑)

Q: ゼミにいる時の話題としてそういうのが話題に上ることありますか。

H: 普通に教科書に沿って話すだけなんで…

Q: あ、はい。フジテレビデモについて覚えていますか。

H: いや、そんなに嫌いなのか、と思いました。そうですね。こんなにいるのかと思いました。ブームと言われてたのに、実際見たらあまり認知してないというか、

Q: 純粹にびっくりして自分の好きというのを控えようかなと思いました。

H: いや、それはないですけど。

Q: なんで嫌いなんだと思いますか。

H: デモもありますし、話しづらいというか、そういうものもあります。

Q: 嫌韓についてどう思いますか。

H: どうなんですかね。嫌韓、でも日本の男子って韓国好きじゃないですよ。

Q: あからさまに馬鹿にするような人いますか

H: はい。バイトの先輩とかで 2 人男の子いたんですけど、2 人とも年上で、2 つ上なんですけど、今社会人なんですけど、私がその K-Pop でなんちゃらって言ったりすると、あいつらのどこがいいの〜とか、ちょっと (韓国語) 喋ってみて〜とか、何がやりたいんだ、

みたいな、で、なにになにお勧めですよ～とか言うと、全然あいつらの意味が分からん！とか言いますし（笑）

Q：それは何を元にこの人たちが嫌ってるんだ、みたいなありますか。

H：知りたくないみたいな感じですかね。たぶん、自分が視野を広くすることが怖いとか、女の方は割とそういうのに寛容というか、広い心ですけど、男の人ってそういうのが狭いんじゃないですか。韓国だけじゃなくて、他のジャニーズとかもそうですけど、他の自分が興味ないところに行きたくないみたいな。

Q：最初から何で韓国のアイドルとか別にというと思いますか。

H：自分自身が格好いいとか憧れとかそういうスタイルじゃないんじゃないですかね。自分になりたい像にちょっと違うみたいな、たぶん。

Q：それは韓国人だからというのが少なからずあると思いますか。

H：そういう観点もありますし、韓国人だからというのも一理あるような気がします。

Q：国籍が違うからプラスジャニーズであれば、K-Pop アイドルに対して、彼らがもし知らないところがあるとすれば中性的なイメージを抱くことってあると思いますか。

H：（笑）中性的、どうですかね。整形とか、でも日本もしてるし、みたいな、でも日本の方が本当は多いようですね。

Q：バイトの先輩とか整形の話も言ったりとかしますか。

H：言います、言います。全然整形しないよって言います。GOT7 とかしないですよ。あり得ない（笑）

Q：ここからちょっと歴史問題について聞きたいですけど、一番気になるニュースってありますか。

H：うん、慰安婦問題と領土問題

Q：韓流にはまったことで、歴史についての関心が増えたりとかそういうこと自分で感じたりしますか。関連してこういうこと調べたとかってありますか。

H：あ～慰安婦はちょっと調べましたけど、でもなんか奥が深くて、なんか、本当の答えは導き出せないというか、出しづらいなと思ったんですけど、

Q：調べようと思った理由は

H：なんか、河村さんでしたっけ、名前が合ってるかどうか分かりですけど、その時の大臣とかが謝罪みたいなことをした時に、話したことをなんで言うんだという橋本さんの話の時に、結構前なんですかね、結構前に橋本さんが言った時に、あっ！てなって、調べました。

Q：その橋本さんの発言に対して、この人なんかおかしいこと言ってるんじゃないかなと思ったのか、あ！こういう意見もあるんだとか、何を感じました？

H：あ～なんか、私それまでは本当にこう、そういう謝罪みたいな形があるのを、何回か合ったのを知らなくて、だったんで、なんか、もう一回、謝ってもいいんじゃないかな～と思ったんですけど、その時は、でも調べたら何回かそういう機会があったのに、聞いてないというか、韓国の国民に対して分かるようにニュースで報道してないだけじゃないのかなと思って、だから、日本に対しても誤解が生まれるんじゃないかなと思ったんですよ。合ってるのかどうか分かりですけど。

Q：じゃ、さっき、日本のメディアについてマイナスのイメージがあるとおっしゃってたんですけど、同じく韓国もそういうふうになってるところがあるんじゃないかなと思うところがある。

H: はい。

Q: じゃ、慰安婦問題について詳しく聞いて行くんですけど、話題になっていることは知っていると、自分が一番気になっているところはそういうところで謝罪のあれってやってるんじゃないか〜なということの違和感?とどうしてそれが受け入れられてないのかなとちょっと調べたくなかったところが自分の中で気になりだした最初のポイントですか?

H: はい。

Q: その時に、この問題ってこうだなと感じたものって。

H: なんか、あの、韓国の上の方は割と日本になんか故意にされたということを誇張されてるんですけど、なんか、調べたら昔の日本のポストみたいなのが出てきて、募集してて、それに対して応募したという人もいるし、結構な報酬だったらしいので、それで普通に行っちゃった人もいて、で、その中で、今になって上の人がその、あまりよくないことをしていたみたいなきにになっているので、じゃ、私はまあ、本当は自分から行っただけ、まあ、されたことにしようという人もたぶん、いると思うんですよね。で、なんていうか、その、韓国は韓国で話してちゃんと意見をまとめた方がよろしいんじゃないかなと思いました。

Q: 韓国は韓国で事実が隠ぺいされているところがちょっとあるんじゃないかなと感じるし、日本は日本として報道の在り方として、もっと真実知りたいなという、自分でこういう風に調べなくても、もうちょっと正しい情報くれよというのは無きにしも非ずという。

H: そうですね。

Q: じゃ、さっき、報酬であれ、仕事としてじゃないですけど、ある意味いるし、まあ、強制で連れて行かれた人ももしかしたらいるかも知れないしみたいなどころもある中で、そういう被害にあったという意味で慰安婦の方々に、そこに対してなにか感情があれば。

H: それまでに、逃げれなかったんですかね。なんか、それしかなかったというのもありますけど、その生活していくために、というのもあるし、たぶんそうだと思うんですよ。たぶん、嫌だけど、本当は嫌だけど、まあ、行くしかないというのがあると思うんで、なんというか、自分の感情としては、全然知らない、韓国の慰安婦さんに対して調べる前は、ただ知らなくて、もう、ああ、そんなのあるんだと思って、韓国の主張ばかり見ていたので、ただごめんなさいばかりだったんですけど、自分の感情として、だったんですけど、調べたら、いろいろ出てきたので、対応策みたいな慰安婦の募集とか、強制に連れて行かれても、なんか、他に対策は…と思いました。もし対策できなかったのであれば、そのそれで、自分はどうしたかったのかという、その慰安婦の方の意見が聞けると一番いいと思いますけど、その、埋め込まれたら終わりなんですけど(笑)

Q: じゃ、ある意味で、被害にあったとされる人々に対する不信感じゃないですけど、そういうのもあり、その問題としては大きくなり過ぎてるからそうじゃないとしてももっと被害者の人の証言をもっとはっきりしてほしいなという意見が今は強い?

H: はい。

Q: 日本政府の対応として、もし強制であったとしたら、謝罪をすべきか、賠償金を払うべきか

H: もう、いいとも思います。やらなくて…

Q: もし、謝罪をしないことによってギクシャクしたものが残るというか、納得してもらえないというか、その場合に次は、日本政府はどういう対応をすべきかと思いますか。

H: なんか、その韓国の国民の方は知らないんですかね。日本が、昔に謝罪じゃないですけ

ど、したことを。

Q: そこまず、しっかり伝えるべきだと、もし知らないのであれば、そこは韓国側の責任としてそれを報道する義務があったのに、しなかったことに対して自分としてはおかしいんじゃないかなと。

H: そこはかなり思ってた、絶対してないでしょうと思ってて、絶対したのを知ってたら、そんなに言えないと思うんですよ。全然違う世代だけど、謝ってくれてるし、みたいなのは、日本に興味がある人は知っているんじゃないですか。だからそういうところをちゃんと伝えるべきだなと思います。

Q: 今まで日本が謝罪してきたものに対して、ご自身はそれは絶対謝罪であるというところではその意見は分からないということですか。

H: はい。

Q: 分かりました。じゃ、次のカテゴリなんですけど、日本について聞いて行きます。日本の経済的情勢、自分に影響あるなと思うところってありますか。アベノミクスとか。

H: え～なんか、関係しているのかどうか分からないですけど、その後にバイトの賃金が若干上がりました。20円だけ。

Q: いい感じなのかな、日本の経済って、と思うところがあると、すごいですよね。

H: ちょっと。そうですね。

Q: 案外いいな～安倍ノミクス

H: そこだけ、はい。そこだけです。

Q: 国際的に日本の地位って、こんな感じかな～と思うところってありますか。アメリカとの感じがうまく行っていると感じるのか、それともやっぱ問題あるかなとを感じるのか。

H: そうですね。そんなにうまくとれてない感じ。

Q: どうですか。沖縄の基地問題じゃないですけど、そういうのって気になったりしますか。それとも、まあ、沖縄は沖縄のことかなと思いますか。

H: 何ですかね。アメリカに持っててもらえないですかね。

Q: 日本国内にあるものを全部持ってもらいたい？

H: かなり思います。もう、十分アメリカ、もう、守ってくれたんで、それは感謝して、持ってください。どうぞ。

Q: 感謝しつつ(笑)。

H: アメリカに助けてほしいというのもあるんですけど、沖縄に住んでいる方を考えて、自分がもし沖縄にいたらって考えたら、なんかもうちょっと離れた所とか、違うところとか考えてしまいますけど、でも沖縄しかないんですよ。正直。基地で、働いている人とかもいるじゃないですか。そういう人で、もし、なんか在日アメリカ人とかだったら、英語とか普通にアメリカに帰った所で、子供、そういうなんて言うか、米軍の子孫とかだったら忘れるというか、そういう教育受けてないから移民のブラジル人とかそういう感じになってしまうので、それも申し訳ないと思うので、どうしたらいいんですかね。

Q: どうしたらいいと思いつつも、そこは解決してほしいなと思う？

H: そうですね。

Q: じゃ、現在の生活に満足している？とてもそうは思わない理由はなんですか。

H: だいたいそう思うんですけど、いや、とてもそう思わないんですけど、うん、なんの観点で言えばいいですかね。不安なこと、不安は、就職のさきに、介護(笑)
就職は結局浪人しても回ってきたら付きまわると思うんですよ～だからいいんですけど…

別にそんなに考えてないですけど、20年、30年して、そうそう時期ごとですね。あの、それも一番気になりますし、私、その、親が、周りの人とか見てて、こうなったら、こうなったら私どうやって生活していくんだろう、将来について、ちょっと、そういう将来について不安です。私一人子ですけど、将来って考えた時に、はるか先なんですけど、母は私が中学校の時に病気してるので、あの、で、何回か病院通って、今も新たになんか、胃がちょっと悪くて、ちょっと腫瘍が大きくなったら癌じゃないですか。やばいんで、なんか、そういうところでもっと稼がなきゃとか、お母さんいなくなっちゃったらどうしようとか、そういう不安です。その親とも関連して、結構、親は好きなので、でも、都市に行きたいみたいな、私三重なので、名古屋に決まらなかったら大阪か東京に行きたい、みたいながあるので、でも東京だったらすぐ帰ってこれないし、大阪にするか、みたいな、があるので、将来を考える時に家族と切り離せない自分というのが付いてくるので…

Q：不安ですね。そうですね。分かりました。次の質問ですけど、日本という国に誇り持っていますか。どうですか。

H：そうですね。どうですかね。日本は、まあ、いい国だとは思いますが、何って言ったらいいんですかね。これは日本人としてじゃなくて？普通に裸ら見て、いい国だと思うんですけど…

Q：日本人としてはどうでしょう？

H：あの、なんていうか、一緒のことしなきゃいけないというのが一番いやです。なんか、同じ征服着なきゃいけないとか、

Q：出るくい打たれるのがいやな感じですか。

H：そうなんです。それが嫌なんです。出るくいは受け止めてくださいっていう感じです。

Q：日本で生まれてよかったというのは感じますか。

H：はい。思います。

Q：日本の文化についてはどうですか。好きですか。

H：京都が好きです。さっきの食文化と関連してお米は絶対なくさないでというのがあります。柔らかいもち、日本米がいいんですよ。みたいな、そうですね。なんか、言わなくても空気を読むんじゃないですけど、察する文化あるんじゃないですか。そういうのはいいと思います。

Q：察する文化で、あ、この人もしかしたら K-Pop 嫌いかもと察したことありますか。

H：もちろん、もちろん。どうですかね。男の人が多いですかね。おじさんとかに多いですよ。若い人よりおじさんに、うちの父も含めて、おじさんが本当に。なんでですかね。私も本当に謎なんですけど。うちのお父さんよりのお母さんというか、おばあちゃんが、韓国が、お母さんがうちの子みたいな、私が大学で韓国語を習ってて～みたいな話をしてて、その時になんか、韓国？みたいな話だったんで、そのおばあちゃんが、で、韓国は戦争でなんちゃらって、全然関係ないでしょう～みたいな、全然接してないんですよ。接したのはアメリカ人ですから、だって、そのおばあちゃんが 9 才の時に運動場が全部さつま芋畑になってみたいな話をされたんですよ。私が小学校の時に、インタビューをしないさいみたいな小学校の教育に。で、そういうのを受けて、ローカーとかも全部自分たちで掃除して、料理も自分たちでして本当に大変だったという話をしてて、なぜか韓国を持って来るんですけど、違うよ、おばあちゃん！って（笑）

Q：おじさんもそうなんですけど、世代が上の人たちにはそういういやなイメージを持って人いるんじゃないかなという印象が強いんですか？

H：そう、戦争とこっちゃにしているところがあるかな～みたいな。おじさんに対しては、韓国ドラマをシリーズで見てみてほしいですね。5話ぐらい見たら一週間もしないうちにはまるから、見てみてみたいなこと言ってみてくださいね。

Q：国のために貢献したいなと思いますか。

H：思います。さっきの、引き出しますけど、米も、本当にやばいんだったら私も農業しようかなみたいな、あの、一回小学校の時に稲作体験みたいな種をその、しますよね～うち田舎だったので、余計に。植えて、一列ずつ、植えて、やったんですけど、その後に自分が植えたやつを一本というか一束バケツに入れてもらえて、やりますよね、育てるんですよ、米を。それが楽しくて、水替えとか大変なんですけど、育てる系好きなんで(笑)

Q：(笑)日本のアイドルの中で好きな人はいますか。

H：宇多田光とか、デビューした時から好きです。韓国のアイドルを知ってしまったがために、軽いというか、比較対象してはいけなかなという感じ(笑)日本は日本のアイドル、日本と韓国のアイドルじゃなくて、(笑)日本のアイドル。日本のアイドルが追い小木(おいおぎ)だとしたら、韓国のアイドルはセイルズマン的な、最初から最後まできっちりやるみたいな感じですね。

Q：子供と大人みたいな感じですかね。

H：比較しょうがないっていう感じですね。

Q：最後に、東アジア関係においてどう思いますか。

H：タイとかそっち含めますか。よく分からないですけど、中国はなんであんなにピリピリしているんだというのはありますね。中韓で連携しているところがあるような、日本の悪口言われているような気が、

Q：ちょっとそれいやだなと感じるところがありますか。

H：はい。日本食美味しいから一緒にご飯食べようよ～みたいなそういう感じにならないですかね(笑)

Q：(笑)例えば中国がすごく警戒する。ちょっと中国怖いなというところありますか。

H：普通に中国の方が歩いても、ちょっと、あ！って、なりますね。

Q：それどういう、あ！ですか。

H：それはもちろん、いいかというところもありますけど、ちょっと怖いという感じはありますね。

Q：じゃ、矛盾を感じるのかってありますか。あんだけいやいやって言ってるのに、なんで日本に来ているんだ、みたいな。

H：あります！あります！なんか、韓国とちょっと似ているところもあると思うんですけど、メディアで言っていることと、実際日本に来る中韓の方の反応が違うのがずれ過ぎて、かなり違和感が…

Q：中国に対してだけじゃないですけど、憲法9条改正だとか集団的自衛権をと、それが自分の生活と直結するところはないですけど、それが変わるとちょっと怖いなというところ、ありますか。

H：うん、なんですかね。変わったらって考えたことないんであれですけど、そのまま安倍さんが通してくださいっていう感じです。

Q：やるならやればという感じですか。

H：うん、どうですかね。なんか安倍さんは安倍さんなりに考えているんで、それは。

Q：彼なりの考えとして何か考えがあるという

H：はい。

Q：分かりました。ありがとうございます。

「追加質問」

Q：どういう人と韓流について話しますか。

H：話すのは友達かお母さんが多いです。お父さんはありえないですね。お父さんは、またこんな見て～とか言って、もうチャンネル変えるよ！って。テレビで見れる時があって、その時に、ホンギを久しぶりに見て、前も見たことあるので、こいつ歌うまくなったな～って(笑)、前見たやつだな～って言って、ちょっと変わったかも知れないです。

Q：そのほかは？

H：チャットとか、チャットとかって、大体女性同士とか男性同士では喋らないですよ。どうしても男女になっちゃうんですね。ならないですか。

Q：(笑) そうですか。

H：アプリで普通の何でも中国語でもベトナム語でもタイ語でもあるんですけど、普通に全地球人の方が集まるもので、普通に自己紹介して、何が好き～とか、そういう話をして K-Pop 好きとか話しますけど…

Q：インターネットでよく調べたりはしますか。

H：ほぼ毎日、2 日いっぱい検索かけますね。

Q：何について調べますか。

H：なんか、一時期、EXO のウルロン？その時に、はまって、はまったんですけど、その後、なんか、同じような曲ばかりで、フォーメーションは大体同じだし、なんか、同じだな～ SM の教育されてきた子たちだな～と思って、ちょっと飽きてきたんですけど、その時は EXO を検索しましたが、昨日は、FTsland と、GOT7 がお気に入りです。

Q：K-Pop が好きになる前は、何か他のアーティストとか俳優さんが好きだったとか、ないですか。

H：そんなに、これっというこの人が好きというのがなくて、で、こだわりもそんなになかったんですけど、そうですね。音楽、やっぱり自分が楽器やってるんで、その音楽つながりで、つながる感じです。

Q：そうなんですね。今ファンになって何年目ぐらいですか。

H：え～4 年？5 年ぐらいですかね。FTsland は。デビューしたのは 8 年ですけど。あ、この前、お笑い芸人のめっちゃダンスが上手い女の人が、ホンギのインスターに、8 周年おめでとう、8 周年おめでとって書いてましたけど (笑)

Q：そうだったんですね。そう考えると結構長いですね～

後、よく芸能人は、雲の上の存在というじゃないですか。K-Pop アイドルは、どうですか。

H：うん…芸能人っていう感じで、おたくく止まってない感じが…あるかな。本当に友達のように、本当に近い彼氏みたいな感じのように、そういうこと言ってくれるんで…発信されてるのを見て、勝手に受け止めてる訳なんですけど (笑) 心を打たれたみたないな。自分が生きてきた中でも、K-Pop は結構強い！っという感じです。

Q：強いというのは？

H：影響与えてくれた存在というか。そのヨン様のドラマの演奏したのもそうですけど、韓流が来てなかったら、弾いてなかったんですよ。普通にクラシック弾いたと思うんで、

しかも、高校生の時も、K-Pop にはまることもなく、大学も普通に上がり、みたいな、そういう普通の…なんで、自分を変えてくれたかな～という感じですかね。

Q: 変えてくれたというのを具体的に教えていただきたいですけど…

H: 韓国語をやろうと思ったのも、あの、K-Pop の、東方神起のユノがその『Music Bank』とかで出た時に喋ってて、いちいち辞書で調べるの、面倒くさいと思って、やったわけなんです。

Q: どこか通ったんですか。

H: あ、大学でもやってるんですけど、あと、なんだろう、チャットみたいな、パソコンの、そういうアプリみたいなものがあるんですよ。そういうので友達になったりとか。

Q: え～？すごい、それは、チャットしてたら韓国語ができたという感じですか。

H: それで結構ついた感じです。会話力は。

Q: 書くんですね。

H: はい。言われたことに対して返す、みたいな。結構力つきます。しかも、めっちゃ早いじゃないですか。韓国の方。なんで、早くして！みたな、要求されると余計早くなるみたいな（笑）打つのも早くなります。日本語も。

Q: 最初はうまく打てないですよ。遅いですよ。

H: はい。遅いです、めっちゃ。

Q: それが辞書調べなくても書けるようになって。

H: まあ、まだちょっとですけど。

Q: キーボードは？韓国語のシールみたいなもの貼るんですか？

H: いや、大体。そうですね。

Q: それで、普通に話せますよね。

H: はい。話せますけど、でも、ニュースとか、朝鮮日報、たまに見たり、ウェブで。上手に読めないで、まだまだですけど。

Q: そうだったんですね。はい。分かりました。後、K-Pop が好きな友達も増えて行く感じですか。

H: 普通に高校の友達とか、大学とか、好きな友達はいますけど、意外と、好きな子がいて、全然そうじゃなかったのに、なんか、ジャニーズじゃなかったの？みたいな（笑）私、好きなんだ～実はね～みたいな話をしたら、うん、なんか、私も来ててさ、みたいな。それで意外と話が合って、それですごい仲良くなったりとかもあったので…

Q: そうだったんですね。分かりました。何か、名札とかつけてますか。他のファン見たら、カバンとかにつけてたんですけど…

H: 私も（笑）

Q: 本当だ！

H: GT07 の。これだったら、本当に GOT7 知っている人しか分からないです。あの、ハングルだとちょっともろなんで、ちょっと恥ずかしいかな～（笑）

Q: 恥ずかしいと、思われる、そこは、韓流ファンとしての自分がどう見られるのか意識しているということですか。

H: でも、日本ではジャニーズとか AKB とかが主流なので、なんか、コアな人みたいな感じで思われちゃう、ちょっと変わり者じゃないですけど…まあ、私はそう思われたいのでもいいんですけど（笑）

Q: 日本のアイドルが好きという人よりもそう思われる傾向あると思いますか。

H：日本のアイドル以上に、なんかそれがあるかな～みたいな、韓国という時点で、若干、日本では偏見というか、言い出しにくい感じ、実は K-Pop が好きでさ～みたいな、感じなんですよね～やっぱり（笑）その時点で言いにくいというのがあって、そこからアイドルが好きというのが、さらに難易度を高くさせるみたいな（笑）

Q：そういう雰囲気があることで、発信しなくなっちゃうことはありますか。

H：うん…まず、韓国が好きっていう時点で男の人引くんですよね～なんか、理解しがたい韓国が好きな女みたいな、日本の男子は。なので、まず、男がいる前ではあまり言わないです。優しい、理解しようとしている子には言いますが、普通に男の子は「湘南乃風」とかバンドとかそういうのが好きな普通の男の子は K-Pop は若干引いちゃうみたいな感じ?!

Q：若い人でもですか。

H：若い人で特に！そうですね。おじさんも、なにこれって！感じですよ。

Q：若い人が特に！と思う理由は何ですか。

H：いや、私が普通に K-Pop の話を持ち出すと、仲良い男の子ですけど、それはさ～みたいな、ちょっと流されるんで、その人を責めているわけじゃないですけど、まあ、そういう人もいます。

Q：そういう目線とかはあまり気にしないですか。それでもファンであり続けているという、理由とは何ですか。

H：だって、日本のアイドルが好きになれないんだもんっていうのがあります。これと違って、魅力を感じないというか、もちろん格好良いとは思いますが、一緒に歌を歌いたいとか、別にないです。人と違うのが好きというのがあるので、EXILE とか嵐とかみんなが好きなのを好きっていう人はなんか、自分がないんじゃないかなみたいな、ちょっと言い過ぎですけど、そんな感じで、個人主義なので、わりとそういう子が多いと思います。K-Pop が好きな子は。こだわりがあるみたいな。

Q：はい。

H：人と違うのが好きというのがあるので、EXILE とか嵐とかみんなが好きなのを好きっていう人はなんか、自分がないんじゃないかなみたいな、ちょっと言い過ぎですけど、そんな感じで、個人主義なので、わりとそういう子が多いと思います。K-Pop が好きな子は。こだわりがあるみたいな。K-Pop が好きな子はそういう、なんか、意志が強く、ちょっと強めというか。

Q：自分を見てそう思いますか。

H：はい。ありまくりです（笑）

Q：（笑）分かりました。ありがとうございました。以上です。

【対象者 I】

Q：インタビューを始めます。宜しくお願いします。韓国の大衆文化に始めて触れたのが 2010 年？

I：2010 年って書いたんですけど、始めてはもっと前かも知れません。姉がいて、姉がドラマとか『冬のソナタ』とか、『オールイン』とか、そういうドラマを見てて、私はまだ中学生か高校生だったので、あまり知らなかったんですけど、それで一緒に見てたので、何年

だろう、2005 年ぐらいかな、でも自分から主体的に接したのは 2010 年ぐらいです。

Q：自分から選んで調べて、見始めたものは何ですか。

I：それは K-Pop で、その時韓国人留学生の友達がいって、SS501 とか KARA とかその当時流行ってたものを友達が教えてくれてそれで興味を持ちました。

Q：それは何歳の時ですか。

I：その時は大学 1、2 年生の頃です。

Q：今接しているのは K-Pop が多いですか。

I：K-Pop もドラマもバラエティもニュースも色々見えます。

Q：じゃ、その始めて接した時にどうでした？

I：姉はヨン様よりはイ・ビョンホンがすごく好きだった（笑）ですが、なんか、ビョンホニ、ビョンホニって呼んでて、私はでも、その時は不思議だな～とは思っていたんですけど、言葉も分からないですし、でも吹き替えが多かったんで、そんなに外国のものだとは思ってなくて、たまにやってるドラマの一部だと思って見てました。

Q：一番最初迷ったものとかはなかったですか。このドラマは一体日本のものなのか、どっかの国のものなのかみたいな…

I：あ～やっぱり出て来る場面とかを見て、日本はラーメンをふたの上で食べないとか（笑）そういう文化的なものも、また感情表現も豊かだなというところから姉もやっぱ違うところから見ているのかな～と思いました。

Q：それ、お姉さんとご自身が韓国の大衆文化にはまって行くのをみて、ご家族の方は、何人？

I：7 人家族、祖父と祖母と姉が 2 人いるので…

Q：どうでした？

I：周りは特に興味を持っていなかったんで、興味持っていたのは 2 番目の姉なんですけど、その姉と結構仲が良くて、姉にくっついて歩くような感じだったので、姉がそのビデオとか取って見てると一緒に見て、家族はそんなに気にしていなかったですね。

Q：別に気になる事もなく、嫌がられることもなく？

I：はい。

Q：お姉さんと一緒に K-Pop についてもドラマについても会話をすることが多いですか。

I：そうですね。2 番目の姉が一番おおいですね。

Q：じゃ、チャンネル登録とかしていますか。

I：してないです。YouTube のチャンネル登録みたいなのはしてますね。

Q：BS とかは？

I：今テレビがなくて…

Q：ご実家にいらっしゃった時はどうですか。

I：そうですね。姉が取り貯めてるものがあるので、それを見たりしました。

Q：現在接する時間は 7 時間、ほぼ毎日、割合的には何がが多いですか。

I：うん、そうですね。曜日によってやってる番組とか違うので、でもバラエティは結構見ますね。一日 1 本くらい、週末の方が多かったりするので、好きな番組、最近、ドラマだとこの前終わっちゃった『プロデューサー』をずっと見てたり、バラエティは毎週見るのは『1 泊 2 日』とか、『スーパーマンが帰ってきた』とか『無限挑戦』とか『僕一人で暮らす』とか（笑）

Q：バラエティの方がなんか、見やすいし、

I: そうですね。あまり集中しないで見れるというか、結構朝の準備している時に前日やってた番組見たりすることが多いので、料理とかしながら見たり聞いたりするのが多いですね。

Q: 今はインターネットで情報を全て得ていますね。

I: そうですね。日本よりも韓国のニュースとかの方が見るかもしれません。ニュースとかは naver (検索エンジン) で見て、番組はいいのか分かんないですけど、baykoreans とか。

Q: 好きなアイドルグループって…

I: 今は VIXX というグループが好きで、最近ちょっと忙しくてあまり見れてないですけど、はい。

Q: コンサートに行ったアイドルは？

I: 一番最初は SHINee が好きで、コンサート行って、後は Infinite が好きで、その変遷が SHINee, Infinite, VIXX みたいな感じで (笑) 来てて、その間もちょうちよくあるんですけど、行ったのはそのぐらいで、後 K-Pop 全体のコンサートとか 2011 年 12 年ぐらいにすごいいっぱいやってた時に行きました。

Q: どうですか。今一番心に残ってるじゃないですけど、エピソードとかありますか。

I: Infinite はその時はまってない状態でコンサートに行ったんです。姉が先にはまってたというのが結構大きくて、それで Infinite 一緒に行く人いないから一緒に行くって言う感じで行って、そこからはまってみたい感じなので、姉と一緒にはまってましたね。行く前に予習してて、ちょっといいかなと思って行って、あ、いいな～と思いました。

Q: その良いな～と思った理由はなんですか。

I: 歌は元々結構好きだったんですけど、あまりグループのこと、メンバー自体あまり知らなくて、行って帰ってきてからバラエティを見て、メンバーそれぞれが面白いなと思ってはまりました。

Q: 全員好きですか。

I: 私はラッパーのドンウが好きで、姉もそうなんですけど、ドンウが一番好きですね。グループによって好きになるのは全然違うんですけど、ドンウが、性格がすごく良くて、人に言うと、そんなの分からないじゃん！って言われるんですけど、そのバラエティとか見てもちょっと天然というか不思議なんですけど、素直なところとか、たぶん癒しを求めてて、そういう時に良かったのかなと思います。

Q: 日本のアイドルにはないものが韓国のものにあると思いますか。

I: あまり日本の方知らないですけど、例えばジャニーズとかと比べるとやっぱりダンスとか公開度が、結構 Twitter してたりとか、色んな情報媒体で色んな情報が見れたりするので、もっと近い感じがしたりしますね。

Q: 大事ですか。その近いというのは？

I: そうですね。やっぱりよく分かんない人はあまり好きにはなれないかなと思います。

Q: その人の人柄とか人と人との関係性とかで好きになることが…

I: はい。

Q: 分かりました。じゃ、ドラマってどうですか。

I: あの、留学してた時からちょっと勉強のためにもと思って見出して、その毎クール一つずつ見てます。

Q: 日本のと比較して見ると日本のドラマにないけど韓国ドラマはここが面白いとかありますか。

I：日本のドラマ最近見ないんで、全然分からないですけど、設定とか最初聞いたらよくあるなみたいなとか、逆に何これ！みたいなのか、何これ！みたいなのは最初興味本位で見て、例えば俳優さんの演技が上手だったとか、この俳優さんが好きだとかのところからどんどん見てはまるのが多いんですけど、日本のドラマわざわざ見なくてもいいと思う理由は、韓国語学習者だからというのもあるんですけど、韓国語流しても勉強になるし〜ってというのがやっぱりあって、ストーリーの中で分からない単語とかあっても勉強になるし、日本のドラマ見ても周りの人もあまり見てないんで話も出来ないですけど、韓国ドラマだと韓国人の知り合いとかと結構話したりしてるので、その影響が結構大きいです。

Q：ドラマを介してなんかこうコミュニケーション取れるとかじゃないですけど…

I：そうですね。そこもありますね。

Q：バラエティはどうですか。

I：日本のバラエティも最近ちょっとずつ見るんですけど、やっぱり表現しようとしているのが違うというか、韓国のバラエティ、前よく見てたのが、『アッパ、オディが（パパ、どこ行く）』という子供達がたくさん出て来る番組なんですけど、本当に子供が可愛くて見始めて、後は韓国の子育て事情というの垣間見えて、こうやって教育するんだとか、お父さんお母さんが毎日毎日、サランヘサランヘ（愛している愛している）〜と言うんだとか日本と比べて考えていて、面白かったなと思って。

後はどうだろう、日本のバラエティは笑い芸人の中で決まりっていうのが多すぎて、このギャグにはこうのせるみたいなのがあり過ぎて、いつも同じようなことを言ってるな〜というのもありますけど、それが面白いと思うときもあります。そう、たぶん韓国にもあるとは思んですけど、そこまでまだ知らなくて、そうですね。後はテロップの出方とかも全然違うので、それも見て面白いですね。

Q：自分が見たことを話す人は？

I：姉と韓国人の友人。

Q：日本人の友人は？

I：は、いないですね。

Q：ニュースについてもですか。

I：ニュースについてもですね。はい。

Q：ずっと好きじゃないですか。その過程で日本人の友達と喋ったりすることってありましたか。

I：ありました、ありました。大学時代に SHINee が好きだった時にコンサートに行った時も友達と一緒に行きまして、その子がまだ好きかどうかは分かりないですけど、その後は大学の友達もおすすめして、その子ははまっちゃって、その子は今も SHINee が好きです。

Q：逆に好きじゃない人と出会ったことがありますか。

I：たくさんいました。そうですね。別に興味ないという人が多かったんですけど、一人学部時代のバイトしてた時の、あの、お寿司屋さんでバイトしてたんですけど、その女将さんが当時 K-Pop がすごく流行ってて、コマーシャルかどうか忘れちゃったんですけど、K-Pop の歌とかも日本の version が出てたりしてた時期だったんですけど、女将さんはそれを聴いて、心がこもってないよね、だから好きじゃない、みたいなのを、やっぱり、言葉でどれだけ歌ってもあまり、心がね〜みたいなこと言われて、すごいね、コンサートまで行くんだ〜みたいな感じを（笑）言われたことがあります。

Q：そうなんです。年齢が近い方と言われたことがありますか。

I：大学の学部が異文化交流コースというところだったので、結構国際理解に心が開いている子が多かったの、嫌いという人はいなかったですね。興味ないという人は多かったんですけど。流行ってるよね～みたいな感じの人が。

Q：今までの体験で韓流って女の子が好きなんだとか男の子が好きなんだとか、あ、やっぱりおばさんの方が好きなんだとかってありますか。

I：男の人は少ないな～と思いました。後は、アイドルの種類にもよると思うんですけど、東方神起のコンサートの時はすごく年齢が高い人も多かったなと思いましたし、SHINee は比較的若い人が多かったのかなと思いました。

Q：どうですか。いわゆるおばさんという人たちに対して違和感を抱くのか、

I：あ、なんか楽しそうだなと趣味があって良いなと思います。でもすごく軍に好きな俳優やアイドルが行って見送りに行く人たちを見るとちょっと違うんじゃないかなと思います。来ないでって言うてる時とかもあるので、それでなんか、ずっと待ってるとか、こういうの日本語で持ってるのを見ると、この人何やってるんだってなる時あります。

Q：なぜそう思いますか。

I：なんか、そこまで盲目的に好きだな、好き好き、韓国大好きとはちょっと疑うようにしてる、別に好きもあって、嫌いもあっていいんじゃないかなと思うので、韓国全部好きみたいな高校生とかおばさんとかを見ると、一部だけを見てるのかな～とったりもします。

Q：じゃ、韓流を楽しむことで自分の生活で変わったところがある？

I：すごく一時期、私もすごく好きで、音楽とかもすごく聴いたりしてて、例えば Twitter とかをしてる時、Twitter にそういうのばかり書いたりしてたので、興味がない友達が離れていたりとかしました（笑）、もう、何なんだよ！みたいな、あつたなと思います。さら～って言われました。なんか、いつもすごいよね～すごく見てるよね～って、ちょっと暇だな～みたいな感じで、大学 2 年 3 年ぐらいの時ですね。

Q：その友達は何が好きとかありましたか？

I：うん、なんか日本のインディーズ系とかロックバンドとか好きだったと思います。私は大衆、すごく流行っているグループはあまり好きじゃなくて、まだちょっと流行ってないグループがどんどん頑張っていく姿を見るのが好きなので、だから SHINee も辞めちゃったし、Infinite も辞めちゃったみたいな感じなんですけど（笑）

Q：語学の勉強始められたのは、K-Pop？

I：その時は留学生と交流してるのが楽しくて、で、なんか、最初は普通に日本語で交流してたんですけど、韓国人同士、留学生同士で話してるのを聞いて真似したりして、あ、韓国語って面白いかもと思って教えてもらって始めて、専門が日本語教育なので、韓国その当時日本語学習者が世界 1 位だったので、それと関係して、あ、韓国の日本語教育に興味あるなと思って、本格的に勉強始めて留学したいなと思って留学しました。

Q：韓国留学行った原点を辿れば、自分が好きになったというのが一番にということとは…

I：自分が好きな活動が勉強にも役立つというところが、音楽を聴けば韓国語の勉強にもなるみたいな相乗効果というか、それでどんどん勉強しようという気持ちも強くなるし、あ、音楽聴きたいというのも強くなりました。

Q：ニュースを見出したのは留学行ってからの方が多いですか。

I：そうですね。行ってから、行く前は特に興味はなかったですね。

Q：韓国や韓国人に対するイメージが行く前に何か変わったとかありますか。

I：行く前は、留学生の友達しか、特に韓国人に対するイメージがなかったんですけど、そ

の子たちはいつも元気でパワフルでノリが良くてというのがありまして、情報として韓国人は日本人が嫌いというのは知ってた、というか、そういうのがあるというのは知ってた状態で、韓国に留学する半年前に 1 ヶ月研修行ってたんですけど、その人たちは日本語勉強してる人が多いので、そんなに反日のところもなく、その友達たちとしても、その時韓国語もそんなに分からなかったのも、そういうの感じてなくて、普通に韓国楽しかったなみたいな、ぐらいですけど、留学行って 3 日目ぐらいの時にケータイ電話を作り友達と一緒にいったんですけど、そこで定員の男の人が、独島はどこの国ののだと思う？って言われて、女の友達と二人で行ったんですけど、でもその時は韓国語分かんない振りして、(笑) なんにも答えなかったんですけど、友達がすごく気まずそうにしました。本当にこういうこと聞くん、すごいな～と思ったのを覚えてます。

Q: 日本人の友達ですよ。

I: 韓国人の友達です。だから気まずそうになって…

Q: 韓国人の友達が出来た前まで遡ると、韓国の文化に触れる前と触れた後で変化があったとかって覚えていますか。

I: うん、元々カルチャーショックを受けるのがすごく好きで、韓国だけじゃなくて他の国の人とかもあって、え～こんなことが違うんだというのが好きで異文化交流コースに入ってたんですけど、なので、特に韓国だからこうとかこういうのはなかったです。

Q: ありがとうございます。今韓国が好きか嫌いかというところを？

I: 友人多いので、そういう点ではすごく友情関係を大事にするとか、関係がすごく密だなと思う点では好きっていうのがありますけど、私、仙台出身なので留学行ってた時にすごく地震とか放射能とか言われてたんですね。それを未だに言ってる人とか、Facebook の人気のページとかのコメントに日本のことが載るとすぐに放射能いっぱい浴びてる食品とか食べてるんだ、みたいなこと書くところはすごく大嫌いですね。なんかもう、いいよ、興味ないなら見なくていいよ、来なくていいよ、と思います。

Q: さっきの、ただ単に高校生とかおばさんとかが好きって言うところに不信感を抱くとおっしゃったのはなぜですか。

I: 留学研修行く前の 1 ヶ月研修の時の自分も特になんか好きも嫌いもなく、普通に友達みたいな感じでしたけど、やっぱり留学していいところも悪いところもいやおなしに経験して好きが 100%も絶対よくないところだし、普通に日本人と接してても 100%大好きっていう人も絶対いないと思うし、っていうことを考えるようになって、そこから変わりました。

Q: 韓流によって例えばドラマを見ることによって韓国にしかない文化を知りたくなったということありますか。

I: そうですね。結構あったと思います。例えば、ドラマを見て、二人の男と女の恋愛してるのを見て、何でもこういうことしてるんだろうとか、なんか日本にはないなというところから、韓国の恋愛文化ってどうなんだろうとか、見たり、後は、ドラマで見たのではないかも知れないですけど、パンソリ（韓国の伝統芸能）とかを経験するバラエティがあったりすると、あ、どういうことするんだろうとか、あまり知らないな、もっと知りたいなと思ったことはあります。

Q: ドラマのジャンルで歴史は？

I: 見ません。

Q: 好きなドラマジャンルとしては恋愛とか。

I: あまり力を使わずに見れるような (笑)

Q：文化的なところまでは手が伸びるわけじゃないですか。

I：はい。

Q：日韓関係的なところまで行くことってありますか。

I：うん、例えば、今『スーパーマンが帰ってきた』でソン・イルグクさんが出てるじゃないですか。まずお子さんの名前が大韓民国万才で、それ生まれた時に Twitter とか何んかで見て、なにしてんだ、この人！みたいな思った事が、すごいなと思ったことあって、で、あの、泳いで独島に行ったりしてたじゃないですか。そういうの知ってたので、なんか最近そのバラエティをみながらすごく三つ子のお子さん可愛いんですけど、お父様がソン・イルグクさんがそれでも日本人のお母さんのシホさんと話してるのを見て、この人はどういう気持ちでやってるんだろうとか、もちろん国が嫌いだっていうのと日本人が嫌いだって言うのも本人の中でもあると思うし、それ結構アピールな面が多いじゃないですか、韓国で反日というのが、それ陰ではどういう話をしてるのかな～とすごく気になる時があります。

Q：日本のメディアなんですが、韓国とか韓流とかがどんなふう to 報道されてるんだろうと思いますか。

I：やっぱり見たいところだけ見てるのかな～というのはすごく思います。もちろん韓国の報道もそうだし、メディア、必ずしも中立性が高いとも言えないので、あまりどれも信じないようにしてるんですけど、最近その池上さんが出てた番組の字幕が間違えてたとか、ニュース、その池上さんが番組してたのは知ってて、見てはなかったですけど、その後、Twitter とかで字幕が間違えてるとかを見て、まあ、今までもあっただろうとか、結構外国人が出てる場面に吹き替えですごく適当なこと言ってるのとかあると思ってたので、そういうのを見ると本当に信じられないなとも思うし、自分が韓国生活を経験してるからなおさら、いや、そうでもないよと思うところもありましたね。でも親とかの世代だとニュースでやるのが全てだったりしますし、だからすごく影響大きいのに、無責任だなと思う時もあります。

Q：メディアの報道についてですけど、韓流の全盛期の時と今って取り上げ方って変わってるのがあると思いますか。

I：やっぱり昔はなんか目たらしいものだった、隣のイケメン 4 人とかが取り上げられて、めたらしいものだったんですけど、今はなんか好きな人は好きで普通みたいな、改めて取り上げるほどじゃないみたいな、好きな人の間ではもうすごく一般常識みたいなものが、知らない人のためにテレビに出るみたいな、ちょっと細かくなったというか、好きな人向けには好きな人向けの情報があって、そうではない人にはちょっと一般向けの情報があって、ちょっと顔が別れるのかなと思いました。

Q：韓国についてのニュースはどうですか。変化が見られますか。

I：うん、ニュース、あまりよく見ないので、分からないのですが、国自体に対するニュースとか全然分からなくて、ちょっと分からないですね。

Q：ネット上の反応、ネット右翼って呼ばれる人とかもいるんですけど、どうですか。

I：私すごく単純な趣味から、興味からヤフーのコメントとか見るんですけど、もう韓国って書いてあるだけですごく批判する人とかいるので、あの、すごく、なんだろう、共通の敵みたいな、すごくストレスがたまってるんだろうな、この人とか、日常生活では、たぶん普通にとなりに韓国人がいたら言わないだろうし、いい顔してる人もネットではそういうふう to 書いてる人もいると思うので、別に韓国だけじゃなくて、台湾とかが韓国の位置

にあって、問題になったとしても言ってるんだろーな〜、必ずしも韓国じゃなくても良かったんだろーな〜、あの人は。と思いました。

Q：あえて韓国に対して言う理由としては何があると思いますか。

I：なんか、その一部の人には人気というのは気に入らないんじゃないかなと思います。

Q：今のは、ネット右翼に関する、韓国に対して嫌いなことをいう人たち？についてですが、その人たちに対してはあまり心にないことを悪口を言うために書いているんだなという印象の方が強いと。

I：はい。

Q：で、フジテレビデモとかあったじゃないですか。それか、今のデモでもいいですし、実際その活動されていることについてどう思いますか。

I：そうですね。その嫌いが、その人たちにとってなぜ起きたのか、私もすごく気になるところだし、なんか、うん…でも、私はどんなに嫌なこととかあっても、自分はデモとか参加しないタイプなので、何してるんだろー（笑）って思うというか、うん、でも、あまり近づきたくはないな〜と思います。その主張が正しければいいのかもしれないですけど、ただ単にのせられてやっている人の方が多いんじゃないのかな〜と思います。

Q：もしそれが根拠ある主張であれば、そうやること仕方ないかなという。

I：まあ、でもやり方はあるのではないかな〜と思います（笑）

Q：どうですか。嫌韓についてはどうでしょう。ネット上のものでもいいですけど、この人、根拠あって本当に嫌いなんだろーな〜と思ったものに出会ったことがありますか。

I：いや、ないですね。そこまでいっぱい見てもないので、知らないだけかもしれないですけど、なんか、こう、例えば、竹島の主張するときに、国際条約でこうだと言っている人って、今更いないし、なんか、もう感情論になっているな〜というのはすごく思います。

Q：それは日本人にも、韓国人にも言えることですか。

I：うん、はい。

Q：ありがとうございます。

韓国との歴史問題に関するニュースから質問していくんですけど、一番気になるニュース、これだというのがあれば、教えてください。

I：歴史問題に関するニュースですか。うん…そうですね。最近、あまり竹島問題とかは見ないので、どっちかという、慰安婦問題が盛んかなと思います。

Q：歴史じゃなくても、日韓関係の問題で、これ気になって探したというのがあれば。

I：最近は、特にないです。

Q：韓流に接していたとき、今もそうだと思うんですけど、歴史問題にまで気になるというのは他にもありましたか？

I：う〜ん。あの、イ・スン Chol さんが入国拒否されてみたい、あれ〜見た時も、この人、なんでだろう、知らなかったの、どういう人か、ただただ歌って、いい歌だな〜と思う曲が一曲あって知ってたんですけど（笑）でも、あ！こんな感じの人なんだ。その人が帰って、バラエティで色々言っているのを聴いて、そういうふうに言うのが、韓国らしいなという（笑）それでなんか、間違っていない、私は！みたいなのをバラエティですごく一生懸命に言っていて、周りの人も同調してるのを見て、あ、こういうふうな雰囲気というか、あるんだな〜とは思いました。

Q：すごくアバウトになっちゃうんですけど、歴史問題というのはどんなふうな解決できればと思うんですか。

I: うん…そうですね。あの、学部の時に、韓国学を取ったことがあって、韓国人の社会学の先生がやっていた授業だったのですが、その時に色々話し合ったら、その、竹島問題の根拠が歴史書に載っているものなのか、とか国際条約で承認されたものなのか、そういうことを勉強していて、解決するためにはどうしたらいいでしょうかね。もうなんかなくなっちゃえばいいのになと思います。竹島なんかなくなればいいのになって（笑）それがなくなれば全ての問題がなくなるわけではないので、根本的な解決に至らないのは分かっているんですが、そのせいで、もちろん韓国の人も嫌なことも知っているし、日本の人もそう言われることに対して嫌な気持ちも知っているし、私は韓国に行って地下鉄の駅にドクト（竹島）の模型とかあるの見て、すごいな～と思ったし、食堂で最後に水を飲もうとしたら紙コップに「独島は我々のもの」って書いてあるのを見て、あ、すごいな～、思いながら水を飲んでいたのですが、それは日本人にとっては気分がいいものではないですし、なくなっちゃえばいいのになと思いました。

Q: 分かりした（笑）教科書問題とかそういう消せない問題についてはどうですか（笑）

I:（笑）どうですかね～でも、教科書作っているも、ちゃんと調べて、ちゃんと分かって、でも、教科書はやっぱり子供が勉強するために見たりするものなので、なんか、あまり曖昧に書いたら分からないということもあると思うんですけど、その、社会の教師とかが、その教科書に書いてあるところに触れて、こういう問題もあるよ～なんか、みんなの世代にはどうなるか分かんないけど、上手くいくといいね～みたいな感じで（笑）ちゃんと触れた方がいいなとは思いますが。それは日本、韓国との関係でもそうですし、中国との関係でもそうですし、台湾もそうですし。

Q: 教科書記載として具体的に書くことは、その具体性を求めてしまうとどうしようもなくなってしまうから、でも、教師の方がカリキュラム的に教えるべきだという。

I: そうですね。

Q: じゃ、ここから慰安婦の問題について聞いていきます。慰安婦問題があるということをご存知で、それはいつ頃から知っているとか、気になったとか。

I: それはその、知ってたのは、高校か、大学ぐらいからニュースでたまに見たりしてたと思いますけど、真剣にどうしてこうなったんだろうと思うようになったのは、その韓国学の授業の時です。先生が問題提起してくれて、この問題があるということ言っていて、考えました。

Q: どんなことを考えるとか、授業内容はどのような内容でした？

I: なんか、どうして今この問題が韓国側と日本側で主張が違うんだと思う？とか、何を根拠にお互いにそういう出張していると思う？というところから調べて話し合っ、どうしたらいいんだろう、みたいなことを話し合う授業です。

Q: すごいですね。その内容を意味から全部聞いちゃう（笑）

I:（笑）韓国人の先生で、社会学の先生だったので、それこそ教科書の問題とかも先生はやってたと思います。あと、その授業には韓国人の学生もいたので、お互いに立場で一緒に話し合うみたいな。

Q: そうなんですね。どう、その授業を受けたことで自分の慰安婦問題に対する意見として、何か聞かれた時に私は絶対こう答えるだろうというのがあれば。

I: うん…なんか、でも、そこまで私あまり覚えてないので、何もありませんけど、今の意見だと、その、韓国側も謝罪が必要だとか、賠償金が必要だと、でも、払ったとか、あるじゃないですか。なんか、ベトナム戦争の時に韓国軍がという話もあって、そういうのを取

り出して日本はとか、韓国だって、そういうふうに言うじゃないですか。そういう感情論にはならないで欲しいなとか、なんか、その、全部が曖昧だから、はっきりしたものが残ってないので、慰安婦のおばさんの発言とか、そういうものに頼ってしまうんですけど、真実が何なのか、分らないのに、今の人たちが、よく知らない人たちが聴いただけの情報でどうこういうのは、よくないなと思います。

Q: 今ご自分が思っている、慰安婦問題に対する一番の根拠というものとして、何を信じられるんですか。

I: うん…難しいですね。根拠。根拠はないので、何も言えないというのが自分のスタンスですね。分からないから下手のことも言えないし、何かに対して賛成とも、反対とも言えないので、何も言わない立場を貫いていくというか（笑）その立場に甘んじている状態です。

Q: 今根拠もないから、こういう問題について聞くのもあれですけど、日本政府が慰安婦問題に対して責任というか、謝罪というかを取るべきかどうかについては、冷静の話し合いが必要と。こういった方向に向かっていくための話し合いですか。

I: なんか、こう、もちろん私は韓国によく行きますし、韓国人の友人も多いので、国と国同士がお互いあまり好きじゃない、お互いが仲良くないみたいなのを周りから思われるのも悲しいですし、そういったことを考えると、簡単には言えないですけど、もしかしたらどちらかに間違ってる情報があるかもしれないので、それがもし第3者に情報がある、例えば、アメリカに情報が残っているとかそういうのがあれば、冷静に提示されて、それをどう考えるか、そんなの関係ないとお互いに言うんじゃないで、こういう情報もあるよ、こういう人も、実際に被害を受けた人もいるとか、そういうのを本当に冷静に話し合っ欲しいという、感情論にならないで、解決できればいいなと一番思います。

Q: 今一番して欲しいことじゃないですけど、真実が分かるような情報を早く、根拠となるものを。

I: そうですね。

Q: そこからじゃないと解決の道は見えてこないと

I: うん…なんか、謝罪をして本当に収まるのかなとか、というのが不思議で、それまでの、すごくもう憎しみが強いという時に、じゃ、分かりました、謝ります。ごめんなさい。で、解決しないじゃないですか。謝罪されても本当に認めた答えにはならないとか、過去に対する責めとかもあると思うし、うん…難しいですね。

Q: 分かりました。個人的に慰安婦問題について今声をあげてるお祖母さんとかに対してこういう印象を抱いたみたいなのってありますか。

I: なんか、うん…たぶん、本当に被害を受けた方もいらっしゃるし、ちょっと周りに利用されてるんじゃないかなと思う人も正直いますね。誰がとかではないですけど、本当全員立ち上がっているみんなが同じような被害を受けたかという、そうではないかもしれないですし、なんか、そうですね。そうですね。

Q: やっぱ実が欲しいというか。

I: そうですね（笑）

Q: さっきの歴史問題がどのように解決できるかというのとも関係するんですけど、今後の日韓関係において一番必要なもの、今の外交面においてかけてるものはなんだと思いますか。

I: うん…最近どんな関係を国同士が持っているのか、ニュース見てないので、分かりませんが、うん…どうしたらいいんですかね。うん…難しいな。でも本当にすごく感情論が、

うわべだけの答えになってしまうんですが、憎しみからは何も生まれないと思うんで、なんか、こう、日本のこういう姿勢が許せないとか、韓国のこういう姿勢が許せないという態度でぶつかり合っても意味ないのかな～と思います。ちょっと答えになってないですね。

Q: いいえ～留学されてた時に、他になんか、年齢が近い方から、答えにくいなという質問されたことってありますか。

I: なんか、日本の総理大臣についてどう思う？とか、あと、私は日本という国が嫌いだけど、あなたは好きだ、友達として。とか、なんか、こう、日本は嫌いということをしごく言われたことはありました。でも、日本人は好きみたいなとか、それ以外に、慰安婦問題についてどう思う？とか聞かれたことはないです。やっぱりでも、周りも気を使って、私たちがいる場面でそういう話はしてなかったとかもあると思うんですけど、でも、被害を受けたことはないですね。日本人出てっけ、とか言われたことないですし、8月15日に、日本人留学生6人ぐらいで街中歩いてたんですけど、別に何もなかったですし、ニュースで取り上げられるように、日本人、韓国に行ったことのない韓国人と交流したことのない日本人が思っているような典型的な被害というか、そういうものは受けたことがないです。その、ドクトはどこ国？みたいな、聞かれたのも、本当に興味本位みたいな顔で聞かれたので、あ、本当に日本人の若者にあつたことないから聞くんだろーなと思いましたし、むしろなんか、地震の後だったので、すごく心配されました。タクシーのおじさんとかにも。

Q: さっきの日本は嫌いだけど、あなたのことは好きというお話されたことに関しては、どうですか。

I: あ！そうなんだ～と思いました（笑）そうか、みたいな、その人は全然日本語学科でもなくて、日本人とも始めて交流するし、外国人とも始めて会うみたいな、感じの人で、それこそ、韓国における教育をしっかり受けてきてという人で、たぶん私と会う前までは日本人も嫌いだったのかもしれないですけど、そう言われた時に、逆に嬉しかったです。なんか、私と出会って日本人のイメージが変わってくれたのかな～みたいなのが、そういうなんか、草の根の交流というか、活動というか、日本にもいると思いますし、ただ漠然と、韓国人好きじゃないという人もきつーと思いますし、そういうのが人と人との交流で変わればいいと思います。理想論ですけど。

Q: 日本が嫌いな人と会った時にも、別に、あ、そうなんだ、と。

I: でも、いるだろうな～そういう人も、と思いました。

Q: その人を見て、あ、いやだな～は思わなく。

I: うん…なんとも思わなかったです。

Q: 分かりました。ありがとうございます。

日本の情勢について質問していきたいと思います。日本の経済状況について不安だと思いますか。

I: 日本の経済状況よりも自分の経済状況の方が不安なので（笑）ちょっと（笑）でも、円安はすごく痛いと思います。自分が海外に行くにしても（笑）

Q: 国際的な情勢についてはどう思いますか。

I: 全然よく知らない（笑）ギリシャとかそういうことですか。

Q: いや、日本の。

I: あ～いま日本、どうなってるんですか。日本が今どうなってるのか、あまりよく知らないです。

Q：分かりました。では、次の質問で、現在の生活に満足している、あまりそう思わない理由を教えてください。

I：満足したらダメだなと思っています。

Q：どういうところについてですか。

I：博士課程なんですけど、真面目な博士課程ではないので、毎日研究している先輩とかを見ると、ダメだダメだと思います。

Q：自分自身の勉強に対する態度に満足していないということですね。

I：そうですね。

Q：さつきの経済的に心配だという、そういう、国の不安定な状況の中の自分として不安に思うのか、身近な問題としてやってくると不安に思うのか。

I：うん。そうですね。それこそ、消費税とか上がって、なんであがったのかな〜とか考えますし、その奨学金を借りているんですけど、日本の奨学金は奨学金と言えない借金なので、なぜ、なぜなんだと（笑）他の国とも比べて思いますし、なぜ、そんなに経済大国と言われている国で学生は苦勞しているんだろうとか、後は文系の学部がなくなるってどうするんだろうとか、本当に身近なところから危機感を感じてますね。

Q：分かりました。ありがとうございます。

未来の生活に不安を感じる？ややそう思う。とてもは思わない？

I：そうですね。あの、博士課程卒業しても仕事があるかどうか分からないですし、それこそ奨学金借りているので、返却できるかどうか分からないし、不安です。

Q：この不安というのは、マクロなところに持って行こうとするのですが、たとえば、国が憲法9条改正しようとしている、集団的自衛権持とうとか、戦争できる国になっちゃうの？とかもあると思うんですけど、そういう不安というのは、そこまではこの不安に合算されてないですか。

I：ないですね。

Q：もし、それが自分が結婚して、子供が生まれて、その子が男の子でとかなったら、自分の問題として考えるんですかね。

I：そうですね。後、なんか、日本に一緒に住む気がなかったもので、あまり自分のことのように考えてないんですけど（笑）でも、それこそ、男性が特に行かなければいけないと考えた時に、やっぱり戦争をしない国で生まれて育ったので、もちろん嫌だと思いますし、なんか、どこかで安心している部分が、なんだかんだ言っても、変わらないでしょう〜と思っちゃう自分もいるのが確かですね。

Q：じゃ、日本に誇りを持っているかという質問にどちらとも言えない。

I：うん…絶対ダークな部分もあるんですよ。日本、豊かに見えるかもしれないですけど、インフラとかの面では登場国に比べたら整っていると思いますけど、そうですね。それこそ、人の性質として、私は仙台出身なので、本当に地震の後の放射能についてすごく言われたので、自分でも思うんですけど、被災地の仕事をブラックな仕事になっているとか、そういうところがあって、そこにももちろん外国人のボランティアとかも来てたりしてたんですけど、そういう性質とか、隠している性質とか、そういうところはすごく嫌だなと思いますし、あとは、そうですね。なんか、今の日本が大好きと思っている人が多いことに違和感を感じます。なんか、コマーシャルでも、日本がこんなに素晴らしいみたいなのが、私本当に好きじゃないので、日本しか知らないからそう思うんじゃないかなとか、他の国にもそれぞれいいところがあって、それこそ、多様性だと思うので、日本は昔からこう素

晴らしいとかばかり考えてる人見ると、可哀想だな～と思います。

Q：今、ナショナリズムが強まっていると思いますか。

I：うん…そういうコマーシャルが増えているのは思うので、若干そう思います。

Q：それってなんでそうなったのかな？オリンピックですか？（笑）

I：（笑）なんか、別に、国で一致団結しようとするのはいいと思うんですけど、それによって、こう見なければいけないものが見えなくなっちゃうというものがよくないと思います。色々問題はありますけど、一つの主流だけに意見が集まるというのはよくないな～と思います。

Q：日本で生まれてよかったかという質問をしたら、やっぱりどちらとも言えないですか。

I：うん…日本は好きですけど、そうですね。なんか、好きですけど、好きだから、他の国に伝えたいという部分もあって、日本語教育をやっている部分もあるので、いいとは思いますが、何かを、一つだけを好きというか、全部を理解するみたいな、無償の愛みたいなのは私にはないので、そういう概念が、そういうのはあまりよくないというか、あまりいいことではないな～と思います。

Q：日本にそんなにいる予定はないというは、まあ、日本語教師として海外に行かれるということもあると思うんですけど、今後の日本のために役に立ちたい…、日本語教えることが貢献、だと思いますが（笑）

I：自分がですか？

Q：はい。

I：今は、何も貢献してない生活を送っているので、反省しています。生産性のない生活をしているので、稼いでないですし、国のために何かをしている訳でもないですけど。

Q：将来的にはしたいと思いますか。

I：そうですね。日本を色々な国の人に伝える仕事で～ちょっとでも日本がよくなればいいと思いますけど（笑）そんな大きなことができるかはよく分かりません。

Q：分かりました。ありがとうございます。大衆文化で好きなことってありますか。

I：伝統文化も入りますか。

Q：入ります。

I：最近道端に花が多いなと思います。

Q：（笑）心優しい詩人みたいな感じで今（笑）

I：（笑）あまり韓国で道端に花とか見なかったの（笑）…私茶道ちょっとやってたので、茶道はそんなに詳しくないですけど、好きですね。剣道も少しやってて、伝統文化というので、今も続けているものには興味があります。それは自分が日本語の教師として働いていることもありますけど、そういう文化は好きです。

Q：韓国のアイドルと日本のアイドルの中で、なんかここが違うとか、なんでもあれば、教えてください。

I：うん、歌が下手（笑）ダンスじゃなくて、振付ですよ、日本って。EXILE とかはダンスですけど、違うんだな～と思う。どっちが将来性があるかとかは分かりないですけど、K-Pop すごくたくさんいるので、全てのグループが生き残るわけじゃないし、全てのメンバーが生き残る訳ではないと思うので、今を過ぎてしまえば彼らがどうなるんだろうという不安が（笑）なんか、一瞬、すごく切なさ的なものだと思うので、それが、みんなの心を掴んでるのかもしれないですけど、そうですね。日本の芸能人の方が生きが長いのかもしれないですね。

Q：そこで、アーティスト性は高めずに、ある意味人間性を売っていくっていう。

I：なんか、こう、全て会社の指示通りやっているというのは、たぶん韓国の方が大きいと思うので、そういった面ではちょっと大丈夫かな～と思いますし、日本は結構、日本だけの市場でやっていけちゃうので、そこで努力しないところもあると思いますし、お互いにあると思います。

Q：またちょっと難しいかもしれないですけど、国際関係において、何かご意見があれば。

I：身近なところからいくと、まあ、日本語学校で働いていて、ベトナム人の学生とネパール人とスリランカ人がすごく増えてるので、それはもちろん日本語を勉強したいという人も、そして国でいい仕事に就きたいという人もいると思うんですけど、結構一時的な理由で、今お金が欲しいから、日本語学校にはいれば、ビザがもらえるから、それで働けるみたいな、働きに来ている人も多いので、もちろんアジアの中で、行ったらお金になるとか、社会がとか、経済が発展しているとか、文化が盛んでいるというイメージがあるのはいいと思うんですけど、それでその、いつまでその状態でいられるかはもちろん分からないし、それに甘んじて努力しないのはよくないことだと思うので、もし、あまり、外国人が住みやすい国ではないと思うので、日本は、手続きが面倒だったり、そうしないと人がたくさん入ってくるというのもあると思うんですけど、そうですね。色々と協力ができればと思います。ネパールで地震があった時とかも支援とかはするのはいいことだと思いますし、そうですね。うん…なんか、いつまでも日本が一番だって思わないでほしいです（笑）なんか、色んな人に支えられている、色んな国からの外国人の労働者に支えられてる部分もあると思うので、私の学生はみんな夜中にお弁当の工場とかで、コンビニのお弁当作ったりしているので、みんな食べるのを学生が夜寝ないで頑張って働いているんだよ（笑）って思ったりしてます。影で支えてるのが外国人労働者だけにならないように、もうちょっと改善してほしいなと思います。

Q：国際結婚考えられる人なんですか。

I：誰でもいい（笑）誰にでもいい、はい。いいと思います。

Q：国際に拘る必要もなければ、家族もそれを受け入れるだろうかと

I：家族はどうか分かりませんが、そうですね。別に、必ずしも日本人じゃなくてもいいと思っています。

Q：分かりました。ありがとうございました。

【対象者 J】

Q：韓国語はどのぐらいできますか。

J：ちょっとできる、あ、でも去年の4月から12月まで韓国に行って、

Q：9ヶ月ですか。

J：聞くのはできます。ドラマとかも韓国語で。なんか、訳されてると、あれじゃないですか。日本人の声じゃないですか。なんか、嫌じゃないですか。無理やり、やらせみたいな感じで。

Q：そうなんですね（笑）では、インタビュー始めます。よろしくお願いします。韓国の大衆文化に接してから8年目ですか。

J: 小学校 6 年生ぐらいの時に、お姉ちゃんが留学して、お姉ちゃん 3 人とも話せるんですけど、韓国語…その時に少女時代？見てて、（お姉ちゃんたちと）この子たちめっちゃ細いよね～みたいな感じになって、で、知って、みたいな感じです。

Q: テレビですか？

J: いや、インターネットで、兄弟で家にいて、その時に見て、なんか、それまでってあまり、BoA 好きだったんですけど、あ！そうだ。BoA 好きだったんだ。そうだ！小学校 3 年生ぐらいからだから、10 年ぐらいになりますね。BoA ずっと好きでした。K-Pop ってそんなに来なかったじゃないですか。こっちに。なので、そうですね。

もともと自分がお父さんが韓国人で自分が半分ハーフだという思いはあったんで、それでなんか、韓国になんか興味はあったんですよ。で、それで可愛いし、歌うまいし、ダンス上手だし、で、BoA が好きってなりましたね。テレビ、『エムステ』分かります？とかでめっちゃ出てたじゃないですか。

Q: BoA って、BoA って言って、あまり韓国と言うのはなかったじゃないですか。

J: そうです。あ、でも、韓国から来た人と言うのはなんか、あと、東方神起も BoA の後輩みたいな感じで一緒に出てて、それはあ、韓国の人なんだ～みたいな感じで、それ以外にあまり韓国に触れることがなかったんで、メディアとして来なかったじゃないですか。

Q: ドラマは？

J: ドラマはあまり見てなかったですね。あ！昔はあまり流れてなかったですね。で、2010 年ぐらいから覚えてるんですけど、2010 年頃から急に K-Pop が流行りだして、ドラマも全部すごいきたじゃないですか。そこからテレビでもやるようになって、見てました。

でも、お母さんが小さい頃から見ってたかな、でもお母さんが好きなのは歴史ドラマなんですよ、韓国の。普通の恋愛の、現代のやつ見ないんですよ。だからなんか、あまりでしたけど、小さい頃はあまり一緒に見たことなく、でも私が K-Pop にはまり始めたぐらいから見るようになりました。歴史も。恋愛のやつも見てます。ドラマ見ます。あ、でも最近時間がなくて見れてないんですけど、見たいのがあるんですけど、(DVD) 借りれてない感じです。

Q: ドラマは DVD 借りて見ますか。

J: 借りて見る感じですね。あと、テレビでちょうど見たいタイミングでやってたりすると見ます。お母さんがなんでも韓国のやつだったら借りてもいいよみたいな（笑）

Q: 受け入れやすい環境ですね。韓国が。

J: あ、そうですね。めちゃくちゃですね。お母さんも韓国が好きなので、お父さんが好きなので、韓国のこと全部好きになる（笑）。サムルノリ（韓国の伝統芸能）？分かりますか。兄弟で演奏してます。今度発表会やります。あの、家の近くで練習場所借りて、兄弟が 5 人いるので、やってます。私ブック（韓国の太鼓）やってます。座ってやります。お姉さんが大阪にいた時は韓国の学校に通ってて、ケンガリ（韓国の伝統楽器）とかやってて、チャング（韓国の伝統楽器）とかもできるので、あと私これを練習して、弟もこれを練習して、やってます。めっちゃ韓国家族ですよ（笑）

Q: お姉さんが韓国学校行こうとしたのはなぜですか。

J: 私のお父さんのお祖父ちゃんが韓国の学校建てた人なんです。建てた人の中の一人みたいな、民団（在日本大韓民国民団）？分かります？その中に入ってて、孫を絶対入れたっていう感じで、お姉ちゃんたち入りました。私が入る前に、引っ越しちゃったんで。

Q: もともと民団にも出たりしました。家族の中で。

J: あ、そうですね。お父さんは関わりあったんですけど、私たちはあまり、喋れなかったんで、お姉ちゃんたちはその時から、韓国語喋れてたんですけど。

Q: え、お姉ちゃんたちは喋れるのに、自分だけ喋れなかったらなんか。

J: そうなんです。それで、私になんか、悪いことした時とか、なんか、悪口を韓国語で言うんですよ。その時私わからないじゃないですか。韓国語、でも、めっちゃ嫌で、弟と一緒に本当にお姉ちゃんたち嫌だよ〜みたいな、感じで言ってたんですけど、私も留学して、そういうの分かるようになったので (笑)

Q: 留学は普通に大学の方にですか。

J: 大学に入る前に行きました。語学院に。民団が援助してくれるすごく安いところに行きました。

Q: お父さんの親戚はもちろん韓国にいるわけじゃないですか。

J: あ、います。チェジュド(済州島)にいます。

Q: お父さんも生まれもこっち?

J: お父さん生まれこっちなんです。なんか、お祖父ちゃんのいところがチェジュドにいて、います。

Q: 韓国に行く機会というのは昔から結構ありましたか?

ま: なかったです。みんなで行くと高い (笑) あまり行ったことないですね。でもお姉ちゃんたちはお父さんが生まれも育ちも日本なんで、お姉ちゃんたちの方が韓国語が上手で、お姉ちゃんは通訳とかでチェジュド行って、墓参りとか行ってました。

Q: 自分はどうですか。言語喋れなかったこともあってとおっしゃったんですけど、日本と韓国のどっちが近いですか。

J: あ〜それは日本で教育受けてたんで、そうですね。なんか、その、あの、え、と。竹島あるじゃないですか、領土。それとかは、やっぱり日本の教育受けてた時はやっぱりずっと、あ、でも留学行ってから変わったのかな、なんかそれまでは普通に、まあ、日本の領土じゃないかと思ってたり、あと、中国とかともやってるじゃないですか。それ、日本のでしょう。その書類とかあるでしょう。と思ってたんですけど、なんか、あっちに行ったら、そういうことも教えられて、韓国とのこれまでの歴史みたいな、そういう授業もあって、それを思うと、なんか分からないです (笑)

Q: 私も分かりません (笑)

J: でも、仲良くしていこうっていう感じです。島に関しては仲良くいこうという感じですけど。慰安婦とかのやつは、あ、日本が悪いと思います。完全に、完全にじゃないですか。

Q: もともとですか。

J: それはでも、もともとですね。私。あ、でも家が、そういう韓国家族という感じだったんで、そう思うんですけど、でも、日本の友達とかは、たぶん何にも考えてないと思います。昔のことだから忘れよ〜みたいな感じで。

Q: そういう傾向ありますね。

J: ですよ。あ、でも私はお姉ちゃんとかとも話しますけど、あ、もうなんか、慰安婦のその当時の日本兵みたいな人がインタビューの、答えてるんですけど、本当に最低なんです。しょうがないみたいな、お互いに、日本兵の人も、慰安婦の人も、その方々もまだ生きていらっしゃるんじゃないですか。なんで、傷つくじゃないですか。政治家のかりはずみな、なんで、本当に考えて欲しいなと思いますね。

Q: 一回日本がちゃんと謝ったのに、韓国側は再度要求する部分もあったりするじゃないで

すか。そういうところは？

J：それも思うんですけど、でもやっぱり、その心が癒されてないというか、傷が癒えてない人がいるからこそ、韓国の政府もそうなるわけじゃないですか。だから被害者の人々の傷が癒えるまではそういう謝る姿勢を持った方がいいと思います。またかよという感じもありますけど、でも、なんか、日本ももっと低姿勢になるべきだし、なんか、認めたら負けみたいな感じじゃないですか。それも変えた方がいいし、あの、今大統領、朴槿恵、ニュースの放送の仕方もあると思うんですけど、日本の総理と大統領で会うその会を開きたくないみたいな、そういうニュースを聞いて、それが本当か分からないんですけど、日本の勘違いかもしれないんですけど、歩みあって欲しいですね、両方が。

Q：そういうニュースは家族同士でも見ますか。

J：あ、見ますね。家族の中では、ふーんみたいな感じですね。なんか、政治家たちまたやってる、みたいな感じなんですけど。でも、なんかお姉ちゃんとか、私とか見て、韓国の若者たちは反日感情とかないじゃないですか。普通に一人に人としてよく接してくれてるし、だからなんか、そういう政治家たちが喧嘩しても国民はいい人たちっていうのを思っているから、兄妹全員がそう思っているから、また韓国の言ってるよというのは全然思わないです。

Q：お父さんが韓国人というのはいつから分かりました？

J：あ、もう最初からです。もう物心つく時からお姉ちゃんたちが運動会の時に演奏したりしてて、またお姉ちゃんたちが韓国語だし、食べるときとかも、だから、あれ？なんかみんなたちが（笑）って、小さい頃から、あ、でも小学校入った時は、幼稚園から小学校入った時は、急に全部が日本じゃないですか。全部日本で、お姉ちゃんたちも日本の学校に行くようになってたら、そしたらなんか、最初は自信ままに、私ハーフだよ～みたいな感じで言ってたんですけど、なんか、小学校 3～4 年生まではあまり言わなくなりましたね。1 年生、2 年生の時はなんか、何にも考えずに言ってたんですけど、友達から色々言われるようになって、韓国との関係が良くないから、敵だみたいな、感じで言われるようになって、そこから自分に韓国の血が入っているのをあまり言わなくなりました。

でも、K-Pop 好きになって、周りの子も好きになって、すごい変わったじゃないですか。好きな子も普通に友達の中にいて、私留学してたんで、なんで留学してたの？って言われたら、あ、お父さんが韓国人で、って感じです。

Q：小学校入ってからだと今から 10 年前ですね。

J：そうですね。そうですね。小学校 1、2 年生の時はまだ韓流が、今 20 年で、小学校 6 年生の時から、私が 12 歳、の時なんで、7 年前、6、7 年前とかですかね。それで、それ以前は結構、お姉ちゃんも、姉ちゃんはなんか、韓国学校では韓国名で通ってたんですけど、そのまま日本の学校にも韓国名で通ったんで、結構 K-Pop が流行るまではあれだったって言ってました。トラウマというか、後、北朝鮮も、北朝鮮と韓国って日本人から見ると結構ごっちゃごっちゃ、喋っていることが一緒みたいな感じなんで、それでなんか、お姉ちゃんたち金(苗字)で、私の家が金で、それで、金正日みたいな感じ、あるじゃないですか。名前だけでめっちゃ言われるから、それでなんか、言われてたと聞いたことがあります。学校の友達からそういうこと言われたことある、みたいな感じで。お姉ちゃんたちが留学行って帰ってきた頃からあれ？全然世界が違いみたいな感じになったらしいです。生きやすいみたいな。

Q：お姉さんが韓国に留学してたのっていつ頃ですか。

J: ちょうど私が小学校に入ってからお姉ちゃんたちが行ってたんで、ちょうどがらっと変わる年に行って帰ってきた感じですよ。だから。

Q: 自分には韓国が近く感じ始めたのはいつからですか。

J: やっぱり留学行って、喋ってることが分かったら、それまでは音楽も好きだし、アイドルも好きだけど、なんか、喋ってる言葉が分からなかったの、ただ耳で意味もわからず(笑)

Q: 韓国って、それまで外国というイメージではなかったんですかね。

J: でも、外国のイメージ? 確かに。

Q: 言語が分からないことで、韓国の大衆文化は外国のものみたいな感じを受けたことはないですか。

J: あ、でも、そうかもしれないです。まあ、お姉ちゃんとかが喋れてたんで、それで疎外感めっちゃ感じて、なんか、自分だけ分かってない、今の言葉分からなかったの? みたいな感じで言われるんですよ(笑)。なんか、それはあれですね。自分は。

Q: BoA とか出てみた時に、近い感じはしました?

J: でも、周りの子よりは近い感じしました。周りの、なんか、周りと比較して、自分に関係あることだと思ってました。ニュースとか見ても。

Q: 大衆文化に接してからもっと近い感じはしますか。

J: しますね。近い?!

Q: 留学は K-Pop にはまらなくても行っただけですか。

J: あ! 行きました。それはもう小さい頃から、小学生の頃からずっと韓国語喋れるようになるって思ってたんで、たぶん流行ってなくても行ってました。

Q: K-Pop は?

J: BoA から、一番好きなのは SHINee で、SHINee がめっちゃずっと好きで今も好きで、SHINee のコンサートファンクラブやめちゃって、お金がなくて(笑)やめちゃったので、友達も EXO 好きなんで、友達も EXO のコンサート 11 月に行ってきました。あと、GOT7 分かりますかね〜お姉ちゃん 3 人いるんですけど、3 番目のお姉ちゃんが GOT7 好きで今度 2 月に行きますけど、私も行きます。でも、SHINee が一番好きです。

Q: でも日本で SHINee あまり活動しないイメージありますけど。

J: そうなんです。なんでですかね。SHINee 年だからかな、めっちゃ好きです。その時、私が小学校 6 年生の時にリンディンドン見て、え? 何? めっちゃ格好良くなって、ジョンヒョンが好きなんですけど、格好良いです。やっぱりお姉ちゃんが留学中にいろんな韓国の K-Pop とかに触れて帰ってきて、なんか色々見せてくれて、なんか、それで見て、え〜格好良い、やばいと思って、SHINee 好きになりました。

Q: じゃ、自分が K-Pop にはまるようになったのは、兄弟の影響がかなり大きいという感じですか。

J: 兄弟の影響ですね。親はどちらかというと俳優、ドラマの影響を受けているんで、お父さんはあの、あれですね。お母さんと一緒に韓国の歴史ドラマ見てます。あと、お父さん一人で、自分で韓国語勉強してます。全然こっちにいて使わないので。

Q: ご兄弟の国籍はどうなるんですか。

J: お父さん韓国でお母さん日本で、両方取れるんですけど、結局一番上のお姉ちゃんも日本にしちゃって、みんな、あと 2 番目のお姉ちゃんが旦那さんいるんですけど、旦那さんが日本の方で日本にしちゃって、3 番目のお姉ちゃんが GOT7 好きなお姉ちゃんが旦那さん

が韓国人なんですよね。で、今も韓国に行ってる、旦那さんが軍隊で除隊式で、なんですかあれ？式があるじゃないですか。あれです。空軍の支持する、なんか難しいところ行ったって言ってました。今それにお姉ちゃんが出席してて、明後日が誕生日だということで祝ってます。で、3番目のお姉ちゃんは韓国にしたのかな〜22歳までに、21か22歳までに、でも、私は日本かな〜と思います。3人のお姉ちゃんよりもXX(日本の苗字)で、XX(日本の苗字)なんですけど、XX(日本の苗字)で生きてるのが長いというか、XX(日本の苗字)でしか生きてないので…

Q：韓国名ありますか。

J：あります。男の子みたいですけど、EXOのKAIって分かります？その人も名前同じで、それで、あまり、ちょっと…

Q：Jさんの苗字はお母さんの？

J：はい。で、私は日本にするかな〜、で、上のお姉ちゃん二人は日本で、3番目は韓国っていう感じです。弟もたぶん日本かな〜ずっと。

Q：(韓流に触れる) 毎日というのはどういう？

J：音楽、毎日聴いてます。あとは、今 GOT7 の音楽、めっちゃあさってるんで(笑) そうなんです。

Q：友達とよく話しますか。

J：今行ってる学校、看護なんですけど、学校では全然 K-Pop 好きな子がそんないなくて、みんなアイドルとかあまり好きじゃないです。嵐とかも好きじゃなくて、みんな K-Pop の話せずにみんな恋愛の話するんですけど(笑) 高校はすごくて多くて、その子たちとは普通にコンサート行ったり、一緒に K-Pop カラオケしたり、韓国料理食べに行ったりします。私が SHINee の名札つけてて、それでばれていくっていう、どんどん、で、私の後ろの席の子が1年か、2年の時に後ろの席の子が Super Junior が好きで、それでなんか、めっちゃ最高って騒いでたら、どんどんどんどん広がって、BIGBANG 好きな子と EXO、少女時代好きな子、Super Junior 好きな子、私みたいな SHINee 好きな子って分かれてました。そのグループ担当みたいな、もうめっちゃくちゃ話します。今でも会ったら、こんさーと次これあるから行こうとかカラオケ行こうとか。

Q：お姉ちゃんたちと比べて友達と話すことが多いですか？

J：でも、アイドルは友達と話すことが多いですね。ドラマ見る子がいなくて、韓国語みんな分からないんで、それはお姉ちゃんと話します。お姉ちゃんは自分で勝手に WiFi で見るんで、baykoreans って分かりますかね。韓国のドラマとか映画とか出てるやつで、それはお姉ちゃんと一緒に見たり話したりします。3番目は旦那さん韓国人なんで、韓国語ずっと聴いてて、旦那さんとも韓国語で話してて、テレビもずっとそれ、みたいな、ラブラブです。

Q：主にインターネットで見えますか。

J：そうですね。Twitter やったり、あとは YouTube あさったりとかですね。Twitter は知らない人もいますが、でも友達が多いですね。知っている人の方がわーってなりやすいじゃないですか。

Q：K-Pop 流行りだしてから言いやすい環境になってからというので、自分がハーフだというのは言えるようになりました？

J：確かに、この K-Pop ブームなかったら自分たぶん、あまり言ってなかった、言ってないというかあまり、聞かれない限り言わなかっただろうなと思います。特に自分は喋れるん

でより言いやすいです。あの、昔はハーフなんだと言うと、え？そうなんだ、喋ってみて！って言うじゃないですか。それで、喋れない自分がすごい嫌で、なんか、なんで喋れないのに、言ってるんだみたいな、みんなに、喋ってみてよって言われて、あ、喋れないんだって、え？そうなんだ～つまらないな、みたいな感じじゃないですか。それが、辛過ぎて、なんで自分韓国の血入っているのに、喋れないんだってなってあまり言わなくなりました。それもあります。なんで、K-Pop ブームプラス自分が喋れるようになったので、より自信が、今は全然。なんか、私はなんか、自分が半分は韓国人だということを言って、友達とかから、友達っていうか仲良くない男子とかから、混血人とか言われて、めっちゃなんか、そういうこと言われてたこともあって、すごい、自分半分だからなんか、まだ弱いですけど、自分のお父さんとかどうやって生活してたかと思うと、きっと辛かっただろうなって、混血人という悪い雰囲気になるんですよ。

Q：差別みたいな感じ

J：そうですね。お父さんもなんか、聞いたんですけど、在日って良いイメージじゃないじゃないですか。なんか、大変だなと思います。私はまだお姉ちゃんとかお父さんに比べたらそこまで嫌な目には会ってないですね。昔はそういうこともあったんですけど、今は結構忘れちゃってて、今の私には忘れちゃっている部分もあります。その時、小学校1、2年生の時は自分も辛かっただろうと思いますけど。

Q：韓流は日本の男子と女子によって受け入れ方とか違ったりすると思いますか。

J：あ～確かに。確かに。男性と女性に？違うと思いますね。男の人ってあまり韓国好きじゃない、きつい、なんか女の人の、なんか韓国の人は整形だしみたいな、なんか、気強い人たちが多いとか思っているじゃないですか。でも、韓国の男の子が好きな女子すごくいるんで、女の子はもう韓国男子というだけでもう、大好き（笑）めっちゃ受け入れやすいと思います。

Q：それについて何か、経験したことがあれば、教えて頂きたいですけど。

J：私が中学校の時に、放送担当でお昼の、その時に K-Pop ばかりかけたんですよ。なんか、女の子は全然いいみたいな感じだったんですけど、K-Pop 知らない子も全然いいみたいな、でも男の子は韓国なんてみんな整形じゃん、無理みたいな感じで、やっぱ男の子は女の子を見るじゃないですか。相手の国の、で、だから整形とかそういうのばかり見えてくるみたいな、女の子は全然、格好いいよね。みたいな。逆に相手の国の男の子を見るんで、その時に思いました。それはあります！でもきれいな方が良くないですか。日本の嫌いすぎるのもよく分からないです。美しいとか、きれいな方が絶対いいじゃないですか。世界を平和にしますよ。きれいな人は（笑）

Q：（笑）その気持ち分かる気がします（笑）あと、最近の韓国に関するニュースとかだと、良いものが多い感じですか。悪いものが多い感じですか。

J：そんなにいいニュースしなくないじゃないですか。政治に関してばかりやるんで、やっぱり悪い、よくないニュースが多いイメージあります。

Q：韓流がピークだった時はどうですか。

J：あ、でも（韓流がピークだった時は）そういうニュース少なかった感じがしますね。あ、その、K-Pop が流行ってた時あるじゃないですか。その時は少なかったと思います。仲悪いとかもあまり聞かなかったんで。

Q：韓流が最初はやった時って、どんなイメージですか。ドラマとかの時。

J：あ～冬ソナからすごいですよね。冬ソナ、そんな知ってますけど、見ましたけど、その

時は全然、おばちゃんたちが見ている感じですよ（笑）でも K-Pop が若者にどんどん、10 代ばかりじゃないですか。好きなのが。基本今アイドルですよ。

Q：その部類が少し違うと思いますか。

J：はい。そうですね。

Q：分かりました。ありがとうございます。韓国を近く感じたのは文化と関係ありますか。

J：ああ、周りの生活している中で、自分の周りにいる友達とかよりは自分は近いと思って、あの、血が入っているし、近いな～というのはあって、あ、でも、なんか、あっちに行って、文化の教育受けて、韓国側の考えというか、日本でしか教育受けてなかったんで、そこからなんかあったかもしれないですね。行ってからより近いというか、自分が中立な立場から考えるようになったというか、こっち側の話しか聞けなかったのも、それでより韓国に近づいたのかなと思いますね。

Q：それは直接的な経験ですね。

J：そうですね。

Q：大衆文化からはどうですか。間接的な。

J：あ、でも、近づいた感じはしないかもしれないです。やっぱり文化とか、歴史とか、深いところに触れないと、なんか、ですね。表面上で触れてるだけでみたい。一番深いところは触れてないみたい。距離的な感じで言うとそんな感じです。大衆文化から間接的にはあまりないかもしれないです。

Q：そうなんですね。韓国の大衆文化に触れることで、何か、これまでの自分がこう変わったとか、ありますか。見る目とか、興味関心とか、何でも。

J：それはあります。韓国語の勉強したいとは思いますが、そこから、K-Pop から文化とか、歴史とか、そういう韓国の考え方とかあるじゃないですか。伝統的な、年上の方を敬うとか、そういう考え方まで学ぼうというのは、そういうの知らないまま、ただ韓国語可愛いとか、韓国語って可愛いじゃないですか。可愛かったり、アイドル格好いいとか、そういうので終わってたと思います。

Q：そうなんですね。ドラマはどうですか。

J：あ！ドラマ見ると、そうですね。確かに。

Q：知らなかった韓国についてたくさん出てきますかね。

J：あ～そうですね。なんか、お酒めっちゃ飲むみたい（笑）そういうのとか、韓国でなんとなく、あと、なんか、チンジルバン（岩盤浴）、そこでシッケ（甘酒）飲んだり、そういうのとか、あと、家族めっちゃ仲良いですね。家族が好きというか、家族単位じゃないですか、お祖父ちゃんおばあちゃん含めての。でも、あっち行って、本当に韓国人、現地の韓国の人に触れないとやっぱり、本当に思ってることとか話しても表情とかでも思うじゃないですか。歴史の話とか、韓国の人と話したからこそ、分かったと思います。あ、でも、ドラマは結構有効というか、その文化とか学ぶのに。

Q：歴史ドラマとかは見ないですか。

J：歴史ドラマはお母さんは見るんですけど（笑）私がそんな、あれで、

Q：ドラマ見ると、韓国の社会とか、街とか出てきますよね。

J：あ～そうですね。確かに。アイドルじゃそこまでいらないですけど、ドラマ見たらそうですね。広まっていく感じだと思います。

Q：韓国に留学したのはなぜですか。

J：お姉ちゃんが先に行ってたのもあって、生きやすかったです。

あ、これ、お姉さんが言ってたんですけど、K-Pop ブームからすごい人気だって言っていました。韓国に留学したいという倍率が。絶対それは K-Pop とかの流行のおかげですよ。韓国語学びたいという人めっちゃ増えて、あの、ここの言語選択、私韓国語取ってるんですけど、づるいって言われているんですけど (笑) すごい、K-Pop ブームからすごいですよね。

Q: そうですね。

J: クラスにいる人、ほぼ全員 K-Pop 好きで選んでるんで。

Q: そう、最近韓国語勉強する人すごく増えてる感じしますね。だから韓国語の授業やってる教室に行って、インタビュー応じてくれる人探そうと思って回ってます (笑)

J: そうなんですね〜じゃ、あるのかな〜と思いますね。K-Pop のブームによって、みんなも韓国語学ぼうと思ってるし、興味持っているということじゃないですか。たぶん、政治とかに興味持ってる人もいると思うし、言語が分かったら、naver (検索エンジン) とかでニュースもびよんって飛んできたら見るじゃないですか、やっぱり、あ、こういうふうに韓国の人も思ってるんだな〜ということも思うと思うんですね、みんな。私は naver って韓国語分かるんで見るんですけど、それでちょっとずつみんな韓国側の記者が書いている記事とか見てもらったらどンドンどンドン交流が深まるというか、それが K-Pop のおかげでなっているのかなと思いますね。

Q: 分かりました。ありがとうございます。では、韓国ドラマや K-Pop が自分の国のものだという認識はありますか。

J: そうですね。

Q: やっぱり J-Pop、嵐の方が近いとかは感じたりしないですか。

J: 嵐の方が、私遠いんですよ〜 (笑) K-Pop にはまるまでは関ジャニ∞が好きで〜

Q: あ〜そうなんですね (笑)

J: (笑) ずっと小学校の間ずっとファンだったんですよ。自分が韓国人という忘れてるぐらい、めっちゃ関ジャニ∞好きだったんですけど、K-Pop にはまってからは私はもう韓国人だからみたいな感じで (笑) こっちの方が強いというのはあります。

Q: (笑) K-Pop に乗り換えてから変わったんですね。

J: はい。そうですね。嵐は遠いですね。関ジャニ∞は今もう思わないですね。

Q: 関ジャニ∞と K-Pop は何が違うと思いますか。

J: え〜と、関ジャニ∞と K-Pop? 歌がいい! 歌詞がいいし (笑) というのはありますね。あとファンを大切にしてくれる感じが〜好きですね。なんか、めっちゃ歌詞がいいじゃないですか。本当にこれ恋人に向かって歌ってる、みたいな、歌を歌うんで、関ジャニ∞とかは元気に行こうみたいな感じじゃないですか。

Q: はいはい。

J: だから、断然こっちがいいと思います。

Q: それは日本のドラマじゃなくて韓国のドラマが好きなことにも一緒ですか。

J: はい。絶対 (笑)

Q: その理由はなんですか。ドラマの中で見られる生活とかの姿は韓国ドラマと日本のドラマのどちらが近く感じますか。

J: 私、家でご飯が結構韓国の料理多いんで、お父さんが喜ぶんでお母さんが作るんですけど (笑) お姉ちゃんとかも韓国料理作るんです。で、と、法事とかも全部韓国の。

Q: 法事やるんですか。

J: はい。あと、あれです。9月にやる、あれ、なんでしたっけ。

Q: お盆、チュソク!

J: はい。チュソク! それも韓国式でやるというか、はい。

Q: そうなんですね。それはいつ頃からですか。

J: あ〜小さい頃からです(笑) 小さい頃からやっています。

Q: お父さんがそういう民族団体の何かをしていらっしゃるんですね。

J: そうですよ。お祖父ちゃんから教育を受けてて、それで、このお辞儀のあれとかも、全部小さい頃からやらされてたんで、はい、そうですね。チョゴリも着るし、成人式、浴衣じゃなくて着物で行くんですけど、成人式の前撮りチョゴリ着て撮りました。

Q: そうですか?

J: はい。そんな感じでやりました。

Q: あ〜両方やっぱり大切に追っていきみたいな感じですね。

J: はい。でも家の生活は韓国に近いのかなと思います。お父さんが韓国人だから…完全に韓国ではないですけど、日本語で話してて。

Q: ご自身はどっちに近いと思いますか。

J: なんか、韓国に近づきたい自分、あ、韓国に近づきたい日本人という感じ(笑) 近づきたがってるんです、心は。好き、好きっていうか、韓国の方が好きなんですよ。なんか、その家族を大切にするとか、年上を敬うとか、そう、なんか、みんなオンニ(お姉さん)、オッパ(お兄さん) でいく感じとかも全部好きで、そういうところ? だから韓国、自分をもっと韓国人になりたいということ、めっちゃ思います。

Q: 日本で普通に生活していれば日本人としていけるじゃないですか。でも、両方大切にしていきたいという気持ちはどこから生まれるんですか。

J: 分かんないです。これは、心のなんか、体の中から湧いてくるみたいな感じですね。

Q: そうなんですね。

J: はい。なんか、アイデンティティ、自分のそれを、韓国人であることを否定しちゃったらなんか、自分がなくなるというか、自分じゃないというか、それは否定できない事実じゃないですか。自分の半分がそう、だから、消さないように。

Q: そうですね〜じゃ、逆の人もいると思いますか。逆に嫌いな…

J: あ、なんか、自分のそういうのを秘密にしている子結構、同じ学科で叔母ちゃんが韓国人で、クウォーター? の子がいるんですけど、その子は始めて言ったって言ってました、人生で。私が韓国人って言ってて、それで、その子も実は私もそれでって言ってて、人生で始めて言ったよって。言わない方がいいと思ってたというか、悪い反応されるの怖くてみたいな。私と逆の子もいるのかなと思います。

Q: どうですか。でも、自分の中では日本で言いやすい環境になったと感じてますか。

J: そうですね。自分はなんか、怖がりじゃないので(笑)

Q: そうですね。めっちゃ明るいんですね(笑)

J: (笑) 本当ですか? なんか、周りにどう思われても、これが自分だから、この自分が嫌だったら離れてと思うんで、自分が韓国という理由で嫌だと思われるのなら、という感じです。友達を捨てます。こっちの方が大切なので。

Q: 受け入れてくれる友達もたくさんいますか。

J: はい。

Q: 世間一般的にはどうですか。周りの人たちはいいとして、国や社会レベルで見ると、受け入れ度合いというのは、どうですかね。

J: あ、なんか、昔流行ったんね～みたいな感じで言われます。私が K-Pop のコンサート行ってきたと言ったら、あれ？まだ好きなんだ～みたいな感じで言われます。昔すごい人気だったよね～みたいな。過去のことみたいな、なるんですけど、あ～なりますね。なんか、どうなんでしょう～でも、悪く思ってる人もいるだろうし、何も思っていない人もいると思うし、よく思ってる人もいると思うし、なんか、まちまちです。どうでしょう～私が周りを気にしないので（笑）なんって思われてるかよりは…

Q: どうですかね。お父さんの時代とかと比べて今は？

J: 良いですね。全然良いと思います。

Q: この環境ってこれからよくなっていくと思いますか。

J: あ～良くなっていくと思います。よくなると良いなとも思いますし、なんか、私の考え的に、これ絶対に無理な話ですけど（笑）北朝鮮を韓国と一緒にしてあげて、経済がやばいんで韓国の足引っ張っちゃうと思うんですけど、そして、日本もまとめて欲しいと思うんです（笑）

Q: （笑）

J: 全部韓国になれば良いと（笑）思って、もう良いよって日本政府が争うと思うんです。

Q: どうでしょう。日本の方が先頭に立ってそうするべきだと思いますか。韓国の方がそうするべきだと思いますか。

J: 私は韓国の方だと思います。なんか、もう、日本で生きてきて、日本の友達が学力低下でもう、やる気がないじゃないですか。韓国に行ったらもう、韓国の友達はめっちゃ勉強して、ヤザ（夜間自立学習）？ヤザタイム？とかで寝る時間 3～4 時間だったみたいなこと言って、本当にすごいみたいな～ここの、ここでそれを悪いと思う人もいると思うんですけど、日本のさぼる勉強法よりも絶対いいし、絶対能力高い子がいると思うし、ここの大学に留学してきてる人たちも能力高すぎて、英語喋れるの当たり前みたいな感じじゃないですか、ほとんどの人が。そういう国から出てきてる人が先頭に立って管理すればいいじゃないかなと思います。全部人任せみたいな感じでダメですけど、いつかその三国が一つになったらいいなと思います。そのために、こういう韓国語も日本語も話せて、両方の文化に介する人たちがどんどん広めてて、まあ、そういう必要ないと思う人もいると思うんですけど…

Q: それは、大衆文化の交流によって可能だと思いますか。

J: 私可能だと思ってたんですよ。

Q: 思ってた？

J: はい。流行って、あ、これ行けるんじゃない？って、もう、韓国に飲み込まれてるな～日本って思ってたんですけど、なんか、最近、そのテレビ、テレビ会社、テレビ局にすごいクレームが行ったという、前毎日 K-Pop ばかり流してて、

Q: フジテレビデモですよ。

J: そうですね。それがあって、あまりやらなくなったじゃないですか。ドラマもなくなったじゃないですか。それで、あれ？ってなりました。え～？って。なんか、このまま行けば行けたと思ったんですけど、

Q: それでも韓国のドラマとか K-Pop は終わったと思いますか。

J: でも、なんか、K-Pop ブームとかはおさまってないんで、まだコンサートとかすごい人いると思うんで、やっぱり。

Q: K-Pop って、テレビじゃなくてもインターネットとかでも見れますから。

J: そうなんですよ〜ファンは消えないですよ〜

Q: そういう面も含めた上で、可能性はあると思いますか。

J: そう思います。あと、韓国ファッションが好きだったりする人もいるんで、モムチャン(最高の体)とか、みんな真似ってて、男の子たちも韓国の男の子の真似している人とか結構います。そういうファッションの面とか、化粧品とかも韓国の使われてるし、K-Pop 以外にも。どんどん浸透してたらいいなと思います。

Q: 自分の周りを見てもまだ消えてないと思いますか。

J: メディアだけで見ると落ちたかもしれないですけど、そう思います。

Q: ありがとうございます。生活に満足しているかについて、とてもそう思う。

J: はい。楽しいです。

Q: (笑) 今、1 年生ですよ。

J: はい。すごい楽しいです。

Q: アルバイトとかは？

J: アルバイトしてなくて、昨日面接行ってきました。お寿司屋さんの (笑)

Q: (笑) 家の近くですか。

J: はい。面接してきて、もう働きます。

Q: そうなんですね。そのほかにどういうところで楽しいですか。

J: はい。学校祭があつて、学校祭の委員会に入つて、その仕事にすごい充実してます。あと、友達もいいですし、小中高の友達もいるし、そうですね。

Q: あと、韓国にも生きたいと思ってますか。

J: もう、行きたいですよ〜また行きたいです。で、大学がほぼ旅費とか出してくれて梨花女子大学に行けるみたいで、夏行こうかな〜と思ってます。なんか、語学研修らしいですけど、友達作りたいで、行きたいんですよ。

Q: 是非行けるなら行くべきだと思いますよ！

J: (笑) でも、英語勉強しないと行けなくて、お母さんがアメリカ行けみたいな〜アメリカにも留学したいんですよ。でも私は韓国へ行きたい (笑) あ、なんか、図書館で勉強してて、友達がなんか、団体の人に話しかけられてて、私に助けてって言われて行ったら、韓国人の団体さんで、私に通訳して色々付いて行ってたん、3 時間ぐらい大学の中で、そういうのもあつて、充実してます。自分の能力を発揮できる大学がすごい、この大学だから今こう発揮できているんだな〜と思ってます。

Q: 大学に来ていろんな意味で世界が広がって行く感じしますか。

J: 留学生多いですね。あ〜本当に (韓国留学を) 大学に入る前に行つてよかったなと思います。大学に入ってから行くと、なんか、今までの何年、1 年とか、大学にいる留学生と話せないままじゃないですか。今すごいいいです。

Q: 良かったです。それは。生活に不安を感じる？どちらでもないというのは？

J: あの、韓国とかのやつじゃないですけど、あの、私看護で看護学部、ナースになるんですけど、実習が怖くて、もう、未来が、

Q: それは、我慢できると思って入ったんじゃないですか。

J: そうなんです。でも、なんか、授業で、ストレスの授業とか受けるんですけど、なんか、医療職が一番自殺者が多いみたいな、死と直面するし、なんか、もう、みんな自殺して行くみたいな、看護師、医者が。それ聞いて、もう私そんな〜ああ〜みたいな。私助産師になりたくて、産婦人科の。助産師が流産した時の子供を最後に殺す役目をやるらしいです

よ。

Q: あ、そう～

J: そういうの聞いて、夢がどんどん崩れていて今（笑）これで本当にいいのかって。

Q: 不安ですね。専攻的なところで、これからの自分の夢と関連してですね。他はどうですか。

J: 他は、結婚できるのかな～（笑）

Q: 結婚に関する希望とか、結婚観とかありますか。

J: あ、私韓国の人と結婚したいんですよ。韓国で生活したいんですけど、韓国って、看護師、もう一回取り直さないと行けないですよ。

Q: あ、そうなんですね。

J: オーストラリアとイギリスとアメリカはいいですけど、はい。だから英語できる韓国人と結婚したい（笑）

Q: （笑）

J: それでイギリスかオーストラリアかアメリカに住みたい（笑）

Q: 韓国人と結婚したいというのは、やっぱり韓国のも保って行きたいと思うからですか。

J: あ！それもあるかもしれないです。私、日本人の男性より韓国人の男性の方が好きで。それは韓国人の男性に夢を抱いているのかもしれないですけど。日本人の男性って、デートしても自分が電車で座るんですよ。韓国の男の人って、車のドア開けるし、電車とかも座ってって言うし、荷物持ってくれるって、え～？みたいな～椅子とかも引いてくれてて、え～？ってなって、それガチでやってんの？みたいな。何も下心なく。

Q: そうですね。下心なくやりますね。礼儀として。

J: ですよ。全然気があるとか、アピールしたいとかじゃなく、やってるんで、留学してびっくりして、韓国の人がいいな～韓国の文化を知っている？なんか、日本人でもいいんですけど、韓国の文化を知っている人がいいです。お祖父ちゃん、お祖母ちゃん大切にしてくれる人がいいし、自分の親じゃないですか。自分の親も大切にできる人がいいし。

Q: 日本を誇りに思いますか？どうですか。

J: なんか、勉強？勉強面もありますし、政治家たちがお金でグッチャグッチャだし、普通にお祖父ちゃん、お祖母ちゃんたちがいるのに電車で座ったりする人もいるし、文化教育とか、学校の教育とか全然ダメだな～と思って。英語の先生？私の、ネイティブの先生だったんですけど、大学の、男の先生だったんですけど、なんで日本の男の人はなんか、（電車で）座るの？みたいな、アメリカとかだと男女平等だから、そういうのもあるけど、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんが立ってたら普通になるよみたいなこと言われて、イギリスとかだと完全に男の人が立つんですけど、なんか、日本の男子ダメだなと思って（笑）だから、誇れない。

Q: 文化とかはどうですか。生まれは日本でしたね？

J: はい。そうですね。あ～でも、食文化とかいいと思います。美味しいし、ヘルシーだし、全然いいと思いますけど、歌舞伎とか、着物とか、舞妓さんとか、全然いいし、きれいだと思いますし、その辺は、歴史とかは全然いいと思います。いま、現代の日本があまり誇れない…

Q: どうですか。日本で生まれてよかったと思いますか。

J: 私、韓国で生まれて韓国で育ちたいと思います、実は（笑）お父さん～お母さんと出会ったまま韓国に行けばよかったとか（笑）

Q: どうですか。もし、韓国で育ったら、また日本でよかったなと思うことはないと思いますか。

J: あ、でも大学受験の時は日本行きたいと思ったかもしれないです (笑)

Q: (笑)

J: でも、なんか、日本人が韓国語喋ろうとしたら喋れないんですよ。難しんですよ。何年もいないと、発音とかめっちゃ苦手で、すごい下手なんですけど、だから韓国で育ちたかったとめっちゃ思う。でも韓国の人が日本語話した方がやっぱ上手いんじゃないですか。

Q: あ〜ちょっとあります。韓国人はよく、ちゅちゅと言ってしまうことがあったり、

J: あ〜「作る」を言う時に、「ちゅくる」になってしまう (笑)

Q: そう〜 (笑)

J: あ、でも、全然いいです。こっちが韓国語喋れない方が嫌です。

Q: そうですね。日本は母音が少ないですよ。

J: そうなんです。なんで、「つ」とかは、頑張れば全然。

Q: (笑) そうですね。

J: でも、日本は住みやすいんで、一応、きれいだし、でも、韓国のソウルとかの感じで、行きたいところがぎゅっと、かたまってる欲しい。(日本も) 住みやすいですから、日本もいいですけどね〜

Q: そうですね。韓国は土地が小さいから (笑)

J: きゅっとなってますよね。もう全部楽しめる! (笑)

Q: (笑) そうですね。

J: 本当に思います。

Q: 分かりました。質問は以上です。ありがとうございます。

【対象者 K】

Q: インタビュー始めます。よろしくお願いします。韓国ドラマを見たのはいつからですか?

K: キム・サムスン関係なく?

Q: はい。一番最初に見た…

K: 一番最初に見たのは、2000 年ぐらいからだと思います。

Q: 2000 年ぐらい、おー。

K: はい。

Q: 何からですか?

K: 冬ソナ

Q: あ、冬ソナが始めてからですか?

K: うん、あ、でも 10 年ぐらい前。

Q: それが、それを見ようと思ったきっかけは何ですか?

K: 当時、すごく流行っていて、パチンコになってたりとか、話題になってたからちょっと見てみようかなと思って。でも、それを見て、ドラマでやっている時は見てなかった。借りて DVD でみました。

Q: あ〜その DVD で見てどう思いました?

K: まあ、自分とは違う話〜 (笑)

Q: あ、違う (笑)

K: まあ、違う話で～と思って、まあ、見ているだけ、な感じですね。可哀想だな～

Q: あ、可哀想だね～だれがですか？

K: チェ・ジウ？

Q: あ！チェ・ジウが、

K: 可哀想だな～、分かってもらえなくて可哀想だなとか、彼氏になりかけだったのに、死んじゃって可哀想だな～とかそういうふうに見てましたけど…

Q: それで、最後まで見ました？

K: 見ました、見ました。

Q: それは、やっぱり流れで面白くて見たいと思ったからですか？それとも？

K: よく言われているみたいに、一回見ると辞められない、最後まで見ないと気が済まないみたいな。

Q: あ～はいはい。どのぐらいの期間で見ましたか？

K: 結構長かったんですけど、DVD だったんで、毎週、毎日とかじゃなかったんで、もう一日に、休みの日とかに一日中見たりしてたんで、結構早かったんです。1 週間もかからなかったと思います。

Q: ウォ～はいはい。その時、仕事はしてましたか？

K: その時は、仕事はしてましたね。

Q: あ、そうすると休みの間に見ますよね～

K: もう、平日も見て、寝れなくなったり (笑) しました。

Q: (笑) その後も、韓国ドラマはこう DVD を借りて来て見たりしました？

K: しました。

Q: それは、毎日ですか？

K: 毎日ではないですね。

Q: 見るようになったドラマはどういうきっかけで見るようになりました？

K: 最初は、チェ・ジウ？が出てるドラマ、だから『天国の階段』、その後は『エアーシティ』、誰かが出てるのを借りたという。

Q: あ、はいはい。主に俳優ですか？

K: そうですね。出てる人より、気に入らなかつたら別に見なかつたりもするし、テレビでやっているのを友達が見て良いよって言ったら借りて見たり、そういう選び方ですね。

Q: そうなんですね。そこから『私の名前はキム・サムスン』を見たのは、いつからですか？

K: 二千、テレビでよくやってた時なんで、2005 年 6 年。

Q: 韓国で出たのが、2005 年です。

K: じゃ、もっと後、2006 年 7 年。それぐらいだと思います。

Q: 見るようになったきっかけは？

K: テレビでやってたから。

Q: あ！たまたまテレビ付けたらやってるから見たという感じですか。

K: たまたま付けて、見たら面白かったから、見ました。

Q: あ、そうなんですね。えーと。はい。『私の名前はキム・サムスン』は一番最初に見た時に、最後まで見ました？

K: 最後まで見ました。

Q: やっぱりそこも…

K: も、面白くて、最後まで見たかったから。

Q: 最初の1話を見た時に、最後までやっぱり見たいと思いました？

K: そうですね。そのテレビが毎日同じ時間にしてたんで、ちょうどその時、仕事をしてなかったんで、毎日見れたんで、毎日見てました。

Q: あ、そうなんですね。それで、そのドラマは、これまで何回見て、何回見ました？

K: それは、テレビだったんで、その時は1回。で、また違うチャンネルでサムスンがやってたので、また見て、というのをたぶん3回ぐらい。

Q: 3回ぐらい全部テレビでですか。

K: はい。テレビで全部見ました。

Q: テレビで見てる時は、やっぱり全話が終わってから、次のチャンネルでも1話から見ました？

K: そうですね。

Q: あ、はいはい。次のチャンネルでまた放送される時に、一度見たのに何でそれを見ようと思いましたか？

K: やっぱり面白かったから。もう一回見ようと思って。たまたまやってたというのもあったし、それで見ました。

Q: 放送されてた時間っていうのは、何時ぐらいですか？

K: 最初が、確か1時半から2時半とか、別のチャンネルに変わってからは3時から4時とか、それぐらいのお昼の時間です。

Q: 何回も見るほど、はまったというか、そう言えると思うんですけど、それに『私の名前はキム・サムスン』で一番良かった点は何ですか？

K: キム・サムスンがやっぱり自分の同じ目線で物事を見てるところで共感が出来たというのが一つあります。面白かったし（笑）

Q: 主人公にやっぱり共感したということですね。

K: そうですね。

Q: はい。分かりました。それでは、今からはキム・サムスンの視聴行動についてより詳しく聞いて行きたいと思います。

K: はい。

Q: えーと、『私の名前はキム・サムスン』を見る前の1日のライフスタイルについて説明して頂きたいです。

K: はい。その時は、仕事をしてなくて、結構いい加減な生活をしていたんで、朝8時か9時に起きて、朝ご飯を普通に食べて、ちょっと掃除して、職探しに出かけたりとか、インターネットで探したりとかして、お昼になって、お昼ご飯たべて、ドラマを見ながら夜になり、夜ご飯を食べて、ドラマとかバライアティとかテレビを見る生活をしてたと思います。

Q: 夜は、日本のテレビを見てました？

K: そうですね。あまりドラマ、日本のやつ見ないんで、バライアティを見ていました。

Q: あ、そうですね。昼にキム・サムスンを見たとおっしゃいましたが、キム・サムスンを見た当時の、1日のライフスタイルはどうでした？

K: が、そんな感じです。

Q: ああ、さっき。

K: さっきの。

Q：あまり変わってないですね。ライフスタイルが。(笑)

K：(笑) ちょうど仕事をしてなかった時に、キム・サムスンがやってたから、同じような感じで。

Q：あ、ただ昼にキム・サムスンを見ただけという。

K：はい。

Q：はい。分かりました。キム・サムスンを見たその当時、印象に残っているシーンというのはありますか？

K：印象に残っているのは、レストランに元カノでしたっけ。

Q：はい。そうですね。

K：が来て、サムスンが怒ってるとか、ヒョン・ビンが結構酷いこと言ってたのを覚えている。後、ハンラサンに行ったところも覚えてるし、後、お家に、サムスンのお家にいたお母さんとかお姉さんとか。後、ブランコ乗っているのとか、覚えています。

Q：そうですね。なぜそういう場面が印象に残っているんですか？

K：家は、ブランコはなかったんですけど、家には。家族構成が似ているわけではないですけど、口の悪いところとか、お母さんがきつかったりとか、そういうところも自分とちょっと似てたかな〜って感じるのと、後はそうですね。なんか、レストランで怒ってたのも、これからどうなるんだろうとワクワクしながら見ていました。

Q：そうですね。はいはい。その他に、サムスンの行動を見て、あ、彼女がそうやってやっていることを私も分かる〜と共感したところとかのシーンはありますか？

K：えーと。ヒョン・ビンと喧嘩した時に、ちょっとうる覚えなんですけど、どっかのパーティーで、最初の方ですよ。で、置いて行かれた？

Q：置いて行かれた？

K：とか、ありましたよね。そこで、すごく怒ってたときは、そりゃー普通怒るでしょうと思いついて見てたのも一つ。後は、その元彼女が出て来た時に、今の彼女だと自分で思っているからもう怒るのも当然と思いながら見てました。ヒョン・ビンが悪い男だな〜と(笑)

Q：あ、そうですね。

K：後は、仕事？最初彼女も無職から始まったと思うんですけど、そこが当時の私と一緒にだったので、そこは、どうなるんだろう。仕事をすぐ見つかるの良いな〜とか(笑) やっぱ手に職を持った方が良いんだろうなというふうに思いながら見ていました。

Q：そうなんです。そうですね。今の答えにつながると思うんですけど、サムスンを見て、サムスンのこういうところは見習いたいなという場面？自分のこういうところで見習いたいと思ったとかってありますか？

K：まあ、仕事ですよ。

Q：はいはい。

K：仕事を結構、一生懸命に探していたんですけど、私もその当時一生懸命探してはいたんですけど、あ、いいのいなあと諦めてたりとか、でも、彼女は結構どん欲に探していたと思うので、キム・サムスンを見る度に自分も働くためにはあーだこうだ言ったらだめだし、もっと一生懸命に探さないとだめだな〜と思いました。

Q：そうですね。このドラマの中には韓国の働く女性の厳しい現実みたいところを描いているんですけど、結婚のために頑張るところも出てくるんですが、そこはどうでしょうか。

K：そうですね。確かに(笑) そうですね。結婚もしなきゃというのも、私は、まあ、した方が良くないかなというぐらいの考え方ですけど、彼女はしなきゃということでしたよね。そ

っち方面ももっと考えた方が良いのかなとも思いました。

Q：当時、あまり結婚についてはそこまで考えてなかったんですか？

K：うん、なかったですね。

Q：仕事が一番優先っていう感じですか。

K：そうですね。やっぱり一人暮らしだったんで、生活費を稼がなきゃというのがありましたので、まず仕事でしたね。

Q：その前は、ずっと仕事していらっしゃったんですか。

K：そうですね。はい。

Q：休むようになって、どのぐらい間で…休んでたのはどのぐらいですか？

K：1年ないぐらいですね。全然見つからなかったの。

Q：前の職を辞めたのはどういう。

K：ちょうど派遣で働いてて、もう予算がないからって、じゃもう辞めよう、で、辞めたんですけど、多分時期も報われなくて全然見つからなかった。

Q：それで、探していたんですね。

K：はい。

Q：はい。友達と会ったとき、サムスンを見て、それが話題になったりとかはありましたか？

K：はい。同じように仕事を探している友達と仕事を探しに行った時に会ったりしましたので、その時に、見た？昨日？という話はしました。

Q：その友達も同じく共感しているところとかありました？

K：うん、そうですね。仕事探したいね～というところと、結婚したいね～というところですね。やっぱり。

Q：サムスンの話はどういう。具体的に思い出すものはありますか？

K：その前日に見た？という話をしたので、あまり覚えてないですけど、でもハンラサンに登るシーンは、なんか良かったよねとか、ヒョン・ビンが追いかけてくれてよかったね。そういう話をしました。

Q：そうですね。なんか、ドラマを見てから別の行動をしたり、見ることが終わってから、その続きで何か違う行動をしたりしました？

K：サムスンを見て、影響という？

Q：はい。

K：やっぱり、仕事は前に延ばして一所懸命に探すようになりました。もしかしたらサムスンのように出会いがあるかも知れないと思って。

Q：出会い？

K：そう。はい。出会いがあるかも知れないと思って、一生懸命に探すようになりました。

Q：別の行動とか、見た後ネットで何か書き込みとかは？

K：あ、サムスンについて、

Q：そういうのは。

K：してないですね。

Q：そうなんですね。ネットでそういうのを見たりするのはないですか？

K：えーとですね。書き込みを見るというよりも、あらすじを見ます。先が気になってしょうがないんで、あらすじを見て、その見た人がやっぱり感想も書いているんで、合わせて読んだりしましたね。

Q：このドラマを何度も見ていたというのは、普通に面白いからですか。あるいは、自分に

何らかの影響があるからだと思うんですか。

K：そうですね。まあ、面白いからというのものもあるし、この時、サムスンだったらどうしてたのかな～というのを重ねて。

Q：あ、自分と重ねて？

K：うん、ちょっと見たいなという時もあります。

Q：このドラマを見ていた時のご自身のことについてお聞きしたいんですけど、当時お仕事とか、家族、友達関係とか…色々含めて、満足していましたか？

K：まったく満足していないですね（笑）仕事もないし、お金は減って行くばかりだし。

Q：不安がっぱいな状態ですね。

K：彼氏もないし（笑）

Q：はいはい。

K：そんな感じですね。

Q：その時の自分のストレス解消とか、不安な自分に対する解決方法というのはどういうものでしたか。

K：友達と話したりが一番ですね。

Q：外出も結構されてたんですか。

K：と思います。職探しという名目で、友達と一緒にあって、話したりしてました。

Q：昼、キム・サムスンが放送される時間帯にはできるだけテレビの前にいるようにしましたか？

K：そうですね。友達と会うのは土曜日とか日曜日とかだったんで、その時は、やってないですね。平日のドラマが。

Q：キム・サムスンは、自分において励ましや癒しになりましたか？

K：なりました。

Q：どういうところがですか？

K：見ているとスカットしました。

Q：スカットしました？どういう？

K：やっぱり、彼女ははっきりものを言うので、それ見てると、自分はあまり言えないので…

Q：それで、自分の中の気持ちとかも変わるっていう感じですか。

K：そうですね。（当時の）面接官とかに代わりに言ってもらってるような、自分だったらそういうふうには言えないだろうなというのも彼女は言ってたんで。

Q：それは、誰に向かってですか？

K：ヒョン・ビンですね（笑）

Q：（笑）自分の生活だったら誰にですか？

K：誰かな。その当時だったら面接官。

Q：あ、はいはいはい。

K：ヒョン・ビンが面接官でしたっけ。

Q：そうです。

K：あの時も結構はっきり言っていましたよね。そんなふうには言えない～と思ってたけど、でもね～結局言ってもそういう価値を見出してくれる方もいるんだなと思いました。

Q：そうですね。それで、気分転換にはなりました？

K：なりました。

Q：家族と一緒にいるシーンも結構いるんじゃないですか。

K：はい。

Q：自分の家族においてサムスンというのも共感するところがあったりしますか。

K：そうですね。お母さんが結構うるさかったりするところは、まあ、うちも一緒なんで、ただ、あの、結婚しなさいというのはあまり言われなかったですけど、一回してるんで（笑）そこはあまり言われなかったですけど、早く仕事を探しなさいというのは、言われてました。

Q：お母さんもやっぱり心配していらっしゃるんですね。

K：そうですね。

Q：そういう家族がサムスンの生活にがんがん関わって来たり、お姉さんも関わるんじゃないですか。そういうところとかはあまり違和感なく見てましたか。

K：そうですね。自分よりはうるさく言われてるんだ。可哀想に〜とは思いました（笑）

Q：（笑）そうですね。はいはい。自分の家族との生活においてはどうでした？

K：家族はやっぱり離れて暮らしてるので、あまり干渉はされないんですけど、まあ、仕事してないというのも分かってるんで、電話がかかって来たりして、まだ仕事見つからないの？というのと言われました。

Q：でも、それが嫌では。

K：嫌になるほどではなかった。一緒にいないからそれは良かったかなと。

Q：よく家族との行き来はしましたか？

K：うん。そうですね。せっかくの休み、休みと言っては、あれですけど（笑）せっかく仕事してなかったんで、よく遊びには行っていました。

Q：そうですね。では、人間関係、男女の関係においてその時、彼氏はいなかったんですか？

K：ないです。残念ながら。

Q：そうなんですね。では、自分の恋愛、これからの恋愛においてはどう思いますか？もし、付き合うようになったら、どういうふうにするだろうなとか。

K：たぶん年下の男だったと思うんですけど、年下はちょっとな〜と思ってたんですけど、年下もまあ、ありかなとはちょっと思いました。まあ、相手によるんでしょうけど。もちろん。

Q：はい。そうですね。そういう。恋愛においても結構強くて、自分でリードして行くサムスンというのはどうですか。

K：羨ましいですね。私はまったくできないので（笑）逆。

Q：（笑）そういうふうにしたいとは思いませんか？

K：うん…できないですね。

Q：ただ羨ましくて、理想にすぎないと。

K：そうですね。まあ、出来たらいいなとは思いますが、どっちかという、年上の人に引っ張っててもらいたいんで、そこはちょっと逆かな。

Q：そうですね。自分の人生においてサムスンのようにやってみたいと思うところはありますか。あれば。

K：やっぱり仕事にも何でもどん欲に行くところは見習いたいですね。一生懸命にというのは大事なことだと思います。やっぱり日々忘れちゃうんで、色んなことがあると、忘れないように、たまに見たいと思います。今でも。

Q：そうでしたら、私がこのドラマを見て変わってるな〜というのはありますか？

K：うん。そうですね。でも、ポジティブに生きなきゃね〜というのは、それを見て思いました。

Q：で、自分をポジティブに常にするというのが。

K：そうですね。そうすれば何とかなっていくんで、彼女を見て思いました。

Q：それは、自分の刺激になったという感じですか。

K：そうですね。

Q：日本でも女性を表に出しているドラマがいっぱいあるんじゃないですか。でも、そういうのは見ないですか？

K：なんか、共感というか、遠いところの職業だったりとかが多いので、あまり同じ目線で見られないですよ。すごく若い子のお話とか、弁護士だったり医者だったりというのが多いので、普通の OL さんでもちょっと贅沢な OL さんとかなので、あまり共感は出来ません。

Q：それに比べてサムスンはどうですか？

K：すごい等身大で自分に近いものを感じたので、それは面白かったです。

Q：サムスンの生活の中であった話はある得る話だと思いますか？

K：まあ、あり得ると思います。相手の男性主人公が、その社長さんというのがまれだったんで、後は別に普通の家庭だし、なんか恋愛のごちゃごちゃも普通にあり得る話だったし、そう思います。

Q：もし、当時自分の立場が違っていたら、感じたことも違ったと思いますか。例えば、結婚してたりとか。

K：主婦の人とかは、忘れてしまってるような、バスや電車で通勤したりとか、朝何時に起きて、会社行って、夕方帰って来てとかはもう忘れてしまっているような気がします。で、ちょうど私は仕事を休んでいた時で、そんなに立ってなかったし、だから近いものは感じれたんだと思います。

Q：仕事をしてたらそんなに見れなかったと思いますか。

K：そうですね。存在をもしかしたら知れなかったかもしれない。

Q：サムスンの…

K：うん、たまたまお休みだったから見て面白かったというのが分かったけど、たぶん、友達に面白いドラマがあるよ〜と聞いても見なかった可能性はあります。

Q：それは、見る時間がないからですか。

K：そうですね。

Q：でも、『冬のソナタ』の場合は、仕事していた時も、はまって見ていたんですよね。

K：うん、そのきっかけですね。

Q：なんらかのきっかけで見始めたら同じように見ていたかもということですか？

K：たぶん見ると思います。そこに行くまでがたぶん長かったと思います。

Q：もし、仕事をしていた時に自分で見てたらまた違うと思いますか？

K：そうですね。そこは、でもやっぱり、仕事のしている女性は大変だねと思って、ちゃんと意味を考えてみなかったと思うんですよ。時間もないし。

Q：そうですね。仮に、仕事していたとして、先ほどおっしゃってたように、すごくストレスたまるし、言いたいと言えないしということがあったじゃないですか。ここに関してはどうですか。共感できると思いますか。何か意味を込めて考えることって。

K：そこは同じですね。

Q：主人公の言いたいことをはっきり言っているところですか。

K：上司とかそういう所関係なく、羨ましいですね。

Q：日本でも難しいですよ。

K：なかなかないですね。

Q：韓国もそれがなかなか難しいから、このドラマが流行ってたかも知れないですけど。

K：面白いんですね。

Q：ご自身の生活、ライフスタイルについてお聞きしたいんですけど、これまで仕事している時の自分を考えると、どのような一日を過ごしていますか。

K：朝起きて、仕事に行って、残業して、帰って来て、ご飯食べて寝るみたいな。まあ、たまには遊びに行ったり、飲みに行ったりもしてたんですけど、で、それが当たり前なんで、仕事、例えばこう変わるときも、1ヶ月とか以内には決まってたので、長期でその時は1年も仕事がなかったの、どうしようと思ったし、手に職があればいいなと思ったのは、サムスンを見てからですね。パティシエの。

Q：そうですね。やっぱり手に職があることが、幸せだと思いますか？

K：自分ですか。そうですね。まあね。仕事に行けば、お金ははいって来るし、生活には困らないぐらいはあったんで、それが幸せと言えば幸せですけど、まあ、サムスンみたいに何にもない状態から一気に手に入れるというのは、そこはちょっとドラマかな～と思いましたね。

Q：そうですね。そこは難しいところですね。

K：難しいですね。

Q：ご自身の今の生活において幸せは何だと思いますか？

K：自分の好きなように生きることかな～と思います。自分が好きなことが出来たら後悔はしないな。

Q：そうですね。それが仕事だと思いますか？

K：とは、思いません。仕事だけだとは思わないし、まあ、欲張りかも知れないけど、サムスンと一緒にですよ。仕事もあって、恋愛もあって、そのうち、家族も持てというのが理想ですね。

Q：やっぱり結婚も重要だし、家族を持つことも重要だと。

K：そうですね。なかなか一気にはできないのが、辛いですけどね。

Q：でも、そこには希望を持って行っていっちゃいますか？

K：はい。今は何とか頑張ろうと思っています。

Q：他に見て良かったと思う韓国ドラマはありますか。

K：『ファンタスティックカップル』はお嬢様なんだけど、だれでしたっけ、オ・ジホのお家に行ってからまあ、仕事はしてないけど、生活の環境が似ているというか、一般庶民というか、それになっているから。

Q：そうですね。ちょっと雰囲気変わりますよね。

K：うん、そこだと全然共感出来ないし、お嬢さんの生活も分からないから、でも、そういう人が朝起きて、掃除して、適当に、そういうところはやっぱり面白いんで、何回も何回も繰り返して見ます。

Q：そのドラマはキム・サムスンとはちょっと違うんですか。

K：そうですね。仕事してないし、でもものをはっきり言うというのは、それは韓国女性に共通するところなのか、よく分からないですけど、そこは一緒だったんで、もう見ると

スカットしますよ。誰にも物怖じせずに（笑）

Q：そうなんですね。分かりました。インタビューは以上です。ありがとうございます。

【対象者 L】

Q：インタビューを始めます。よろしくお願いします。韓国ドラマを見たのはいつからですか。

L：うん…今から 8 年ぐらい前。

Q：何がきっかけで見るようになりました？

L：始めは韓国語を本で勉強して、ある程文字が分かるようになって、韓国語の先生がドラマを見た方が勉強になると言ったので、見ました。

Q：その前まではドラマは見なかったんですか？

L：その前までは、日本語で少し見たぐらいで、韓国語で見たことはなかった。

Q：日本語で韓国ドラマを見ました？何を？

L：日本語の吹き替えでの韓国ドラマを見ました。

Q：それは何でした？

L：うん…それが『私の名前はキム・サムスン』？！で、勉強しようと思って、韓国語の先生に勧められて、標準語だし、なまりがないから、で、ストーリーも面白いからというので、見ました。

Q：あ、さっき、日本語で見たのは、どうやって、見たんですか？DVD 借りて来て？

L：うん、DVD 借りて来て見ました。私の親戚のおばさんが韓国ドラマが大好きで、いっぱい韓国ドラマの DVD を持って、推薦？推薦してくれて、あまり韓国ドラマのような長いのは見たくなくて、映画とかなら見たかったの。短い 2 時間とかで終わるのは見たいけど、ドラマは何十何話まであるからそれを全部見るまでがすごく時間がかかるから見なくて、でも、『私の名前はキム・サムスン』は一回見たら面白くて、止まらなくなって、最初の 1 話、2 話を借りて来て見て、やっぱり見たくなくてずっと、最後まで借りて見ました。

Q：それで、何回ぐらい見ました？

L：5 回ぐらいは。

Q：5 回ぐらい。それはずっと借りて来て見ました？

L：うん、一回は借りて来て見て、面白くて、面白かったからおばさんの DVD をダビングしてもう持っている（笑）

Q：あ、借りて来たのは、ずっとおばさんから借りて来たんですか。

L：うん、そうよ。

Q：それで、どのように見ましたか？日にちを決めて見るのか、時間があるときに 1 話ずつ見るのか。

L：うん…日にちは決めないで、空いた時間に、見て、で、韓国語の勉強も兼ねて、うん、もう一回一話から最後まで見て、で次は、その中でも自分の好きなところだけ、好きな DVD のところだけを何回も何回も見て、で、韓国語を勉強しよと、そのフレーズを覚えようと思って何回も見っていました。

Q：そうなんですね。最初は日本語で見たんですか。

L：それが字幕が、あの、日本語の吹き替えで韓国語で聴けなかったやつだったと、確か、

記憶では。それか、その時まだはっきり韓国語が分からなかったから、日本語で見てたと思います。

Q：で、2回目から見たのが、

L：韓国語で、で、下に一応、日本語の字幕も。で、その次見たのは字幕なしに見たり。

Q：その操作ができるんですか？

L：そう、操作が出来るようにして見ました。

Q：はい。他の韓国ドラマは見ましたか？

L：も見ました。『宮』とか、うん、名前、いっぱい見たんだけど、でもそんなに、あ、『ダルチャの春』も…そう、色んなのをいっぱい見たけど、やっぱりストーリーとかを考えると、『私の名前はキム・サムスン』が一番好きなので、キム・サムスンを今でも時間があるときは見えています。

Q：韓国語の勉強にも活用するために何回も見ているとおっしゃったんですけど、他のドラマは何回も見てたりとかしてなかったですか。

L：うん。そうなの。最初は好きで、あ、面白い、一回目見たときは、面白いから借りてダビングをしたけど、ダビングしたのに見ようと思わない。(笑)何回も見ても面白いと思うのは『私の名前はキム・サムスン』だけです。

Q：他は何回もダビングして持っているけどですか。

L：そう、持っているけど、ダビングして持っているけど、見ない。

Q：『私の名前はキム・サムスン』の何がよかったから見たんだと思いますか？

L：う〜ん…やっぱり、あの、年の若くない？女の人が、一生懸命、仕事も恋愛もして、で、結果、うん…ボーイフレンドも出来て、仕事もうまく行って、というハッピーエンドに終わるところが、好きです。

Q：うん、はい。他のドラマにはそういうの、なかったですか？

L：うん…うん…他のドラマは…

Q：『ダルチャの春』はどうでした？

L：『ダルチャの春』は、普通の恋愛もの見たいな感じ？若い子の恋愛…まあ、でも、あの人もちょっと年行ってたけど(笑)

Q：そうですね。

L：でも、そこまで、まあ、良いなとは思わなくて、やっぱり俳優さんも好きなんで、キム・サムスンも見てて、女の女優さんも男優さんも良い、カッコいいし、うん、だからキム・サムスンかなと思います。

Q：そうですね。では、ですね。『私の名前はキム・サムスン』見ていた当時の視聴経験と当時の生活を中心に聞いて行きたいと思います。

L：はい。

Q：そのドラマを見る前の、一日のライフストーリースタイルはどんな感じですか。平日で。

L：うん〜普通に、今考えると本当に普通。見た後は、こう一所懸命やれば、何か自分の願いが叶うというか、そういうのがあのドラマを見てすごく伝わったから、まあ、仕事も一生懸命しよう、したら、何か良いことがあるかもと思って、今までそれを見るまで考えてなかったことが、それを見たことによって、考えるようになりました。

Q：そうなんですね。キム・サムスンの頑張っている姿とかですか。

L：はい。

Q：仕事をしていたならば、あまり時間がなくて、見るのにちょっと大変だったと思うんで

すけど、仕事、朝起きて、仕事に行って、どういう流れで？

L：仕事に行っ…あ、見る時間？見る時間は、仕事から帰って来て、

Q：何時ぐらいからですか？

L：6時に帰って来て、で、買い物して、で、夕飯の支度をして、で、旦那が帰って来るまでのちょっとの時間とか、後、お昼休み？仕事の、1時間半ぐらいからその間に少しずつ見て、ました。

Q：それ、家で、一人でですか。

L：家で、一人で。旦那といると、うん、集中できないから（笑）

Q：（笑）それはどういう面ですか。

L：いっぱい違う何かを喋って来たりとか、こう、のめり込んで見れないから。

Q：テレビ、のめり込んで見る方なんですね。

L：うん、もう、そうなんです。だからご飯を作るのを忘れて見る時もあるぐらい！ずっと見るときもあります。

Q：あ、そうなんですね。それは、平日の時はそういうふうに見ていて、休みの日とかは。

L：旦那と休みが一緒ならば見る時間がないけど、休みが違えばずっと一日見るときもあるし、私寝ないでずっと見ちゃう、もう、本当止まらないときもあるんです。

Q：そうなんですね。

L：うん、見ちゃう。寝ないで（笑）夕ご飯食べてからずっ～～と見て、ずっ～～と朝、本当に寝る時間がちょっとしかなくても、止まらないで見るときもある。

Q：あ、そうなんですね。そう、サムスンを見て、その続きで何か行動したりとかはあるんですか？

L：うん、さっき言った仕事一生懸命にしたということ、他に何かあるかな。

Q：本当に些細なことでも。

L：うん…うん。あ、でも、サムスンみたいに上の人にも下の人にも分け隔てなくした方が良いのかなと思って、仕事場でも、うん、皆同じように？接するようにはしています。

Q：そうなんですね。あの、で、何か勉強にも生かされたということですよ。もう少し具体的に教えてください。

L：うん。何回も見る、その好きな、何話というやつは、フレーズを暗記するぐらい覚えたり、で、あと早くて何を言っているのか分からなくても、何回も何回も聴いて、なんと言っているのか、理解しようとしてたら、理解できるようになったので、勉強になったかなと思います。

Q：なんか、見た後、ネットで調べたりとかそういうのは。雑誌とかでも？

L：あ、そう！分からないというのがあって、今まで一応韓国語勉強してても、ちゃんと聞き取れても、それを韓国語に書くことができなくて、翻訳、翻訳というの？台詞の本？がないか探したことはあります。で、なかったです（笑）なかったです。

Q：（笑）そうだったんですね。

L：うん。

Q：では、サムスンを見ていた時に、だいたい見ていた時、一日どのぐらい？やっぱり韓国語の勉強もしていたから、触れる時間って結構多いのかなと思うんですけど。一日の中で。

L：その時は、もう本当に韓国語を勉強するのが、すごく楽しくて、一日の、う～ん…4～5時間ぐらい？

Q：4～5時間ぐらい。

L: は、もう本当に集中して。

Q: 仕事がない日は、どうですか。

L: ずっと、遊びに行かない限り、家にいるときはずっとドラマ見て。

Q: 韓国ドラマを見ることで旦那さんからは何にも言われてなかったんですか? (笑)

L: (笑) 一緒にいる時は見ないようにしていたので、あまり言われたことはないです。でも私が好きなドラマがキム・サムスンだということは知っている。

Q: あ、そうなんですね (笑) 一緒に見たりするのは、一回もないんですか?

L: 一緒にはないんです。やっぱり、ドラマは、私も最初韓国ドラマは長いから嫌だったから。すぐはまっちゃうから。1 話見たら最後まで見ないと気が済まないんじゃないですか? だから、その時間がもう寝ないで、見ちゃおうとするんで、なるべく見ないようにした時があって、うん、体も疲れるし…

Q: そんなに見ると次の日に影響があるじゃないですか。

L: そうなの。仕事に (笑) だからキム・サムスンを見る前は、『頭の中の消しゴム』とか…

Q: はい、映画のですね。

L: 映画を、うん、見てて、それは DVD を買ってて持ってます。でも、あれはあまり喋らない時間が長くて、勉強にはならないし (笑) 可哀想なストーリーだし…

Q: 共感はしていない。

L: うん、できないんで、あの病気もちょっと身近にないので (笑)

Q: そうですね。そうか。韓国ドラマにはまる前は、音楽にはまってたんですね。

L: うん、最初は韓国の音楽が好きで、

Q: それ何年ぐらいですか。

L: うん、何年かな、最初 BIGBANG を知ったのが、200…9 年、8、9 年、たぶんデビューしたぐらい? だったと思います。

Q: そこから BIGBANG の曲にはまって、どういう面ではまりました?

L: 最初は、全然名前も知らなくて、韓国語の先生に CD を、色んな韓国の歌手の人が歌っている CD をもらって、それを聴いてて、その中ですごく気に入った曲が this love で、Gdragon の曲で、普通に聴いてて題目とかも全然覚えてなかったけど、ちょっと、やっぱり曲が好きだから、調べたら、あ、Gdragon、で、Gdragon が BIGBANG というのを知って、で BIGBANG の CD を聴くようになって、インターネットでメイキングビデオ? を見たりして知って、ちょっとはまって。うん。

Q: 音楽だとすごく早いんじゃないですか。勉強には役に立たないですよね。

L: うん…ないですね。うん。

Q: メロディとか。そういうのが、

L: そう、メロディが好きで、その韓国語の勉強にしようと思って聴いてたわけじゃなく、やっぱり勉強にはならないから、まあ、知っている単語はちょっとずつ出て来るぐらいで、やっぱり韓国語を勉強することにあたっては、やっぱり喋りたいから勉強しているわけだから、ドラマの方が勉強になるかなと思って、『私の名前はキム・サムスン』を見ました。

Q: じゃ、では、このドラマの中で今でも思い出すシーン、記憶に残っているシーンとありますか。

L: うん、とね。いっぱいあるけど、一番残っているの?

Q: いくつかあれば。

L: うん。あの、男の俳優さんの昔の彼女が現れて、キム・サムスンとこう、あ、なんというか、三角関係になるところ？

Q: あ、レストランですか？

L: うん。とか、うん、後、あ、すごいな〜と思ったのが、キム・サムスンの髪の毛があ、なに？服のボタンに付いた時に、普通だったらこう一生懸命とってあげようとするところを、韓国の人だから？何でしたっけ。

Q: ハサミ？

L: うん、ハサミで切ったから、はあ〜？と思って（笑）

Q: (笑)

L: ちょっと、それは考えれなかったかな〜ちょっと、すごくびっくりした。

Q: そうですね。でも、韓国人もびっくりです。

L: あ、そう？

Q: そうそう。やっぱり、人の髪になるから〜

L: お〜

Q: 無礼、無礼なことなんだけど、平気にやっちゃってるんですよ。

L: うん、そうそうそう、こんなことするの？と思ってみて。あとね。う〜ん。何があるかな、あ、あの、喫茶店、喫茶店でお見合い？そう最初の方のシーンで、実はこう、本当は後ろにいたという、シーンが後から出て来るっていうところで、あ、そういうふうにかまた前の場面を思い出させる、こういうのもあるかなと思って、あそこにいたのか、とか。

Q: そうですね。

L: うん、あとは、やっぱり、ソウルタワー？だったけ。あれ、何だけ？

Q: ケーブルカー？

L: うん、ケーブルカーに乗ってのぼるのに、一所懸命に行って、あの、ついてて、登って、行った後の、二人で屋台？

Q: はい。

L: で、なんか飲んで食べて、お金を出すのに、ATMに行って、で、時間がきて、中で、

Q: そうですね。もどして（笑）

L: うん、そういうのも、なんか、こんなことあるのかな〜と思って（笑）

Q: やっぱりそういうのを思い出すのは、面白い場面で？印象が強かったから？

L: うん、印象が強いのと。

Q: なぜですか。あまり見たことないからですか。

L: う〜ん、あ、もうなんか。こういうふうに、うん。たぶん、日本のドラマでそういうのってあるかな〜と思ったり、こんな閉まってしかも、ね、あの吐いたりとか、主人公が。

Q: そうですね（笑）

L: (笑) そういうふうのって、あまりないから、ちょっと斬新というか、びっくりして、記憶がすごい大きいというか。

Q: そうですね（笑）

L: でも、やっぱり、あ、韓国の人だな〜と思ったのが、お母さんが急にきて、マンションに、で、サムスンもいて、怒られるでしょう？で、殴ったり、するから、それ見てびっくりした。

Q: あ、そうですね。

L: あまり、日本、まあ、日本のお母さんってそんなに殴るかなとか、お父さんが殴るのは

まあ、分かる気がするけど、お母さんってそこまで、お母さんはどっちかっていうと、お父さんが殴っているのを辞めさせる方だから、日本的には、だからちょっとそれがびっくりして、だからお母さんの前では犯行できない？というのが、うん、あのドラマですごく伝わって来た。

Q：それは別にショックではなかったんですか？

L：あ、ショックではないけど、あ、こういうのかな～と思って。

Q：分かりました。ありがとうございます。ドラマの中で、主人公の行動を見て、共感できたり、あるいは共感できなかったりする場面ってありました？

L：うん。

Q：恋愛とか、仕事とか、

L：あ～、あ～共感したのは、やっぱり初めて会った人の前では、やっぱり自分をよく見せようと、ちょっと、うん、気取った感じで喋ってみたり？するのはやっぱ一緒かな～と思って、でも、それ、その、気取り方が面白いかな～と思うかな～と、こんなことしないというのは、う～ん、何があるかな～うん…なんか、あまり、良いことの方が多くて、そんなに、うん。

Q：なんか、可哀想だなと思ったところは？

L：あ～可哀想だなと思ったところは、やっぱり、前の彼女のことがあって、こうちょっと冷たくされたりとか。

Q：はい。

L：そういう場面も見ると、まあ、勘違いとかもあるけど、うん、そういうとこが投げて来る？

Q：仕事とかはどうですか？

L：あ、仕事は、あ～仕事は。うん。仕事はね。どうだろう、面接行ったりとかして、落とされたりしてたけど、決まってからの方が、印象が強くて、まあ、名前変えて仕事するのがちょっとびっくりしたぐらいで（笑）

Q：そこまでしないですか？

L：うん、そこまでの？すごいな～と思って。まあ、でも、そう、キム・サムスンという名前が、ちょっと馬鹿にされる名前というのが、その時、全然理解できなくて、何でかな～というぐらいでしか、思ってた。

Q：理解できてからはどうですか？自分だったらどうですかね。

L：うん、でも変えないかな～（笑）うん、あまり、履歴書出すからその名前と違う名前というの、ね。そんな人あまり、見たことないんで、分かりませんが、そこまで名前がいやなのかなと思って…ただ、あ、だから、そのドラマを見て、あ、韓国ってこんなかな？と思いました。

Q：あ、韓国と重ね合って見ました？韓国はこうだからって、

L：うん、こういうふうにするのかとか、うん。日本では、あり得ないことがあるから、それも面白くて見てたというのもあるって、うん。

Q：あ、ドラマの中で、韓国というのを意識しながら見ている感じですか？

L：うん、女の人一人でお酒、まあ、自分があまりお酒飲まないから分からないんだけど、すごく酔っぱらって、というのが。あ、そういうのは、韓国の人はいくらなんなのかなと思って見てました。

Q：だと思います（笑）

L: うん、こ、もうこれを最初に見たから、これが韓国の人かなと思って。

Q: あ、はいはい。

L: この、あ、韓国の人はこちらするのかとか、うん。それで、偏見とかじゃなく、まあ、こういうことなのかな～と思って受け止めました。

Q: では、ですね。サムスンの行動で、逆にいいな～と受け止めた部分とかもありますか。

L: やっぱ、自分に妥協とかせず、自分に自信を持って、行動してれば、きっといい、それに繋がる仕事ができたり？良いことがあるかな～と思いました。

Q: うん、そうですね。なんか、自分の仕事においてはどうですか？

L: うん、自分の仕事。

Q: 自身の仕事について当時、満足はしてましたか？

L: ただ単に仕事やってるだけで、こう、やっぱり、自分が持っている資格とかをちゃんと生かせるように、それをうん、延ばそうと？するようにはしました。キム・サムスンだって、あの、料理を留学して習って、それでまあ、免許があるから働けたというのものもあるし、で、私も免許持っているんで、うん、それで、やっぱり免許持っていない人とは違うことが出来るからそれをやっぱり一所懸命しようとは思いました。

Q: 当時のその会社での人間関係や上司との関係？とかは特に。

L: うん、悪くはなく、うん。人間関係までは…

Q: こう、ドラマの中で、社長との間でサムスは結構、

L: 自分の言いたいことをいう。

Q: あ、はい。

L: うん、でも、私も言うようになりました（笑）言いたいことは。

Q: （笑）会社の先生に対してですか？

L: そう。最初働き始めた時は、あの、免許持っているのに、免許持っていない人と同じことしかさせてもらえなくて、

Q: あ～はいはいはい。

L: で、ちょっとは我慢したけど、やっぱり、何のために持っているのか、って考えたら、やっぱりさせてもらわないとだめだから、自分で言いに行きました。

Q: あ～先生に。

L: 先生に言って、仕事をちゃんと、資格を持っているので、資格を行かす仕事をさせて下さいと。

Q: はい、そしたら？

L: そしたら、その言った次の日からさせてもらえて、そう、あ！だから、言えば良いのかと思って、言わないでいたら、うん、そのままでったか～など、思います。

Q: 自分の恋愛観についてはどうですか。結婚されてますけど（笑）

L: うん、恋愛に関しては、ためになったというのはそこまでないんだけど、でも、一生懸命、ね、その想いを伝えたりすれば、うん、上手く行くというのが、分かるから、そこも何かキュンキュンしながら見ていて、うん、結婚しているからそこまで旦那と比較しながら見たりはない。

Q: 分かりました。あと、もう少しお聞きします。韓国ドラマと日本のドラマの違いについてですが…日本のドラマ、その前から見ていました？

L: 日本のドラマは、うん、よく見てます。

Q: 今はどうですか？

L: 今も見ているけど、ちょっと見て、内容が面白くなければ、1 話を見て、次からは見ないです。だから、はまるのとはまらないのがあるのです。

Q: 韓国ドラマはどうですか？

L: たぶん 1 話を見ると、はまるので、あまり見ないようにしています。長いので (笑)

Q: (笑) そうですね。韓国ドラマははまっちゃうと長くても見てしまうということですね。

L: もう、気になってしょうがないから (笑)

Q: 何が違うと思いますか？ (笑)

L: もう、ストーリーがあり得ないシチュエーションが多くて、何かワクワクして見るのが多いかなと韓国のドラマは、うん、だからはまるのかなと思います。

Q: 日本のドラマはあり得ますか？

L: やっぱ、あり得るようなドラマが多いような気がします。

Q: あり得るけど、はまらないのは何でだと思いますか。

L: なんだろう。でも、うん、年にも関係があるかなと思う。見始めたのが、やっぱり、ちょっと今より若いから恋愛のものがやっぱり受け入れやすくて、今は恋愛よりも歴史とか？そういうのも興味が出て来ているから、そういうので、違うかな〜と。今でも、まあ、今でも、やっぱり年取ったら恋愛物見たら、やっぱりキュンキュンするけど、でも、なんだろう。分からない。何か引き付けるものがあるかな〜

Q: 韓国ドラマにですか？

L: うん。うん。

Q: 主人公に共感したりするところがある感じですか。

L: あ、それ！

Q: あるいは、男の人に？男の俳優さんに？

L: たぶん、自分がその主人公になりきる感じになっちゃって見ているような。

Q: その主人公って女性ですか？

L: 自分だったらこうするかなとか。

Q: サムスンにそうでした？

L: うん、サムスンもそうだったような気がします。

Q: そうですね。ドラマ中で、サムスンの他に印象に残っている人物とかいますか。

L: やっぱ、元カノ

Q: 元カノ？何ですか。

L: やっぱサムスンよりも若くて、可愛くて、で、勝ち目ないなと思ってたけど、で、すごく自信もあるし、向こうは。うん。で、取られそうと思って、

Q: サムスンが彼女に取られそう。

L: そう、取られそうと思って、ちょっと心配しながら見てたような気がします。うん、結果、そうならなかったからよかったと思って (笑)

Q: そうですね。最後に、『私の名前はキム・サムスン』を見てから、さっきも話してたと思うんですけど、こう変わったのかなというところ、もう一度教えていただけますか。

L: やっぱ、自分の持っている資格とか、そういうのに自信を持ってやれば、必ず何か結果が出る？というのと、うん…まあ、はっきりと言うことはうん、上司とかに伝えるということは大事なかと、うん、それが一番かな〜

Q: 『私の名前はキム・サムスン』を友達と会って話したりはしました？

L: うん、はないかな〜一人で、韓国語を勉強している一緒という仲間がいないから、話さ

ないです。

Q：話す相手がなくて寂しいなどか感じないですか。

L：うん、大丈夫です。

Q：その一日ずっとはまって見た時に、長く見すぎてしまって、あ、しまったと思うことはありますか？

L：それは思わない。

Q：なぜですか？（笑）

L：あ、見て、良かった。また早く帰って見たいとか、そっちの方だから、後悔はしてない。寝ないで見ても、疲れてても、うん、あまり思わないです。

Q：その時、仕事が大変とか、そういうのはなく、

L：ではなく、う～ん、何だろう。たぶん変化のない毎日の中で、そういうのを見て、あ、こんな人があるのかと思って、はまって、ずっと見てたから、後悔とかそんなのもなく、ずっとのめり込んじゃって見えました。

Q：あ、そうなんですね。で、見終わった時は、見て良かったと思うんですね。

L：うん、見て良かったと思う。で、ちょっと忘れた頃にまた見たり（笑）

Q：はい。分かりました。ありがとうございました。